四街道市出口遺跡

旧石器時代編

—物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XIV—

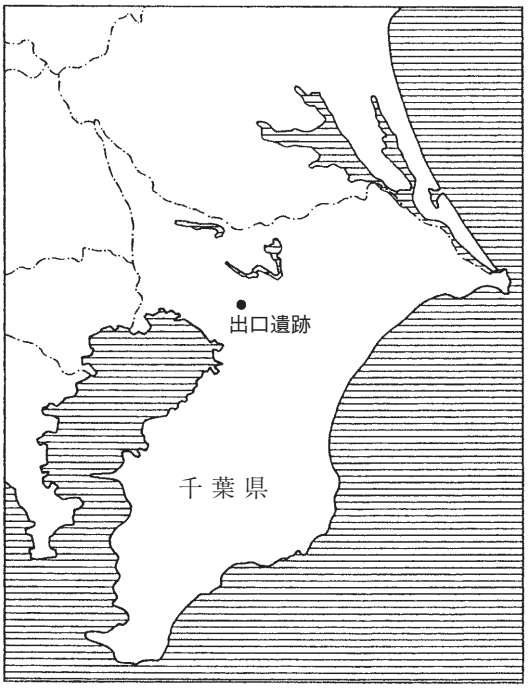
平成25年11月

独立行政法人　都 市 再 生 機 構
公益財団法人　千葉県教育振興財団

四街道市出口遺跡

旧石器時代編

—物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XIV—



序　　文

公益財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第717集として、独立行政法人都市再生機構による物井地区土地区画整理事業に伴って実施した四街道市出口遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、29か所もの旧石器時代の石器集中地点が検出されました。これらは５つの文化層に分類できることが判明し、当地域における旧石器時代の様相を知る上で貴重な成果が得られています。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財保護に対する理解を深めるための資料として、広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導・御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成25年11月

公益財団法人　千葉県教育振興財団

理 事 長　　錦　織　總　夫

凡　例

1．本書は、独立行政法人都市再生機構による物井地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．本書に収録した遺跡は、四街道市物井1046－10ほかに所在する出口遺跡（遺跡コード228－012）である。
3．本書は、出口遺跡の調査成果のうち、旧石器時代についての報告である。なお、縄文時代以降の報告については、平成24年３月に千葉県教育振興財団調査報告第675集として刊行済みである。
4．発掘調査から報告書作成に至る業務は、独立行政法人都市再生機構の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
5．発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
6．本書の執筆、編集は主任上席文化財主事野口行雄が行った。
7．本書で使用した地形図は下記のとおりである。
　第１・５図　国土地理院発行　１／25,000地形図「佐倉」（平成10年６月）
　第２図　独立行政法人都市再生機構による物井地区現況図
8．周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和44年撮影のものを使用した。
9．本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。座標値は日本測地系による。
10．発掘調査から報告書の刊行に至る間、千葉県教育庁教育振興部文化財課、四街道市教育委員会、独立行政法人都市再生機構の御指導、御協力をいただいた。

本文目次

序文
凡例
目次
第１章　はじめに…… 1
　第１節　調査の概要…… 1
　　１　調査の経緯と経過…… 1
　　２　調査の方法…… 8
　第２節　遺跡の位置と環境…… 10
　　１　遺跡周辺の地形…… 10
　　２　周辺の遺跡…… 10
第２章　検出された遺構と遺物…… 13
　第１節　第１文化層…… 13
　　１　第１ブロック…… 15
　　２　第２ブロック…… 15
　　３　第３ブロック…… 16
　　４　第４ブロック…… 17
　　５　第５ブロック…… 19
　　６　第６ブロック…… 31
　　７　第７ブロック…… 34
　　８　第８ブロック…… 37
　　９　第９ブロック…… 37
　　10　第10ブロック…… 39
　第２節　第２文化層…… 40
　　１　第11ブロック…… 40
　　２　第12ブロック…… 43
　　３　第13ブロック…… 45
　　４　第14ブロック…… 49
　　５　第15ブロック…… 51
　　６　第16ブロック…… 53
　　７　第17ブロック…… 53
　第３節　第３文化…… 54
　　１　第18ブロック…… 55
　　２　第19ブロック…… 59
　　３　第20ブロック…… 59
　　４　第21ブロック…… 63
　　５　第22ブロック…… 65
　　６　第23ブロック…… 66
　第４節　第４文化層…… 66
　　１　第24ブロック…… 66
　第５節　第５文化層…… 68
　　１　第25ブロック…… 70
　　２　第26ブロック…… 72
　　３　第27ブロック…… 83
　　４　第28ブロック…… 91
　　５　第29ブロック…… 93
　第６節　グリッド・遺構内出土石器…… 96
第３章　まとめ…… 99
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置と周辺の地形…… 2
第２図　物井地区遺跡分布図 …… 3
第３図　出口遺跡年度別調査区域図…… 7
第４図　グリッド設定法 …… 8
第５図　グリッド配置図 …… 9
第６図　基本層序 …… 10
第７図　周辺遺跡分布図 …… 11
第８図　ブロック分布図 …… 14
第９図　第１ブロック器種別分布図…… 15
第10図　第１ブロック出土石器 …… 15
第11図　第２ブロック器種別分布図…… 16
第12図　第２ブロック出土石器 …… 16
第13図　第３ブロック器種別分布図…… 16
第14図　第３ブロック出土石器 …… 16
第15図　第４ブロック器種別分布図…… 17
第16図　第４ブロック石材別分布図…… 18
第17図　第４ブロック出土石器 …… 19
第18図　第５・６ブロック遺物分布状況図…… 20
第19図　第５ブロック器種別分布図…… 21
第20図　第５ブロック石材別分布図…… 22
第21図　第５ブロック出土石器（１）…… 23
第22図　第５ブロック出土石器（２）…… 25
第23図　第５ブロック出土石器（３）…… 26
第24図　第５ブロック出土石器（４）…… 27
第25図　第５ブロック出土石器（５）…… 28
第26図　第５ブロック出土石器（６）…… 29
第27図　第５ブロック出土石器（７）…… 30
第28図　第６ブロック器種別分布図…… 32
第29図　第６ブロック石材別分布図…… 32
第30図　第６ブロック出土石器（１）…… 33
第31図　第６ブロック出土石器（２）…… 34
第32図　第７ブロック器種別分布図…… 35
第33図　第７ブロック石材別分布図…… 36
第34図　第７ブロック出土石器 …… 36
第35図　第８ブロック器種別分布図…… 37
第36図　第８ブロック出土石器 …… 37
第37図　第９ブロック器種別分布図 …… 38
第38図　第９ブロック石材別分布図 …… 38
第39図　第９ブロック出土石器 …… 38
第40図　第10ブロック器種別分布図…… 39
第41図　第10ブロック出土石器…… 39
第42図　第11～15ブロック遺物分布状況図… 41
第43図　第11ブロック器種別分布図…… 42
第44図　第11ブロック石材別分布図…… 42
第45図　第11ブロック出土石器…… 42
第46図　第12ブロック器種別分布図…… 44
第47図　第12ブロック石材別分布図…… 44
第48図　第12ブロック出土石器…… 44
第49図　第13ブロック器種別分布図…… 45
第50図　第13ブロック石材別分布図…… 46
第51図　第13ブロック出土石器（１）…… 47
第52図　第13ブロック出土石器（２）…… 48
第53図　第14ブロック器種別分布図…… 50
第54図　第14ブロック石材別分布図…… 50
第55図　第14ブロック出土石器…… 50
第56図　第15ブロック器種別分布図…… 51
第57図　第15ブロック石材別分布図…… 52
第58図　第15ブロック出土石器…… 52
第59図　第16ブロック器種別分布図…… 53
第60図　第16ブロック出土石器…… 53
第61図　第17ブロック器種別分布図…… 54
第62図　第17ブロック出土石器…… 54
第63図　第18・19ブロック遺物分布状況図… 56
第64図　第18ブロック器種別分布図…… 56
第65図　第18ブロック石材別分布図…… 57
第66図　第18ブロック出土石器（１）…… 58
第67図　第18ブロック出土石器（２）…… 59
第68図　第19ブロック器種別分布図…… 60
第69図　第19ブロック石材別分布図…… 60
第70図　第19ブロック出土石器…… 60

第 71 図　第 20 ～ 22 ブロック遺物分布状況図… 61
第 72 図　第 20 ブロック器種別分布図…… 62
第 73 図　第 20 ブロック石材別分布図…… 62
第 74 図　第 20 ブロック出土石器…… 63
第 75 図　第 21 ブロック器種別分布図…… 63
第 76 図　第 21 ブロック石材別分布図…… 63
第 77 図　第 21 ブロック出土石器…… 64
第 78 図　第 22 ブロック器種別分布図…… 65
第 79 図　第 22 ブロック出土石器…… 65
第 80 図　第 23 ブロック器種別分布図…… 66
第 81 図　第 23 ブロック出土石器…… 66
第 82 図　第 24 ブロック器種別分布図…… 67
第 83 図　第 24 ブロック石材別分布図…… 67
第 84 図　第 24 ブロック出土石器…… 68
第 85 図　第 25 ブロック器種別分布図…… 71
第 86 図　第 25 ブロック石材別分布図…… 72
第 87 図　第 25 ブロック出土石器…… 73
第 88 図　第 26 ～ 28 ブロック遺物分布状況図… 74
第 89 図　第 26 ブロック器種別分布図…… 76
第 90 図　第 26 ブロック石器石材別分布図…… 77
第 91 図　第 26 ブロック礫石材別分布図…… 78
第 92 図　第 26 ブロック出土石器（１）…… 80
第 93 図　第 26 ブロック出土石器（２）…… 81
第 94 図　第 26 ブロック出土石器（３）…… 82
第 95 図　第 27 ブロック器種別分布図…… 85
第 96 図　第 27 ブロック石器石材別分布図…… 86
第 97 図　第 27 ブロック礫石材別分布図…… 87
第 98 図　第 27 ブロック出土石器（１）…… 89
第 99 図　第 27 ブロック出土石器（２）…… 90
第100図　第 28 ブロック器種別分布図…… 91
第101図　第 28 ブロック石材別分布図…… 92
第102図　第 28 ブロック出土石器…… 93
第103図　第 29 ブロック器種別分布図…… 94
第104図　第 29 ブロック石材別分布図…… 94
第105図　第 29 ブロック出土石器（１）…… 95
第106図　第 29 ブロック出土石器（２）…… 96
第107図　グリッド・遺構内出土石器 …… 98
第108図　文化層別出土主要石器 …… 101

表目次

第 1 表　第 1 文化層石器組成表 …… 13
第 2 表　第 4 ブロック石器組成表 …… 18
第 3 表　第 5 ブロック石器組成表 …… 20
第 4 表　第 6 ブロック石器組成表 …… 31
第 5 表　第 7 ブロック石器組成表 …… 35
第 6 表　第 9 ブロック石器組成表 …… 39
第 7 表　第 2 文化層石器組成表 …… 40
第 8 表　第 11 ブロック石器組成表…… 40
第 9 表　第 12 ブロック石器組成表…… 43
第 10 表　第 13 ブロック石器組成表…… 46
第 11 表　第 14 ブロック石器組成表…… 49
第 12 表　第 15 ブロック石器組成表…… 51
第 13 表　第 3 文化層石器組成表 …… 55
第 14 表　第 18 ブロック石器組成表…… 55
第 15 表　第 19 ブロック石器組成表…… 59
第 16 表　第 20 ブロック石器組成表…… 61
第 17 表　第 21 ブロック石器組成表…… 65
第 18 表　第 24 ブロック石器組成表…… 66
第 19 表　第 5 文化層石器組成表 …… 69
第 20 表　第 25 ブロック石器組成表…… 70
第 21 表　第 26 ブロック石器組成表…… 75
第 22 表　第 26 ブロック礫観察表…… 83
第 23 表　第 27 ブロック石器組成表…… 84
第 24 表　第 27 ブロック礫観察表…… 88
第 25 表　第 28 ブロック石器組成表…… 92
第 26 表　第 29 ブロック石器組成表…… 93
第 27 表　グリッド・遺構内出土石器観察表 … 97
第 28 表　ブロック別石器観察表 …… 103

図版目次

図版１　遺跡周辺航空写真
図版２　確認調査風景
　　土層
　　第２ブロック（南から）
図版３　第３ブロック（南から）
　　第４ブロック（西から）
　　第５ブロック（中央）
　　第６ブロック（右奥）（西から）
図版４　第５ブロック（手前）
　　第６ブロック（右奥）（西から）
　　第７ブロック（西から）
　　第７ブロック（手前）
　　第 21 ブロック（奥）（西から）
図版５　第８ブロック（北から）
　　第９ブロック（南東から）
　　第 10 ブロック（北から）
図版６　第 11 ブロック（左奥）
　　第 12 ブロック（右奥）（南東から）
　　第 11・12 ブロック（奥）
　　第 13 ブロック（右中央）
　　第 14 ブロック（右手前）
　　第 15 ブロック（左手前）（南東から）
　　第 16 ブロック完掘状況　（東から）
図版７　第 17 ブロック（西から）
　　第 18 ブロック（奥）
　　第 19 ブロック（手前）（西から）
　　第 20 ブロック（手前）
　　第 21 ブロック（中央）
　　第 22 ブロック（奥）（南から）
図版８　第 22 ブロック（北から）
　　第 23 ブロック（南西から）
　　第 24 ブロック（北から）
図版９　第 25 ブロック（東から）
　　第 26 ブロック（中央）
　　第 27 ブロック（左手前）
　　第 28 ブロック（右手前）（東から）
　　第 29 ブロック（東から）
図版 10　出土石器（１）
図版 11　出土石器（２）
図版 12　出土石器（３）
図版 13　出土石器（４）
図版 14　出土石器（５）
図版 15　出土石器（６）
図版 16　第 26・27 ブロック出土礫（１）
図版 17　第 26・27 ブロック出土礫（２）

第１章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査の経緯と経過

四街道市は県都千葉市に隣接するとともに、東京都と成田国際空港を結ぶJR総武本線や東関東自動車道などの交通網が整備され、その利便性から近年人口増加が著しく、宅地の安定的供給が期待されている地域である。

独立行政法人都市再生機構は、JR総武本線物井駅と既存の「千代田団地」の間に広がる約95.7ヘクタールの地域において物井地区土地区画整理事業を実施している。事業の施工に当たり、区域内に所在する埋蔵文化財については、一部について緑地、公園として現状保存するほか、大半の区域については記録保存の措置を講ずることとなり、発掘調査は公益財団法人千葉県教育振興財団が受託して実施している。

物井地区の台地上には、ほぼ全面にわたって遺跡が分布している（第２図）。記録保存の対象とされたのは、今回報告する出口遺跡をはじめとして、小屋ノ内遺跡、稲荷塚遺跡、御山遺跡、新久遺跡、清水遺跡、出口・鐘塚遺跡、棒山・呼戸遺跡、高堀遺跡、館ノ山遺跡、北ノ作遺跡、嶋越遺跡、郷遺跡、中久喜遺跡であり、昭和59年５月に棒山遺跡の調査が開始され、以後断続的に発掘調査が実施されている。

今回報告する出口遺跡は、事業区域の西端部に位置し、北西側に清水遺跡、北東側に新久遺跡、西側には出口・鐘塚遺跡、そして東側には小屋ノ内遺跡といった４遺跡が隣接している。この内、清水遺跡、新久遺跡、出口・鐘塚遺跡、出口遺跡の遺跡の境界は地形的考慮に基づき分けられたものではなく、県道・市道等の既存の道路により分けられた遺跡である。このためこの４遺跡の主要な時代である古墳時代後期から終末期にかけての古墳の分布状況から同一の古墳群として捉えられている。このことは旧石器時代についても同様に考えられることであり、検出されたブロック群は相互に深い関係をもったものと考えられるものであることから、一体として考えるべき遺跡である。

発掘調査期間及び担当者等は下記のとおりである（第３図）。

①昭和62年度　調 査 期 間　昭和62年11月～昭和63年１月
　　立会調査面積　約55㎡
　　班　　長　大原　正義
　　調査担当者　渡辺　政治

②昭和63年度　調 査 期 間　昭和63年８月23日～平成元年３月17日
　　確認調査面積　525㎡／5,250㎡（上層）
　　210㎡／5,250㎡（下層）
　　本調査面積　上層　3,900㎡
　　下層　０㎡
　　調査研究部長　堀部　昭夫
　　班　　長　西山　太郎
　　調査担当者　鈴木　文雄、渡辺　政治

③平成５年度　調 査 期 間　平成５年９月１日～平成６年２月28日

第１図　遺跡の位置と周辺の地形（1：25,000）

第２図　物井地区遺跡分布図

確認調査面積　132㎡／3,000㎡（下層）
本調査面積　上層　3,000㎡
下層　0㎡
調査研究部長　高木　博彦
所長　深澤　克友
調査担当者　沖松　信隆

④平成９年度　調査期間　平成９年４月３日～平成９年６月30日
確認調査面積　2,705㎡／13,300㎡（上層）
92㎡／1,600㎡（下層）
本調査面積　上層　550㎡
下層　0㎡
調査研究部長　西山　太郎
所長　藤﨑　芳樹
調査担当者　田中　裕

⑤平成10年度　調査期間　平成10年７月１日～平成10年10月29日
確認調査面積　84㎡／1,590㎡（下層）
本調査面積　上層　1,590㎡
下層　392㎡
調査部長　沼澤　豊
所長　折原　繁
調査担当者　石田　清彦

⑥平成12年度　調査期間　平成13年３月１日～平成13年３月29日
確認調査面積　65㎡／650㎡（上層）
20㎡／650㎡（下層）
本調査面積　上層　650㎡
下層　0㎡
調査部長　沼澤　豊
所長　石田　廣美
調査担当者　池田　大助

⑦平成13年度の１　調査期間　平成13年７月２日～平成13年７月31日
確認調査面積　20㎡／550㎡（下層）
本調査面積　上層　550㎡
下層　0㎡
調査部長　佐久間　豊
所長　石田　廣美
調査担当者　萩原　恭一

⑧平成13年度　調査期間　平成14年３月１日～平成14年３月20日

の２　確認調査面積　20㎡／245㎡（下層）
本調査面積　上層　245㎡
下層　０㎡
調査担当者　萩原　恭一

⑨平成18年度　調査期間　平成18年６月16日～平成18年11月27日
確認調査面積　6,300㎡／6,300㎡（上層）
210㎡／6,300㎡（下層）
本調査面積　上層　900㎡
下層　1,450㎡
調査研究部長　矢戸　三男
所長　古内　茂
調査担当者　岸本　雅人

⑩平成19年度　調査期間　平成19年４月16日～平成19年５月31日
の１　確認調査面積　76㎡／1,273㎡（下層）
本調査面積　上層　1,273㎡
下層　０㎡
調査研究部長　矢戸　三男
所長　豊田　佳伸
調査担当者　土屋　潤一郎

⑪平成19年度　調査期間　平成19年12月３日～平成20年１月４日
の２　確認調査面積　650㎡／991㎡（上層）
72㎡／991㎡（下層）
本調査面積　上層　０㎡
下層　０㎡
調査担当者　土屋　潤一郎

⑫－１　平成19年度　調査期間　平成20年１月４日～平成20年３月27日
の３　確認調査面積　132㎡／1,500㎡（下層）
本調査面積　上層　2,107㎡
下層　０㎡
調査担当者　土屋　潤一郎

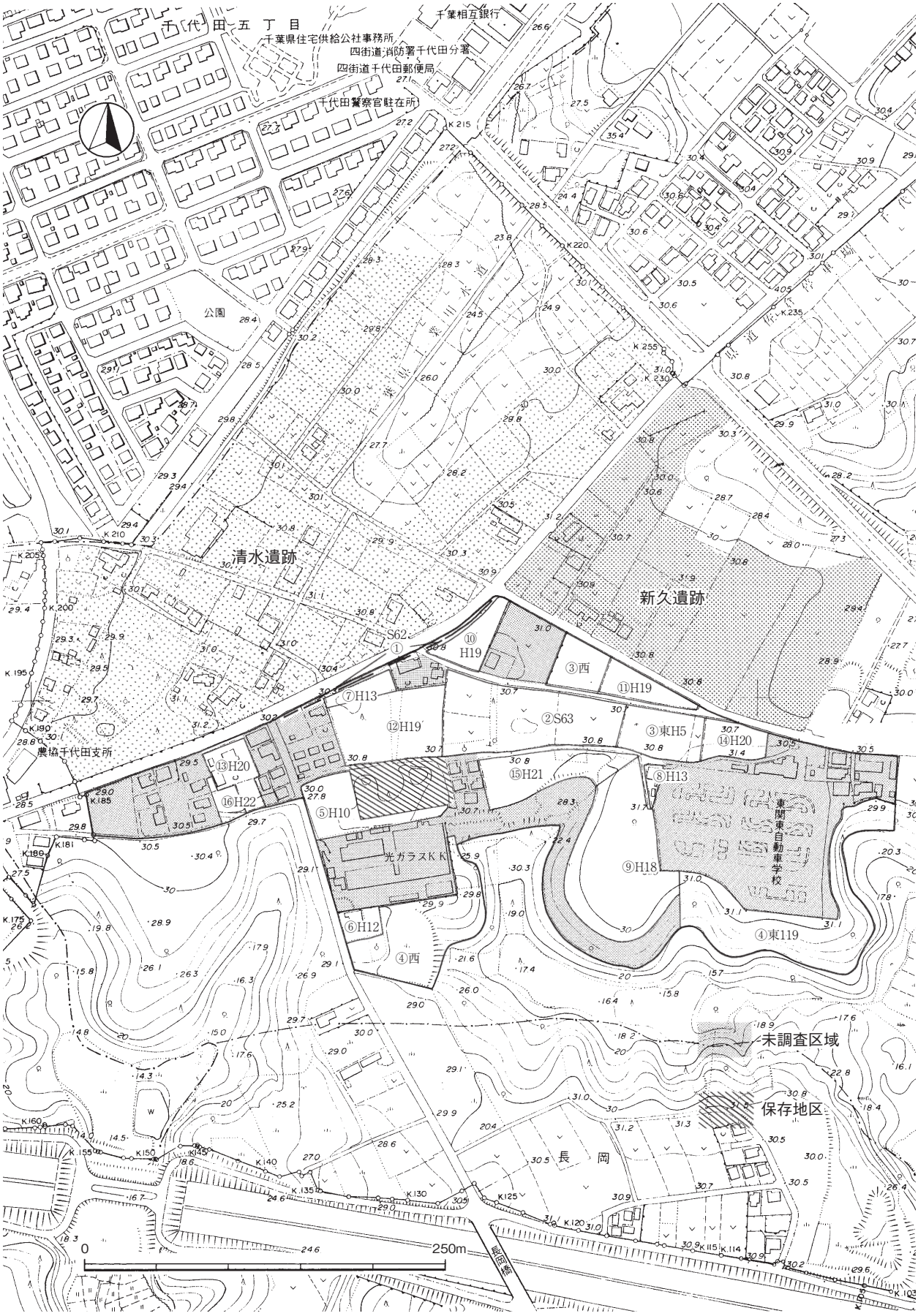
⑫－２　平成20年度　調査期間　平成20年４月１日～平成20年４月30日
の１　確認調査面積　163㎡／1,587㎡（下層）
本調査面積　上層　980㎡
下層　０㎡
調査研究部長　大原　正義
所長　豊田　佳伸
調査担当者　土屋　潤一郎

⑬平成20年度　調 査 期 間　平成20年５月１日～平成20年５月30日
の２　確認調査面積　120㎡／ 1,205㎡（上層）
40㎡／ 1,205㎡（下層）
本 調 査 面 積　上層　260㎡
下層　０㎡
調 査 担 当 者　土屋　潤一郎、島田　裕之
⑭平成20年度　調 査 期 間　平成21年１月６日～平成21年１月20日
の３　確認調査面積　76㎡／ 700㎡（上層）
28㎡／ 700㎡（下層）
本 調 査 面 積　上層　420㎡
下層　０㎡
調 査 担 当 者　土屋　潤一郎
⑮平成21年度　調 査 期 間　平成21年６月18日～平成21年６月30日
確認調査面積　248㎡／ 2,720㎡（上層）
10㎡／ 2,720㎡（下層）
本 調 査 面 積　上層　０㎡
下層　０㎡
調査研究部長　及川　淳一
所　　長　野口　行雄
調 査 担 当 者　土屋　潤一郎
⑯平成22年度　調 査 期 間　平成22年12月９日～平成22年12月27日
確認調査面積　304㎡／ 304㎡（上層）
８㎡／ 304㎡（下層）
本 調 査 面 積　上層　304㎡
下層　０㎡
調査研究部長　及川　淳一
所　　長　野口　行雄
調 査 担 当 者　田井　知二

なお、①次調査と位置づけている昭和62年度の調査は、県道の出口遺跡側に沿って歩道を付設する工事に先立って、工事立会として実施されたものである。

旧石器時代の整理作業の経過、担当者は下記のとおりである。

平成24年度　整 理 期 間　平成24年４月１日～平成25年１月31日
整 理 内 容　記録整理～原稿執筆
調査研究部長　関口　達彦
整 理 課 長　高田　　博
整 理 担 当 者　野口　行雄



第３図　出口遺跡年度別調査区域図

平成25年度　整 理 期 間　平成25年４月１日～平成25年４月30日
整 理 内 容　編集・報告書刊行
調査研究部長　伊藤　智樹
整 理 課 長　今泉　　潔
整理担当者　野口　行雄

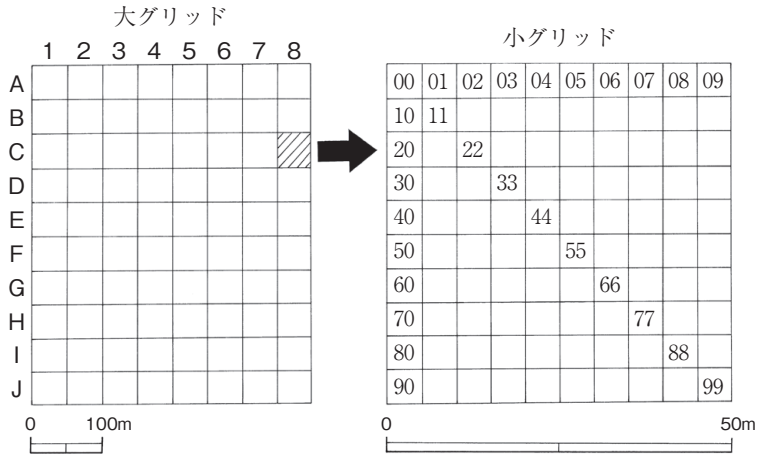
２　調査の方法

物井地区の調査においては、地区全体を公共座標に基づく方眼網で覆い、50m×50mの区画を大グリッドとしている。その呼称は、南北方向の列を西から東に向けて１、２、３列……とし、東西の方向の行を北から南に向けてＡ、Ｂ、Ｃ行……とし、両者を組み合わせて大グリッド名としている。

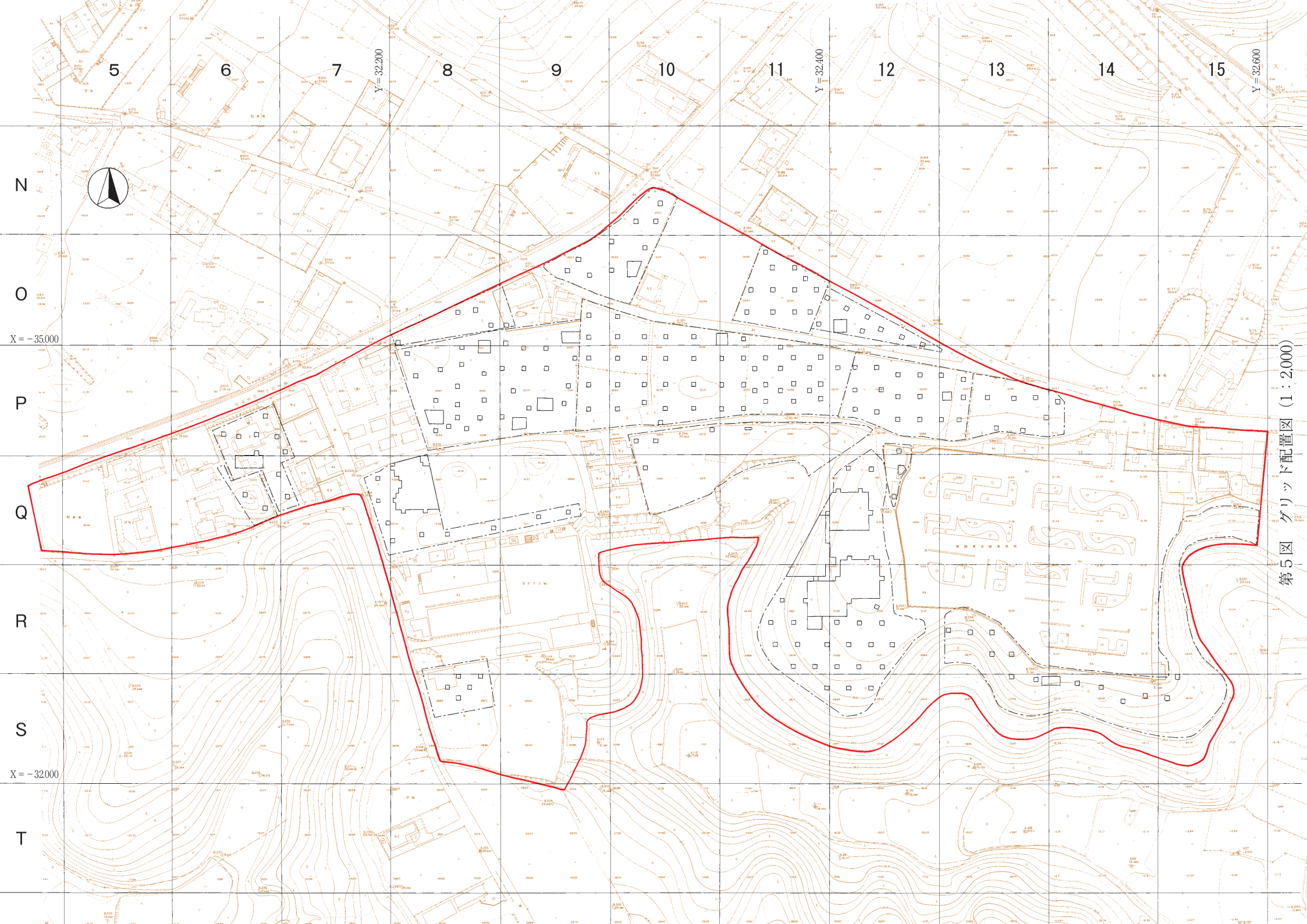
出口遺跡の範囲は５～15の列、Ｎ～Ｓの行にかかる（第５図）。

大グリッドは５ｍ×５ｍの100個の小グリッドに分割され、西北端を起点に東へ00、01、02‥‥09まで、１列南は10、11、12‥‥19と進み、南東端の小グリッドが99となる。大グリッド名と小グリッド名を組み合わせて、28H-00のように呼称し、これによって５m四方の範囲が座標上で求められる（第４図）。

旧石器時代（下層）の調査は、縄文時代以降（上層）の調査の終了後に引き続き実施された。はじめに確認調査は２ｍ×２ｍのグリッドを対象面積の４％の面積を均等に設定し、立川ローム層最下層に至るまで掘削し、遺物の有無及び広がりを確認した。つづいて、遺物の広がりのみられる地点につては、拡張し本調査を実施し、平面・垂直分布を把握しながら記録を作成した。遺物を取り上げる単位は小グリッド毎に通し番号を付し、整理作業においてもその番号を使用している。なお、一部の調査時においては、小グリッドに関係なく、遺物の広がりにおいて通し番号を付し取り上げているものもあったが、遺物番号としては変更すること無く、発掘調査時に付された番号を踏襲した。



第４図　グリッド設定法



第５図　グリッド配置図（１：2,000）

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡周辺の地形

水郷地帯といわれる現在の利根川下流域は、近世初頭まで香取海といわれる内海であった。内海の名残が現在もこの地域に点在する大小の湖沼であり、千葉県においては印旛沼がその最大のものとなる。四街道市は、印旛沼の西半部に流れ込む手繰川と鹿島川（の支流小名木川）の源流部に位置し、市域の北端部に当たる物井地区の遺跡は、両川の上流部に挟まれた洪積台地上に所在する。台地上は、東西の両川へ続く小支谷によって浸食され、樹枝状の複雑な地形を示す（第１・２図）。

その中で、出口遺跡は鹿島川水系の小支谷の最も奥まった位置にあり、手繰川水系との分水嶺上に立地している。この地域は、千葉県北西部に広がる下総台地上において比較的標高の高い地域であり、立川ローム層は２m近い堆積が見られ、堆積状況も良好であり、第１黒色帯、姶良丹沢パミス、第２黒色帯上下といった鍵層も明瞭に確認できる。

出口遺跡の立川ローム層最下部までの層序は以下のとおりである。

Ⅰ　層：表土（耕作土）。

Ⅱｂ層：褐色土層。新規テフラを斑点状に多量に混入。弥生時代以降の遺構の掘り込みは本層上面で確認することができる。

Ⅱｃ層：暗褐色土層。縄文時代遺物包含層。

Ⅲ　層：黄褐色土層。ソフトローム層で、20cm～40cm程度の堆積が認められる。

Ⅳ　層：褐色土層。ハードローム層で、クラックが著しい。

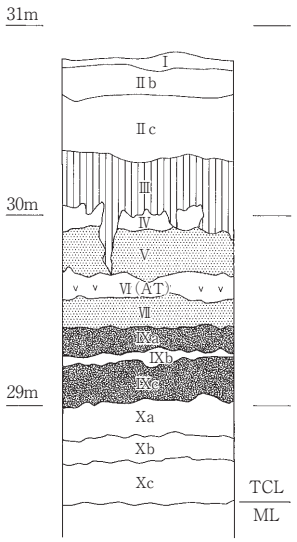
Ⅴ　層:褐色土層。第１黒色帯である。Ⅳ層との識別が困難な地点が多い。

Ⅵ　層：黄褐色土層。姶良丹沢パミス（ATパミス）がブロック状に混入している。

Ⅶ　層：暗褐色土層。第２黒色帯上部層。Ⅵ層との識別は明瞭である。

Ⅷ　層：検出されず。

Ⅸａ層：黒褐色土層。第２黒色帯下部層の上部層。橙色のスコリアを多く混入する。



第６図　基本層序
（10P－37地点）

Ⅸｂ層：褐色土層。第２黒色帯下部層間層帯。

Ⅸｃ層：黒褐色土層。第２黒色帯下部層の下部層。Ⅸa層より色調が更に暗い。橙色スコリアの含有量も更に多い。

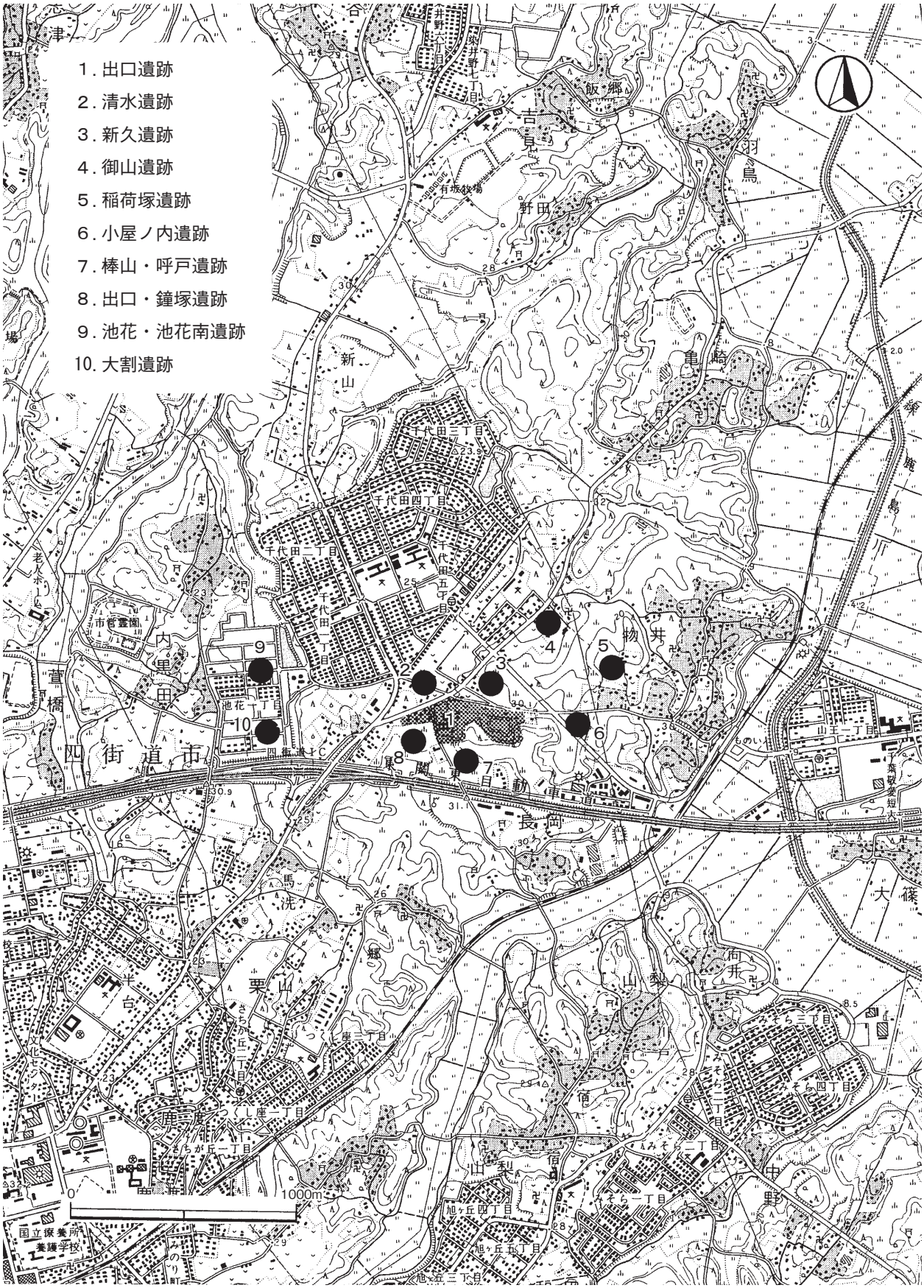
Ⅹａ層：黄褐色土層。立川ローム層最下層。色調の相違により地点によって３層に分層できる。

Ⅹｂ層：褐色土層。

Ⅹｃ層：褐色土層。

２　周辺の遺跡

物井地区内の遺跡からは旧石器時代の資料が豊富に検出されており、本書で取り上げた出口遺跡のほか、御山遺跡、出口・鐘塚遺跡、小屋ノ内遺跡、稲荷塚遺跡、棒山・呼戸遺跡、清水遺跡、新久遺跡などで出土例がみられる。このうち御山遺跡[1)]、出口･鐘塚遺跡[2)]、小屋ノ内遺跡[3)]、稲荷塚遺跡[4)]、清水遺跡[5)]、



第７図　周辺遺跡分布図（1：25,000）

新久遺跡[5]については既に報告書が刊行されている。

御山遺跡では、Ⅲ層からⅩ層にかけて計26地点のブロックが検出され、９枚の文化層に分類されている。このうちⅩ層下部から環状ブロック群が検出され下総台地の旧石器時代において古い段階の検出例の１つとされている。

出口･鐘塚遺跡では、計22地点のブロックが検出され、５枚の文化層に分類されている。このうち第１文化層（Ⅹ層中位）より環状ブロック群が検出されている。

小屋ノ内遺跡では、計35地点のブロックがⅢ層からⅨ層にかけて検出され、４つの文化層に分類されている。本遺跡においてもⅩ層から11地点のブロックで構成される長軸40mを超える大規模な環状ブロック群が検出されている。

稲荷塚遺跡では、計９地点のブロックがⅢ層からⅨ層にかけて検出され、４つの文化層に分類されている。

清水遺跡･新久遺跡では、計38地点のブロックがⅢ層からⅩ層にかけて検出され、６つの文化層に分類されている。このうちⅩ層から検出された局部磨製石斧が御山遺跡から出土した局部磨製石斧と同一個体の可能性が高いものとされ、両遺跡の関連性及び当時の生活形態を知る好資料とされている。

物井地区周辺では、西側に続く台地上に在る内黒田遺跡群[6]内に、Ⅲ層中から検出された細石刃石器群、槍先形尖頭器石器群やⅨ層中から環状ブロック群が検出されている大割遺跡、池花南遺跡が所在する。

注

1　渡邉修一・矢本節朗　1994『四街道市御山遺跡（１）－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』千葉県文化財センター調査報告第242集　財団法人千葉県文化財センター

2　岡田誠造　1999『四街道市出口・鐘塚遺跡－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』千葉県文化財センター調査報告357集　財団法人千葉県文化財センター

3　古内　茂・田中　裕　2005『四街道市小屋ノ内遺跡（１）－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』千葉県文化財センター調査報告第499集　財団法人千葉県文化財センター

4　古内　茂　2009『四街道市稲荷塚遺跡－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ－』千葉県教育振興財団調査報告第613集　財団法人千葉県教育振興財団

5　落合章雄　2011『四街道市清水遺跡・新久遺跡－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ』千葉県教育振興財団調査報告674集　財団法人千葉県教育振興財団

6　渡邉修一　1991『四街道市内黒田遺跡群－内黒田特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書－』千葉県文化財センター調査報告第200集　財団法人千葉県文化財センター

第２章　検出された遺構と遺物

発掘調査の結果、Ⅸ層からⅡｃ層下部にかけて旧石器時代ブロックが29か所検出された。これらのブロックの分布は、遺跡のほぼ中央付近から遺跡を二分するように深く入り込んだ谷の東西の台地上に集中している傾向がみられる。ただし東側の台地上は、既存の建物や保存区域が大部分を占めているため未調査区域が大部分を占めている。これらの検出されたブロックは、出土した層位等から第１文化層から第５文化層に分類することができる。

第１節　第１文化層

第Ⅸ層から第Ⅶ層中より検出されたブロックで、第１ブロックから第10ブロックが属する。使用されている石材には、頁岩、珪質頁岩、安山岩、黒色安山岩、玉髄、凝灰岩、ホルンフェルス、砂岩がみられる。第４ブロックから検出された頁岩の内、肉眼的観察により２種の特徴的頁岩が抽出できた。その一つを頁岩６、他方を頁岩７として分類した。同様に、第５・第６ブロックから検出された頁岩・安山岩・玉髄・ホルンフェルス・砂岩においても肉眼的観察による特徴により細分することができ、頁岩では、５種（頁岩１～５）、安山岩では１種（安山岩１）、玉髄では３種（玉髄１～３）、ホルンフェルスでは２種（ホルンフェルス１・２）、砂岩では１種（砂岩１）である。

第１表　第１文化層石器組成表（第１～第10ブロック）

器種／石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	楔形石器		石核		局部磨製石斧		加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		砕片		礫		点数計	重量計（g）	点数比	重量比
頁岩	1	2.2			1	20.2			2	7.0	3	27.7	7	58.3	4	0.8			18	116.2	7.4%	6.9%
頁岩１	3	12.3			2	51.4							20	118.9	3	2.7			28	185.3	11.5%	11.0%
頁岩２					2	57.2							19	139.6					21	196.8	8.6%	11.7%
頁岩３													14	89.2	1	0.2			15	89.4	6.1%	5.3%
頁岩４													8	23.0					8	23.0	3.3%	1.4%
頁岩５													4	36.5					4	36.5	1.6%	2.2%
頁岩６			1	3.3					1	6.4			2	1.4	4	0.6			8	11.7	3.3%	0.7%
頁岩７													3	1.6					3	1.6	1.2%	0.1%
頁岩　計	4	14.5	1	3.3	5	128.8			3	13.4	3	27.7	77	468.5	12	4.3			105	660.5	43.0%	39.4%
珪質頁岩													5	44.3					5	44.3	2.0%	2.6%
安山岩									1	23.6			8	51.6	4	1.1			13	76.3	5.3%	4.5%
安山岩１					1	18.0							22	148.8	2	0.1			25	166.8	10.2%	9.9%
安山岩計					1	18.0			1	23.6			30	200.4	6	1.2			38	243.1	15.6%	14.5%
黒色安山岩													2	3.8	2	0.6			4	4.4	1.6%	0.3%
玉髄	1	8.3											3	14.4					4	22.7	1.6%	1.4%
玉髄１					3	174.1					4	49.6	25	107.1	4	3.8			36	334.6	14.8%	20.0%
玉髄２					1	85.7							20	50.0	8	3.9			29	139.6	11.9%	8.3%
玉髄３													4	13.8	2	0.7			6	14.5	2.5%	0.9%
玉髄　計	1	8.3			4	259.8					4	49.6	52	185.3	14	8.4			75	511.4	30.7%	30.5%
凝灰岩																	1	3.8	1	3.8	0.4%	0.2%
凝灰岩１	1	6.6													2	0.7			3	7.3	1.2%	0.4%
凝灰岩　計	1	6.6													2	0.7	1	3.8	4	11.1	1.6%	0.7%
ホルンフェルス							2	20.5							2	1.3			4	21.8	1.6%	1.3%
ホルンフェルス１													2	15.2	2	0.7			4	15.9	1.6%	0.9%
ホルンフェルス２							1	122.2											1	122.2	0.4%	7.3%
ホルンフェルス　計							3	142.7					2	15.2	4	2.0			9	160.0	3.7%	9.5%
砂岩１													4	42.3					4	42.3	1.6%	2.5%
合計	6	29.4	1	3.3	10	406.6	3	142.7	4	37.0	7	77.3	172	959.8	40	17.2	1	3.8	244	1,677.1	100%	100%
器種別比	2.5%	1.8%	0.4%	0.2%	4.1%	24.2%	1.2%	8.5%	1.6%	2.2%	2.9%	4.6%	70.5%	57.2%	16.4%	1.0%	0.4%	0.2%	100%	100%		

第８図　ブロック分布図（1：2,000）

1　第１ブロック（第９・10図、第28表、図版10）

分布

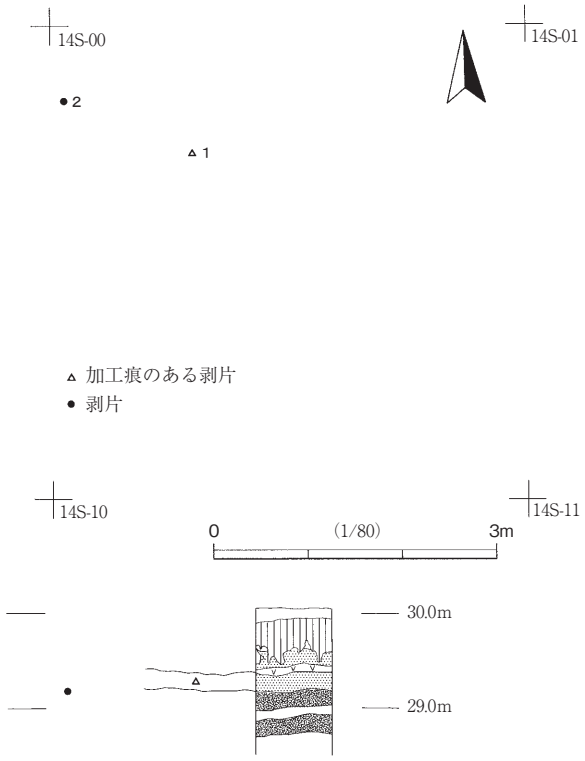
14S-00グリッドに位置し、剥片２点が約1.5m離れて検出された。出土層位は第Ⅸa層上部から第Ⅶ層である。

器種・石材

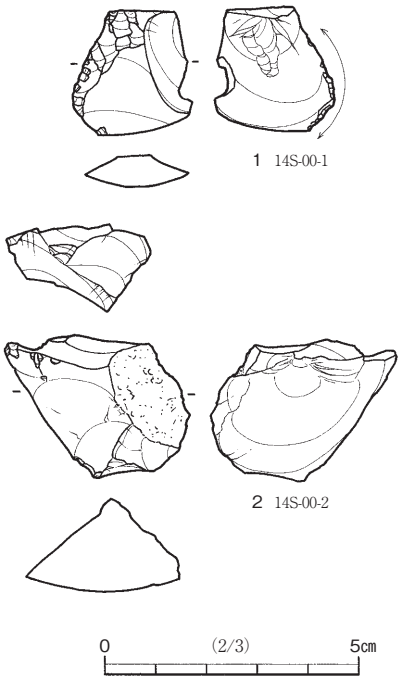
検出された遺物は淡褐色の頁岩製の加工痕のある剥片（１）と緑褐色の頁岩製剥片（２）である。

１は平坦な剥離面を打面として剥離された幅広の縦長剥片を素材とし、一側縁に微細な調整剥離を施し刃部を作り出している。

２は粗い剥離により採取された厚みのある横長剥片である。



第９図　第１ブロック器種別分布図



第10図　第１ブロック出土石器

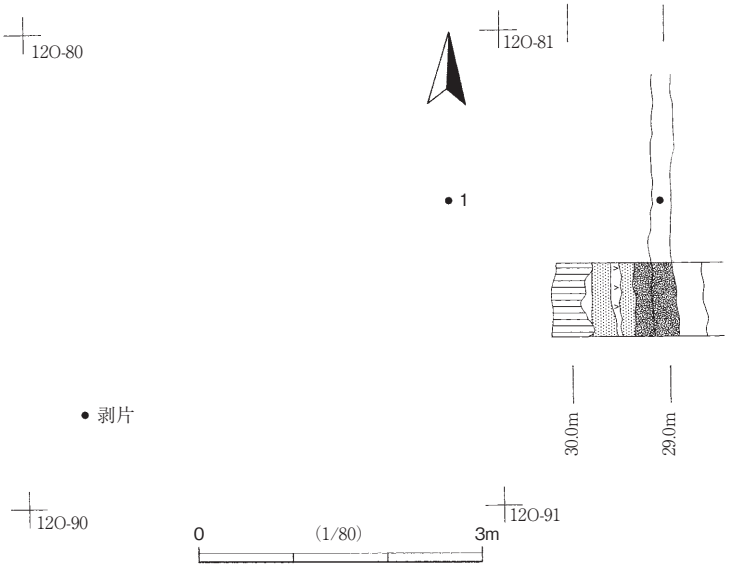
2　第２ブロック（第11・12図、第28表、図版２・10）

分布

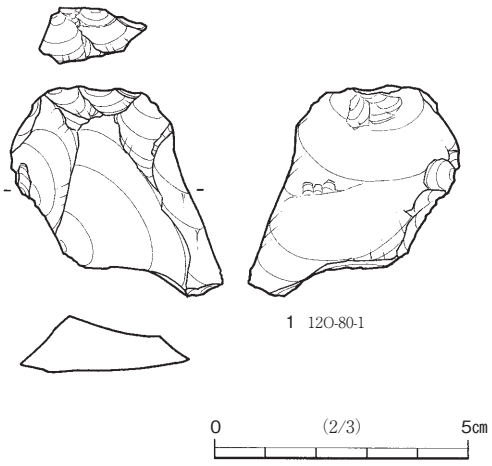
12O-80グリッドからの単独出土である。出土層位はⅨｃ層中からである。

器種・石材

検出された遺物は頁岩製のやや幅広の縦長剥片である。打面は細かな調整剥離により作り出されている。背面には主剥離面の剥離方向と約90度回転した方向より剥離された横長状剥片の剥離痕が残されている。



第11図　第２ブロック器種別分布図



第12図　第２ブロック出土石器

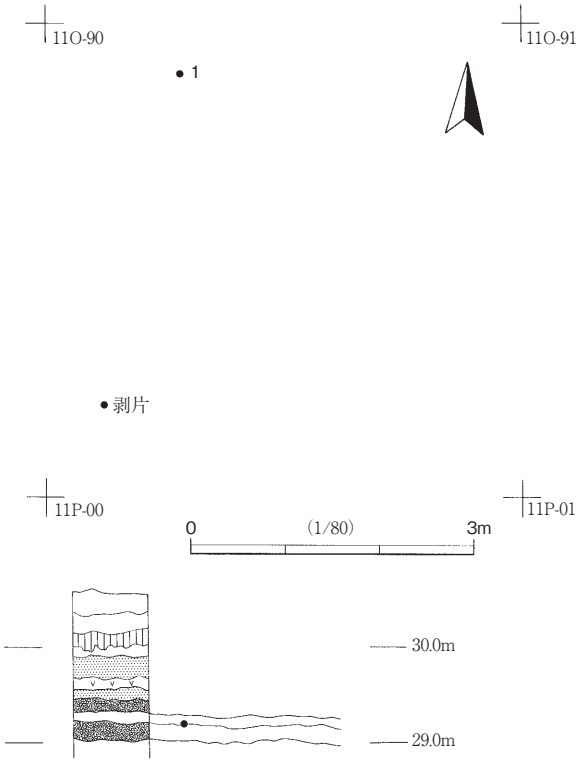
３　第３ブロック（第13・14図、第28表、図版３・10）

分布

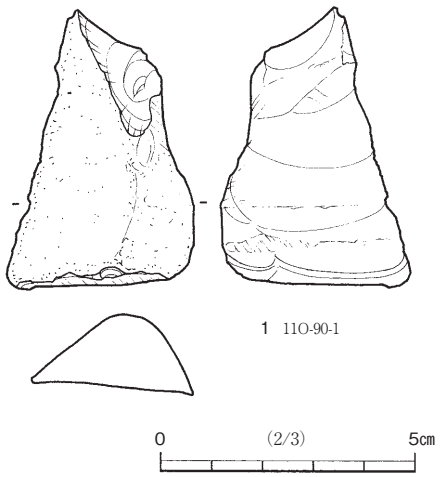
11O-90グリッドからの単独出土である。出土層位はⅨｂ層中からである。

器種・石材

検出された遺物は頁岩製の厚みを持った大型の縦長剥片であり、背面の２面には礫自然面が残ったままである。また、背面には横長の翼状の剥片が剥離されており、そのため打面は消失している。



第13図　第３ブロック器種別分布図



第14図　第３ブロック出土石器

4　第４ブロック（第15 ～ 17図、第２・28表、図版３・10）

分布

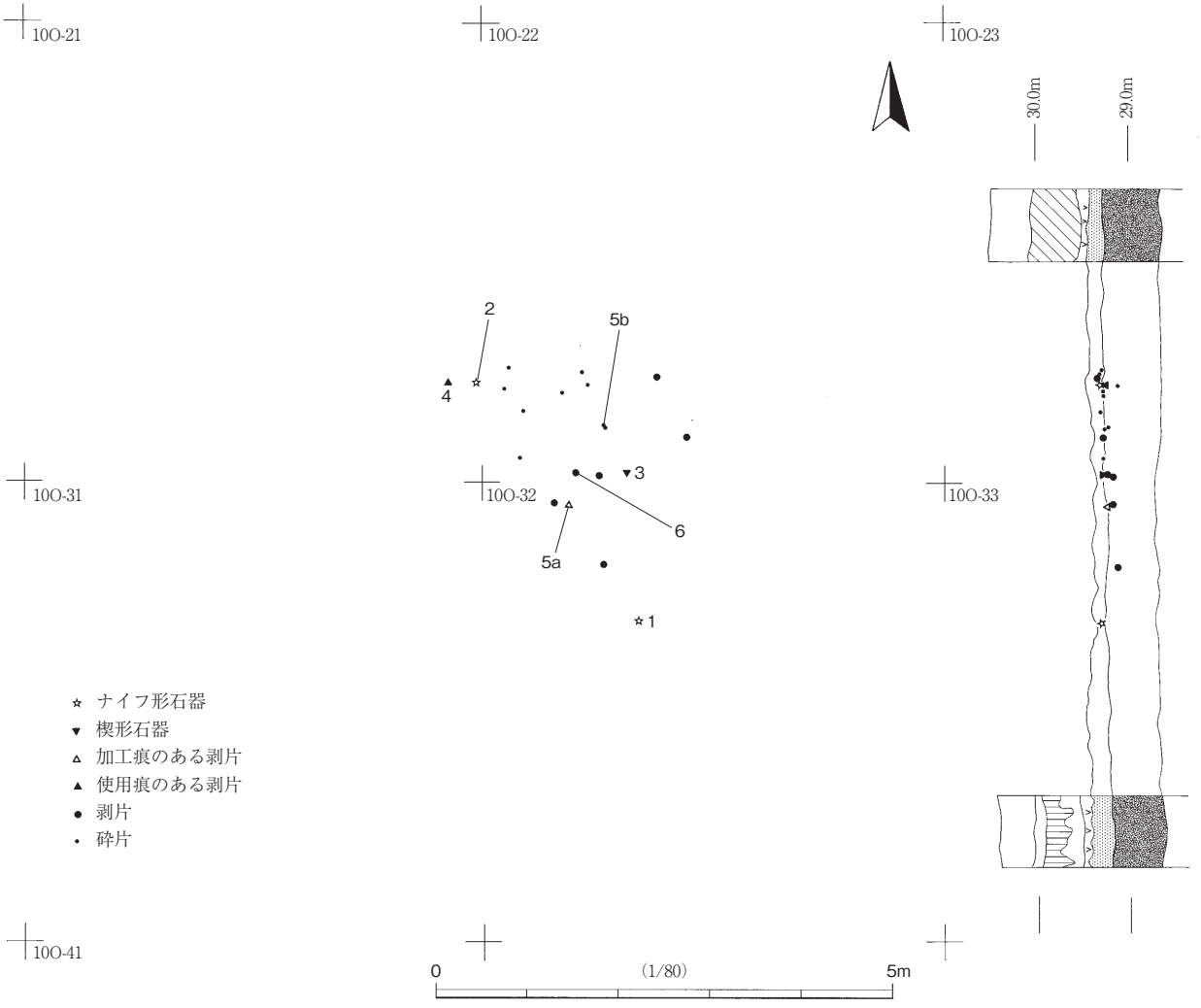
10O-21グリッドから10O-22･32グリッドにかけて検出した。分布は径３ｍ程の範囲の広がりがみられる。出土層位はⅨａ層上部からⅦ層にかけてで、Ⅶ層下部に主体を置くものと思われる。

器種・石材

計20点の石器類が出土している。器種別内訳はナイフ形石器２点、楔形石器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片１点、剥片６点、砕片９点である。石材としてはナイフ形石器１点をはじめ凝灰岩を用いた石器類が３点で他は頁岩である。この頁岩は肉眼的観察で同様の頁岩と判断できるものが２種みられる（頁岩６・７）。このうち頁岩６が遺物全体の40%を占めている。

１は凝灰岩製のナイフ形石器で、縦長剥片を素材とし、背面右側縁全域と左側縁基部に急角度の調整剥離が施されており､基部は尖った形状を呈している。調整の施されていない左側縁先端部周辺においては、裏面に角度の浅い調整剥離が施されている。２は頁岩製の縦長剥片の背面右側縁に急角度の調整剥離が施されたナイフ形石器で、左側縁先端近くには刃こぼれ痕が観察できる。基部は欠損したものと思われる。

３は頁岩６を素材とした楔形石器である。幅広の縦長剥片の背面、裏面上下に縦方向の調整剥離が施さ



第15図　第４ブロック器種別分布図

れている。

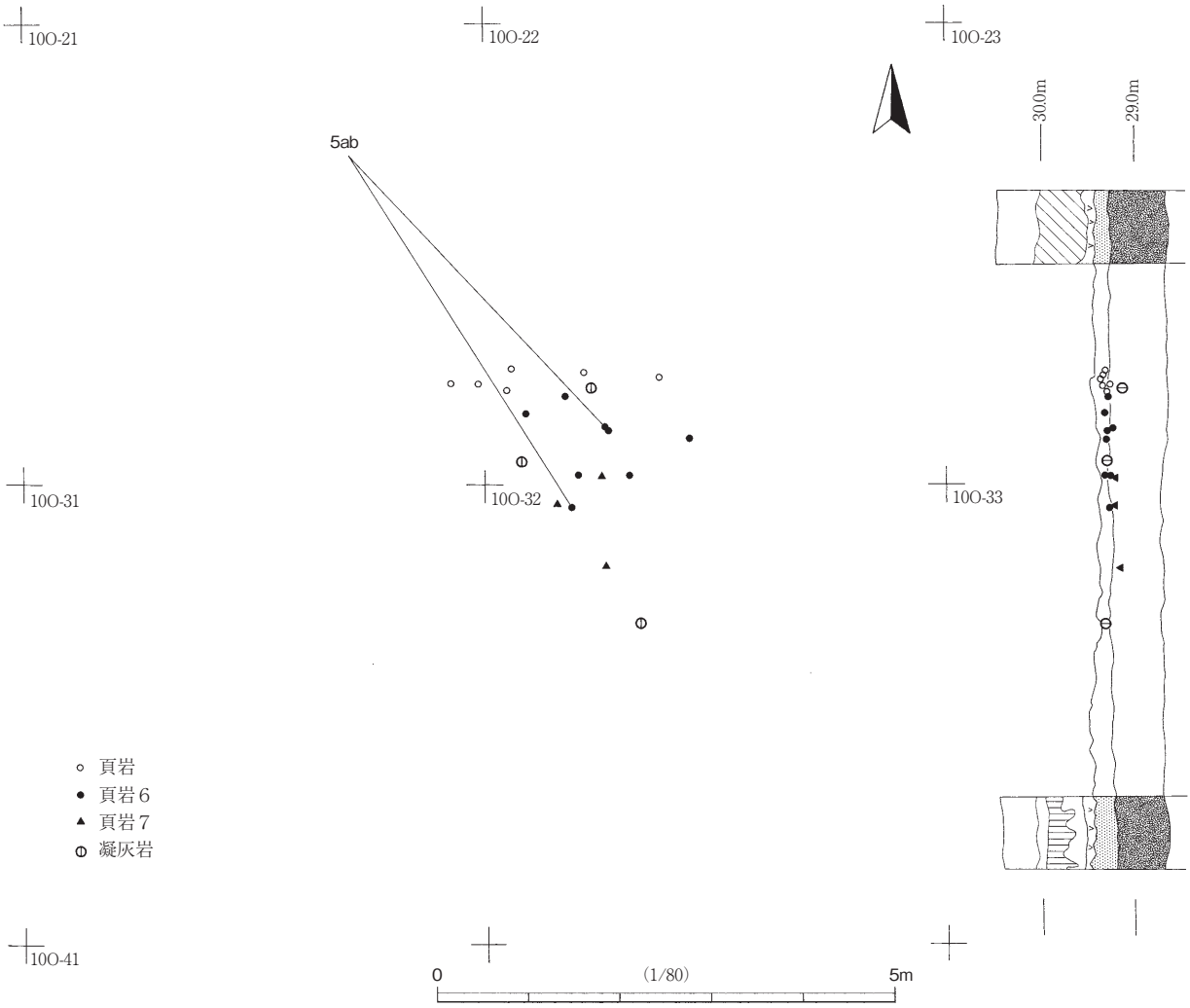
４は頁岩製の石刃状剥片で両側縁に使用痕がみられる。打面には剥片剥離時の細かな調整剥離はみられない。

５aは頁岩６製の縦長剥片の一側縁の一部に細かな調整剥離が施された加工痕のある剥片である。５bは打面調整剥片と思われる横長の翼状形の剥片で５aとの接合資料である。

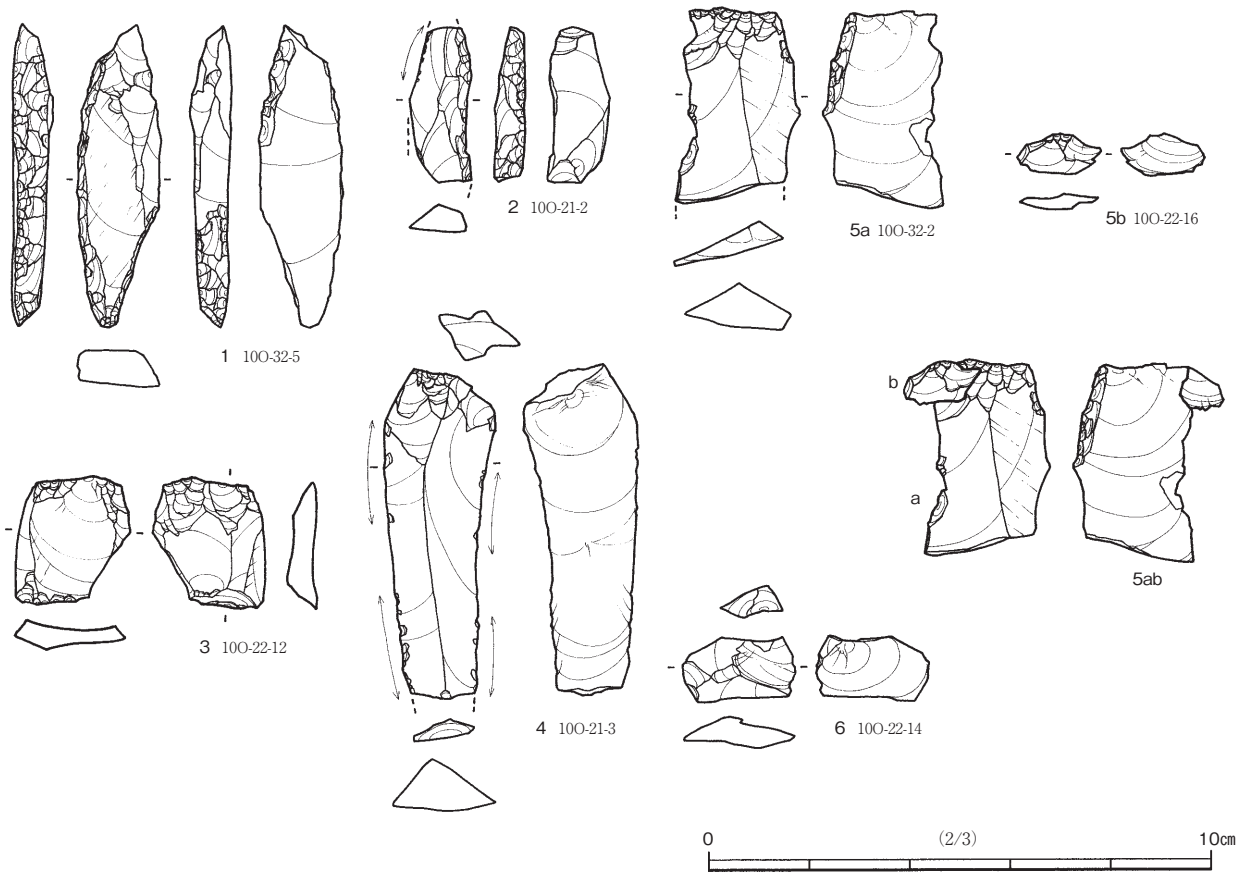
６は頁岩６を素材とした横長剥片である。

第２表　第４ブロック石器組成表

器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	楔形石器		加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		砕片		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
頁岩	1	2.2					1	11.2	1	0.4	3	0.6	6	14.4	30.0%	41.1%
頁岩　6			1	3.3	1	6.4			2	1.4	4	0.6	8	11.7	40.0%	33.4%
頁岩　7									3	1.6			3	1.6	15.0%	4.6%
頁岩　計	1	2.2	1	3.3	1	6.4	1	11.2	6	3.4	7	1.2	17	27.7	85.0%	79.2%
凝灰岩	1	6.6									2	0.7	3	7.3	15.0%	20.8%
合計	2	8.8	1	3.3	1	6.4	1	11.2	6	3.4	9	1.9	20	35.0	100%	100%
器種別比	10.0%	25.1%	5.0%	9.5%	5.0%	18.2%	5.0%	31.9%	30.0%	9.7%	45.0%	5.3%	100%	100%		



第16図　第４ブロック石材別分布図



第17図　第４ブロック出土石器

５　第５ブロック（第18～27図、第３・28表、図版３・４・10）

分布

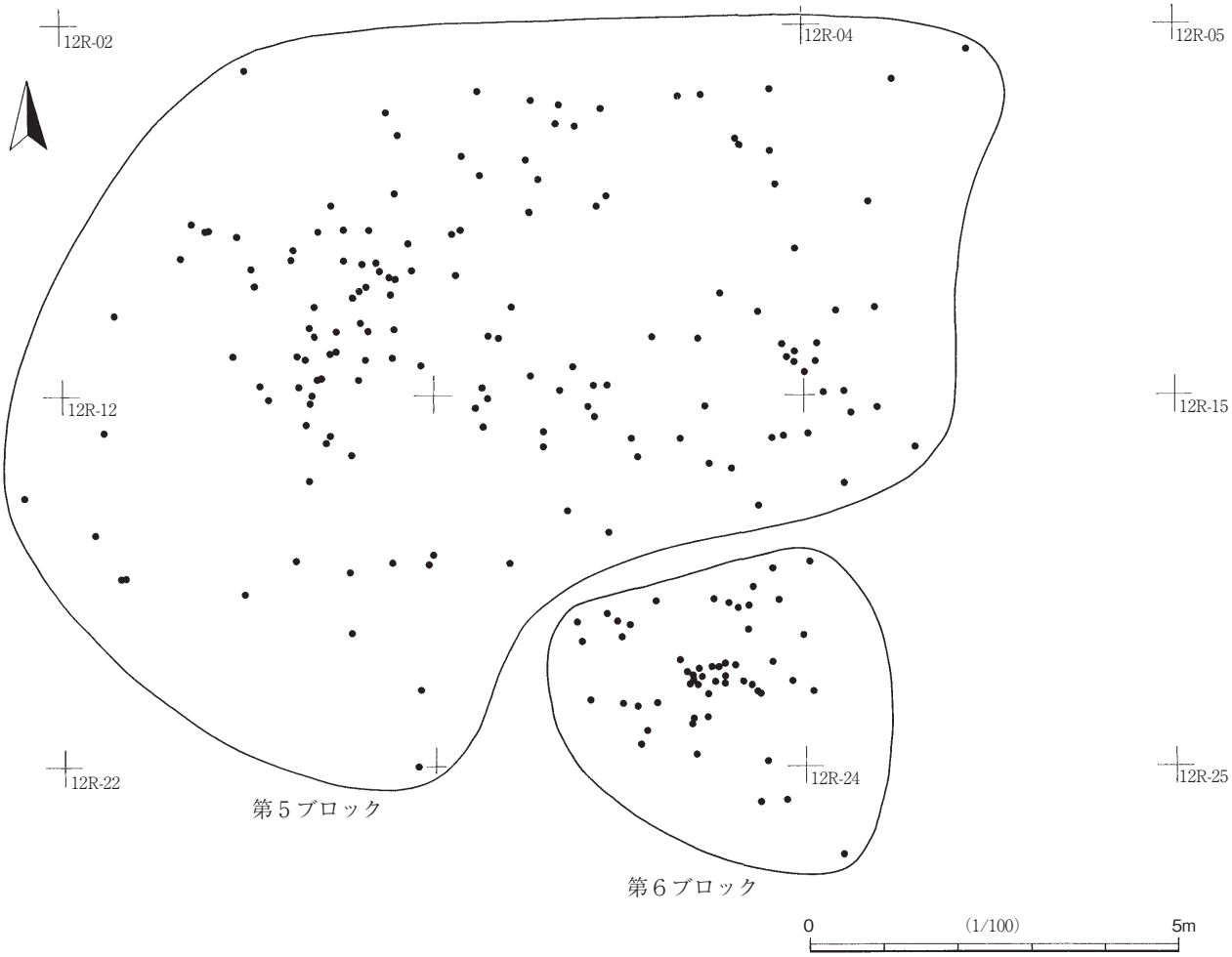
12R-02・03・12・13グリッドを中心として東西約14m、南北約10mの範囲に分布し、同一文化層の第６ブロックが南西側に隣接して分布している。この２つのブロックは有機的関係を持つものと考えられる。出土層位は第Ⅸｂ層からⅦ層にかけてで、主体をⅨａ層上部からⅦ層下部に置くものと思われる。出土遺物総数は148点である。

器種・石材

出土遺物の器種別内訳は、ナイフ形石器４点、局部磨製石斧１点、石核７点、使用痕のある剥片４点、剥片112点、砕片19点、礫１点である。

石材は頁岩、玉髄、安山岩、黒色安山岩、珪質頁岩、凝灰岩、ホルンフェルス、砂岩の８種類がみられる。このうち頁岩が全体の45％以上を占め、続いて玉髄（30％以上）、安山岩（13％以上）が大きな割合を占め、他の石材は数パーセント以下である。また、頁岩、玉髄、安山岩、ホルンフェルス、砂岩には肉眼的観察ではあるが同様の石材が認められ、頁岩は４種（１～３・５）、安山岩は１種（１）、玉髄は３種（１～３）、ホルンフェルスは２種（１・２）、砂岩１種（１）が認められる。

１はホルンフェルス２製の局部磨製石斧である。扁平で長楕円形の礫を素材とし、一端部から一側縁にかけて調整剥離を施し刃部を作り出し、その後、背裏側面の全面に入念な研磨により仕上げたものと思われる。しかしこの石斧の刃部左側は平坦となっている。そして平坦面には研磨によるものと思われる摩滅

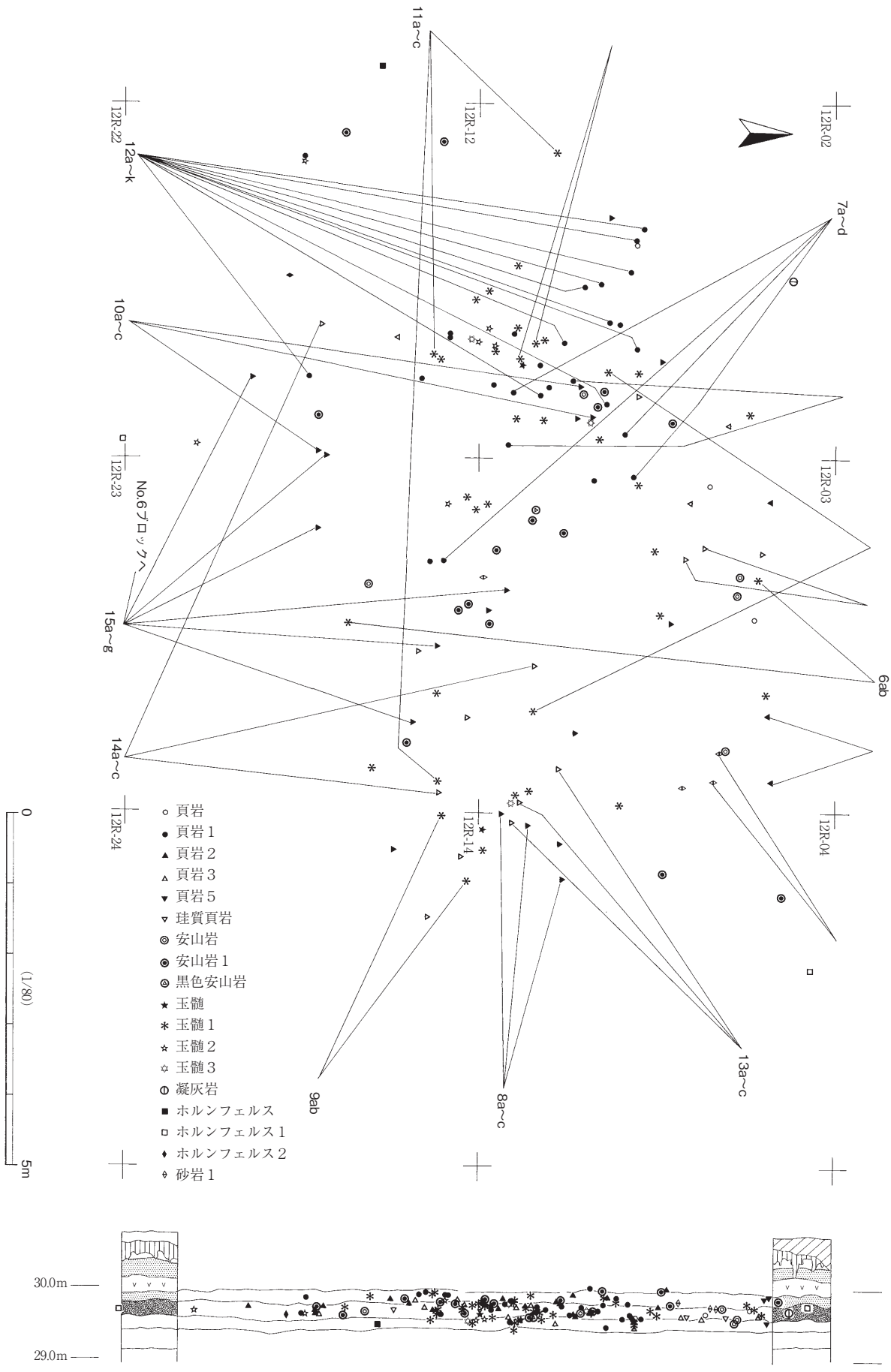


第18図　第５・６ブロック遺物分布状況図

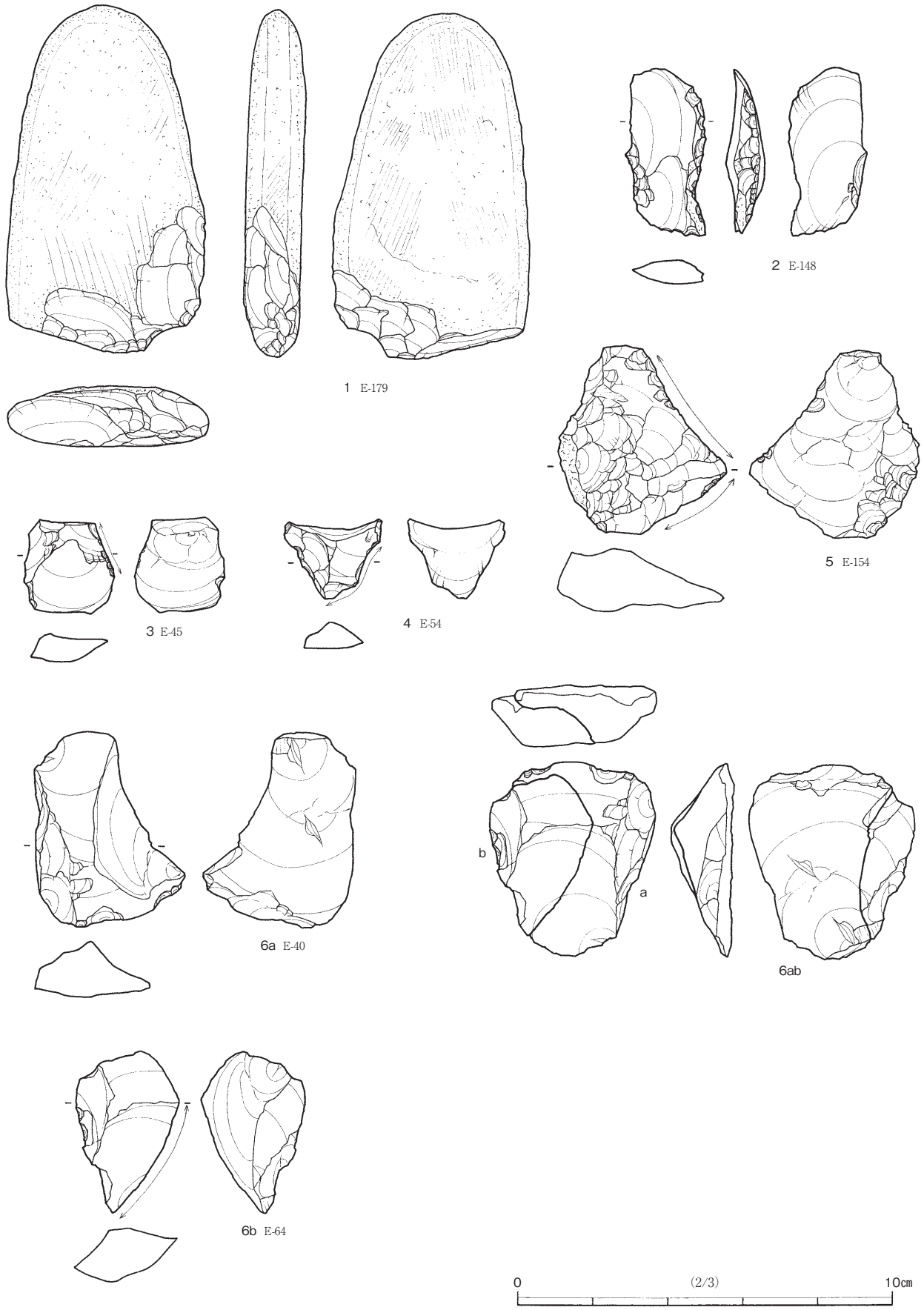
第３表　第５ブロック石器組成表

器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	石核		局部磨製石斧		使用痕のある剥片		剥片		砕片		礫		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
頁岩									2	2.2	1	0.1			3	2.3	2.0%	0.2%
頁岩１	3	12.3	2	51.4					20	118.9	3	2.7			28	185.3	18.9%	16.7%
頁岩２			2	57.2					18	132.3					20	189.5	13.5%	17.0%
頁岩３									13	84.2	1	0.2			14	84.4	9.5%	7.6%
頁岩５									3	26.8					3	26.8	2.0%	2.4%
頁岩　計	3	12.3	4	108.6					56	364.4	5	3.0			68	488.3	45.9%	43.9%
珪質頁岩									3	19.5					3	19.5	2.0%	1.8%
安山岩									2	4.8	3	0.6			5	5.4	3.4%	0.5%
安山岩１									14	55.0	1	0.1			15	55.1	10.1%	5.0%
安山岩　計									16	59.8	4	0.7			20	60.5	13.5%	5.4%
黒色安山岩											1	0.3			1	0.3	0.7%	0.03%
玉髄	1	8.3							1	8.8					2	17.1	1.4%	1.5%
玉髄１			3	174.1			4	49.6	25	107.1	4	3.8			36	334.6	24.3%	30.1%
玉髄２									3	2.6	3	2.6			6	5.2	4.1%	0.5%
玉髄３									2	1.9	1	0.1			3	2.0	2.0%	0.2%
玉髄　計	1	8.3	3	174.1			4	49.6	31	120.4	8	6.5			47	358.9	31.8%	32.3%
凝灰岩													1	3.8	1	3.8	0.7%	0.3%
ホルンフェルス											1	0.9			1	0.9	0.7%	0.1%
ホルンフェルス１									2	15.2					2	15.2	1.4%	1.4%
ホルンフェルス２					1	122.2									1	122.2	0.7%	11.0%
ホルンフェルス計					1	122.2			2	15.2	1	0.9			4	138.3	2.7%	12.4%
砂岩１									4	42.3					4	42.3	2.7%	3.8%
合計	4	20.6	7	282.7	1	122.2	4	49.6	112	621.6	19	11.4	1	3.8	148	1,111.9	100%	100%
器種別比	2.7%	1.9%	4.7%	25.4%	0.7%	11.0%	2.7%	4.5%	75.7%	55.9%	12.8%	1.0%	0.7%	0.3%	100%	100%		

第19図　第５ブロック器種別分布図



第20図　第５ブロック石材別分布図



第21図　第５ブロック出土石器（１）

がみられる。これは当初の石斧の刃部が破損したために再度刃部を作り直したものと考えられる。刃部左側の平坦部以外は両面より入念に調整剥離が施され、チョッピングツール状の刃部が作り出されている。このことから平坦部については意図的に残した可能性も考えられる。そしてこの部分の使用目的としては敲打や研磨といったことが考えられる。

２は玉髄製のナイフ形石器である。やや厚みのある横長剥片を素材とし、一側縁に入念な調整剥離が施されている。打面、打瘤は残されたままである。

３～６は玉髄１を石材とした使用痕のある剥片である。３は幅広の縦長剥片を素材とし、一側縁に使用痕が認められる。４は縦長剥片が素材となっていると思われるが頭部が欠損している。尾部の一側縁に使用痕が認められる。５は厚みのある礫面を一部に残す大型の剥片を素材とし、鋭利な二側縁に使用痕が認められる。６a･ｂは剥片２点の接合資料である。ａは厚みを持つ幅広の大型縦長剥片である。ｂは厚みを持つ横長剥片を素材とし鋭利な一側縁に使用痕が認められる。ａとｂは６m程離れた地点から出土しており、剥片剥離作業ではbを剥離後に打面を90度近く移動してａを剥離している。２つの剥片の背面に残る剥離痕からも打面を直角に近く移動しながら剥離作業を行っていたことが窺える。

７ａ～ｄは頁岩１を石材としたナイフ形石器（ａ・ｂ）と剥片（ｃ・ｄ）の接合資料である。いずれも横長剥片である。剥離はａ→ｃ→ｄ→ｂの順に同一打面から連続的に行われているものと思われる。打面は剥片剥離面を利用し、細かな打面調整剥離は施されていない。７aは横長剥片の打面・打瘤部分と基部の一側縁に調整剥離が施され、鋭利な一側縁に使用痕が認められるナイフ形石器である。７bは基部の一側縁に調整剥離が施され、先端部の鋭利な側縁に使用痕が認められるナイフ形石器である。

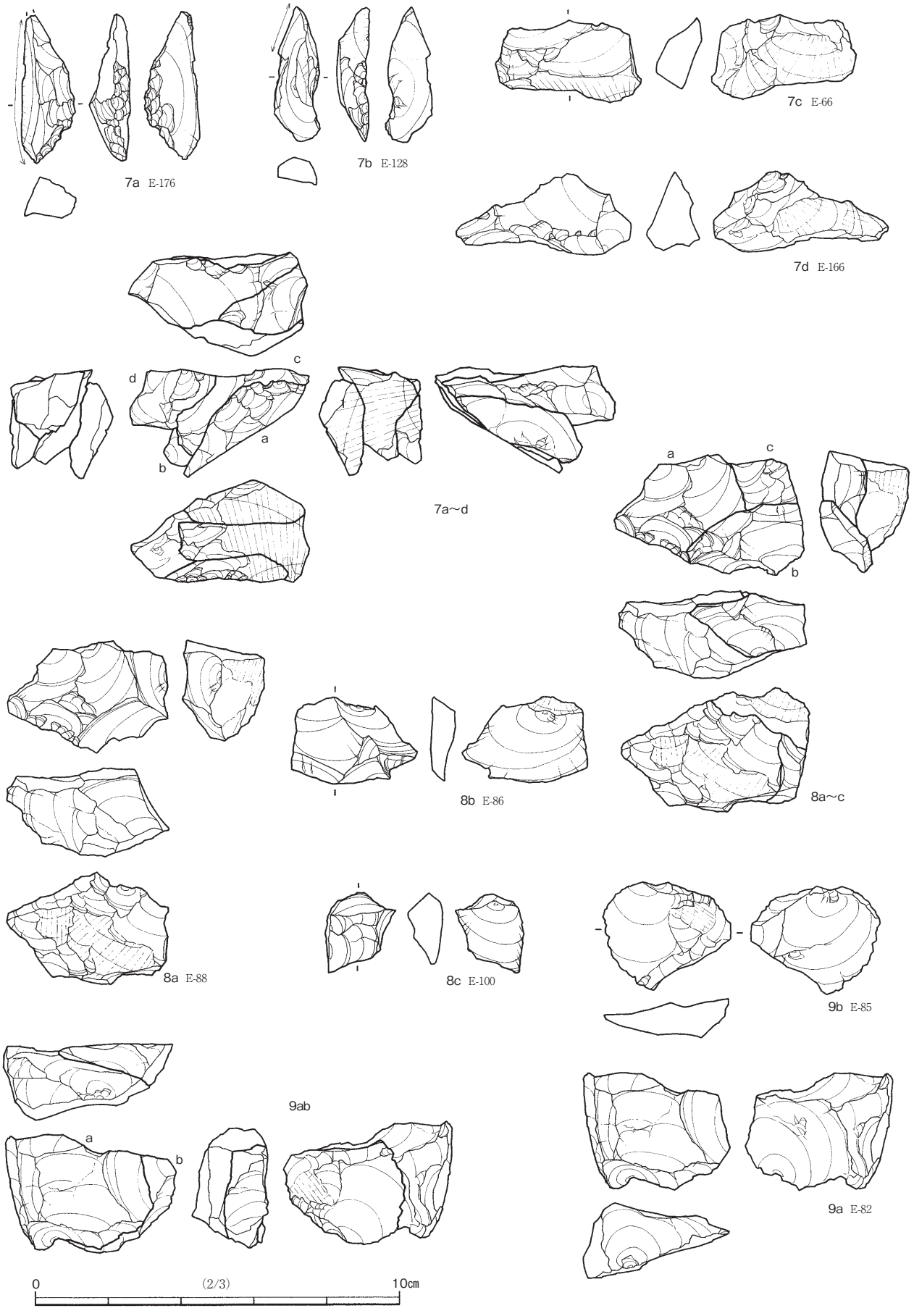
８ａ～ｃは頁岩２を石材とした石核（ａ）と剥片（ｂ・ｃ）の接合資料である。ｂを剥離した後にその剥離面を打面とし、ｃと同規模の大きさの剥片を採取するため数回剥離を行い、後に打面を90度程移動してcを剥離している。なお、ｂの打面は節理面をそのまま利用している。このようにこの石核からは、剥片剥離面や節理面の平坦面を打面として利用し、数回の剥離作業毎に打面を移動しながら剥片剥離作業を行っていることが窺え、採取された剥片は小型の横長剥片もしくは幅広の縦長剥片と思われる。

９a･bは玉髄１を石材とした石核（ａ）と剥片（ｂ）の接合資料である。ａにはｂを剥離した方向とそれにほぼ直行する方向の剥離痕がみられる。また、打面についても剥片剥離面の平坦部を利用している。このことは６a･bにも見られた剥離作業と同様である。

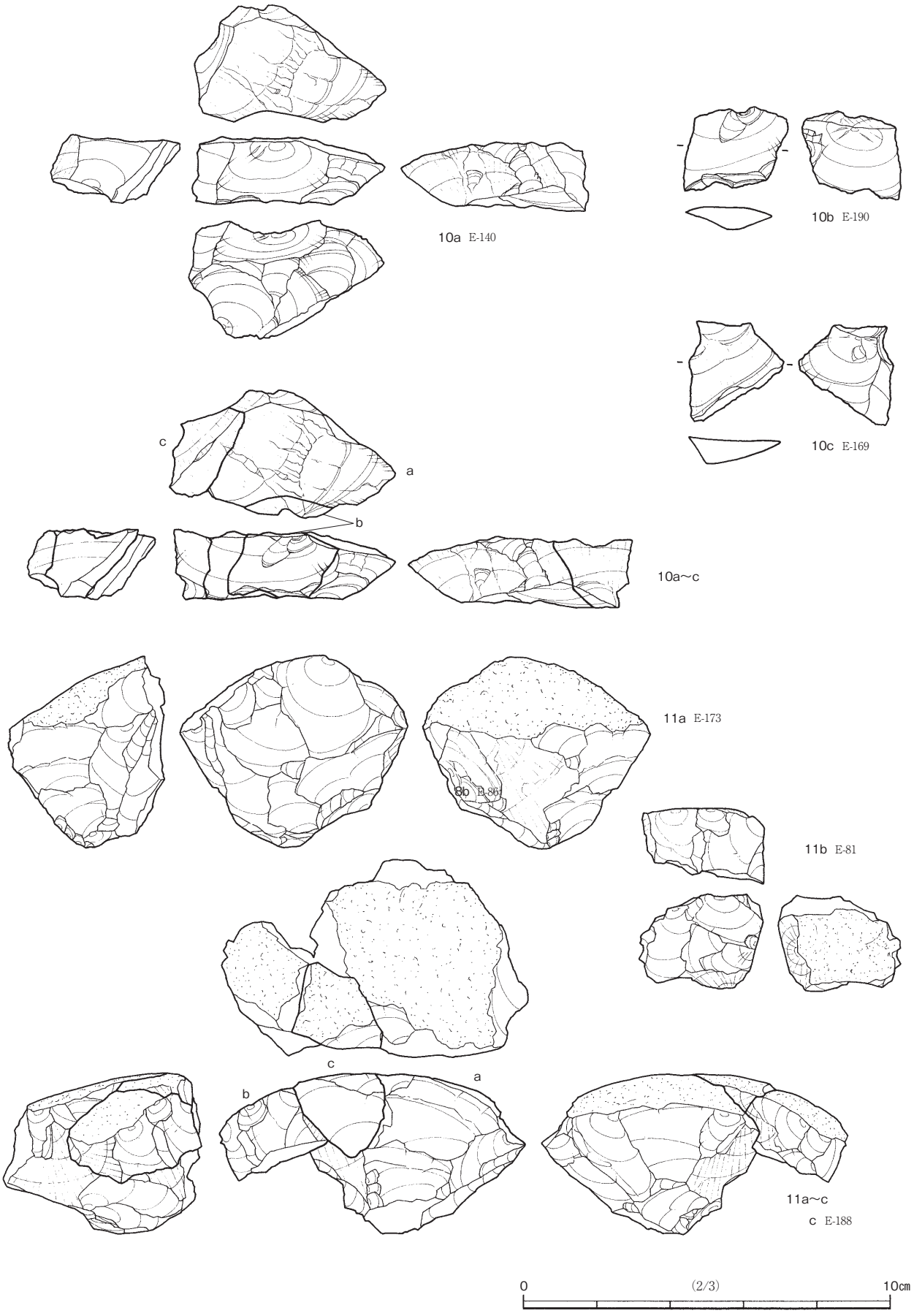
10a～ｃは頁岩２を石材とした石核（ａ）と剥片（ｂ・ｃ）の接合資料である。aは上下の二面に打面を持っており、上面を打面としてｂを下面を打面としてｃが剥離されている。上面の打面は一度の剥離により作り出されている。下面の打面には複数回の剥片剥離が行われているが、打面を作り出すことを目的としたものかは不明である。上下の打面とも細かな打面調整剥離は施されていない。剥離された剥片はｂ・ｃを含め長さの短い幅広の剥片と思われる。この剥片剥離技術は８a～ｃの接合資料に見られた剥片剥離技術と同様と思われる。

11a～ｃは玉髄１を石材とした石核（ａ・ｂ）と剥片（ｃ）の接合資料である。拳大程の礫を打ち割り石核の素材としている。打面を作り出すような調整剥離は施されておらず、礫面においても同様で、直に剥片剥離作業を行っている。打面は移動しながら剥片剥離作業を進めているために一定していない。この玉髄１には節理が多数みられるため採取された剥片の形状には不定形なものが多くみられる。

12a～ｋは頁岩１を石材とするナイフ形石器１点（ｋ）、石核２点（ａ・ｂ）と剥片８点の計11点の接

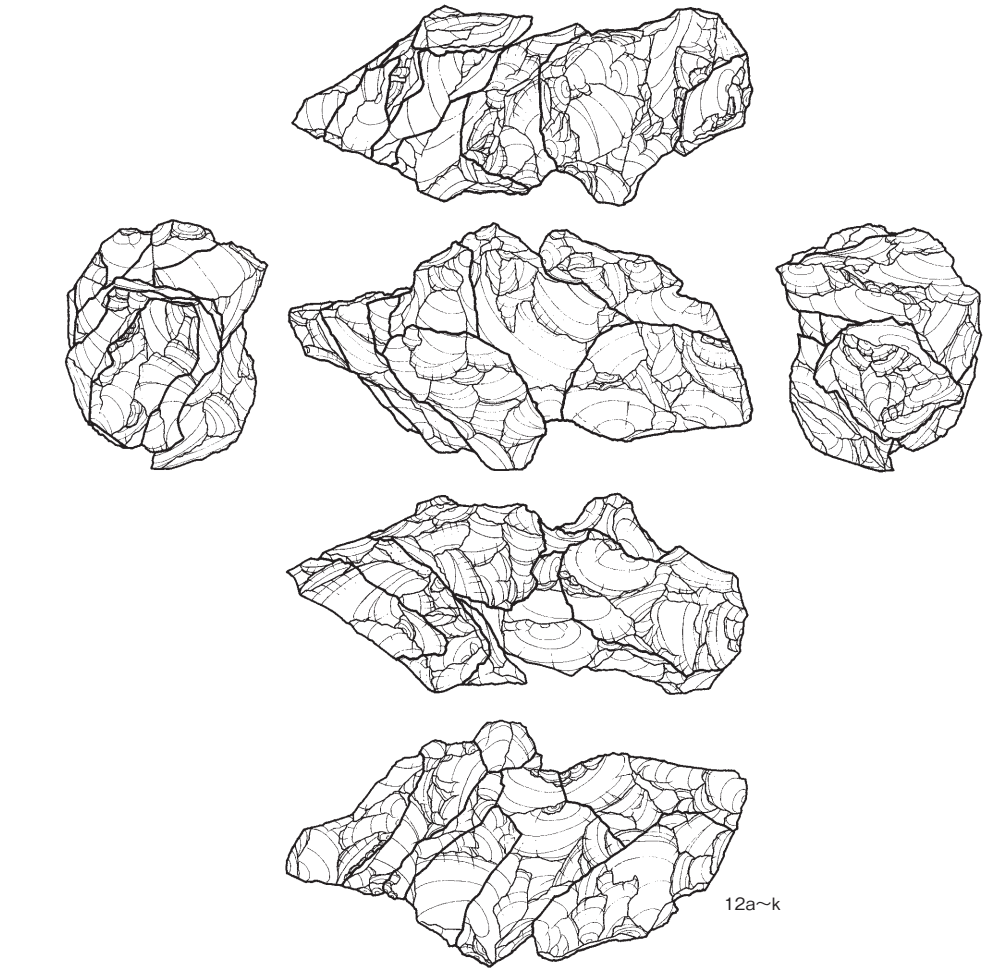


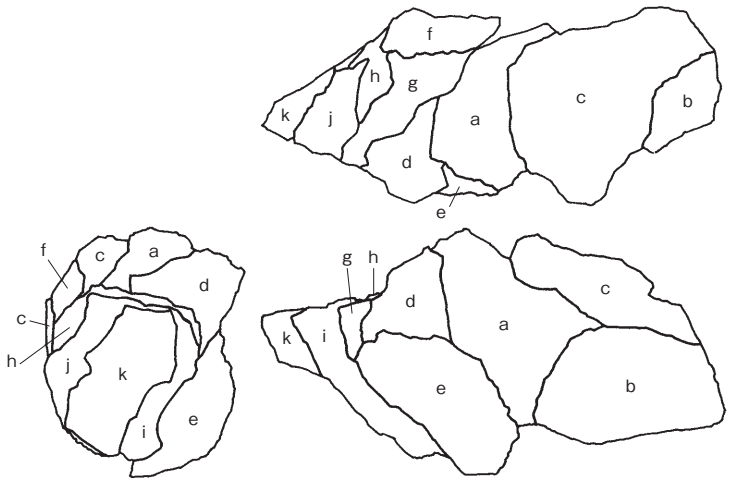
第22図　第５ブロック出土石器（２）



第23図　第５ブロック出土石器（３）

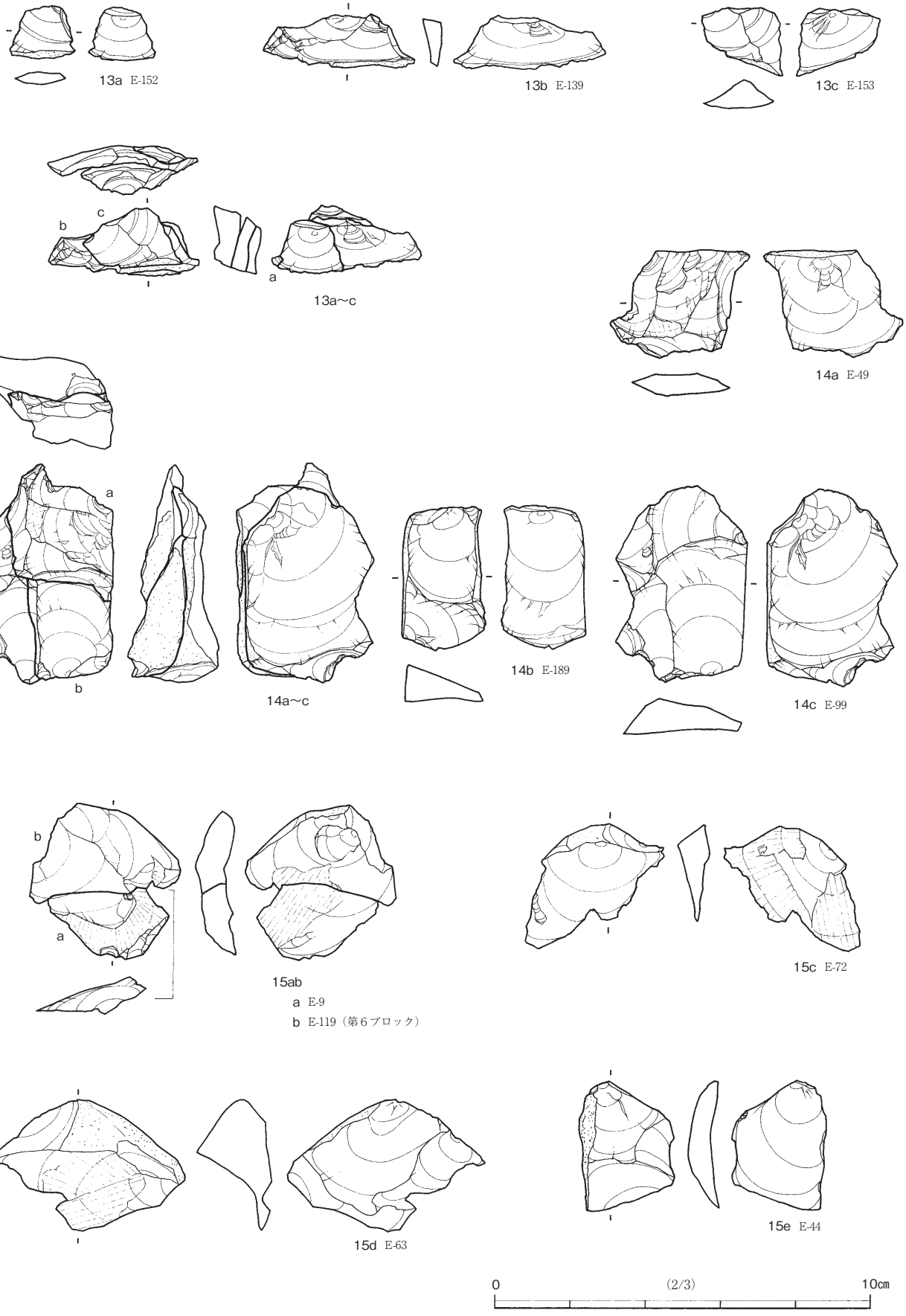
第24図　第５ブロック出土石器（４）



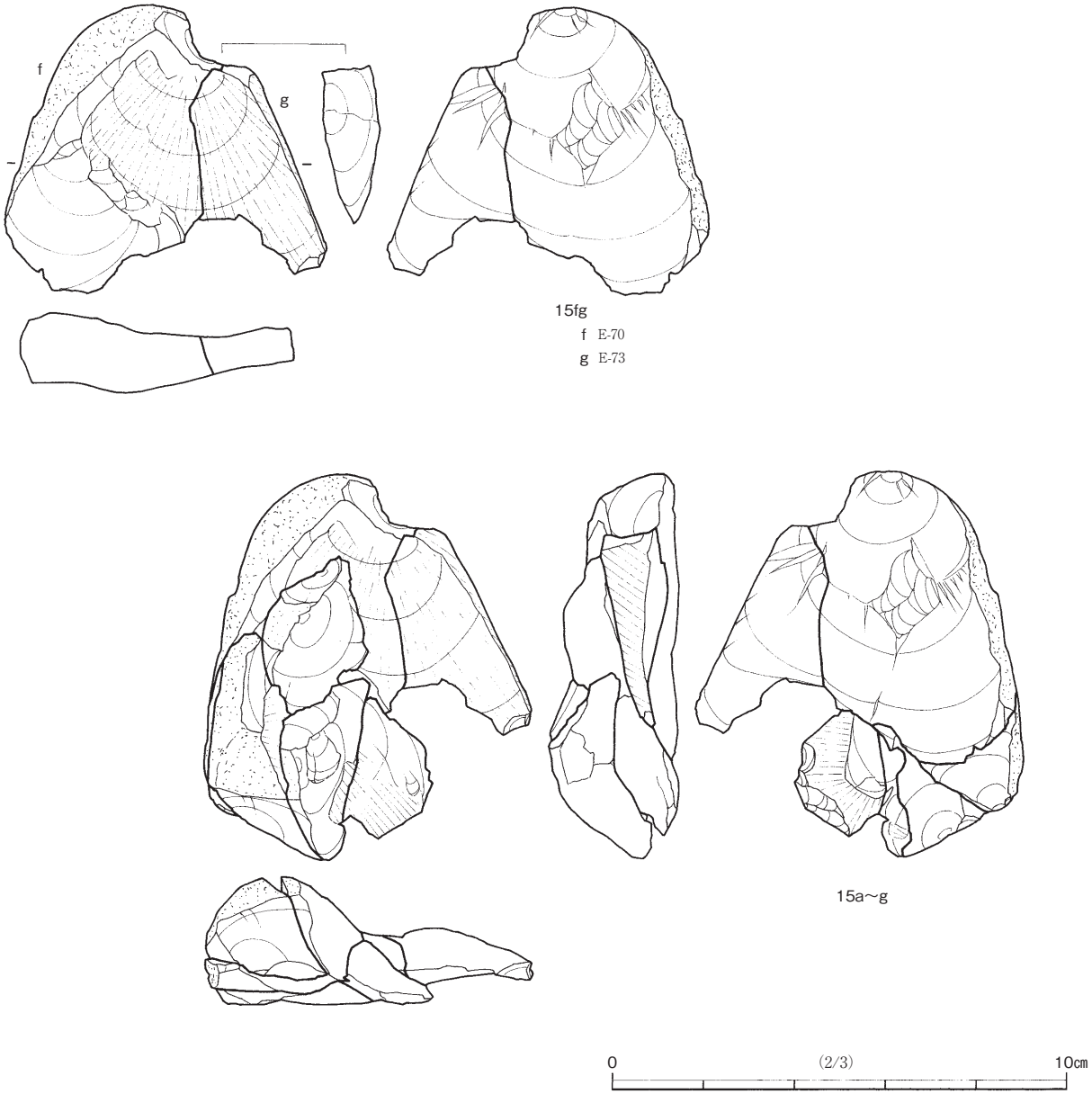


0 (2/3) 10cm

第25図　第５ブロック出土石器（５）



第26図　第５ブロック出土石器（６）



第27図　第５ブロック出土石器（７）

合資料である。石核ａ・ｂは３m程離れて出土しているが、一つの石核が欠損したものと思われる。またｉとｊも一つの剥片が剥片剥離時に割れたものと思われ、出土地点が0.2m程と隣接している。ｄ・ｆ～ｋの資料はａにつながる一面の節理面を打面として、打面調整剥離を施すことなく連続的にほぼ縦方向にｋ→ｄの順番で剥離を行い剥片を採取している。そしてｄの剥離後にほぼ180度打面を移動して、ｅの剥片剥離作業を行っている。ｃは石核ａ・ｂの打面を調整するかのように厚みのある横長剥片で、この剥離により、広い平坦面を作り出している。石核ａ・ｂは主に上下面に打面を設定し横長もしくは幅広の縦長剥片を採取しているようであるが、石材自体に節理を多く有しているため採取された剥片は不定形なものが多い。ｋは鋭利な側縁を有する細身の剥片を素材とし、その一側縁に調整剥離が施されたナイフ形石器である。

13a～ｃは頁岩３を石材とする剥片３点の接合資料である。剥片は横長もしくは長さの短い幅広のもので、同一打面から連続的に採取されたものである。

14a ～ c は13a ～ c と同一母岩の可能性もある頁岩３を石材とした剥片３点の接合資料である。しかし剥片は大型でやや幅広の縦長剥片である。そしてｂとｃの剥離方向は180度程方向が異なっており、いわゆる上下の打面より剥片剥離が行われている。しかし更にａはｂ・ｃの剥離方向に対しほぼ直行する方向からの剥離作業を行っている。このようにこの接合資料からは、数回の剥離作業後に打面を90度程移動しながら入念な打面調整後に剥片剥離作業を進めている事が窺える。

15a ～ g は頁岩２を石材とした剥片７点の接合資料である。なおａは第６ブロックからの出土である。またａとｂ、ｆとｇはそれぞれ一つの剥片であったものが欠損したものと思われ、５点の剥片による接合資料と言える。そしてこの頁岩２は非常に多くの節理面を有しており、剥片剥離作業を進めるに当たって良質の石材と比較して制限があったものと思われる。やや扁平の拳大もしくはそれよりも一回り程大きな礫を素材として、礫面を打面とし打面調整剥離は一切施されずに、果物の皮を削り取るように剥離作業を行っている。これは節理面などの不良部分を取り除き、良質な部分を取り出すための剥離作業のようにもみられる。

６　第６ブロック（第18・28 ～ 31図、第４・28表、図版３・４・11）

分布

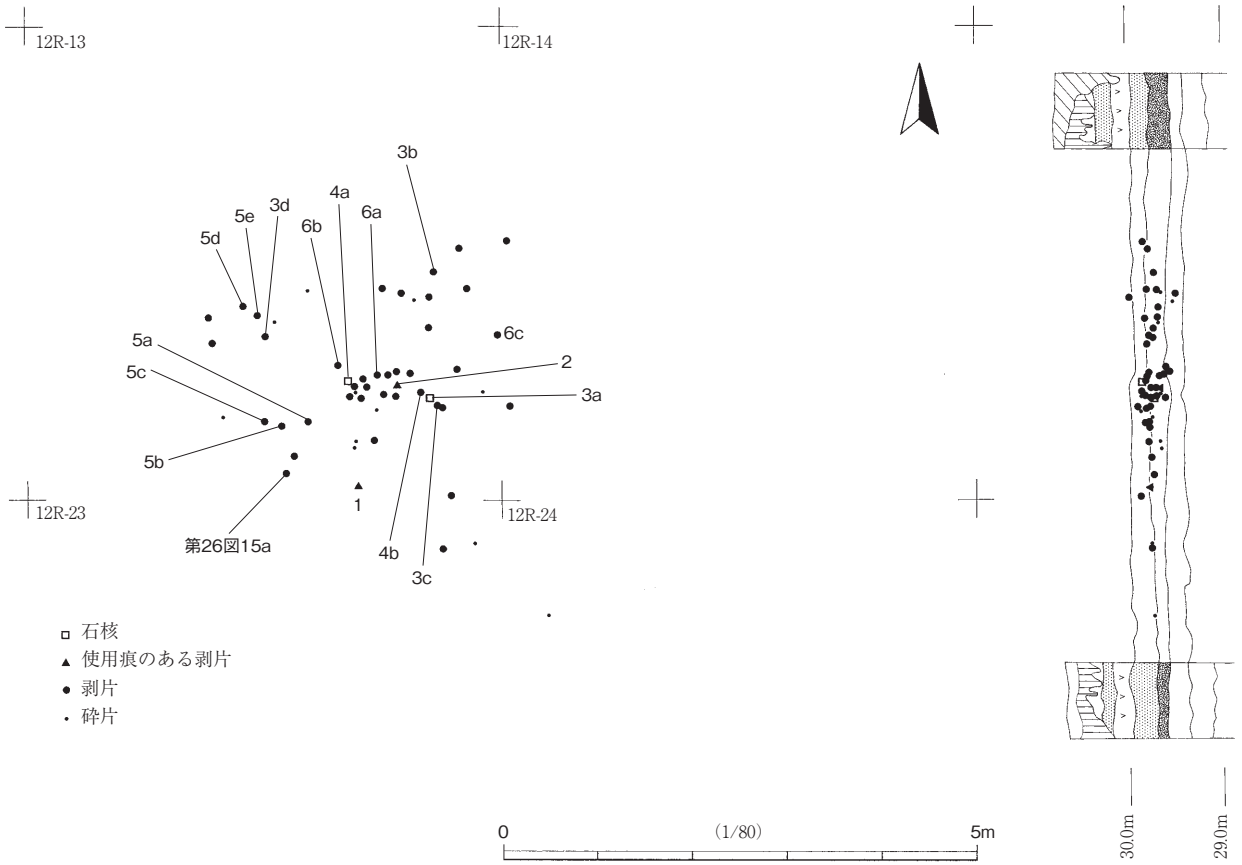
12R-13グリッド南西部の径３m程の範囲に分布する。出土層位は第５ブロックと同様、第Ⅸb層からⅦ層にかけてで、Ⅸa層上部からⅦ層下部に主体を置く。なお、本地点においては明確な第Ⅸc層が確認できておらず、第Ⅸb層下に第Ⅹ層が続く。

器種・石材

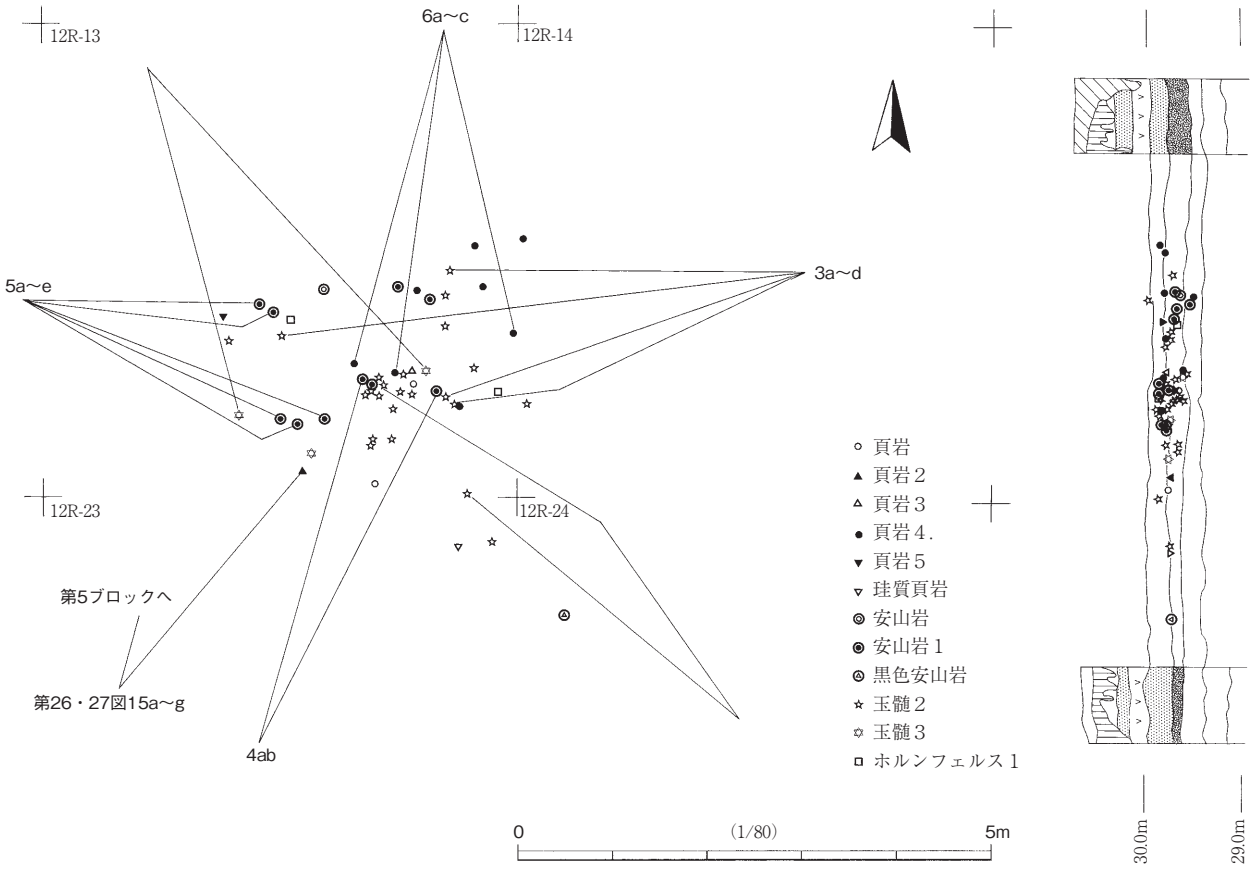
総点数54点。器種の内訳は石核２、使用痕のある剥片２、剥片39、砕片11である。使用されている石材は頁岩、珪質頁岩、安山岩、黒色安山岩、玉髄、ホルンフェルスの６種類で、この内、肉眼的観察で同一

第４表　第６ブロック石器組成表

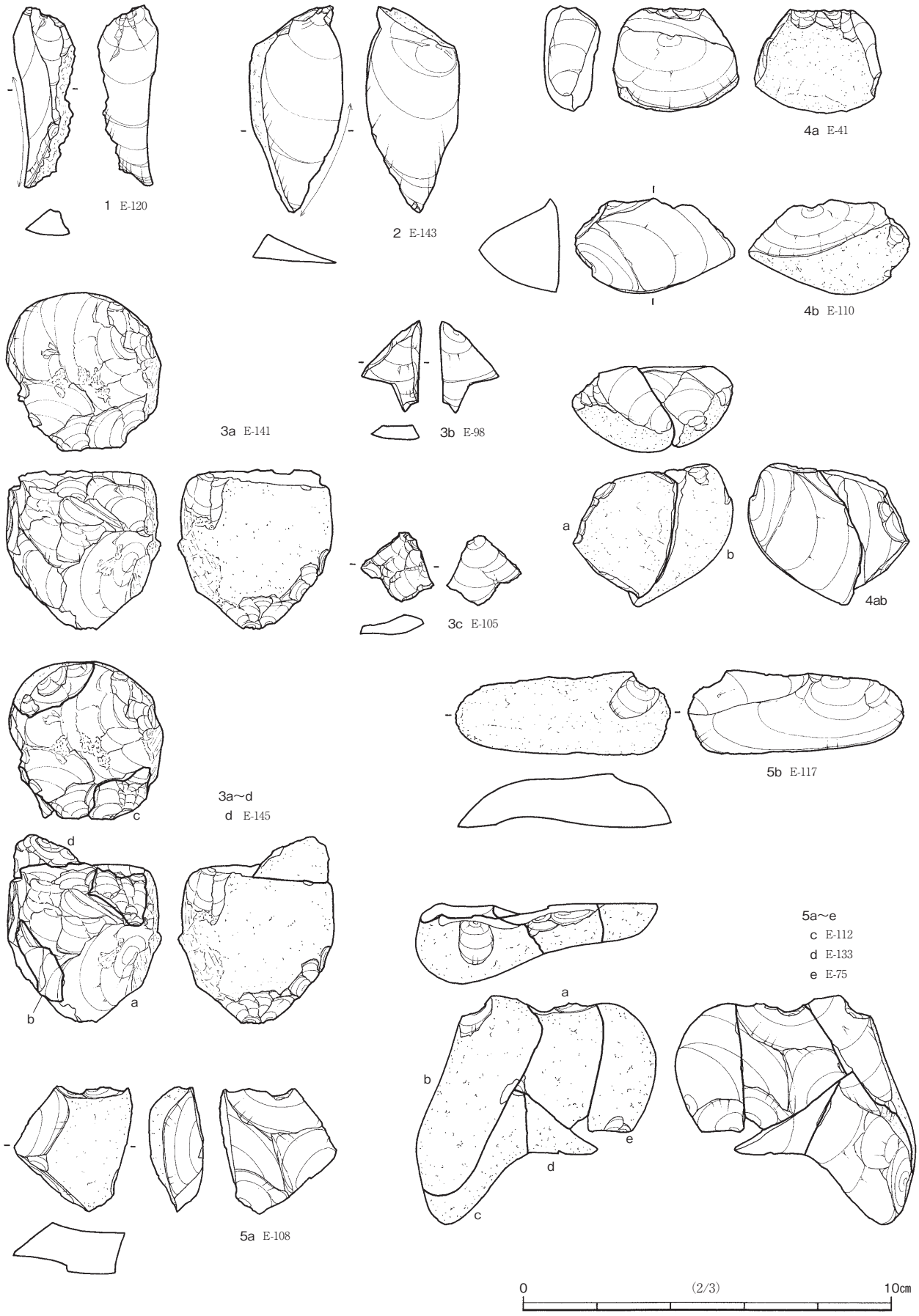
器種 / 石材	石核 点数	石核 重量	使用痕のある剥片		剥片		砕片		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
頁岩			2	16.5					2	16.5	3.7%	4.9%
頁岩２					1	7.3			1	7.3	1.9%	2.2%
頁岩３					1	5.0			1	5.0	1.9%	1.5%
頁岩４					8	23.0			8	23.0	14.8%	6.9%
頁岩５					1	9.7			1	9.7	1.9%	2.9%
頁岩　計			2	16.5	11	45.0			13	61.5	24.1%	18.4%
珪質頁岩					1	13.4			1	13.4	1.9%	4.0%
安山岩							1	0.5	1	0.5	1.9%	0.1%
安山岩１	1	18.0			8	93.7	1	0.1	10	111.8	18.5%	33.4%
安山岩　計	1	18.0			8	93.7	2	0.6	11	112.3	20.4%	33.5%
黒色安山岩							1	0.2	1	0.2	1.9%	0.1%
玉髄２	1	85.7			17	47.4	5	1.3	23	134.4	42.6%	40.1%
玉髄３					2	11.9	1	0.6	3	12.5	5.6%	3.7%
玉髄　計	1	85.7			19	59.3	6	1.9	26	146.9	48.1%	43.9%
ホルンフェルス１							2	0.7	2	0.7	3.7%	0.2%
合計	2	103.7	2	16.5	39	211.4	11	3.4	54	335.0	100%	100%
器種別比	3.7%	31.0%	3.7%	4.9%	72.2%	63.1%	20.4%	1.0%	100%	100%		



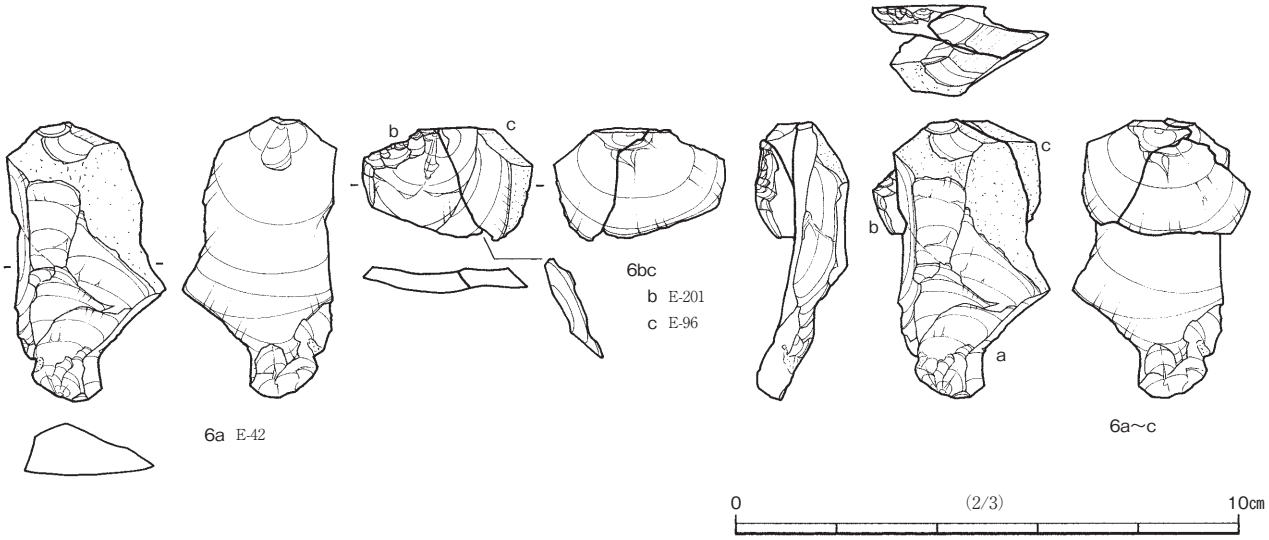
第28図　第６ブロック器種別分布図



第29図　第６ブロック石材別分布図



第30図　第６ブロック出土石器（１）



第31図　第６ブロック出土石器（２）

石材と判断できるものが頁岩に４種（２～５）、安山岩に１種（１）、玉髄に２種（１・２）みられる。

１・２は礫面を一部残した頁岩製の縦長剥片を素材とした使用痕のある剥片である。

３は玉髄製の石核に３点の剥片が接合した接合資料（ａ～ｄ）である。石核（ａ）の形状は円錐形を呈し、上面の全面と側面の２/３程が剥片剥離作業面となっており、側面の１/３程は礫の自然面のままである。上面の剥片剥離は一定方向からの剥離では無く、全周縁から剥離作業が施されている。側面の剥片剥離作業は主に上下面を打面として剥離作業が施されている。剥離された剥片は、石質が節理等が多く均質で無いためか、不定形な小型の剥片が剥離されている。

４は石核（ａ）と剥片（ｂ）の接合資料である。安山岩１製の拳大以下の円礫を母岩としている。石核には打面調整剥離と小型の縦長剥片を採取した剥離痕がみられる。

５は４と同様の安山岩製の扁平な拳大ほどの礫を母岩として、無作為的な剥片剥離作業により剥片を採取している。採取された剥片はいずれも不定形で厚みがあり、礫面を残している。この剥片を素材にした石器は検出されていない。

６は頁岩４を石材とした縦長剥片（ａ）と横長剥片（ｂ・ｃ）の接合資料である。双方ともに細かな打面調整剥離が施されている。ａの背面に残る剥離痕は全て主剥離面と反対方向からの剥離であり、打面が上下に設けられていたものと思われる。ｂ・ｃは剥離時もしくはそれ以降に折れたものと思われる。

本ブロックでの接合資料は、上記に説明した資料を含め７例みられる。この内の１例は隣接する第５ブロックとの接合例である。

７　第７ブロック（第32～34図、第５・28表、図版４・11）

分布

11Q-88グリッドを中心とし、径約４ｍの範囲内に大方の遺物が散漫な状況で分布している。出土層位は第Ⅸｃ層から第Ⅶ層下部にかけてで、第Ⅸｃ層に主体を置く。なお、この地点では第Ⅸｂ層は肉眼的観察では確認されていない。

器種・石材

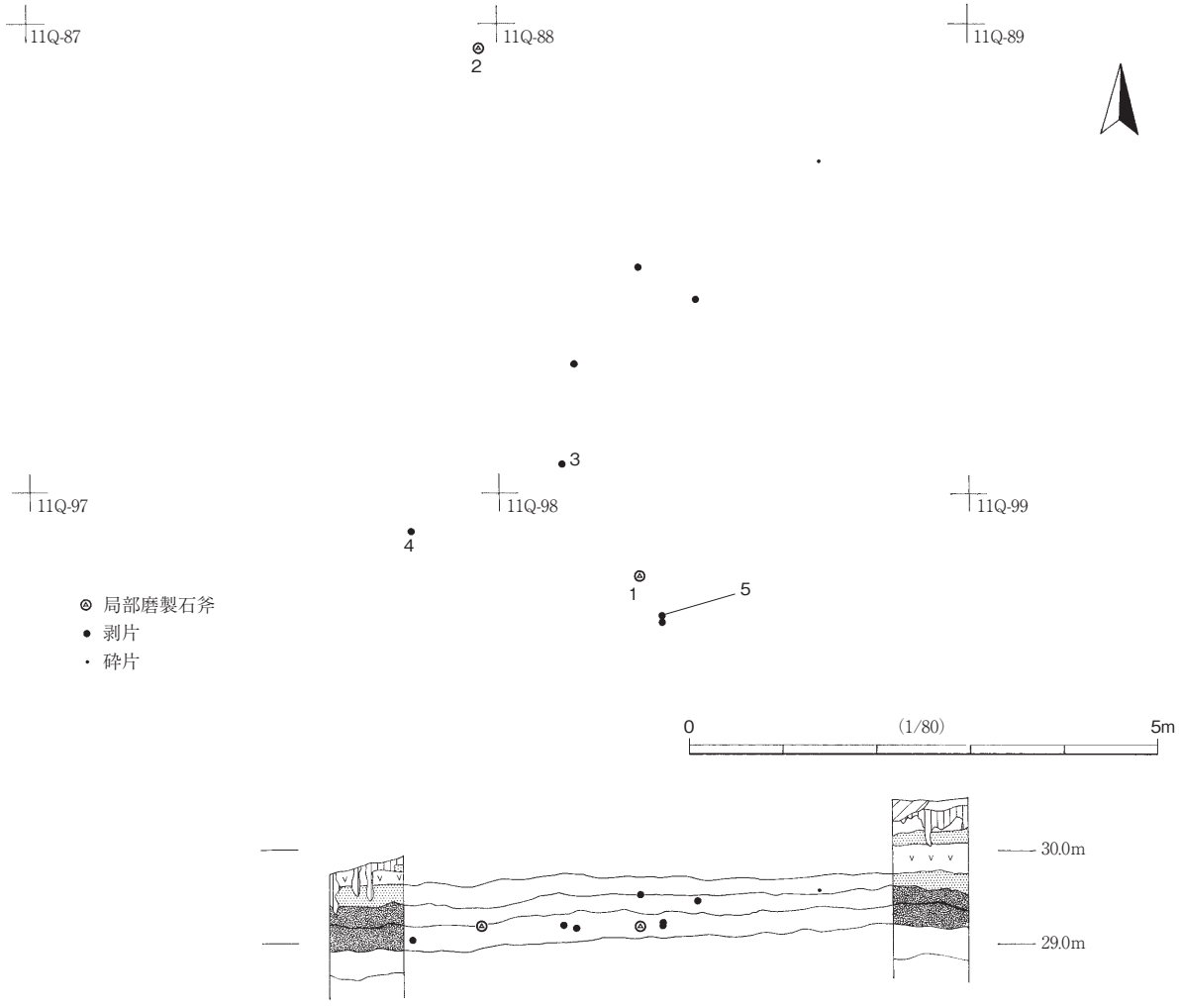
出土遺物総数10点。その器種別内訳は、局部磨製石斧２点、剥片７点、砕片１点、石材別では珪質頁岩、安山岩、黒色安山岩、ホルンフェルスに分類できる。

１・２はホルンフェルス製の局部磨製石斧刃部の破片である。石材の観察から別個体のものと思われる。いずれも細かな剥片剥離により刃部を形作り、研磨により形状を整えているものと思われる。研磨は礫面部分に観察できる。

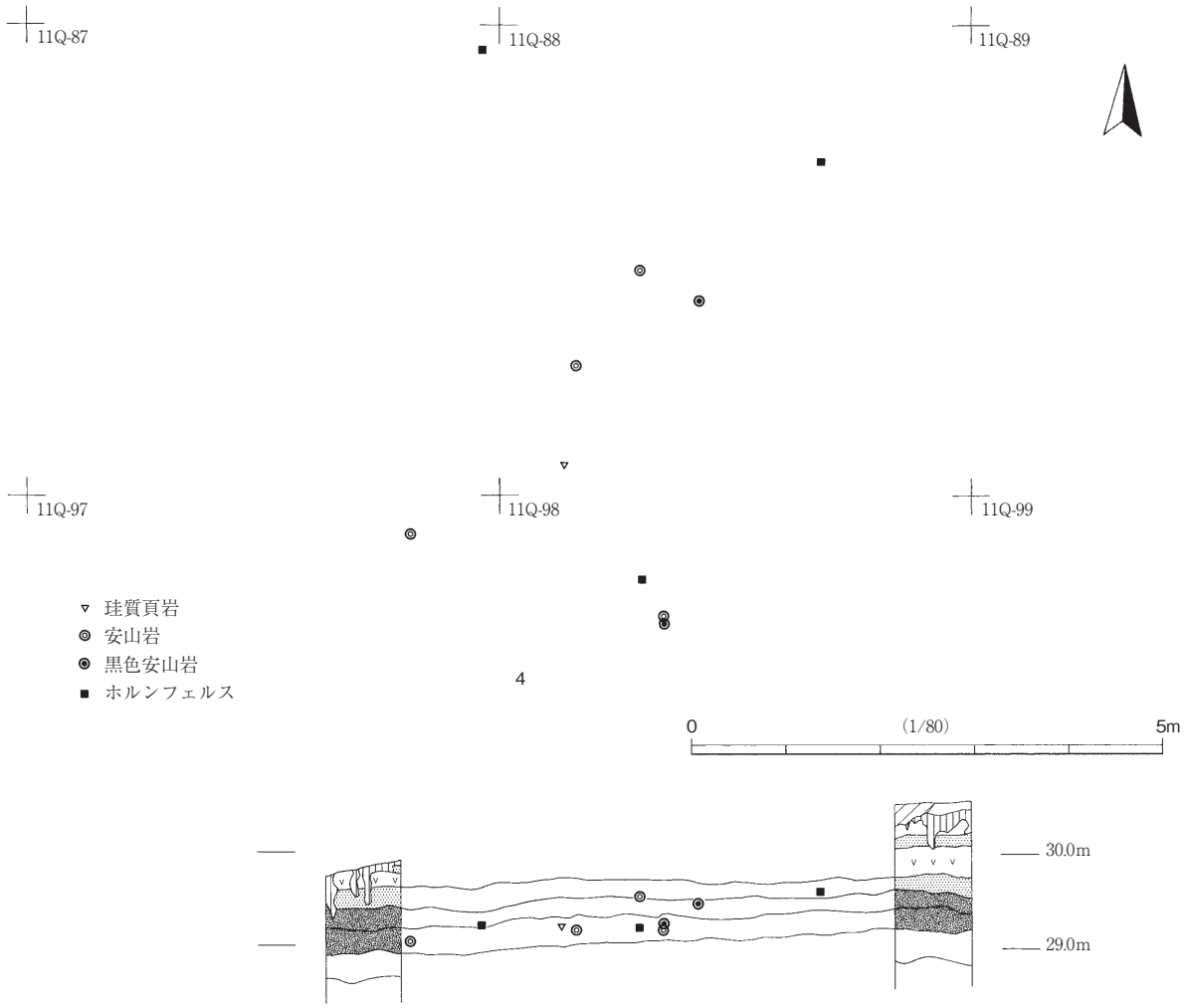
３～５は剥片で３は珪質頁岩製の縦長剥片で背面に礫面を残す。打面には調整剥離はみられない。４・５は安山岩製で４は縦長剥片、５は横長剥片で一部礫面が残りその部分を調整することなく打面として用いている。

第５表　第７ブロック石器組成表

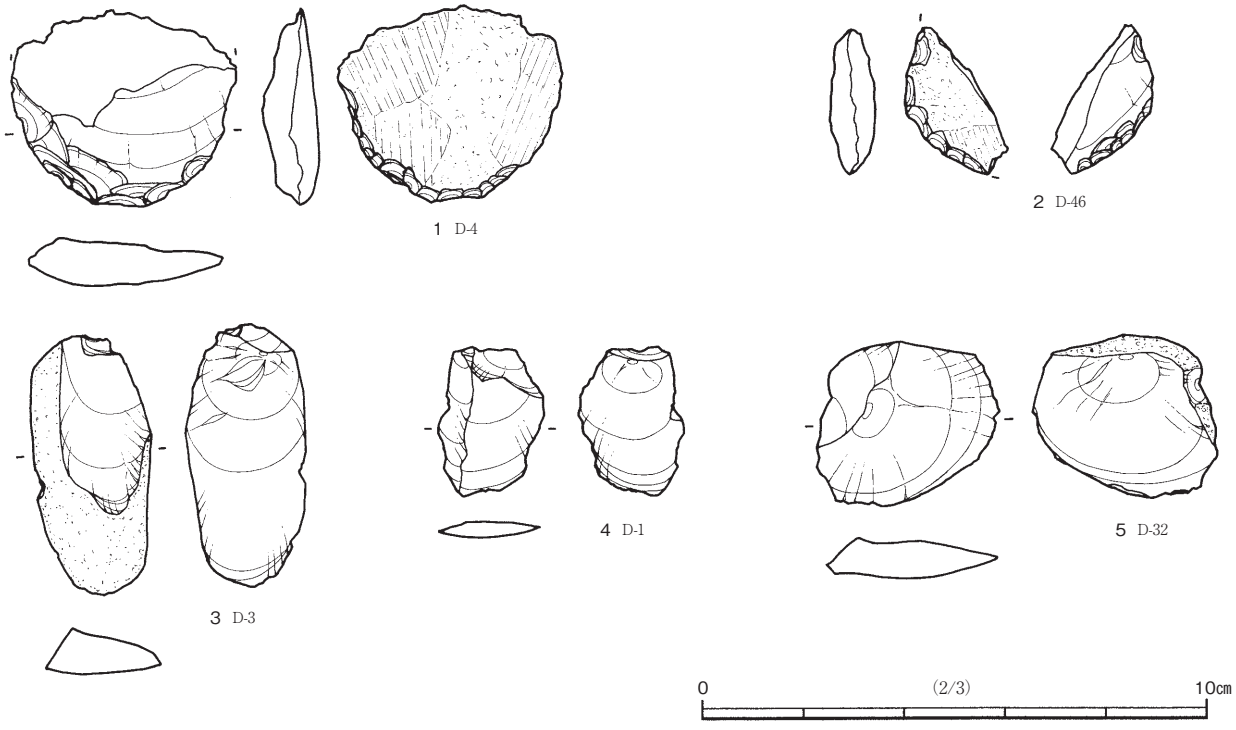
器種 / 石材	局部磨製石斧 点数	局部磨製石斧 重量	剥片		砕片		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
珪質頁岩			1	11.4			1	11.4	10.0%	22.0%
安山岩			4	15.8			4	15.8	40.0%	30.5%
黒色安山岩			2	3.8			2	3.8	20.0%	7.3%
ホルンフェルス	2	20.5			1	0.4	3	20.9	30.0%	40.2%
合計	2	20.5	7	31.0	1	0.4	10	51.9	100%	100%
器種別比	20.0%	39.4%	70.0%	59.8%	10.0%	0.8%	100%	100%		



第32図　第７ブロック器種別分布図



第33図　第７ブロック石材別分布図



第34図　第７ブロック出土石器

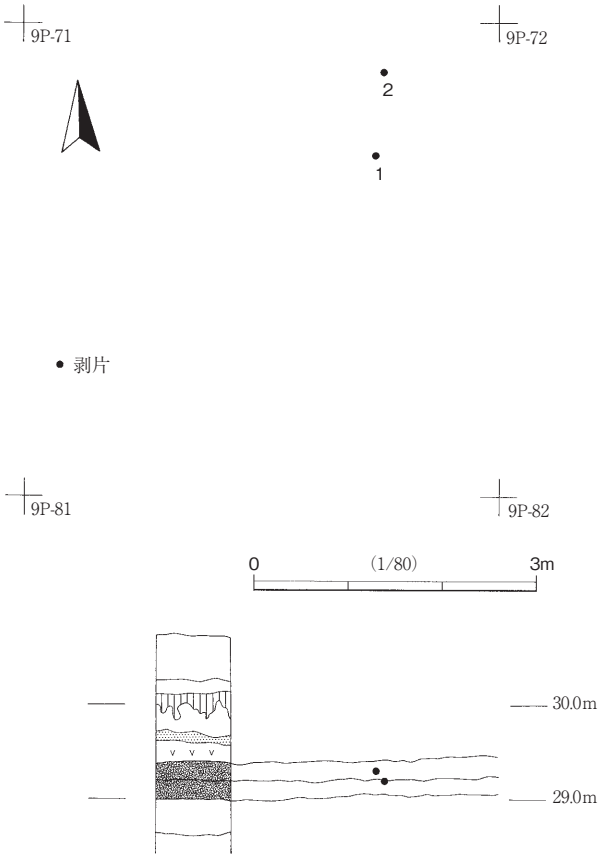
8　第８ブロック（第35・36図、第28表、図版５・11）

分布

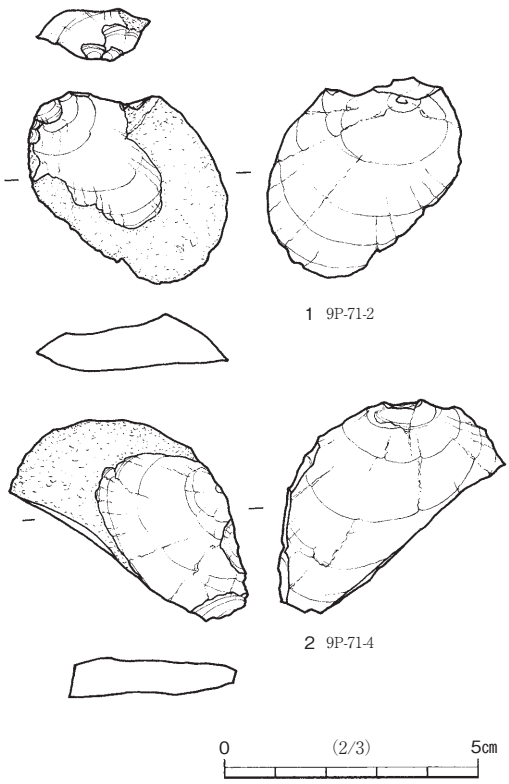
９P-71グリッドの第Ⅸa・c層中から検出している。出土点数は２点のみで、平面分布で0.8m程離れて出土している。

器種・石材

出土した２点とも安山岩製の剥片である。同質の安山岩ではあるが色調が多少異なっており母岩として異なるものと思われる。いずれも背面に礫面を残し、打面は剥片剥離により作り出され、細かな調整剥離も施されている。また剥片の形状もやや幅広の縦長剥片であり、共通部分が多くみられる２点である。



第35図　第８ブロック器種別分布図



第36図　第８ブロック出土石器

9　第９ブロック（第37～39図、第６・28表、図版５・11）

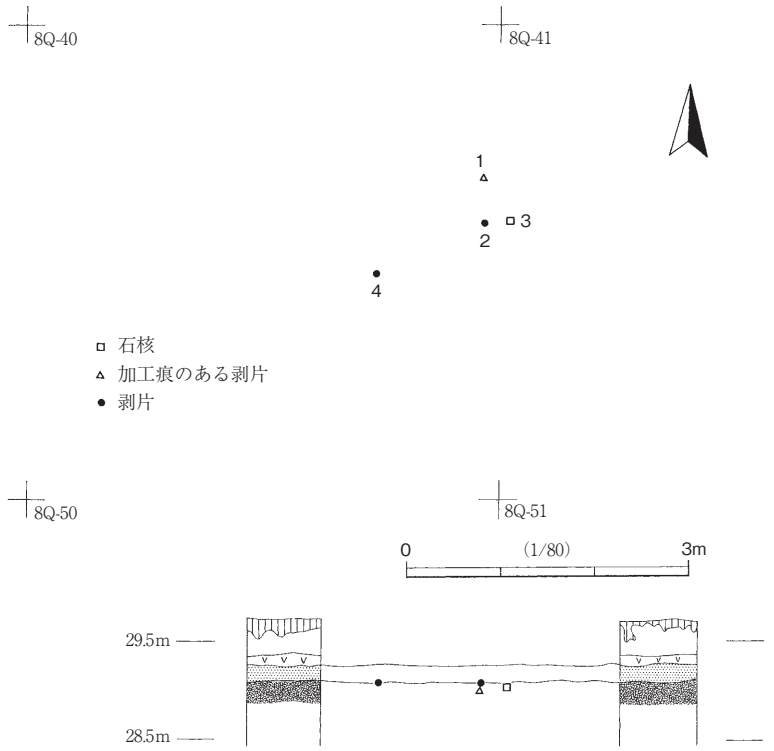
分布

8Q-40グリッドと8Q-41グリッドの境部に、径２m程の範囲内に分布する。出土点数は一括出土資料１点を含め総数５点である。出土層位は第Ⅸ層上部から第Ⅶ層下部である。なお本地点での第Ⅸ層はａ・ｂ・ｃの分層が明瞭でないため同一層として捉えられている。

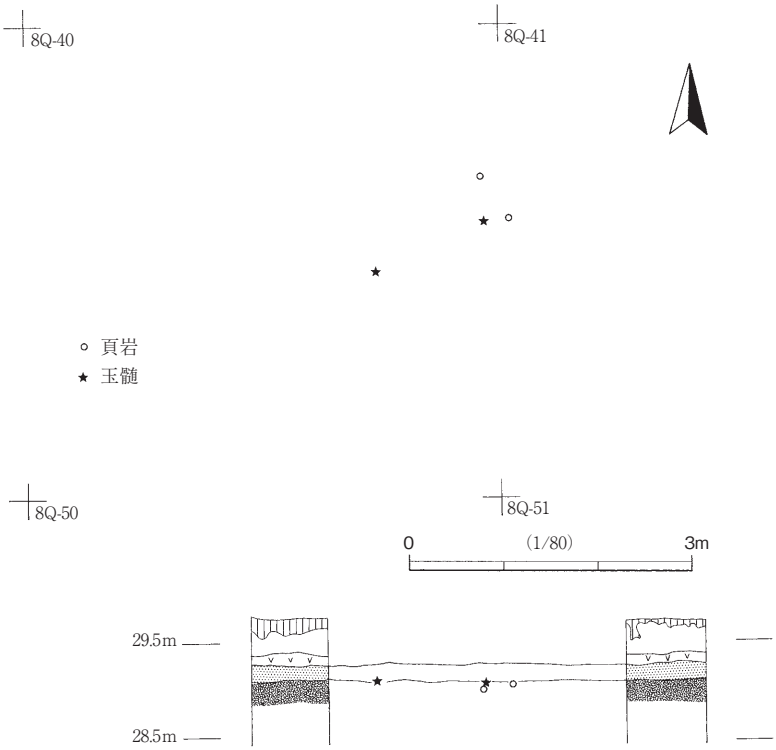
器種・石材

出土資料５点の器種別内訳は、加工痕のある剥片２点、石核１点、剥片２点である。

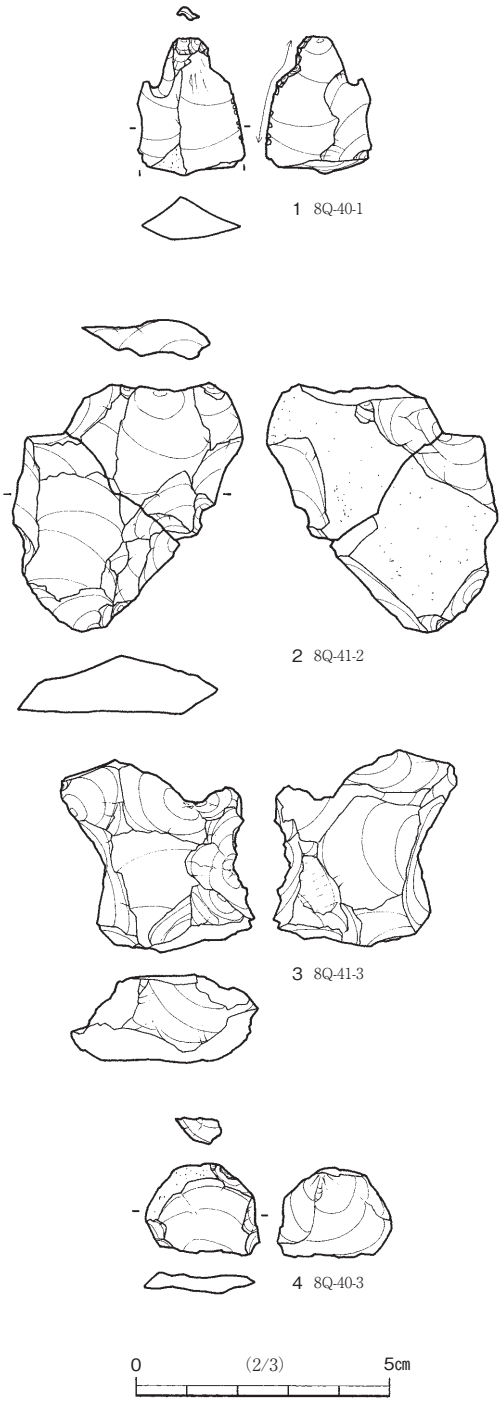
１・２は加工痕のある剥片である。１は頁岩製の縦長剥片の右側縁部の頭部から側縁に微細な調整剥離



第37図　第９ブロック器種別分布図



第38図　第９ブロック石材別分布図



第39図　第９ブロック出土石器

第６表　第９ブロック石器組成表

器種 / 石材	石核 点数	石核 重量	使用痕のある剥片		剥片		点数計	重量計（g）	点数比	重量比
頁岩	1	20.2	1	4.0			2	24.2	40.0%	45.3%
安山岩			1	23.6			1	23.6	20.0%	44.2%
玉髄					2	5.6	2	5.6	40.0%	10.5%
合計	1	20.2	2	27.6	2	5.6	5	53.4	100%	100%
器種別比	20.0%	37.9%	40.0%	51.6%	40.0%	10.5%	100%	100%		

が施されている。２の出土地点は不明で、本ブロック調査時に一括資料で取り上げられたものである。安山岩製の剥片で、背面には上下左右方向からの粗い剥離痕が残り、裏面には自然面が残っている。石核（残核）の可能性もある資料である。

３は頁岩製の石核である。剥離方向は一定しておらず、打面を変えながら順次剥片剥離作業を行ったものと思われる。採取された剥片は寸の詰まった幅広の形状のものと思われる。

４は異物が多く含まれる均一性の低い玉髄を素材とした幅広の剥片である。一部自然面が残っている。

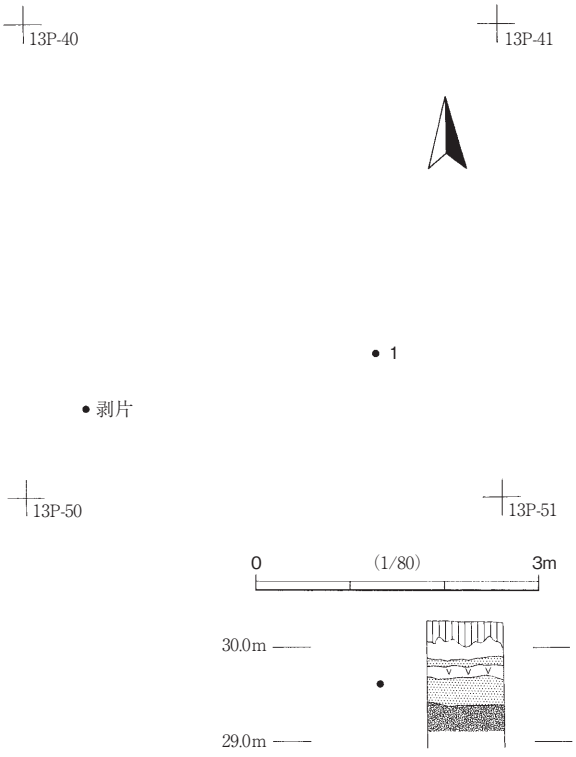
10　第10ブロック（第40・41図、第28表、図版５・11）

分布

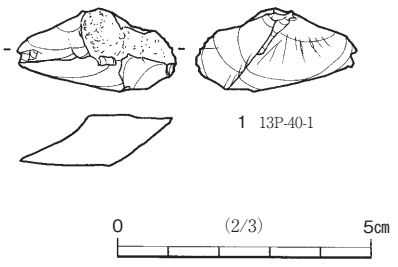
13P-40グリッドの第Ⅶ層上部より単独で出土した。

器種・石材

頁岩製の横長剥片で、背面の一部に自然面を残す。打面・打瘤が残っており、打面には打面調整が施されている。



第40図　第10ブロック器種別分布図



第41図　第10ブロック出土石器

第２節　第２文化層

第Ⅵ層から第Ⅴ層に主体を置くブロックで、第11ブロックから第17ブロックまでの７ブロックが該当する。この内、第11ブロックから第15ブロックまでの５ブロックは分布状況が隣接しており、径約20mの範囲に納まる（第42図）。また、出土層位も同様で、さらに使用されている石材も共通していることから５つのブロックは相互に関連の深い関係を有していたことが窺える。

本文化層から出土した石器類は総数231点である。使用されている石材は、黒曜石、頁岩、玉髄、チャート、ホルンフェルスと種類が他の文化層と比較して少なく、このうち黒曜石が90％以上を占めている（第７表）。黒曜石は肉眼的観察であるが、高原山・甘湯沢群（黒曜石１）と判断されるものと透明性の高い和田峠・男女倉群（黒曜石２）と判断されるものの２つに分類できる。黒曜石の総数は217点で、このうち和田峠・男女倉群は１点のみの出土である。

第７表　第２文化層石器組成表（第11～第17ブロック）

石材＼器種	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	掻器		削器		角錐状石器		石核		尖頭様石器		加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		砕片		点数計	重量計(g)	点数比	重量比
黒曜石１	9	38.1	1	3.5	1	11.7	1	5.0	2	40.8			10	41.9	12	148.7	111	220.9	70	9.0	217	519.6	93.5%	87.5%
黒曜石２											1	2.4									1	2.4	0.4%	0.4%
黒曜石　計	9	38.1	1	3.5	1	11.7	1	5.0	2	40.8	1	2.4	10	41.9	12	148.7	111	220.9	70	9.0	218	522.0	94.0%	87.9%
頁岩	1	5.3					1	8.5									1	8.2	1	0.1	4	22.1	1.7%	3.7%
頁岩１	1	3.6													1	8.1	5	4.9			7	16.6	3.0%	2.8%
頁岩　計	2	8.9					1	8.5							1	8.1	6	13.1	1	0.1	11	38.7	4.7%	6.5%
玉髄													1	19.7							1	19.7	0.4%	3.3%
ホルンフェルス																	1	7.7			1	7.7	0.4%	1.3%
チャート	1	5.5																			1	5.5	0.4%	0.9%
合 計	12	52.5	1	3.5	1	11.7	2	13.5	2	40.8	1	2.4	11	61.6	13	156.8	118	241.7	71	9.1	232	593.6	100%	100%
器種別比	5.2%	8.8%	0.4%	0.6%	0.4%	2.0%	0.9%	2.3%	0.9%	6.9%	0.4%	0.4%	4.7%	10.4%	5.6%	26.4%	50.9%	40.7%	30.6%	1.5%	100%	100%		

１　第11ブロック（第42～45図、第８・28表、図版６・11）

分布

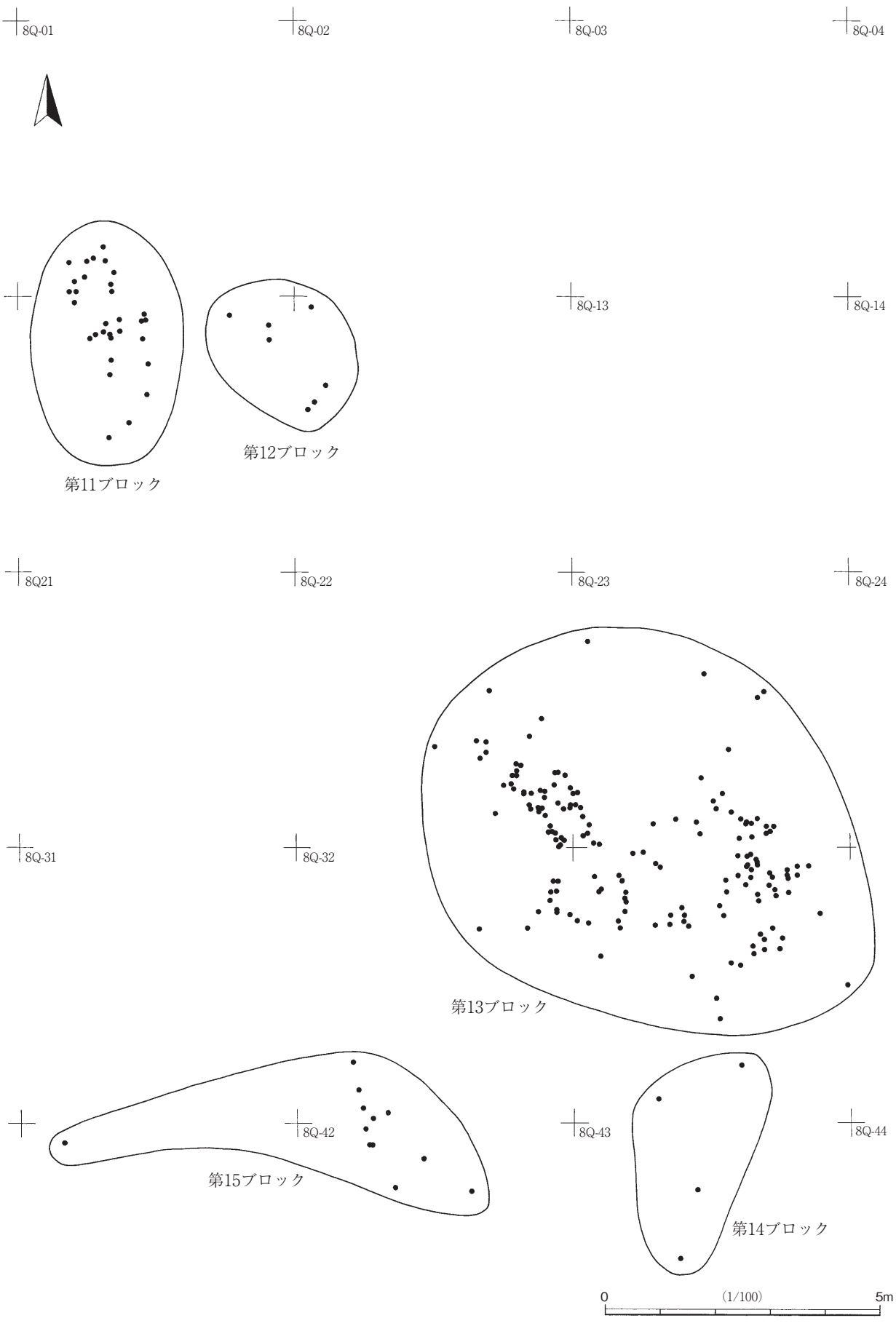
8Q-01グリッドから8Q-11グリッドにかけて南北４m、東西２m程の範囲内に分布する。東側に１m程離れて第12ブロックが位置している。出土遺物総数は31点で、５つのブロックの中で２番目に遺物数の多いブロックである。出土層位は第Ⅵ層下部から第Ⅴ層上部にかけてで、主体は第Ⅴ層下部に置くものと思われる。

器種・石材

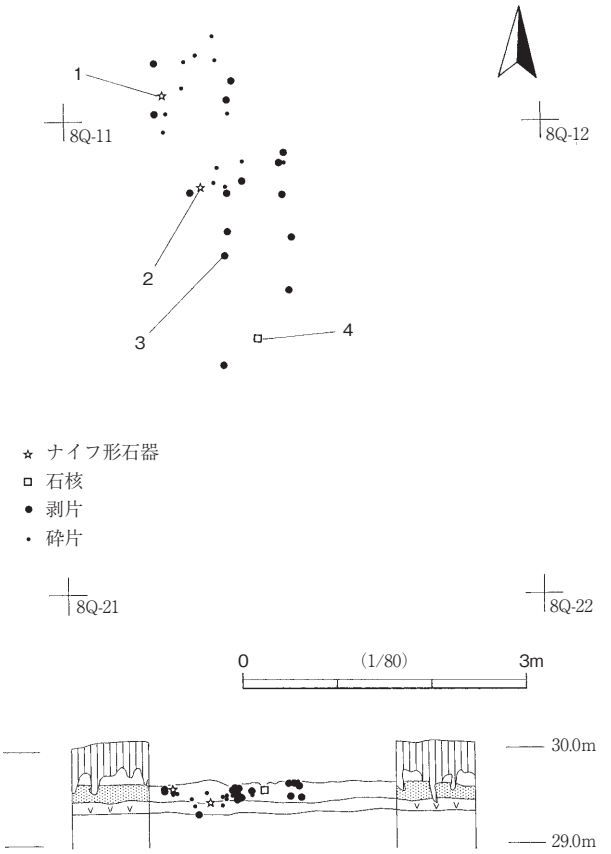
出土総数31点の器種別内訳は、ナイフ形石器２点、石核１点、剥片15点、砕片13点である。石材は砕片１点が頁岩製で、残り全ては黒曜石１が用いられている。

第８表　第11ブロック石器組成表

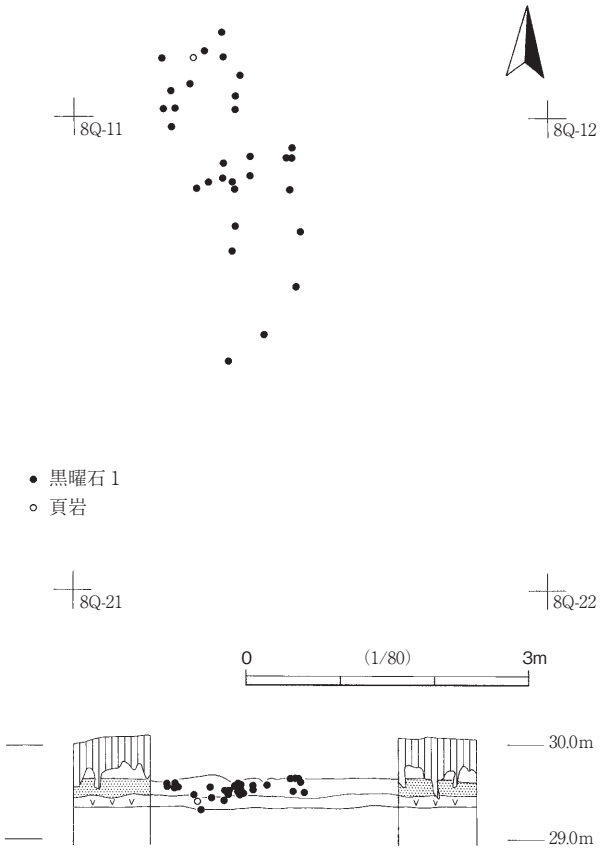
石材＼器種	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	石核		剥片		砕片		点数計	重量計(g)	点数比	重量比
黒曜石１	2	6.1	1	26.8	15	17.8	12	0.7	30	51.4	96.8%	99.8%
頁岩							1	0.1	1	0.1	3.2%	0.19%
合計	2	6.1	1	26.8	15	17.8	13	0.8	31	51.5	100%	100%
器種別比	6.5%	11.9%	3.2%	52.1%	48.4%	34.6%	41.9%	1.6%	100%	100%		



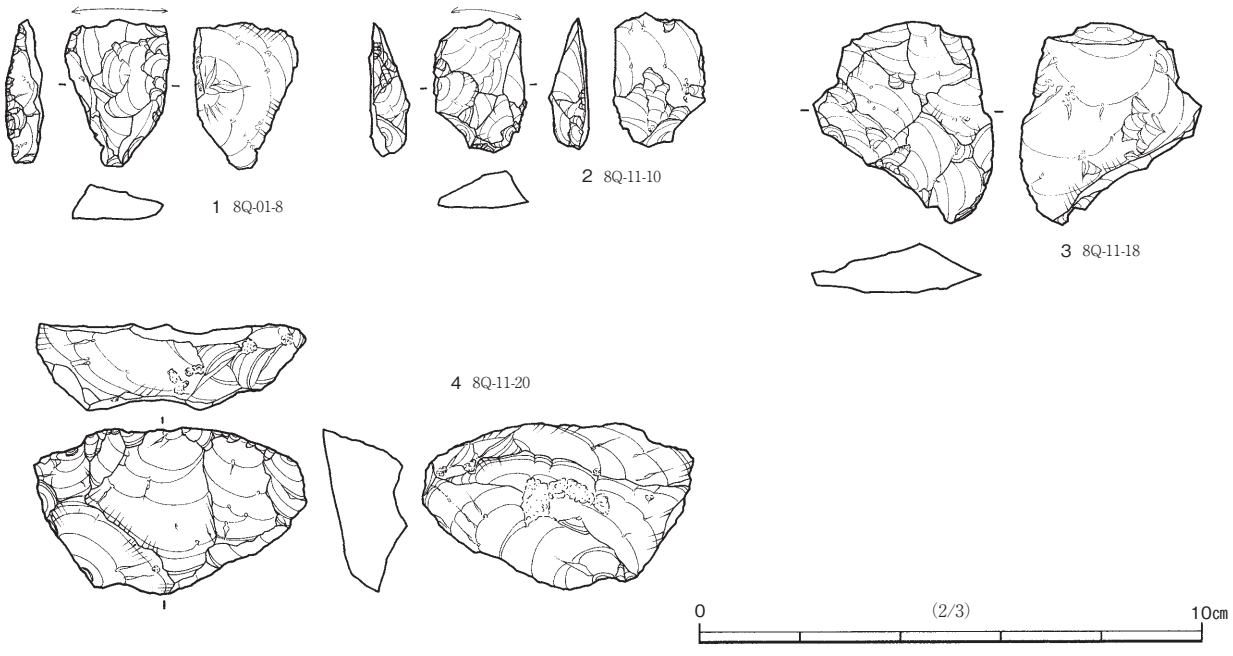
第42図　第11 ～ 15ブロック遺物分布状況図



第43図　第11ブロック器種別分布図



第44図　第11ブロック石材別分布図



第45図　第11ブロック出土石器

１・２はナイフ形石器である。１は横長剥片を素材とし、一側縁に急角度の調整剥離を施し、刃部は剥離時の鋭利な縁を利用し直線状になっており、刃こぼれ痕がみられる。素材の剥片には打面・打瘤が残されたままである。２も１と同様に横長剥片を素材とし、基部を中心として両側縁に細かな調整剥離が施されている。形状は１と似ており、刃部についても直線状の素材の持つ形状を利用しており、やはり刃こぼれ痕が認められる。

３は石核調整剥片と考えられる剥片である。本ブロックからは、本資料を含め15点の黒曜石１製の剥片が出土しているが、本資料以外は最大長が20mmにも満たない小型のものがほとんどであった。背面には上下から剥離された剥離痕が残っており、両設打面であったことが窺える。

４は黒曜石１製の石核である。剥片剥離作業面は背・裏面の２面見られ、背面は、１回の剥離により作り出された打面に入念な打面調整を施しながら連続的に剥片を剥離している。裏面は90度程打面を移動し、細かな打面調整を行った後に縦長剥片を採取している。このように数回の剥片剥離を実施した後の剥片剥離痕を打面とし、移動しながら目的剥片を採取していたものと思われる。

２　第12ブロック（第42・46 ～ 48図、第９・28表、図版６・11）

分布

8Q-11ブロックと8Q-12ブロックの境周辺地点の径２m程の範囲に分布している。出土遺物総数は７点である。出土層位は第Ⅴ層が主体である。

器種・石材

出土遺物総数７点の器種別内訳は、ナイフ形石器２点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片１点、剥片３点である。石材は頁岩が剥片１点のみで、残りは全て黒曜石１である。

１・２はナイフ形石器である。１は縦長剥片を素材としたナイフ形石器で基部が欠損している。調整剥離は左側一側縁に急角度で入念な調整を施し、刃部は剥片の鋭利な側縁を利用している。２は横長剥片を素材としており、第11ブロックで出土している２点のナイフ形石器と似た作りであるが、刃部が直線状ではなく尖頭状である。

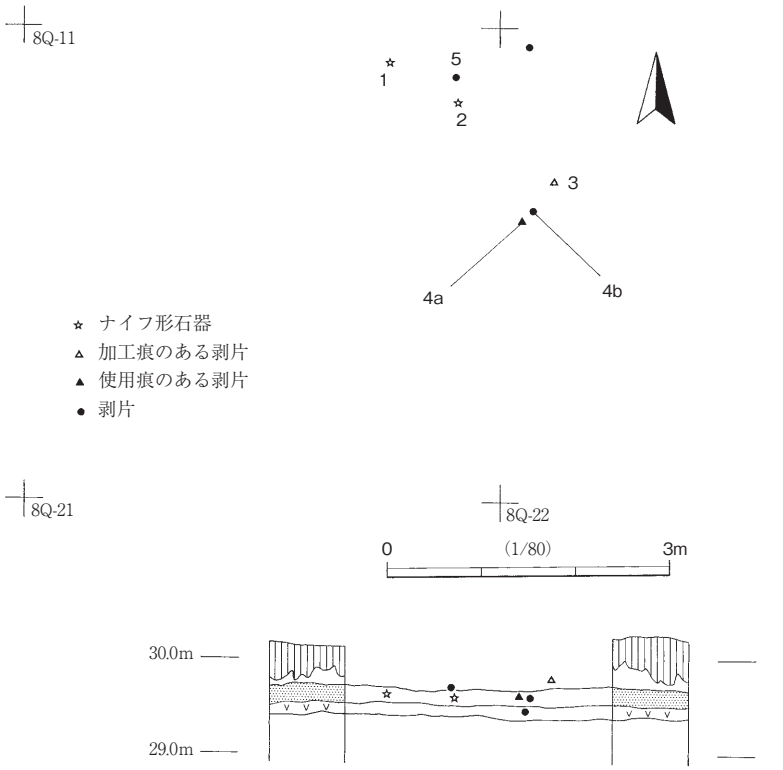
３は黒曜石１製の厚みを持つ縦長剥片の鋭利な一側縁に微細な調整剥離が施されている加工痕のある剥片である。

４a･bは縦長剥片２点の接合資料である。aは両側縁に刃こぼれ痕が認められる使用痕のある剥片である。この２点は隣接して出土していることから、埋没時に破損したものと思われる。

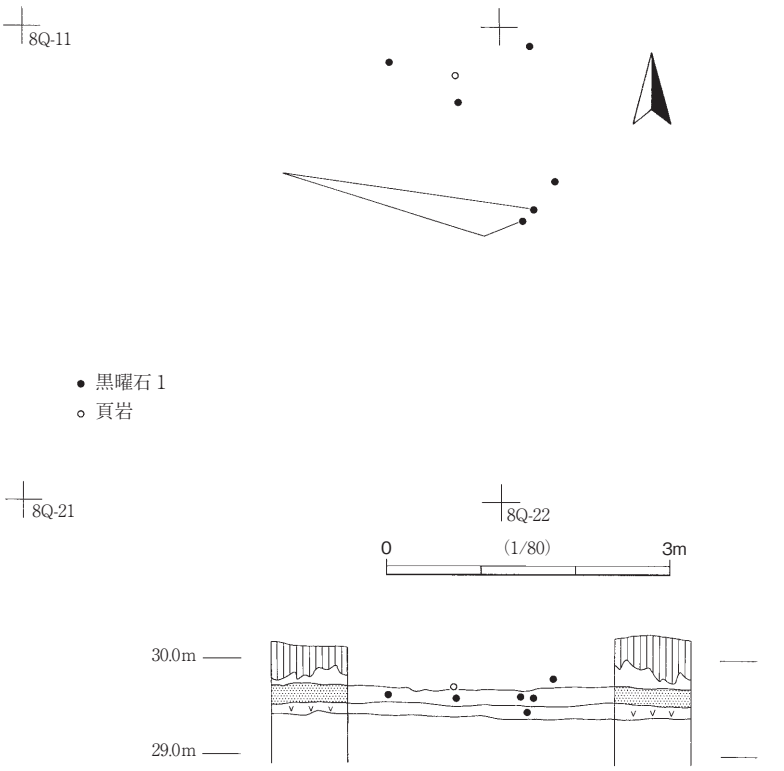
５は本ブロックより唯一出土した頁岩製のやや幅広の縦長剥片である。打面・打瘤が残っており打面には打面調整剥離は施されていない。

第９表　第12ブロック石器組成表

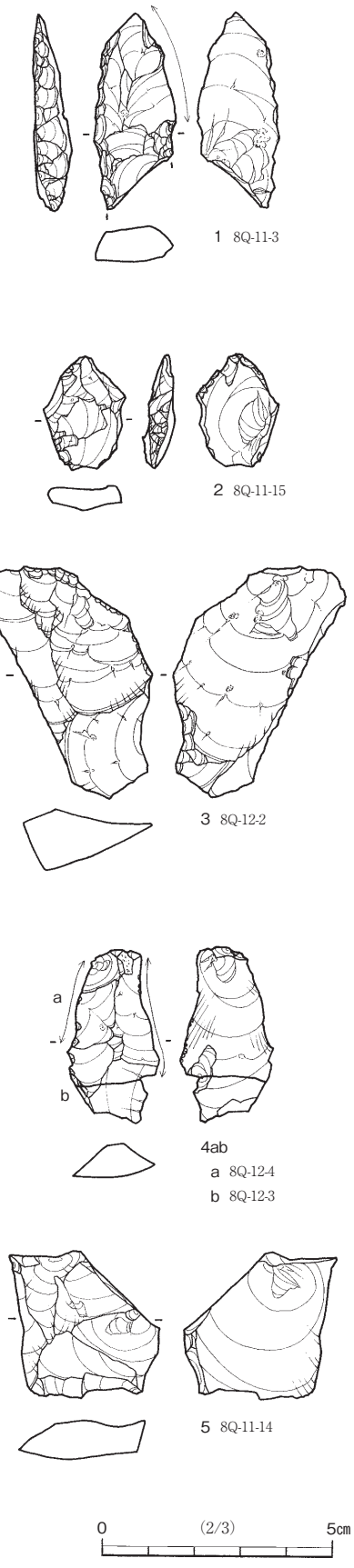
器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		点数計	重量計（g）	点数比	重量比
黒曜石１	2	7.1	1	16.1	1	3.3	2	1.0	6	27.5	85.7%	76.7%
頁岩							1	8.3	1	8.3	14.3%	23.1%
合計	2	7.1	1	16.1	1	3.3	3	9.3	7	35.8	100%	100%
器種別比	28.6%	19.9%	14.3%	45.0%	14.3%	9.2%	42.9%	25.9%	100%	100%		



第46図　第12ブロック器種別分布図



第47図　第12ブロック石材別分布図



第48図　第12ブロック出土石器

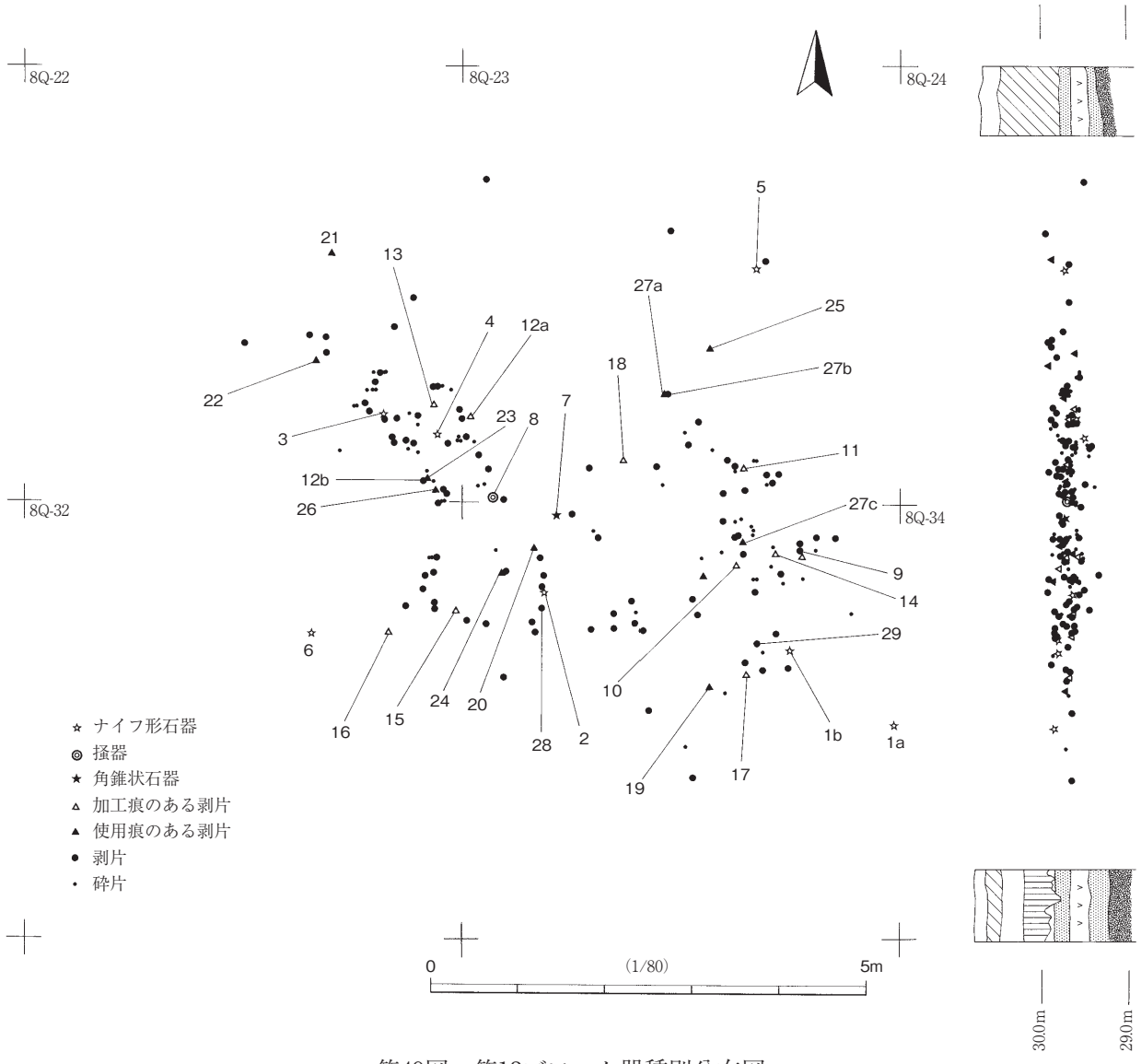
3　第13ブロック（第42・49～52図、第10・28表、図版６・11・12）

分布

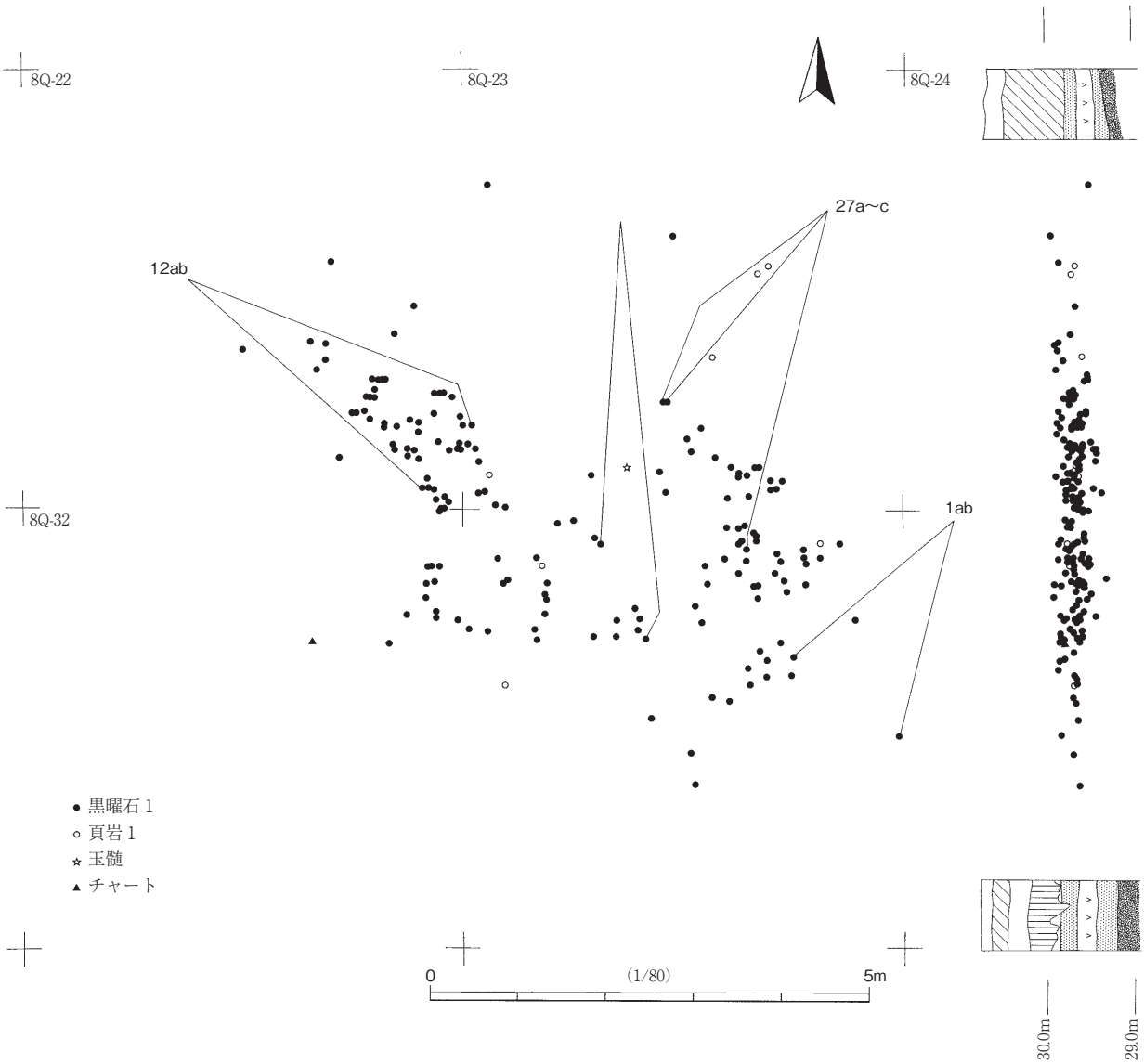
8Q-22・23・32・33グリッドに位置し、東西８ｍ・南北６ｍ程の範囲内に分布している。出土遺物総数は173点で、分布範囲及び遺物数において５つのブロックのうち最大規模で中心的ブロックとなっている。第11・12ブロックとは９mほどの距離があり、また南側に第14ブロックが位置し、南西側５ｍ程のところには第15ブロックが位置している。出土層位は第Ⅶ層上部から第Ⅲ層下部にわたっているが、第Ⅶ層上部から第Ⅴ層に主体を置いている。

器種・石材

出土総数173点の器種別内訳は、ナイフ形石器７点、掻器１点、角錐状石器１点、加工痕のある剥片10点、使用痕のある剥片11点、剥片88点、砕片55点である。使用されている石材は、肉眼的観察で高原山・甘湯沢群とした黒曜石１が164点と94％以上を占め、その他には同一石材とした緑褐色の頁岩（頁岩１）７点と玉髄１点、チャート１点である。



第49図　第13ブロック器種別分布図

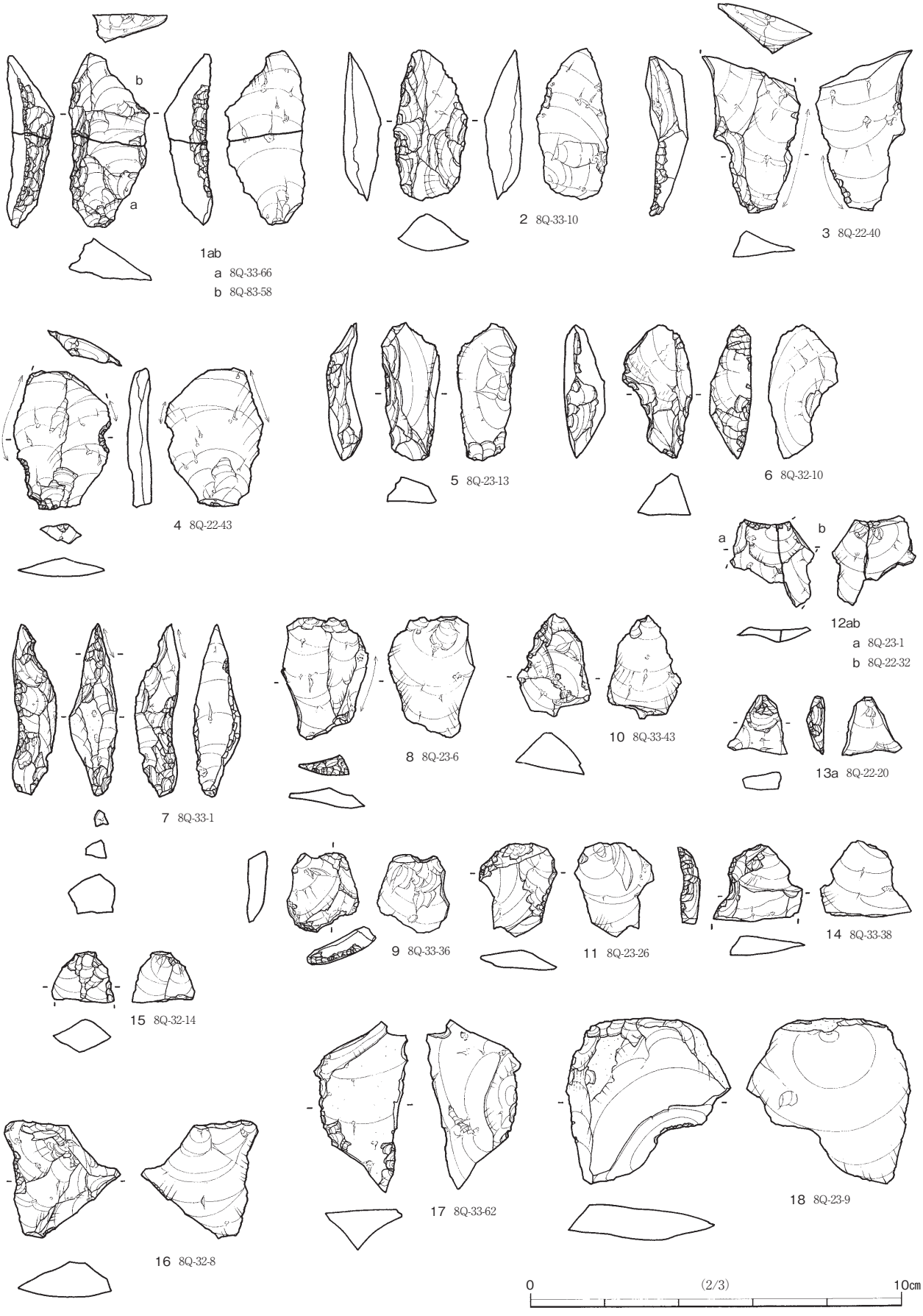


第50図　第13ブロック石材別分布図

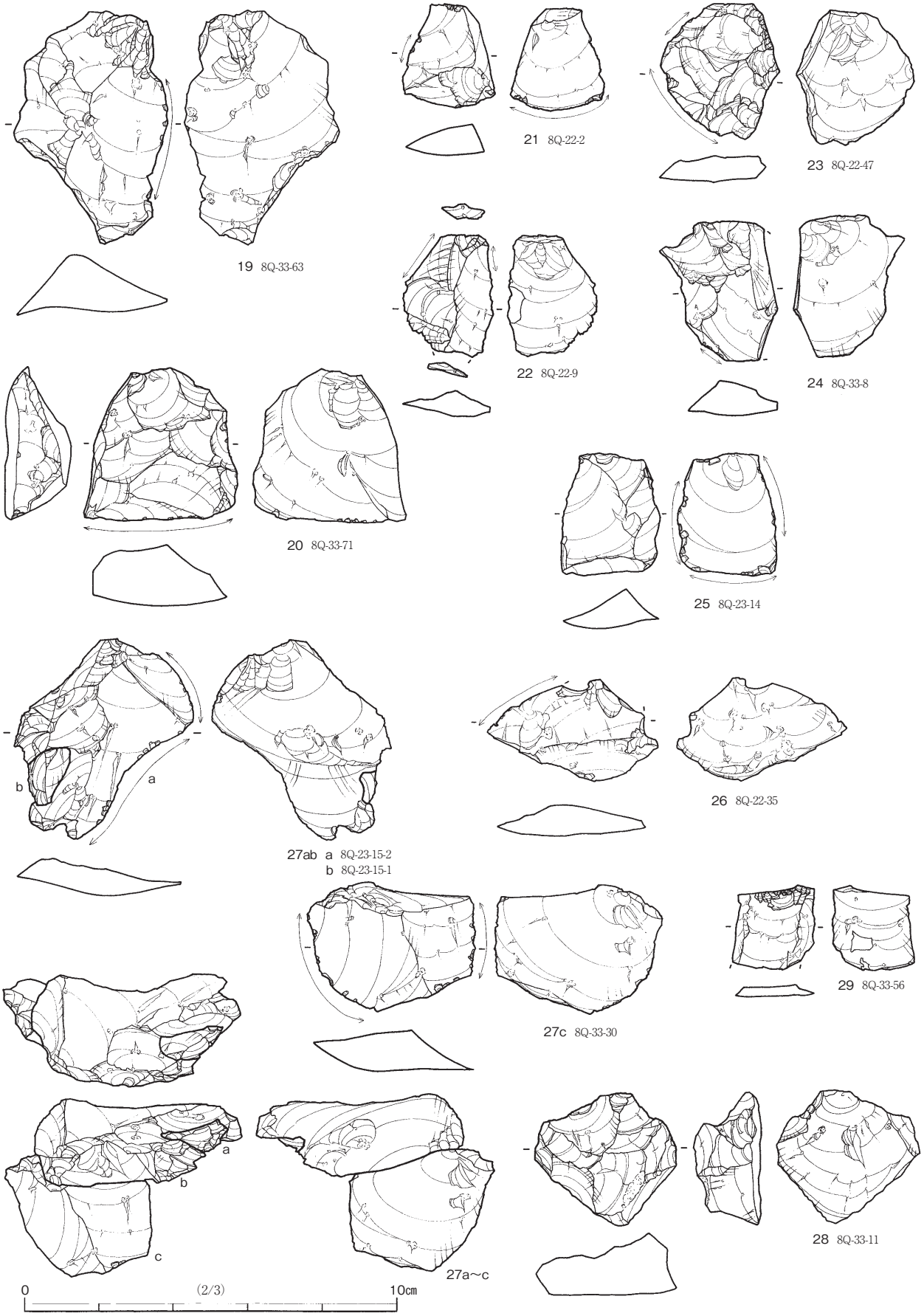
第10表　第13ブロック石器組成表

石材＼器種	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	掻器		角錐状石器		加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		砕片		点数計	重量計(g)	点数比	重量比
黒曜石１	5	24.9	1	3.5	1	5.0	9	25.7	10	130.5	84	182.2	55	7.8	165	379.6	94.8%	90.1%
頁岩１	1	3.6							1	8.1	5	4.9			7	16.6	4.0%	3.9%
玉髄							1	19.7							1	19.7	0.6%	4.7%
チャート	1	5.5													1	5.5	0.6%	1.3%
合計	7	34.0	1	3.5	1	5.0	10	45.4	11	138.6	89	187.1	55	7.8	174	421.4	100%	100%
器種別比	4.0%	8.1%	0.6%	0.8%	0.6%	1.2%	5.7%	10.8%	6.3%	32.9%	51.1%	44.4%	31.6%	1.8%	100%	100%		

１～６はナイフ形石器である。１～４の石材が黒曜石１、５が頁岩１、６がチャートである。１a･bは石器頭部（ｂ）と基部（ａ）が接合した資料で、1.5m程離れて出土している。縦長剥片を素材とし、両側縁に調整剥離が施されている。打面・打瘤は残ったままである。２は横長剥片を素材とし、両側縁に粗い調整剥離後細かな調整剥離を施し成形している。打瘤は残されたままである。３は縦長剥片の一側縁に急角度の調整剥離が粗く施されている。頭部は欠損している。４は幅広の縦長剥片の鋭利な両側縁を刃部として利用し、基部の一側縁の一部のみに細かな調整剥離が施されているものである。先端部が僅かに欠



第51図　第13ブロック出土石器（1）



第52図　第13ブロック出土石器（２）

損しており、刃部には刃こぼれ痕が観察できる。５は頁岩製のやや背面側に反った横長剥片を素材とし、打面・打瘤を削除するように一側縁に調整剥離が施されている。形状は切り出し状である。６はチャート製の横長剥片を素材とし、基部に近い両側縁に急角度の調整剥離を入念に施している。特に打面・打瘤を削除するためと思われる調整剥離が抉り状に施されている。本資料は、５と素材の使われ方や調整剥離方法に共通し、形状も切り出し状となっている。

７は黒曜石１の厚さを持つ縦長剥片を素材とし、両側縁に急角度の調整剥離が施されている角錐状石器である。左側側縁からの調整は、基部から先端部にまで入念な調整が施されており、特に先端部には鋭利に尖らせる入念な調整がみられる。

８はやや幅広の縦長剥片の先端部に細かな調整剥離により刃部が作り出されている掻器である。

９～ 18は剥片の一部に微細な調整剥離が施されている加工痕のある剥片である。18は玉髄を石材とし、他は全て黒曜石１を石材としている。剥片は幅広の縦長もしくは横長で、多くは長さが２㎝にも満たない小型のいわゆる不定形な剥片が素材となっている。また、鋭利な側縁の一部を未調整のまま刃部として使用しているものもみられる。12a･ｂは接合資料で、２点は１m程離れて出土している。17は比較的大型の厚みのある横長剥片が素材で、一側縁の末端に微細な調整を加えて尖頭状に仕上げている。18は比較的大型の厚さのある幅広縦長剥片の一側縁に微細な調整によりやや抉り状に刃部を整えている。

19 ～ 28は、剥片の側縁の鋭利な部分を調整剥離を施さずそのまま刃部として使われている使用痕のある剥片である。使用石材は25が頁岩１で他は全て黒曜石１である。素材となる剥片は、加工痕のある剥片と同様に幅広の縦長剥片もしくは横長剥片である。いずれも厚さのある大型のものが多い。19・20は大型の剥片で背面には多数の剥片剥離痕がみられる石核調整剥片と考えられる。その剥離方向は一定ではなく、絶えず方向を変えながら（打面を変えながら）剥片を採取しているものと思われる。27ａ～ｃは大型剥片３点の接合資料で、ａとｂは同一地点から出土しているため埋没時に破損した可能性が高い。ａ･ｂとｃは剥離方向が90度近く異なり、直行するような剥離方向である。これも19・20でみられたように方向を変えながら行われていた剥片剥離技術と同様で、この技術が本ブロックを中心とした第11 ～ 15ブロックの特徴的な技術の１つと考えられる。

４　第14ブロック（第42・53 ～ 55図、第11・28表、図版６・12）

分布

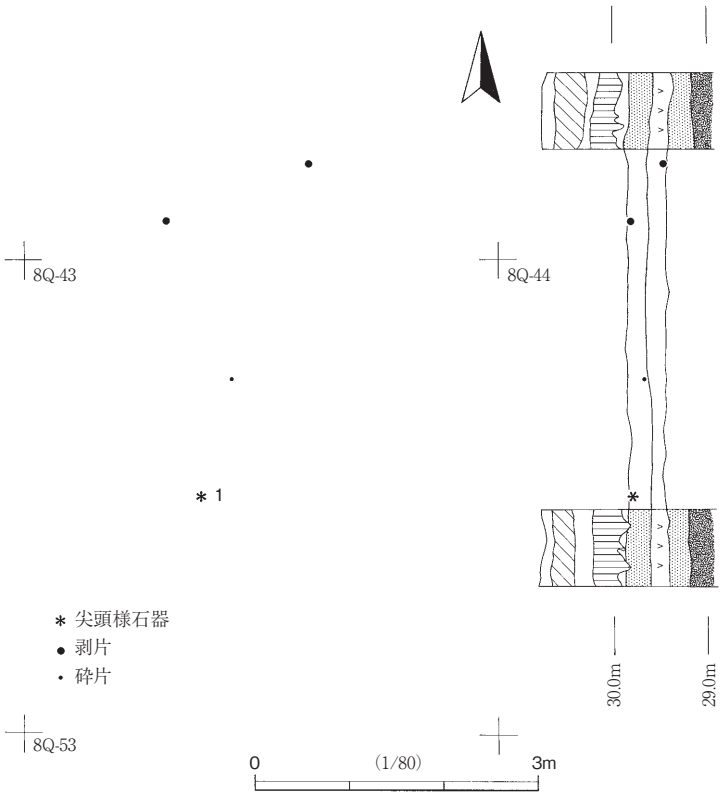
第13ブロック南側に隣接する8Q-33・43グリッドの境界部に南北４m、東西1.5m程の範囲で分布する。出土遺物総数は４点である。出土層位は３点が第Ⅴ層、１点が第Ⅵ層中から出土している。

器種・石材

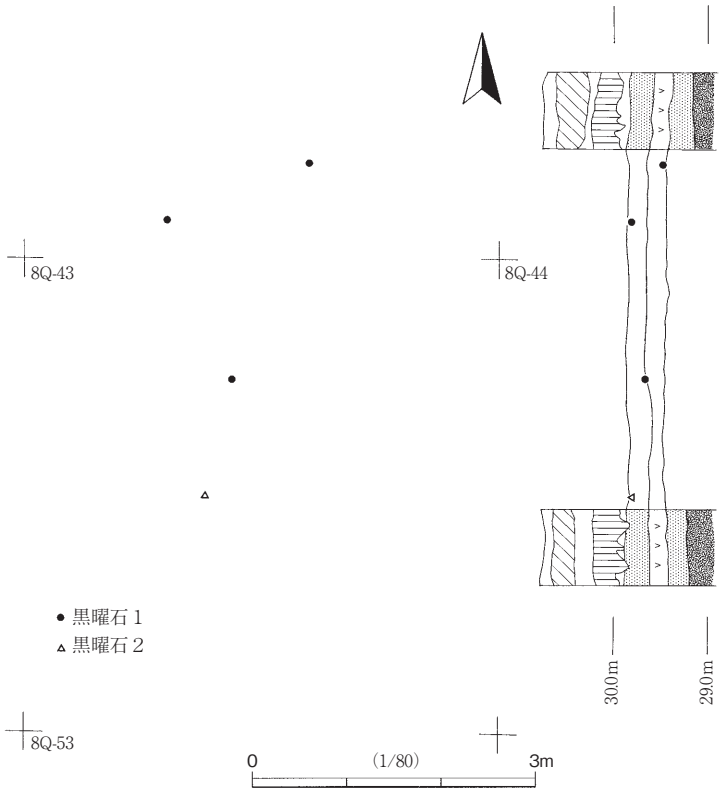
出土遺物４点の器種別内訳は、尖頭様石器１点、剥片２点、砕片１点である。石材の内訳は黒曜石１が３点、黒曜石２が１点である。

第11表　第14ブロック石器組成表

器種 / 石材	尖頭様石器 点数	尖頭様石器 重量	剥片		砕片		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
黒曜石 1			2	3.9	1	0.2	3	4.1	75.0%	63.0%
黒曜石 2	1	2.4					1	2.4	25.0%	37.0%
合計	1	2.4	2	3.9	1	0.2	4	6.5	100%	100%
器種別比	25.0%	37.0%	50.0%	59.8%	25.0%	3.2%	100%	100%		

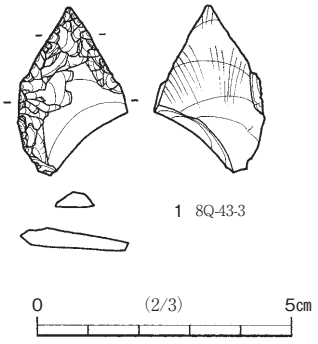


第53図　第14ブロック器種別分布図



第54図　第14ブロック石材別分布図

１は不純物を含まず透明度の高い黒曜石の縦長剥片を素材とし、基部の１端が欠損しているが、基部から先端部に架けて主剥離面側からの調整剥離が施され、特に先端部は入念な調整剥離により尖頭状に作り上げている。



第55図　第14ブロック出土石器

5　第15ブロック（第42・56 ～ 58図、第12・28表、図版６・12）

分布

第13ブロックの南西側３ｍ程離れた8Q-32・42グリッドの境界部に、ブロックの中心部が南北３ｍ、東西２ｍ程の範囲に分布する。この中心部より西側に約５ｍ離れた8Q-41グリッドから１点の出土がみられ、出土層位・石材が同様であることから同一のブロックとして捉えた。出土層位は第Ⅵ層から第Ⅴ層にかけてで、主体は第Ⅴ層下部と思われる。

器種・石材

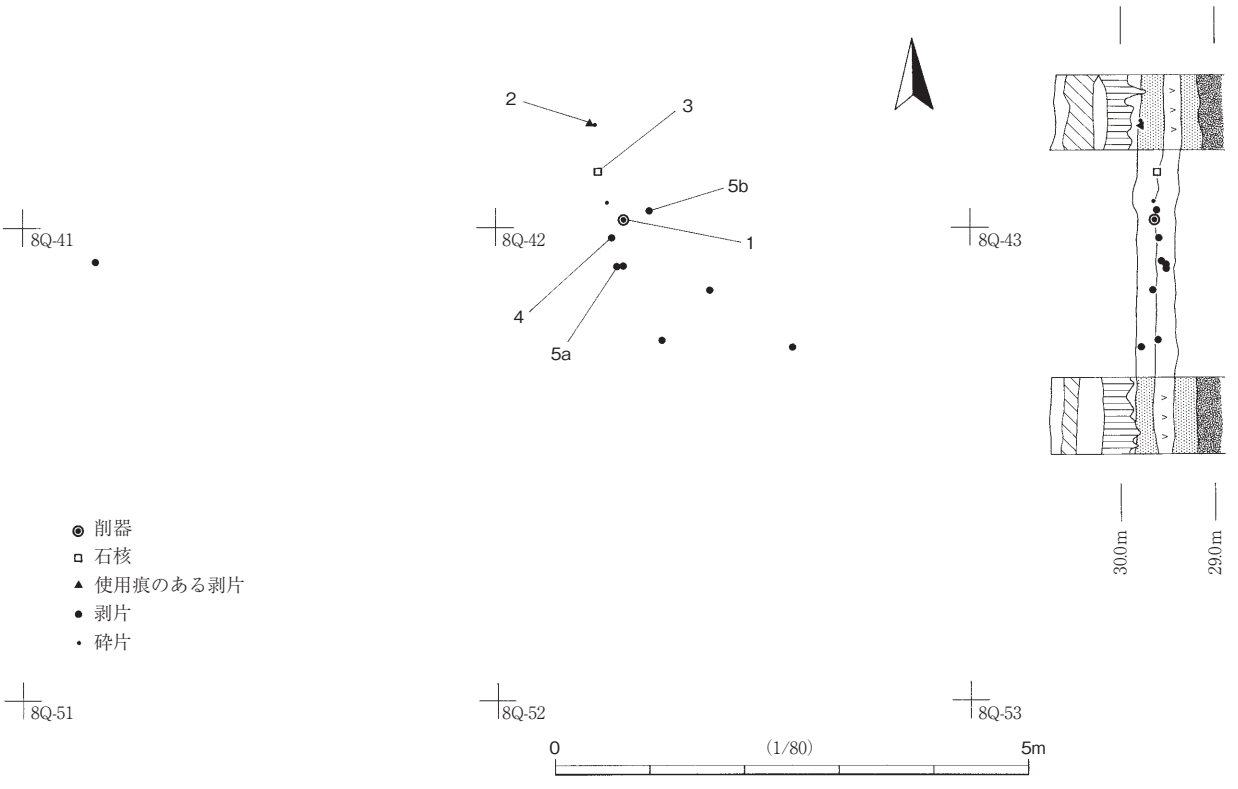
出土遺物総数は13点で、器種別内訳は削器１点、石核１点、使用痕のある剥片１点、剥片８点、砕片２点である。石材は全て黒曜石１である。

１は大型で、幅広の縦長剥片を素材とし先端の一側縁に主剥離面側からの調整剥離により刃部が作り出されている。また、主剥離面には打瘤の消去や剥片の厚さを薄くするためと思われるような粗い調整剥離痕が数条みられる。

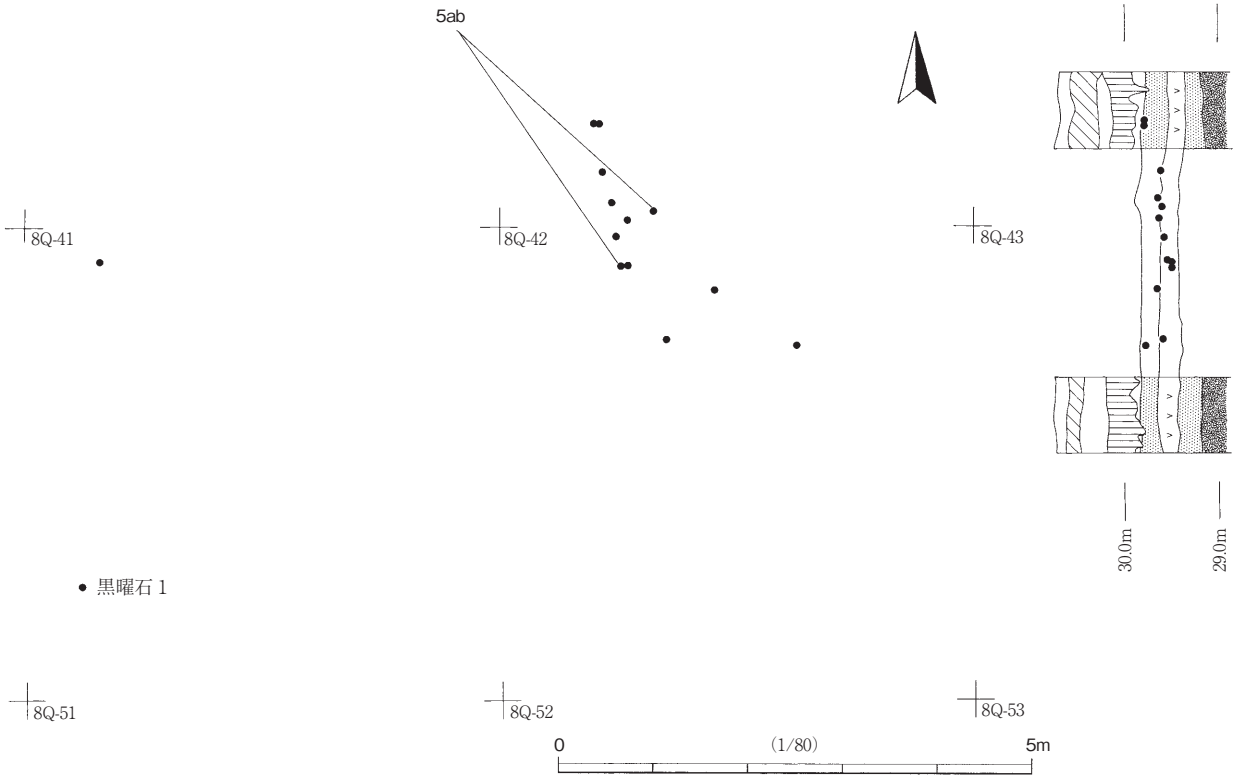
２は１と同様に大型で厚みのある幅広の剥片を素材とし、鋭利な側縁部分に使用痕がみられる。また打面・打瘤は残ったままであり、打面には細かな打面調整剥離が施されている。

第12表　第15ブロック石器組成表

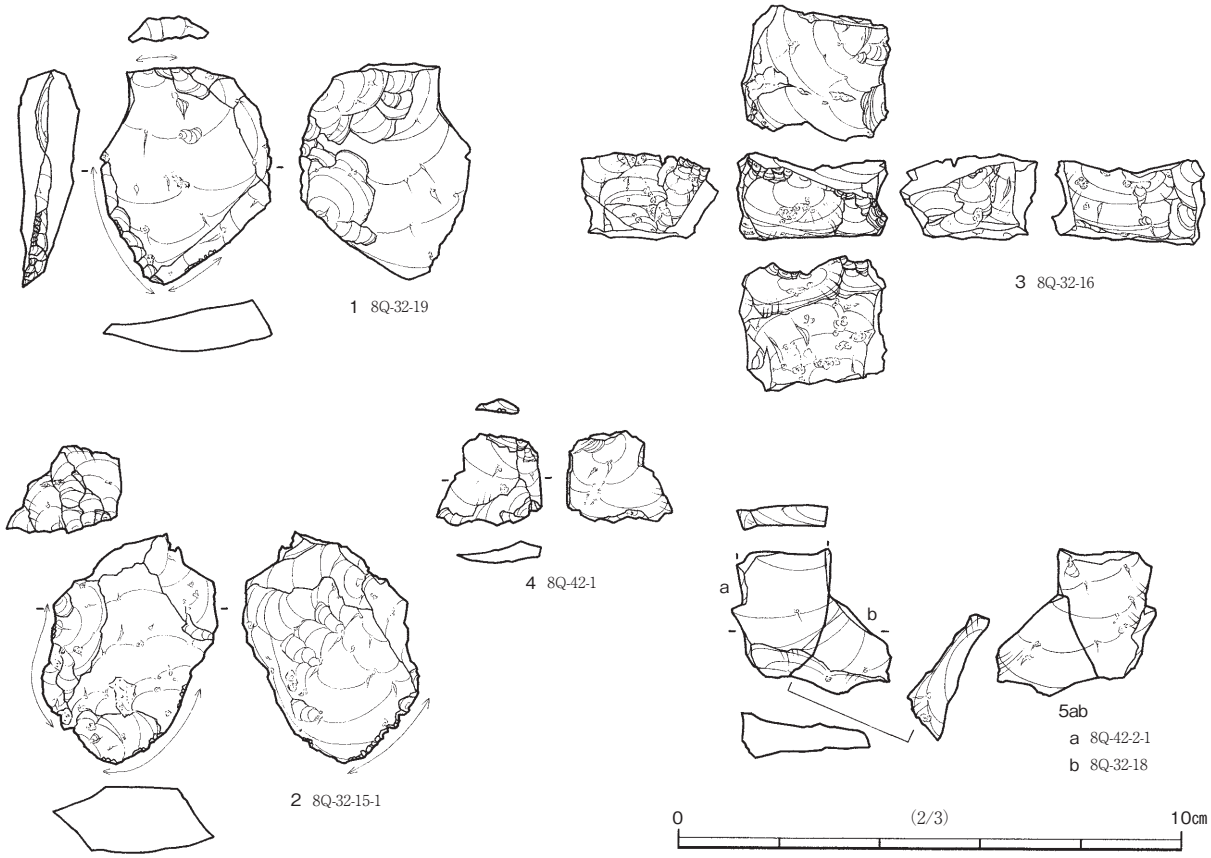
器種 / 石材	削器 点数	削器 重量	石核		使用痕のある剥片		剥片		砕片		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
黒曜石１	1	11.7	1	13.9	1	14.9	8	15.9	2	0.3	13	56.7	100%	100%
合計	1	11.7	1	13.9	1	14.9	8	15.9	2	0.3	13	56.7	100%	100%
器種別比	7.7%	20.5%	7.7%	24.6%	7.7%	26.3%	61.5%	28.1%	15.4%	0.5%	100%	100%		



第56図　第15ブロック器種別分布図



第57図　第15ブロック石材別分布図



第58図　第15ブロック出土石器

３は直方体の形状を呈する石核である。打面は上下面を利用しているものと思われるが、打面調整は施されておらず、剥片剥離面を直接打面として利用している。採取された剥片は横長もしくは幅広の剥片と思われる。

４・５a・ｂは幅広の縦長剥片である。５a・ｂは２点の剥片の接合資料で２点は0.8m程離れて出土している。

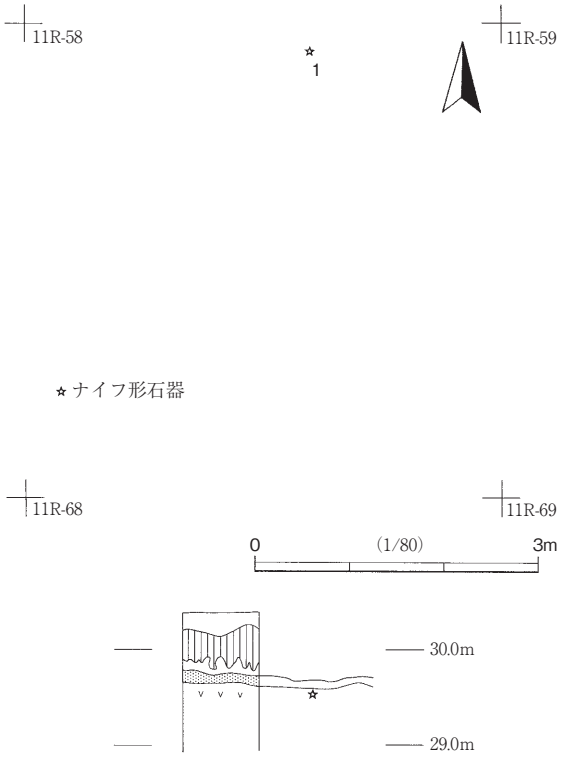
6　第16ブロック（第59・60図、第28表、図版６・12）

分布

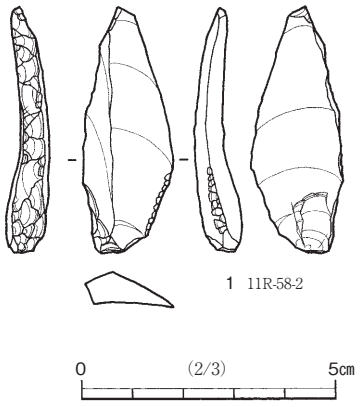
11R-58ブロックからの単独出土である。出土層位は第Ⅵ層上部からである。

器種・石材

頁岩製のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片を素材とし、一側縁には基部から先端部にかけて主剥離面からの調整剥離が入念に施され、もう一つの側縁には基部に微細な調整剥離を施し成形している。打面・打瘤は残されたままである。先端部が僅かに欠損している。



第59図　第16ブロック器種別分布図



第60図　第16ブロック出土石器

7　第17ブロック（第61・62図、第28表、図版７・12）

分布

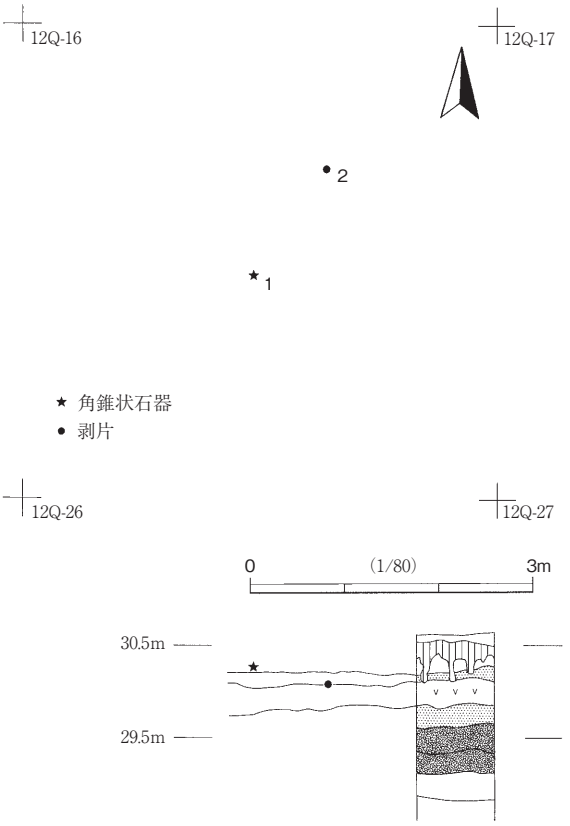
12Q-16グリッドからの出土で、遺物出土数は２点であるが、本グリッドの西側は未調査区のため遺物の正確な広がりは不明である。出土層位は第Ⅵ層上部と第Ⅴ層上部である。

器種・石材

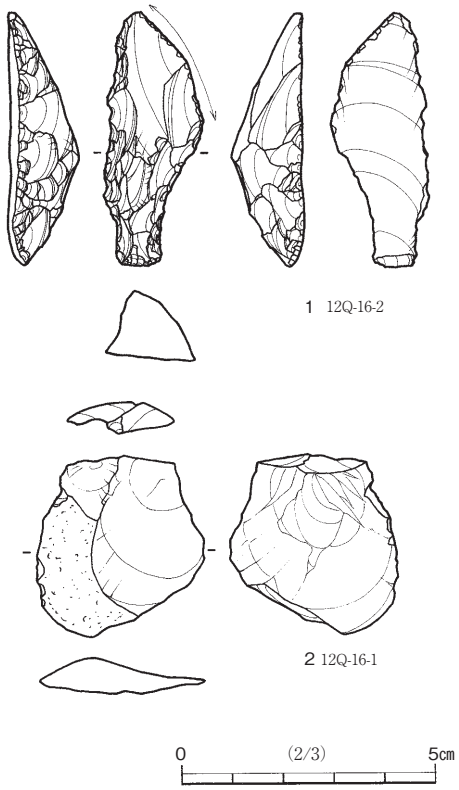
２点の器種の内訳は,角錐状石器（１）、剥片（２）で、石材は１は頁岩、２はホルンフェルスである。

１は厚みのある縦長剥片を素材とし、一側縁全体に主剥離面側からほぼ直線的に急角度の調整剥離を入念に施し、もう一つの側縁には基部から中間部まで、やはり主剥離面側からの急角度で入念な調整剥離がやや抉り状に施されている。基部には打面・打瘤を削除する微細な調整が施されている。刃部には使用痕が認められる。

２は幅広の縦長剥片で、背面に自然面を一部残している。



第61図　第17ブロック器種別分布図



第62図　第17ブロック出土石器

第３節　第３文化層

第Ⅴ層から第Ⅳ層に主体部を置くブロックで、第18ブロックから第23ブロックまでの６ブロックが該当する。このうち第18・19ブロック（第63図）、第20・21・22ブロック（第71図）は遺物分布状況や使用石材などからそれぞれが相互に関連したブロック群と思われる。

使用されている石材は、安山岩、凝灰岩、珪質頁岩、頁岩、黒色安山岩、チャート、砂岩、流紋岩の８種である（第13表）。このうち､肉眼的観察で同様な石材と認められるものは少数ではあるが安山岩､砂岩､頁岩の中にそれぞれ１種ずつ認められた。これらを安山岩１、砂岩１、頁岩１とした。安山岩１は第18・19ブロック、砂岩１は第18ブロック、頁岩１は第20・21・22ブロックで認められる。

第13表　第３文化層石器組成表（第18～第23ブロック）

器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	石核		磨石		敲石		加工痕のある剥片		剥片		砕片		礫		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
頁岩	3	9.2	1	14.9					1	5.6	6	18.7					11	48.4	16.2%	3.2%
頁岩１											3	19.2					3	19.2	4.4%	1.3%
頁岩　計	3	9.2	1	14.9					1	5.6	9	37.9					14	67.6	20.6%	4.4%
珪質頁岩			2	54.4							7	19.9					9	74.3	13.2%	4.9%
安山岩							1	67.5			4	18.8	1	0.3	5	192.3	11	278.9	16.2%	18.3%
安山岩１			1	11.5							9	23.3					10	34.8	14.7%	2.3%
安山岩　計			1	11.5			1	67.5			13	42.1	1	0.3	5	192.3	21	313.7	30.9%	20.6%
黒色安山岩											4	24.2					4	24.2	5.9%	1.6%
凝灰岩					4	513.7											4	513.7	5.9%	33.7%
チャート											4	6.0					4	6.0	5.9%	0.4%
流紋岩															5	293.9	5	293.9	7.4%	19.3%
砂岩															3	191.9	3	191.9	4.4%	12.6%
砂岩１											4	41.0					4	41.0	5.9%	2.7%
砂岩　計											4	41.0			3	191.9	7	233.0	10.3%	15.3%
合計	3	9.2	4	80.8	4	513.7	1	67.5	1	5.6	41	171.1	1	0.3	13	678.1	68	1,526.3	100%	100%
器種別比	4.4%	0.6%	5.9%	5.3%	5.9%	33.7%	1.5%	4.4%	1.5%	0.4%	60.3%	11.2%	1.5%	0.02%	19.1%	44.4%	100%	100%		

1　第18ブロック（第63 ～ 67図、第14・28表、図版７・12）

分布

11R-29・39、12R-20・30グリッドに所在する。ブロックの主要部は東西４m、南北４m程の範囲に分布する。この主要部から北西方向に２m、４m程離れた地点より１点ずつ遺物が出土しているが、そのうちの１点が主要部内から出土しているものと接合することから同一ブロックとした。

出土遺物総数は26点で、出土層位は第Ⅴ層から第Ⅳ層にかけてで主体は第Ⅴ層上部である。また、接合資料は５例みられる。

器種・石材

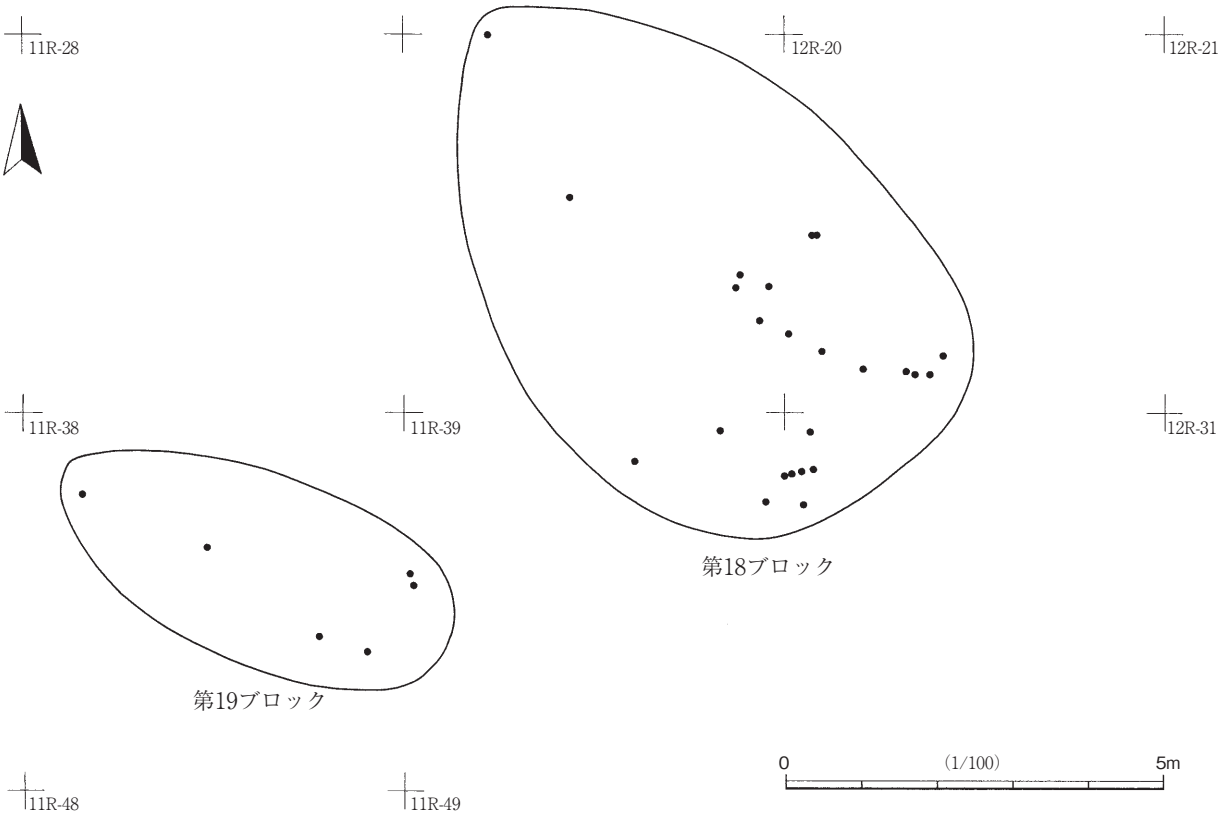
出土遺物総数の器種別内訳はナイフ形石器１点、石核４点、剥片21点である。石材については頁岩４点、珪質頁岩９点、安山岩１点、安山岩１が７点、黒色安山岩１点、砂岩１が４点である。

１は頁岩製横長剥片を素材としたナイフ形石器である。剥片の両側縁全体に主剥離面側からの入念な調整剥離が施されている。基部の末端には調整は施されておらず、刃部は剥片の突出した縁部の一部を利用している。

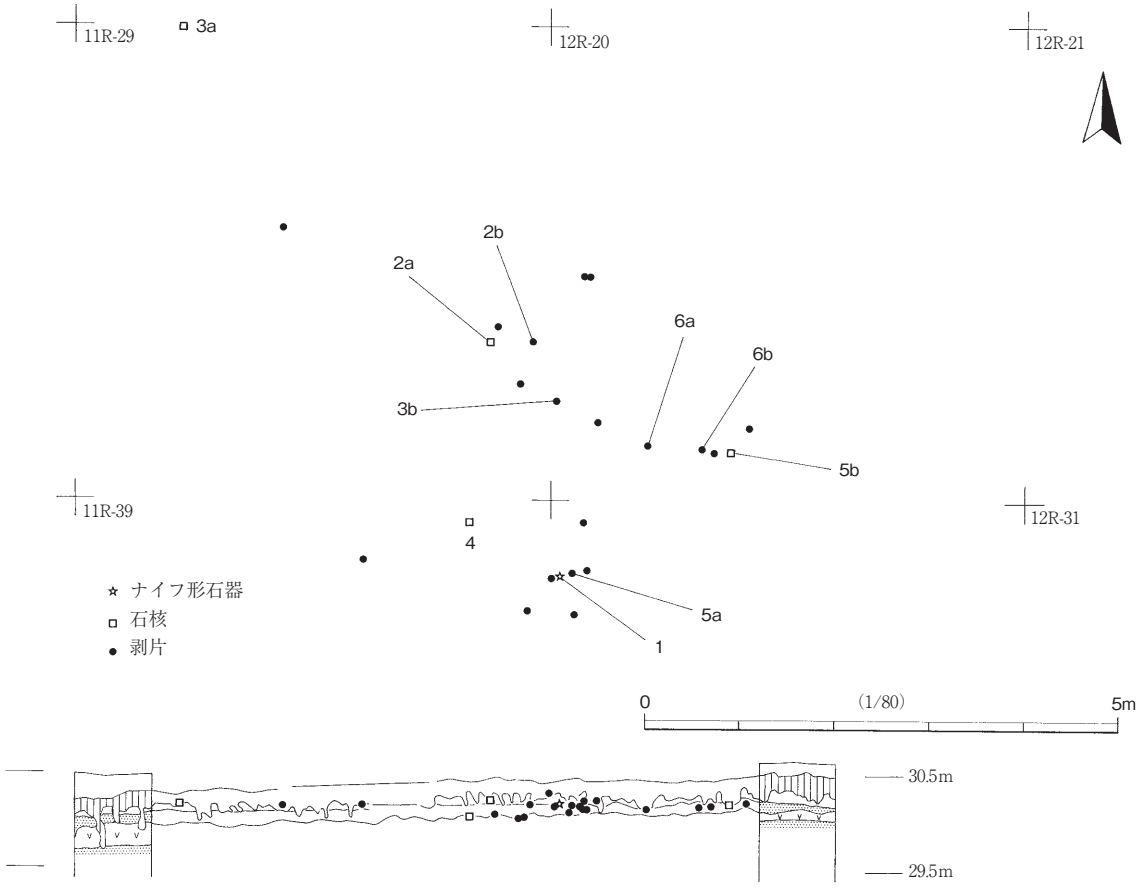
２a･ｂは珪質頁岩製の石核（ａ）と剥片（ｂ）の接合資料で、２点間の出土時の距離は0.5m程である。a は特定された打面を持たず、打面を移動しながら剥片を採取している。採取された剥片は、小型の横長

第14表　第18ブロック石器組成表

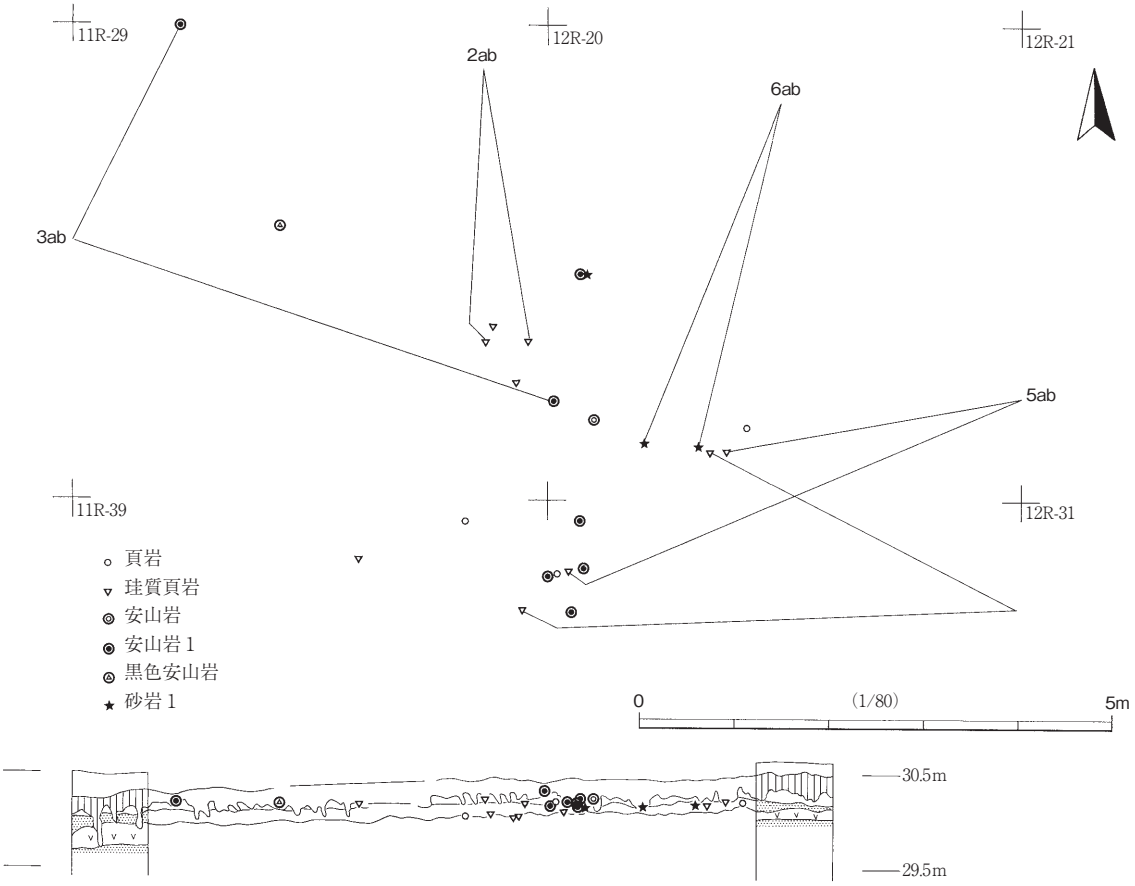
器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	石核		剥片		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
頁岩	1	3.1	1	14.9	2	7.3	4	25.3	15.4%	14.9%
珪質頁岩			2	54.4	7	19.9	9	74.3	34.6%	43.6%
安山岩					1	7.1	1	7.1	3.8%	4.2%
安山岩１			1	11.5	6	9.7	7	21.2	26.9%	12.5%
安山岩　計			1	11.5	7	16.8	8	28.3	30.8%	16.6%
黒色安山岩					1	1.4	1	1.4	3.8%	0.8%
砂岩１					4	41.0	4	41.0	15.4%	24.1%
合計	1	3.1	4	80.8	21	86.4	26	170.3	100%	100%
器種別比	3.8%	1.8%	15.4%	47.5%	80.8%	50.8%	100%	100%		



第63図　第18・19ブロック遺物分布状況図

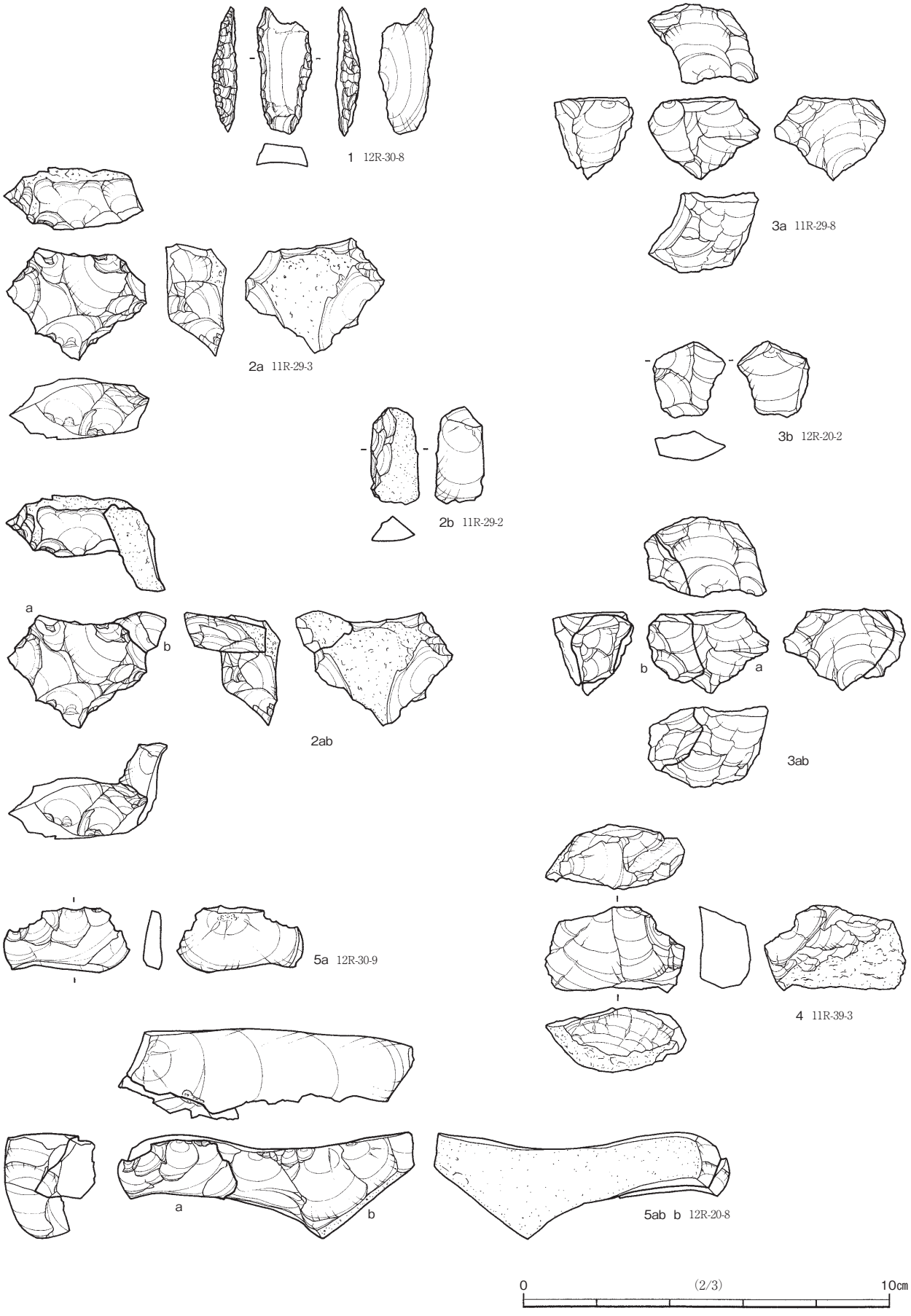


第64図　第18ブロック器種別分布図

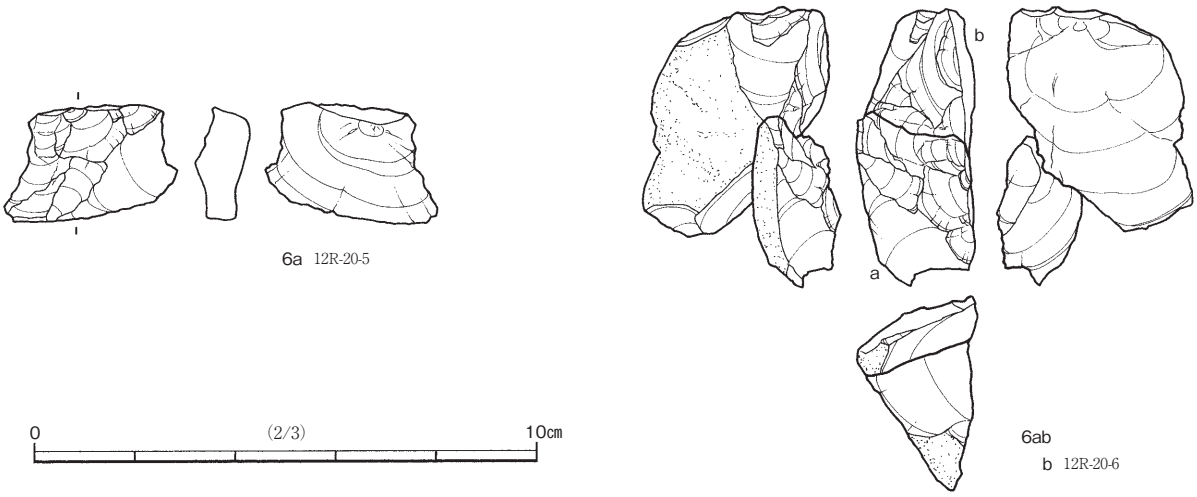


第65図　第18ブロック石材別分布図

のいわゆる不定形な剥片が主であったと思われる。接合した剥片２bは縦長の剥片で背面に自然面を残しており、石核調整剥片と考えられる。３a･ｂは安山岩製の石核（ａ）と剥片（ｂ）の接合資料で、出土時の２点間の距離は６m程離れている。３aは２aと同様に打面を移動しながら小型の縦長のいわゆる不定形な剥片を採取した小型の石核である。自然面は残っておらず円錐形に近い形状を呈している。３bは小型の幅広の縦長剥片である。採取された剥片の多くはこのような規格であったと思われる。４は頁岩製の石核で裏面に自然面を残している。２･３と同様に打面を移動しながら剥片を採取していたものと思われる。５は珪質頁岩製の石核（ｂ）と横長剥片（ａ）の接合資料である。２点の出土時の距離は２m程であった。５bは扁平の礫を母岩として大型で厚みのある剥片を剥離し、その剥片を石核の素材としている。剥離作業が行われている面は１面のみで、打面は単打面である。打面は素材である大型剥片の主剥離面を打面とし、剥片採取時の細かな調整剥離はいっさい施されていない。採取された剥片は横長もしくは幅広の縦長剥片が順次剥離されたものと思われる。６a･ｂは砂岩製の剥片２点の接合資料で、２点の出土時の距離は0.6m程であった。６bは厚みのある大型の剥片で自然面を残している。６aは６bの主剥離面を打面として剥離されている横長剥片であり、５aと形状が類似した剥片である。このことから６bは５bと同様に石核の可能性も考えられる。つまり５bと同じように礫から大型の厚みのある剥片を採取し石核の素材として、その主剥離面を打面とする単設打面から横長もしくは幅広の縦長剥片を順次採取していったものとも考えられる。このように本ブロックから出土している石核４点から、２つの異なった剥片剥離技術が本ブロック内で存在していたことが窺える。



第66図　第18ブロック出土石器（1）



第67図　第18ブロック出土石器（２）

２　第19ブロック（第63・68 ～ 70図、第15・28表、図版７・12）

分布

第18ブロックの南西約２m離れた11R-38・39グリッドに所在し、南北約１m、東西約５mの範囲に遺物が分布している。出土層位は主体を第Ⅴ層上部に置くものと思われる。出土遺物総数は６点である。

器種・石材

出土遺物の器種別内訳はナイフ形石器１点、敲石１点、剥片４点で、石材別内訳では頁岩２点、安山岩１点、安山岩1が３点である。

１は頁岩製のナイフ形石器である。横長剥片を素材とし、一側縁には基部から先端部まで入念な調整剥離が施され、他の一側縁には基部を中心とした調整剥離が施されている。

２は細身の安山岩製の礫を素材とした先端部に敲打痕が観察できる敲石である。礫の表面は磨かれている。また、表面は被熱によると思われる赤化がみられる。

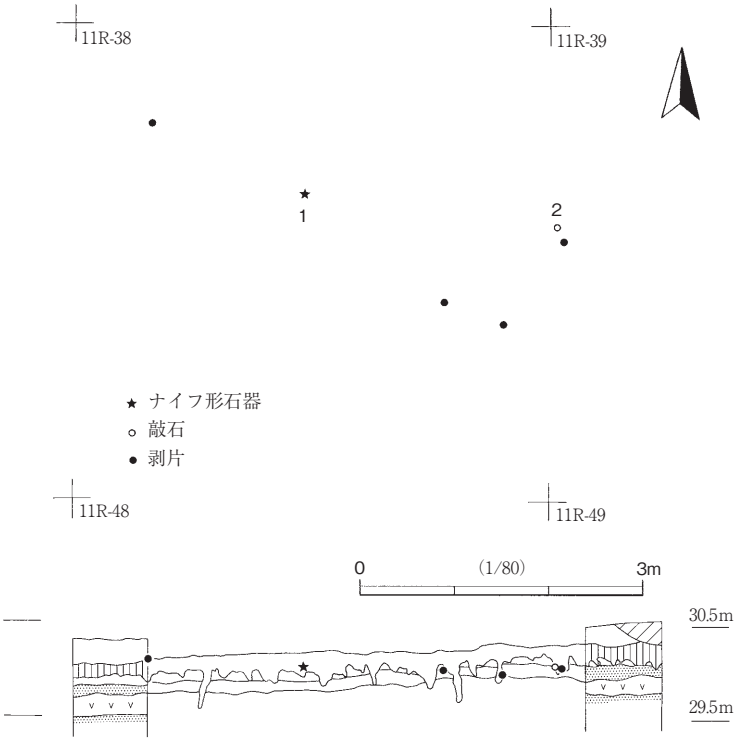
第15表　第19ブロック石器組成表

器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	敲石		剥片		点数計	重量計（g）	点数比	重量比
頁岩	1	3.6			1	1.4	2	5.0	33.3%	5.8%
安山岩			1	67.5			1	67.5	16.7%	78.4%
安山岩１					3	13.6	3	13.6	50.0%	15.8%
安山岩　計			1	67.5	3	13.6	4	81.1	66.7%	94.2%
合計	1	3.6	1	67.5	4	15.0	6	86.1	100%	100%
器種別比	16.7%	4.2%	16.7%	78.4%	66.7%	17.4%	100%	100%		

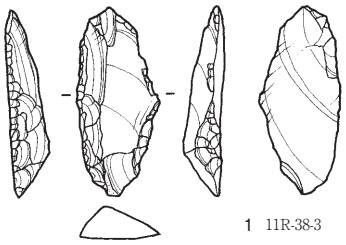
３　第20ブロック（第71 ～ 74図、第16・28表、図版７・12）

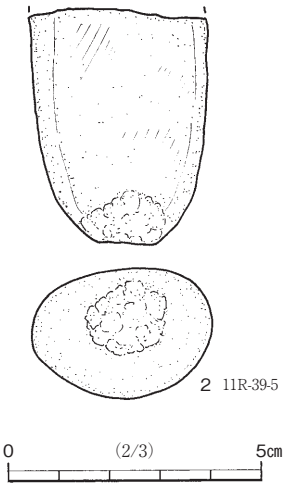
分布

第20・21・22ブロックは、分布状況、出土層位、使用石材等から相互に関係を有していたと考えられるブロック群である。第20ブロックは、このブロック群の南端になる11R-99・12Q-90グリッドに南北約1.5m、東西約３mの範囲に分布がみられる。出土層位は第Ⅴ層下部から第Ⅳ層上部にかけてで、主体は第Ⅴ層中に置くものと思われる。出土遺物総数は11点である。

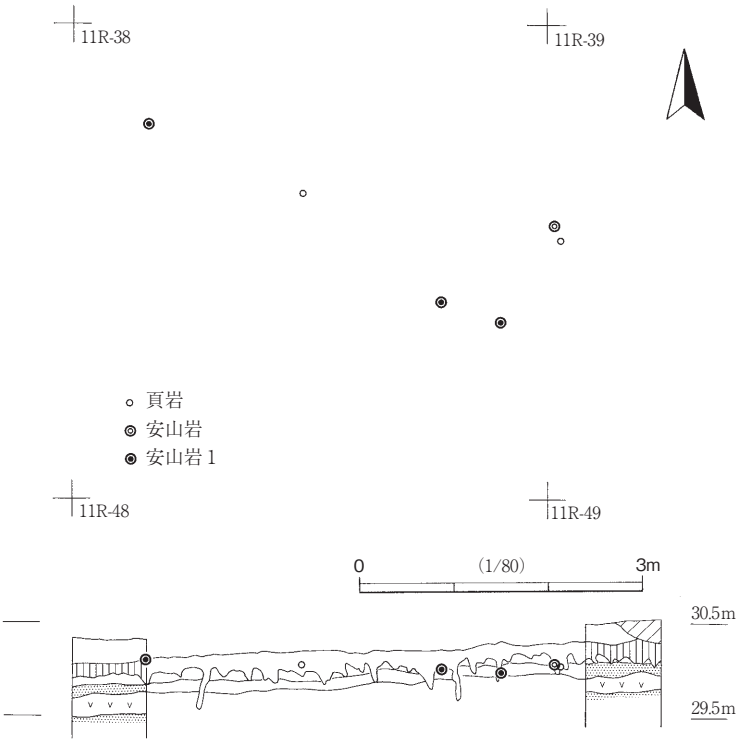


第68図　第19ブロック器種別分布図

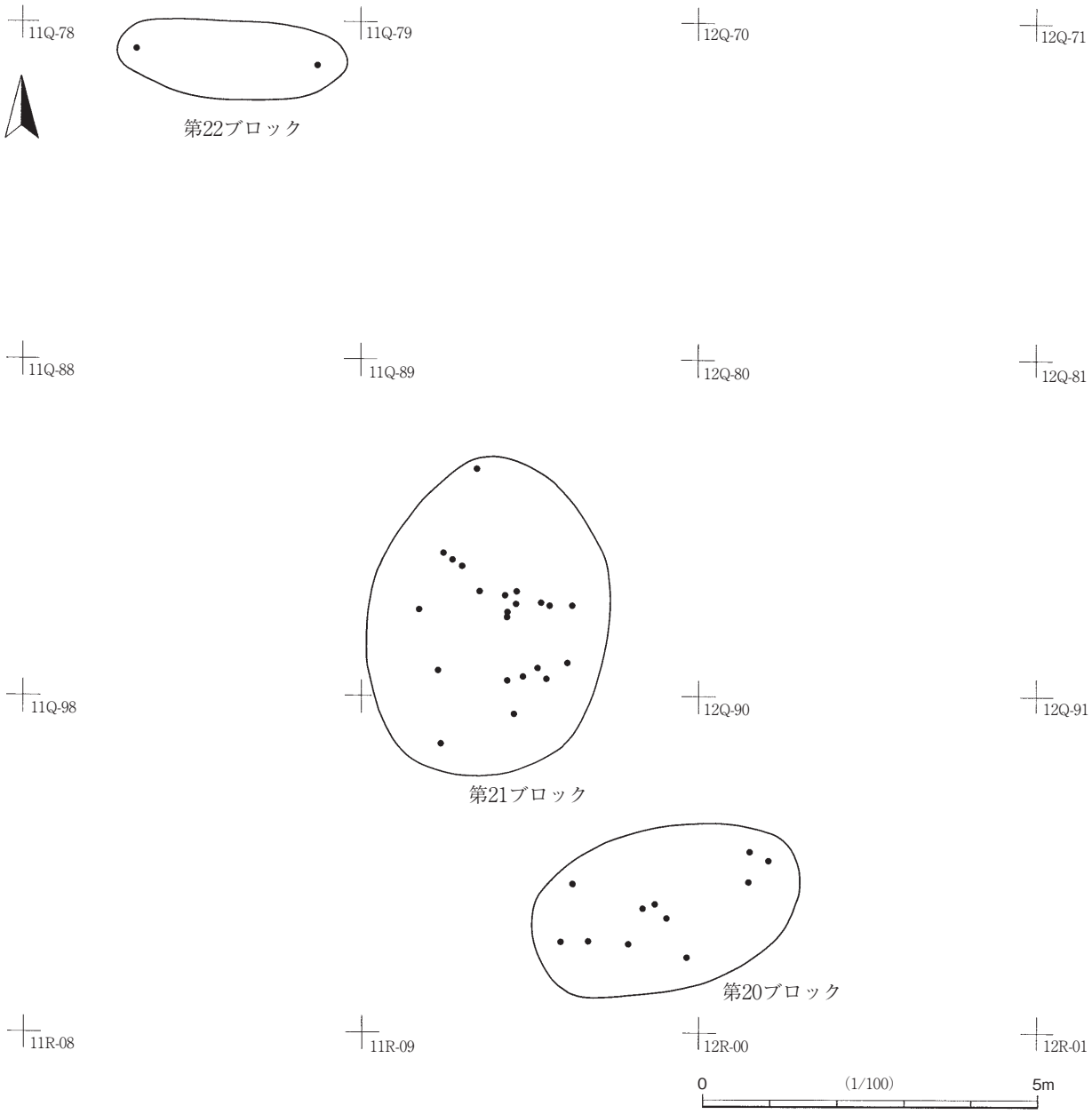




第70図　第19ブロック出土石器



第69図　第19ブロック石材別分布図



第71図　第20 ～ 22ブロック遺物分布状況図

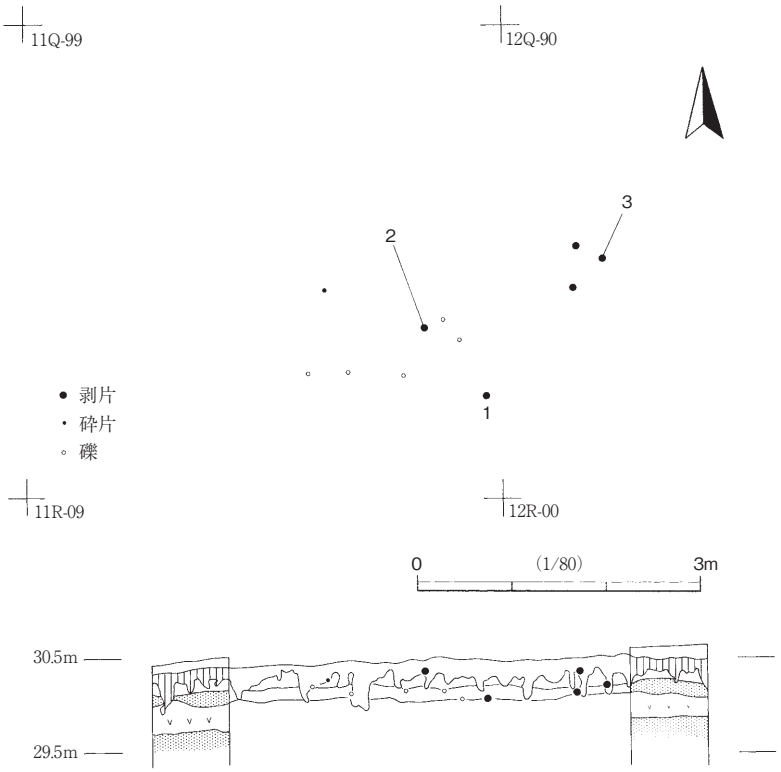
器種・石材

出土遺物の器種別内訳は剥片５点、砕片１点、礫５点で、いわゆる定型的な石器の出土は見られない。石材の内訳は剥片５点のうち頁岩１が１点、黒色安山岩３点、チャート１点、礫･砕片は全て安山岩である。

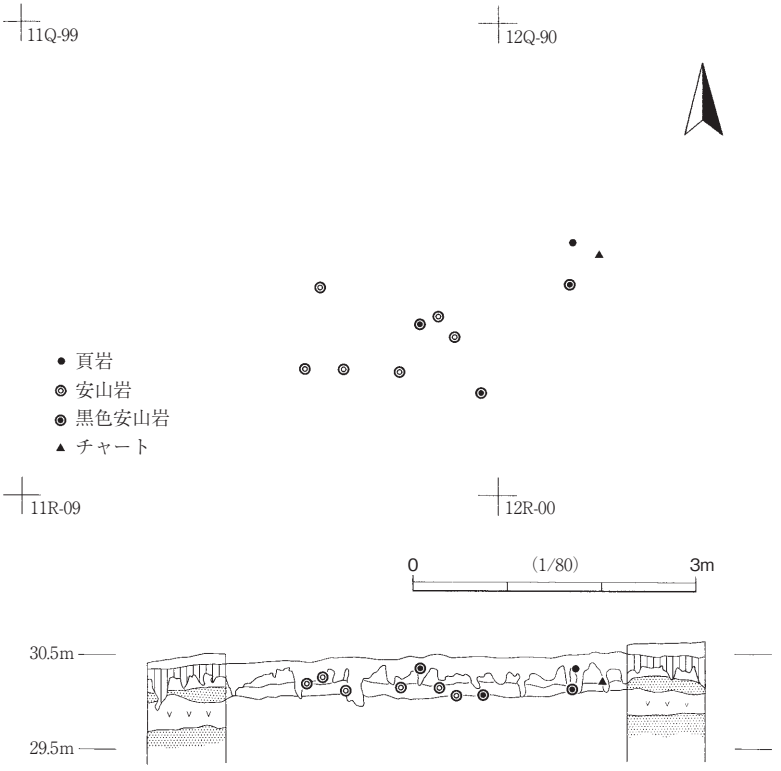
第16表　第20ブロック石器組成表

器種 / 石材	剥片 点数	剥片 重量	砕片		礫		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
頁岩１	1	5.7					1	5.7	9.1%	2.6%
安山岩			1	0.3	5	192.3	6	192.6	54.5%	86.1%
黒色安山岩	3	22.8					3	22.8	27.3%	10.2%
チャート	1	2.6					1	2.6	9.1%	1.2%
合計	5	31.1	1	0.3	5	192.3	11	223.8	100%	100%
器種別比	45.5%	13.9%	9.1%	0.1%	45.5%	85.9%	100%	100%		

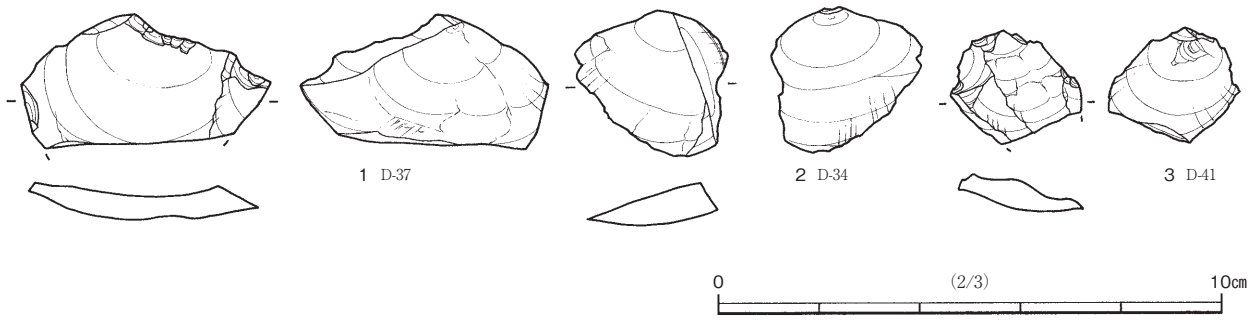
1は黒色安山岩製の横長剥片で、2はやはり黒色安山岩製の幅広の縦長剥片である。3は先端が欠損しているが幅広の縦長剥片と思われる。



第72図　第20ブロック器種別分布図



第73図　第20ブロック石材別分布図



第74図　第20ブロック出土石器

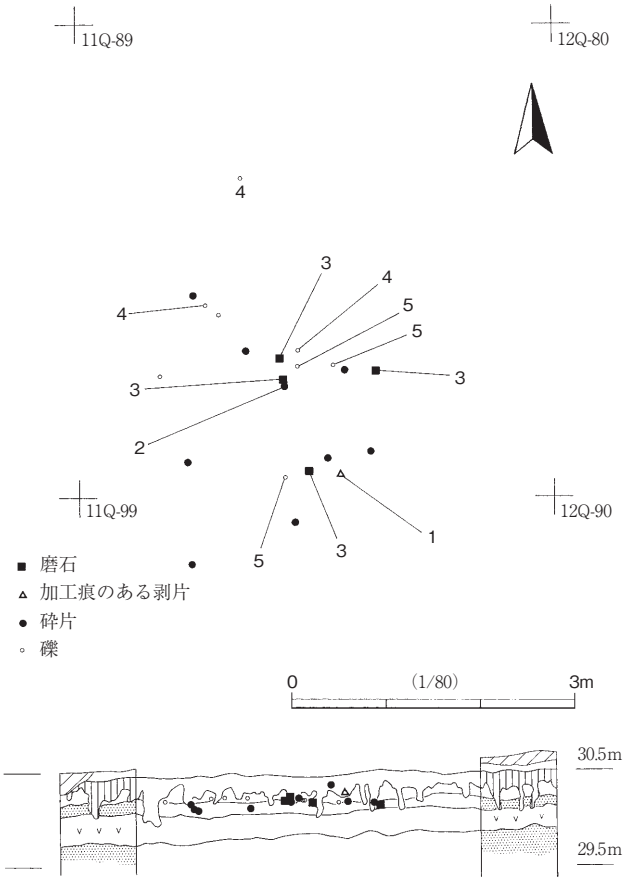
4　第21ブロック（第71・75～77図、第17表、図版７・13）

分布

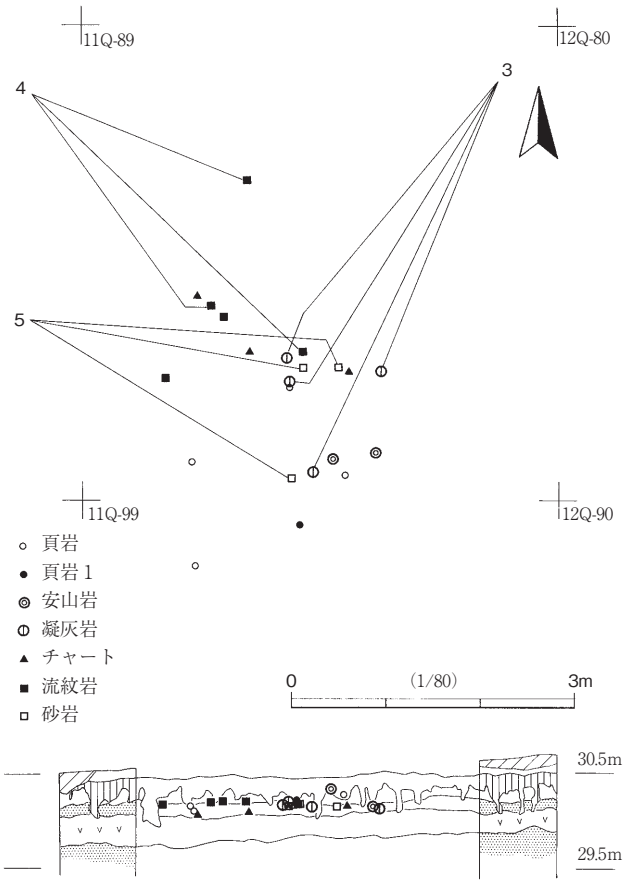
第20ブロックの北西約２m離れた11Q-89・99グリッドに所在し、南北約４m、東西約2.5mの範囲に分布する。出土層位の主体は第Ⅴ層上部である。出土遺物総数は22点である。

器種・石材

器種別内訳は加工痕のある剥片１点、剥片９点、磨石４点、礫８点である。石材別内訳は頁岩４点、頁岩１が１点、安山岩２点、凝灰岩４点、チャート３点、流紋岩５点、砂岩３点と多くの種類がみられる。



第75図　第21ブロック器種別分布図



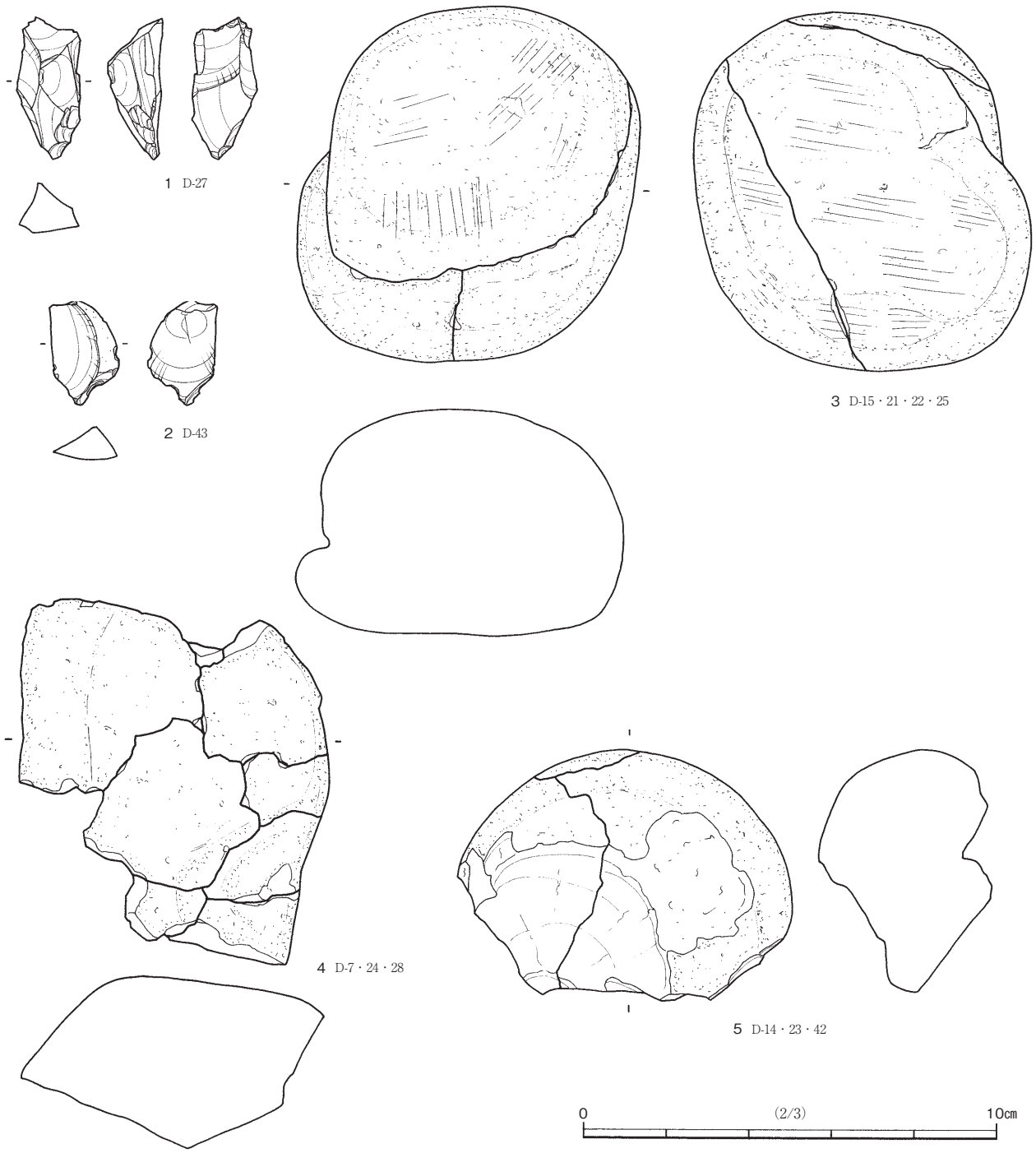
第76図　第21ブロック石材別分布図

１は厚みのある頁岩製の剥片を素材とし、尖った素材の先端部に調整剥離が施された剥片である。

２は頁岩製の縦長剥片で一部に自然面を残している。

３～５は接合資料で、３は凝灰岩製の円礫、４は流紋岩製のやや扁平な礫、５は砂岩製の円礫である。

３は礫面に顕著な研磨痕が観察できる磨石である。この３点とも被熱により礫面が赤化しており、４・５には火跳ね痕もみられる。



第77図　第21ブロック出土石器

第17表　第21ブロック石器組成表

石材＼器種	加工痕のある剥片		剥片 点数	剥片 重量	磨石		礫		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
頁岩	1	5.6	3	10.0					4	15.6	18.2%	1.5%
頁岩 1			1	4.0					1	4.0	4.5%	0.4%
頁岩 計	1	5.6	4	14.0					5	19.6	22.7%	1.9%
安山岩			2	3.0					2	3.0	9.1%	0.3%
凝灰岩					4	513.7			4	513.7	18.2%	50.1%
チャート			3	3.4					3	3.4	13.6%	0.3%
流紋岩							5	293.9	5	293.9	22.7%	28.7%
砂岩							3	191.9	3	191.9	13.6%	18.7%
合計	1	5.6	9	20.4	4	513.7	8	485.8	22	1,025.5	100%	100%
器種別比	4.5%	0.5%	40.9%	2.0%	18.2%	50.1%	36.4%	47.4%	100%	100%		

5　第22ブロック（第71・78・79図、第28表、図版８・13）

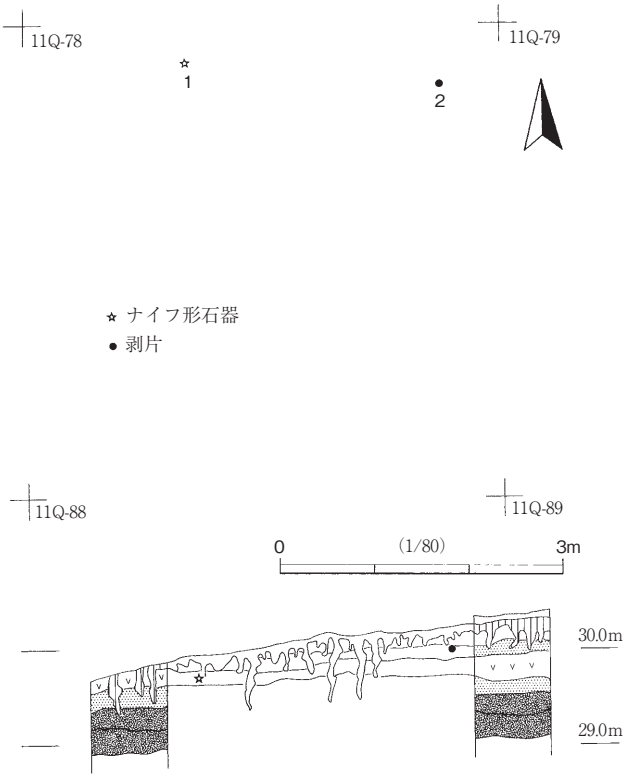
分布

第21ブロックから北西に約７m離れた11Q-78グリッドに所在し、約３m離れて２点の遺物が出土している。出土層位は第Ⅴ層中である。

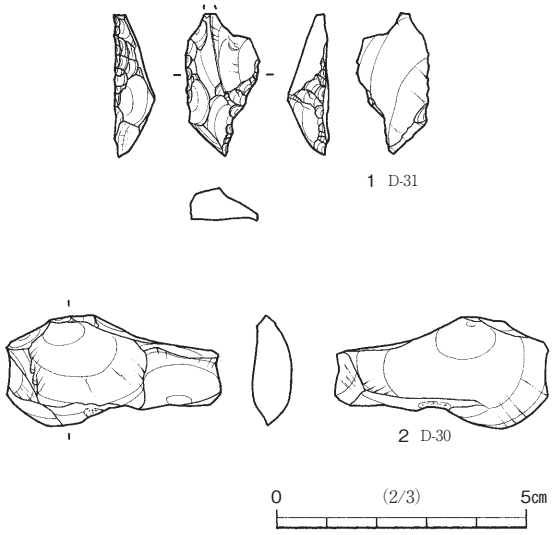
器種・石材

１は頁岩製の不定形な横長剥片を素材としたナイフ形石器である。左側縁には中間部から先端部にかけて粗い調整剥離が施され、右側縁には基部から中間部まで細かな調整剥離が施されている。基部と先端部の一部が欠損しているものと思われる。

２は頁岩製の厚みを持つ横長剥片である。背面には同様の横長剥片を剥離した剥離痕が２条みられる。剥離痕の剥離方向が上下であることから打面は両設であったと思われる。また残された打面を見ると、細かな打面調整はなく、幅広の剥離面をそのまま利用している。このような技法は第18ブロックでみられたものと共通するものと考える。



第78図　第22ブロック器種別分布図



第79図　第22ブロック出土石器

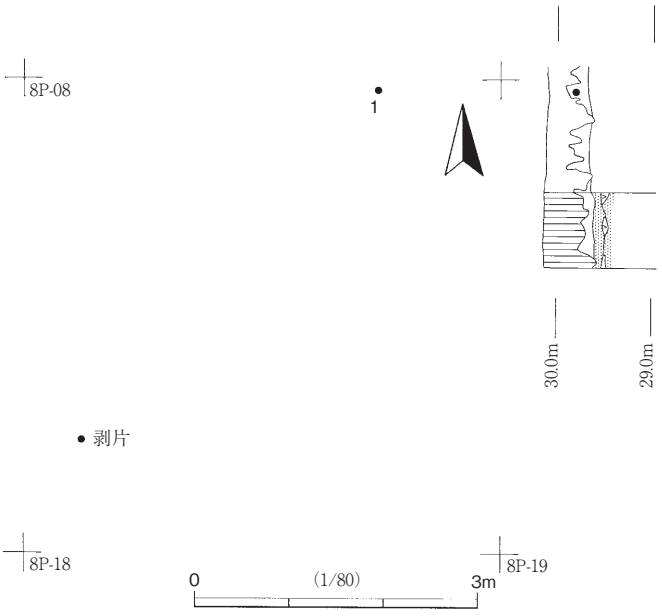
6　第23ブロック（第80・81図、第28表、図版８・13）

分布

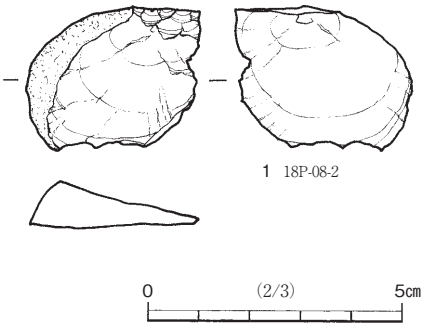
8P-08グリッドからの単独出土資料である。出土層位は第Ⅳ層である。

器種・石材

安山岩製の横長剥片で、一部に自然面が残っている。打面には細かな調整剥離が施されている。



第80図　第23ブロック器種別分布図



第81図　第23ブロック出土石器

第４節　第４文化層

本文化層は第Ⅳ層上部から第Ⅲ層下部に出土層位をもつブロックで、第24ブロックがこれに該当する。

1　第24ブロック（第82 ～ 84図、第18表、図版８・13）

分布

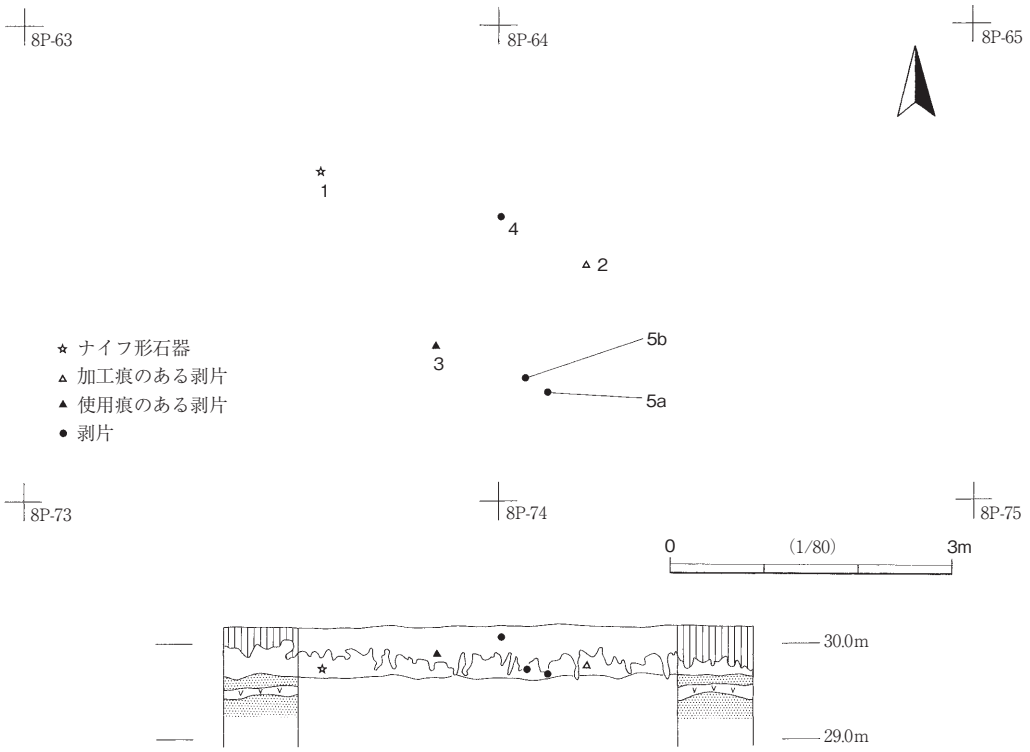
8P-63・64グリッドに所在し、東西約３m、南北約２mの範囲に分布がみられる。出土層位は第Ⅳ層下部から第Ⅲ層中位にかけてで、主体は第Ⅳ層上部に置くものと思われる。出土遺物総数は６点である。

器種・石材

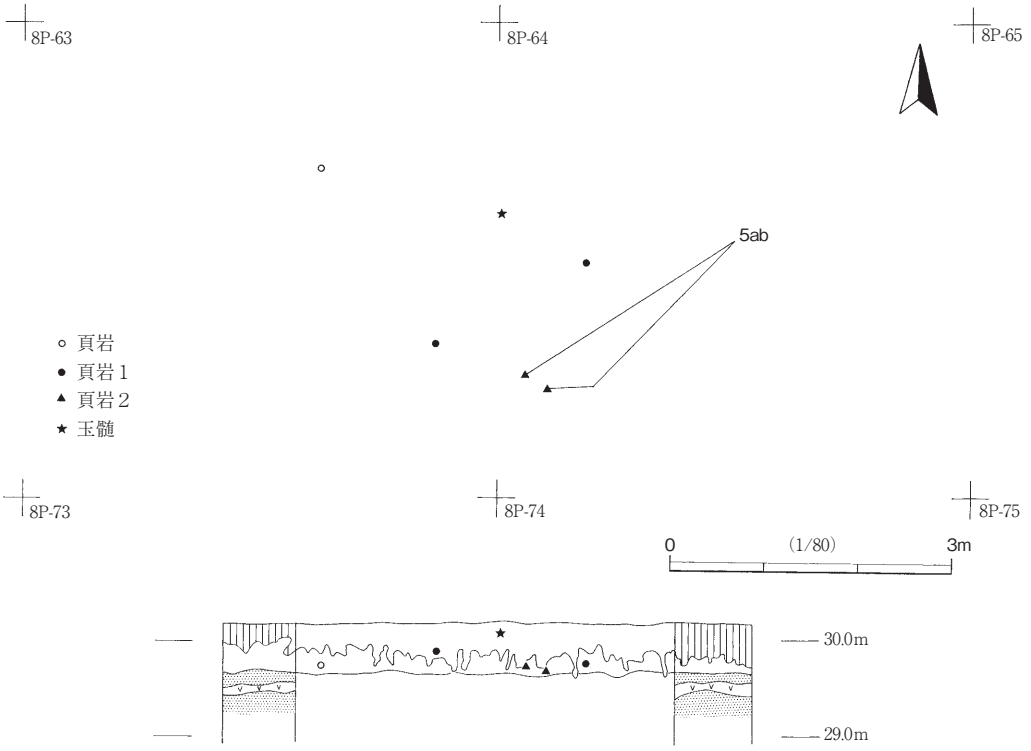
器種別内訳は、ナイフ形石器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片１点、剥片３点である。

第18表　第24ブロック石器組成表

器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
頁岩	1	3.2							1	3.2	16.7%	13.3%
頁岩 1			1	5.0	1	2.8			2	7.8	33.3%	32.6%
頁岩 2							2	12.1	2	12.1	33.3%	50.5%
頁岩 計	1	3.2	1	5.0	1	2.8	2	12.1	5	23.1	83.3%	96.4%
玉髄							1	0.9	1	0.9	16.7%	3.6%
合計	1	3.2	1	5.0	1	2.8	3	13.0	6	24.0	100%	100%
器種別比	16.7%	13.3%	16.7%	20.8%	16.7%	11.8%	50.0%	54.1%	100%	100%		



第82図　第24ブロック器種別分布図



第83図　第24ブロック石材別分布図

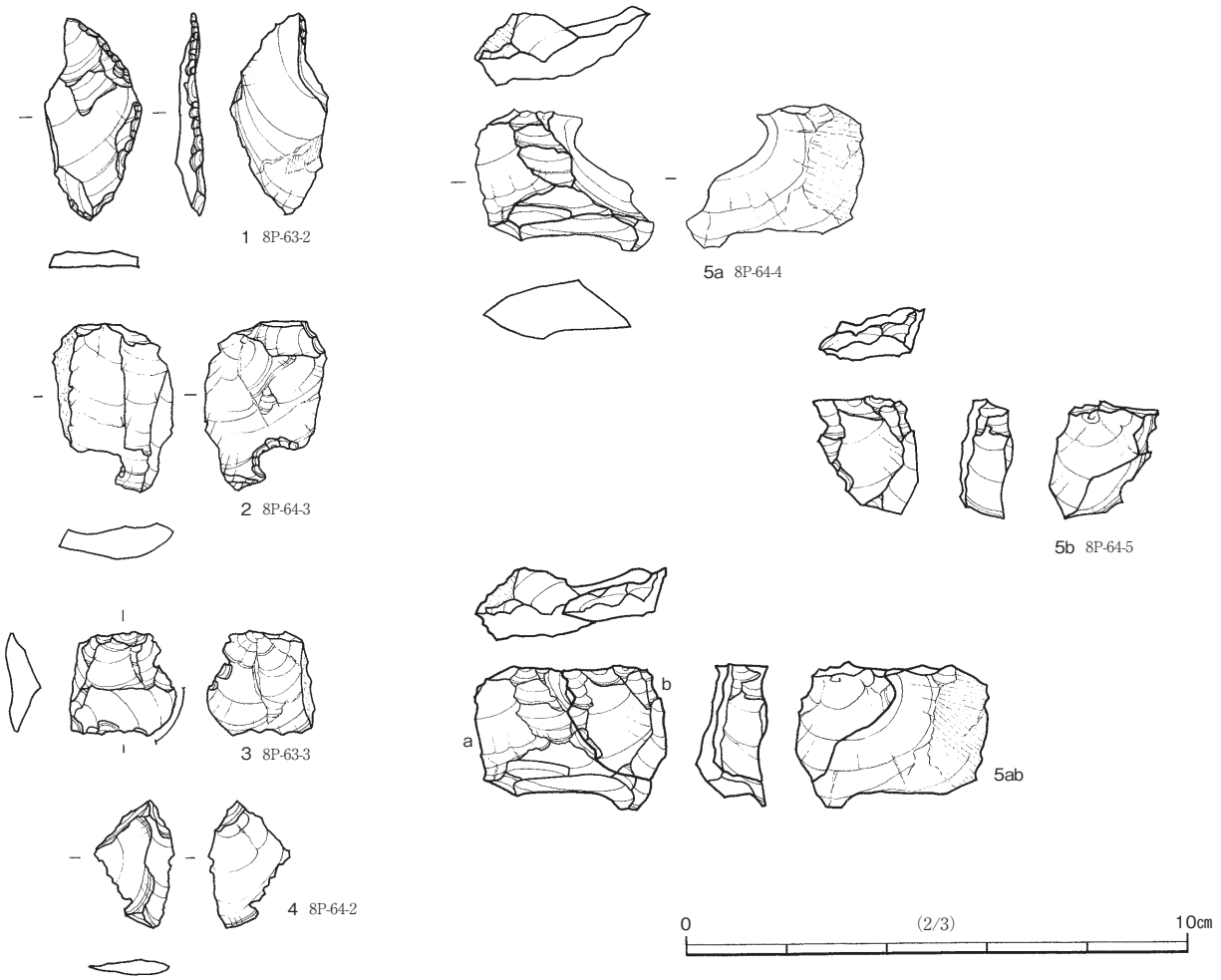
石材については頁岩５点と玉髄１点である。頁岩は肉眼的観察で同種のものが２種観察でき、頁岩１・２に分類し、頁岩１は２点、頁岩２は２点である。

１は厚さの薄い頁岩製の横長剥片を素材としたナイフ形石器である。左側側縁のみに基部から先端部にかけて調整剥離が施されており、特に先端部近くには微細な調整剥離が施されている。先端部右側部は僅かに欠損している。

２は頁岩１製の幅広の縦長剥片を素材とし、剥片先端部に抉り状の調整剥離が施されている加工痕のある剥片である。

３は頁岩１製の幅広の縦長剥片を素材とし、剥片先端部の一側縁に使用痕が認められる剥片である。

４は玉髄製の縦長剥片である。５a･bは頁岩２製の剥片２点の接合資料であるが、横長剥片剥離時に欠損したものである。打面は剥離面を利用し、細かな調整剥離などは施されていない。



第84図　第24ブロック出土石器

第５節　第５文化層

第Ⅲ層から第Ⅱc層下部に出土層位を持つブロックで、第25～第29ブロックがこれに該当する。この５つのブロックのうち、第25･29ブロックは周辺に検出されているブロックはなく単独のブロックであるが、第26～28ブロックは隣接して分布し（第88図）、いずれも礫群を伴い、使用石材も共通し、接合資料も認

第19表　第５文化層石器組成表（第25～第29ブロック）

器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	掻器		削器		細石刃		石核		尖頭様石器		磨石		加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		砕片		礫		点数計	重量計（g）	点数比	重量比
黒曜石																			1	0.1			1	0.03	0.1%	0%
黒曜石１															1	2.5			2	4.8	2	0.4			5	7.7	0.3%	0%
黒曜石３	1	1.3					3	0.7							4	2.3	1	1.4	7	5.8					16	11.5	1.0%	0.1%
黒曜石４							4	0.2									2	1.0	29	8.2	33	1.2			68	10.6	4.3%	0.1%
黒曜石　計	1	1.3					7	0.9							5	4.8	3	2.4	38	18.8	36	1.7			90	29.8	5.7%	0.2%
頁岩	1	1.8	1	7.1					1	32.5					1	0.9	3	34.8	19	63.2	12	1.1			38	141.4	2.4%	1.0%
頁岩１	2	13.3	2	16.3					2	85.4	2	20.2			2	8.4			95	386.4	11	5.8			116	535.8	7.3%	4.0%
頁岩２															1	22.5			14	9.4	3	0.5			18	32.4	1.1%	0.2%
頁岩３	2	4.8															2	7.1	3	37.7					7	49.6	0.4%	0.4%
頁岩４					1	18.7									1	6.4			3	6.6					5	31.7	0.3%	0.2%
頁岩５	1	3.7							1	14.3					1	2.5	2	13.1	1	5.7					6	39.3	0.4%	0.3%
頁岩６									1	10.3									4	10.0					5	20.3	0.3%	0.1%
頁岩７															1	7.5			2	33.1					3	40.6	0.2%	0.3%
頁岩８																			3	24.0	1	0.1			4	24.1	0.3%	0.2%
頁岩９																			2	18.7					2	18.7	0.1%	0.1%
頁岩10																			2	19.8					2	19.8	0.1%	0.1%
頁岩11																			1	3.4	1	0.4			2	3.8	0.1%	0.03%
頁岩12					1	16.0													3	1.0					4	17.0	0.3%	0.1%
頁岩13			1	16.9															5	2.5	1	0.1			7	19.5	0.4%	0.1%
頁岩14																			3	9.6	1	2.0			4	11.6	0.3%	0.1%
頁岩　計	6	23.6	4	40.3	2	34.7			5	142.5	2	20.2			7	48.2	7	55.0	160	631.1	30	10.0			223	1,005.6	14.1%	7.4%
珪質頁岩																			1	11.0	1	0.1	42	329.8	44	340.8	2.8%	2.5%
安山岩																			6	48.6	5	1.3	118	1,998.5	129	2,048.4	8.2%	15.1%
安山岩１									3	296.5									8	119.5					11	416.0	0.7%	3.1%
安山岩　計									3	296.5									14	168.2	5	1.3	118	1,998.5	140	2,464.4	8.9%	18.2%
黒色安山岩																			21	180.1	3	1.1	5	94.3	29	275.4	1.8%	2.0%
黒色安山岩１																			2	47.8					2	47.8	0.1%	0.4%
黒色安山岩　計																			23	227.9	3	1.1	5	94.3	31	323.3	2.0%	2.4%
玉髄									1	19.8					2	7.6			6	27.0	2	1.6			11	56.0	0.7%	0.4%
凝灰岩													1	185.1									254	2,665.6	255	2,850.7	16.1%	21.1%
凝灰岩１									1	20.9							1	5.6	9	46.1					11	72.6	0.7%	0.5%
凝灰岩　計									1	20.9			1	185.1			1	5.6	9	46.1			254	2,665.6	266	2,923.3	16.8%	21.6%
緑色凝灰岩																					1	0.2	3	51.8	4	52.0	0.3%	0.4%
石英																							24	176.8	24	176.8	1.5%	1.3%
石英斑岩																							36	987.5	36	987.5	2.3%	7.3%
ホルンフェルス																			1	16.0	1	0.3	15	293.3	17	309.5	1.1%	2.3%
ホルンフェルス１																			3	13.1					3	13.1	0.2%	0.1%
ホルンフェルス計																			4	29.1	1	0.3	15	293.3	20	322.6	1.3%	2.4%
チャート																					2	0.3	332	2,055.2	334	2,055.5	21.2%	15.2%
流紋岩																					1	0.2	277	1,867.0	278	1,867.2	17.6%	13.8%
砂岩																							78	932.5	78	932.5	4.9%	6.9%
合計	7	24.9	4	40.3	2	34.7	7	0.9	10	479.7	2	20.2	1	185.1	14	60.6	11	63.0	255	1,159.2	82	16.8	1184	11,452.3	1579	13,537.7	100%	100%
器種別比	0.4%	0.2%	0.3%	0.3%	0.1%	0.3%	0.4%	0.01%	0.6%	3.5%	0.1%	0.1%	0.1%	1.4%	0.9%	0.4%	0.7%	0.5%	16.1%	8.6%	5.2%	0.1%	75.0%	84.6%	100%	100%		

（小数点第２位以下切り捨て）

められることからこの３つのブロックは相互的な関連を持つブロック群と考える。

本文化層で使用されている石材は、黒曜石、頁岩、黒色安山岩、凝灰岩、安山岩、ホルンフェルス、緑色凝灰岩、玉髄、珪質頁岩、砂岩、石英、チャート、石英斑岩、流紋岩である。この石材のうち、肉眼的観察により同様石材と認められるものは、黒曜石が３種（黒曜石1・3・4）、頁岩が14種（頁岩１～14）、黒色安山岩が１種（黒色安山岩１）、凝灰岩が１種（凝灰岩１）、安山岩が１種（安山岩１）である（第19表）。この同様の石材は、第25ブロックでは黒曜石3・4、頁岩12～14、第26ブロックでは黒曜石１、頁岩１～11、黒色安山岩１、凝灰岩１、ホルンフェルス１、第27ブロックでは黒曜石１、頁岩１～７、凝灰岩１、第28ブロックでは頁岩１、凝灰岩１、第29ブロックでは安山岩１が他の石材とともに認められる。

１　第25ブロック（第85～87図、第20・28表、図版９・13）

分布

6Q-07・08・17グリッドに所在し、径約４mの範囲に分布する。出土層位は第Ⅲ層上部から第Ⅱc層にかけてであるが、本ブロックは古墳周溝（D13号墳）に近接した地点であり、古墳築造時以降に大々的な削平等の攪乱を受けた可能性が考えられる。しかし検出されたブロックは石器類の組成の特徴から旧石器終末期に位置づけられるものと考えられ、出土層位としては第Ⅲ層最上部から第Ⅱc層下部に主体を置くものと考えられる。このことから後世の削平等の攪乱についてはあまり大きな影響は受けていないと判断できる。出土遺物総数は117点である。また、接合資料が２例みられる。

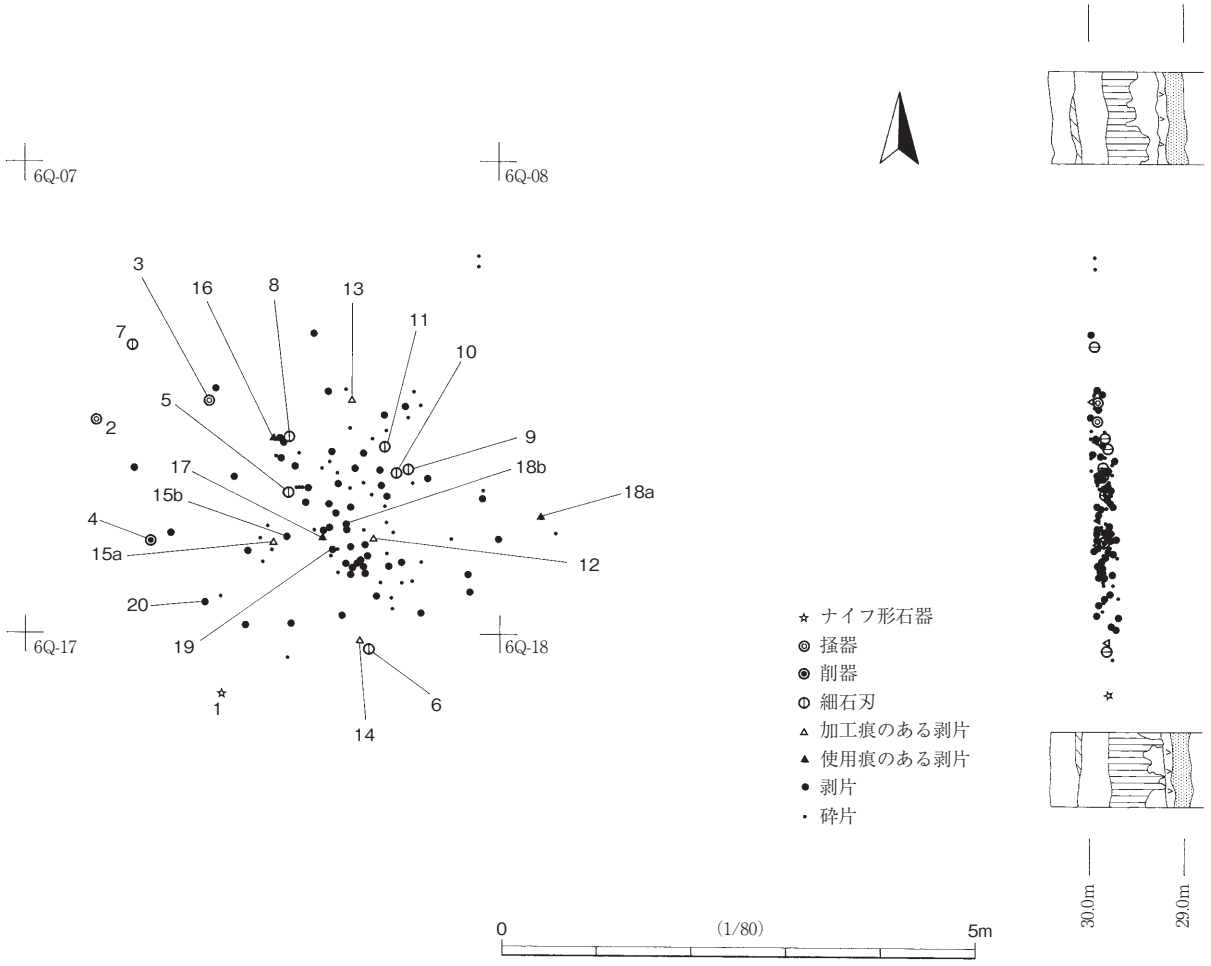
第20表　第25ブロック石器組成表

器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	掻器		削器		細石刃		加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		砕片		点数計	重量計（g）	点数比	重量比
黒曜石 3	1	1.3					3	0.7	4	2.3	1	1.4	7	5.8			16	11.5	13.7%	13.9%
黒曜石 4							4	0.2			2	1.0	29	8.2	33	1.2	68	10.6	58.1%	12.8%
黒曜石　計	1	1.3					7	0.9	4	2.3	3	2.4	36	14.0	33	1.2	84	22.1	71.8%	26.7%
頁岩			1	7.1									6	4.0	5	0.2	12	11.3	10.3%	13.6%
頁岩 12					1	16.0							3	1.0			4	17.0	3.4%	20.5%
頁岩 13			1	16.9									5	2.5	1	0.1	7	19.5	6.0%	23.5%
頁岩 14													3	9.6	1	2.0	4	11.6	3.4%	14.0%
頁岩　計			2	24.0	1	16.0							17	17.1	7	2.3	27	59.4	23.1%	71.7%
珪質頁岩															1	0.1	1	0.1	0.9%	0.1%
安山岩															1	0.1	1	0.1	0.9%	0.1%
玉髄													1	0.7			1	0.7	0.9%	0.8%
ホルンフェルス															1	0.3	1	0.3	0.9%	0.4%
チャート															1	0.3	1	0.3	0.9%	0.3%
流紋岩															1	0.2	1	0.2	0.9%	0.2%
合計	1	1.3	2	24.0	1	16.0	7	0.9	4	2.3	3	2.4	54	31.8	45	4.5	117	83.2	100%	100%
器種別比	0.9%	1.6%	1.7%	29.0%	0.9%	19.3%	6.0%	1.1%	3.4%	2.8%	2.6%	2.9%	46.2%	38.5%	38.5%	0.0%	100%	100%		

器種・石材

出土遺物の器種別内訳はナイフ形石器１点、掻器２点、削器１点、細石刃７点、加工痕のある剥片４点、使用痕のある剥片３点、剥片54点、砕片45点である。石材別内訳は黒曜石３が16点、黒曜石４が68点、頁岩が12点、頁岩12が４点、頁岩13が７点、頁岩14が４点、珪質頁岩・安山岩・玉髄・ホルンフェルス・チャート・流紋岩が１点ずつであり、黒曜石が70%以上を占め、残りのうち頁岩が20%以上を占めている。

１は黒曜石３の薄い縦長剥片を素材とし、両側縁に細かな調整剥離が施されているナイフ形石器で先端部を欠損している。



第85図　第25ブロック器種別分布図

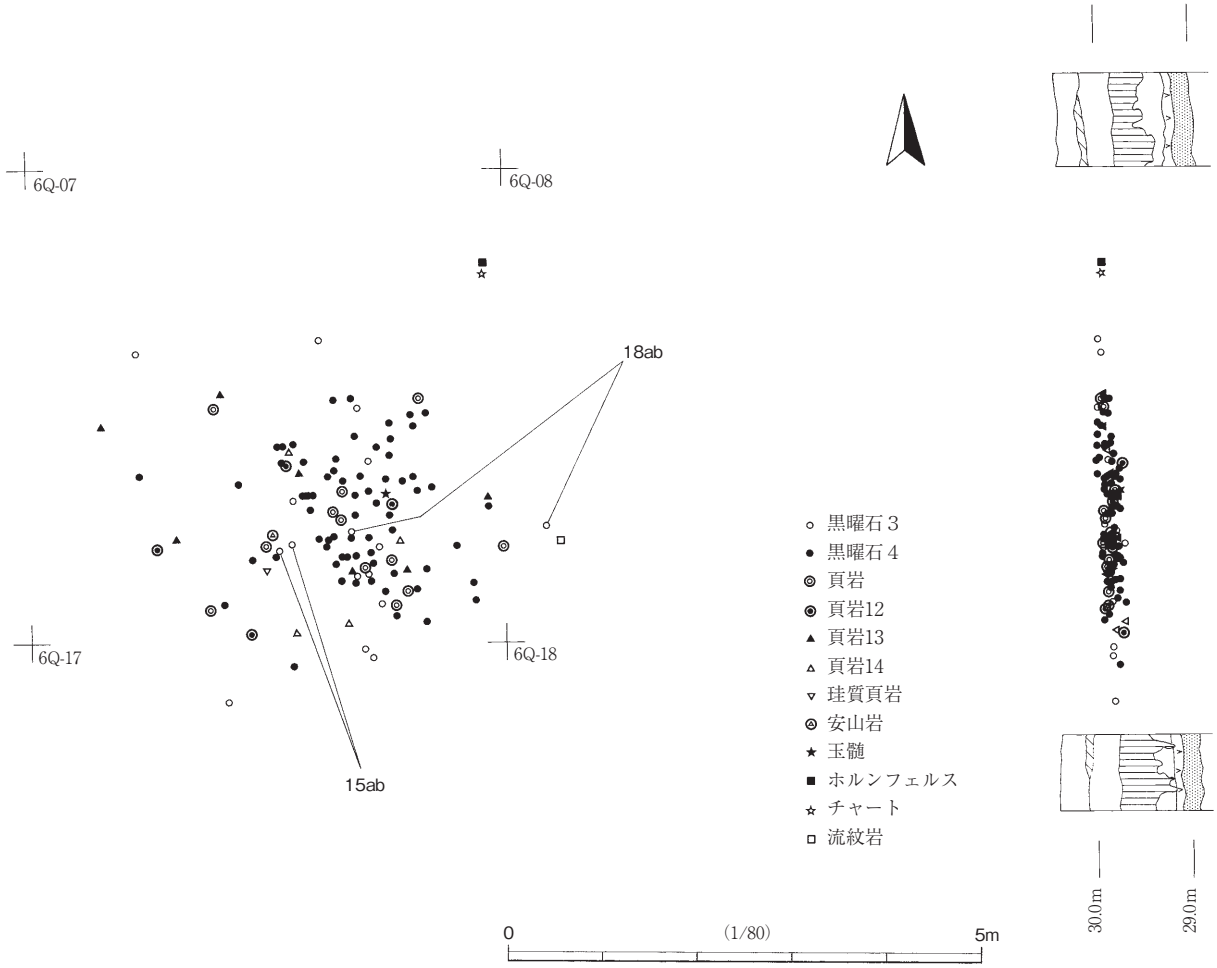
２は頁岩13の厚みのある剥片を素材とし、両面に周縁からの調整剥離により拇指状に形作り、さらに先端部周縁に入念な調整剥離により刃部が作り出されているいわゆる拇指状掻器である。

３は厚みを持つ頁岩製の剥片を素材とし、両面に周縁から比較的粗い調整剥離を施し成形されているものであり、２にみられるような刃部を作り出す細かく入念な調整剥離は施されていないが、掻器として器種分類した。

４は頁岩12製の大型の横長剥片もしくは幅広の剥片を素材とした削器である。背面の一側縁に入念な調整剥離が施されている。また裏面には背面の調整剥離が施されている一端部分に数条の調整剥離が施されている。また頭部が欠損しているが、意図的切断か使用による欠損かは不明である。欠損部分に微細な調整剥離が施されており、刃部として使用した可能性も考えられる。

５～11は細石刃と考えられるものである。細石刃核の本ブロックからの出土は見られないが、この７例は背面に残る剥離痕もしくは剥離痕の稜が平行であり、主剥離面の剥離方向とも同様であることから細石刃と判断した。５～６は黒曜石３を石材としいずれも頭部が折損している。８～11は黒曜石４を石材とし８は頭部と尾部、９・10は尾部、11は頭部を折損している。

12～15aは加工痕のある剥片である。12・13は黒曜石３を石材とし、石刃状の縦長剥片を素材として両側縁に微細な調整剥離が施されているものである。12は頭部を、13は頭部と尾部を折損している。14は半



第86図　第25ブロック石材別分布図

分以上欠損していると思われるもので、欠損部以外の周縁に微細な調整剥離が施されている。石材は黒曜石３が使用されている。15aは黒曜石３を石材とした幅広の縦長剥片を素材とし、側縁に微細な調整剥離が施されている。20㎝程離れて出土した15bと接合する。この２点は埋没時に欠損したものと思われる。

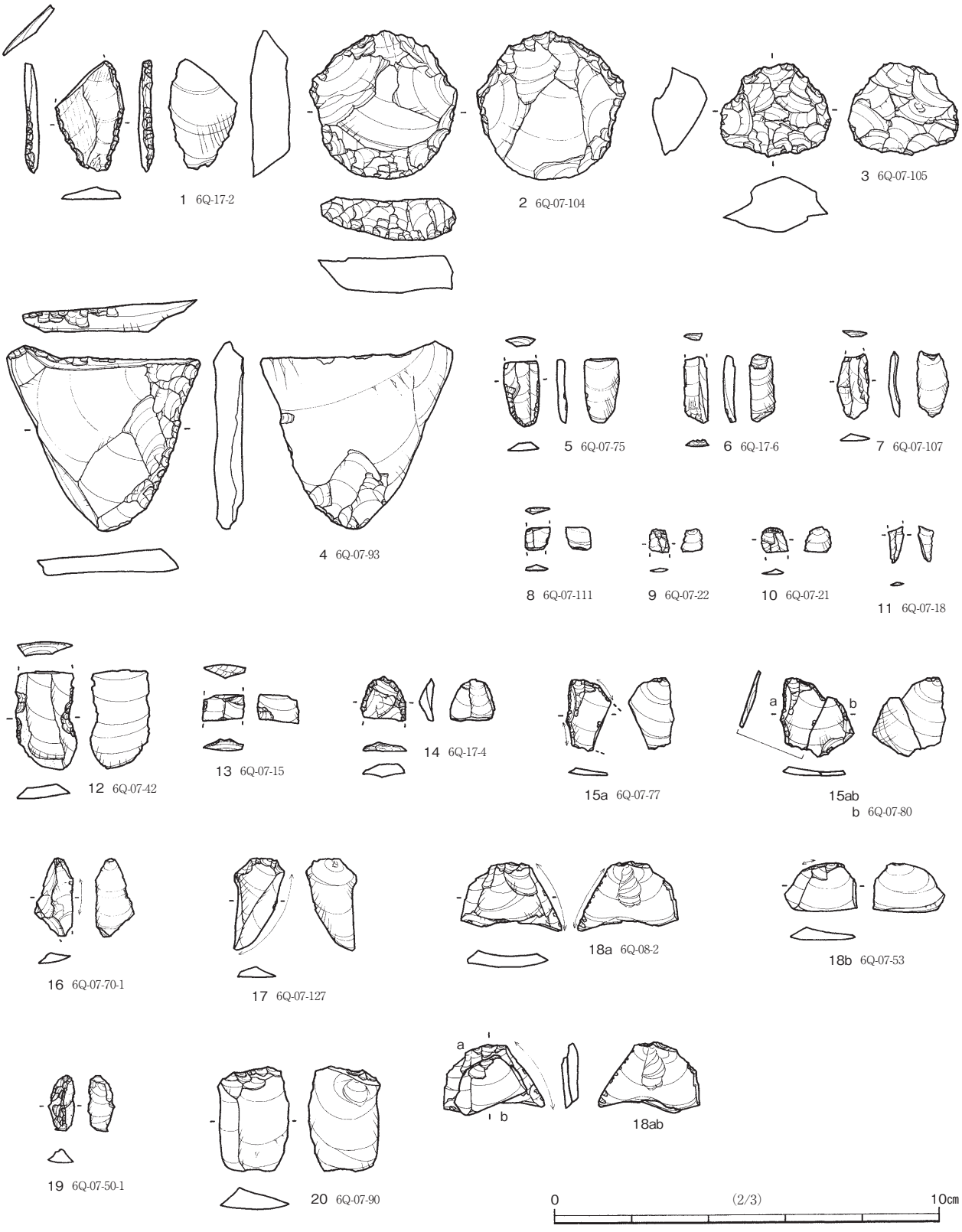
16 ～ 18aは使用痕のある剥片である。16・17は黒曜石４を石材とした小型の縦長剥片の一側縁に使用による刃こぼれ痕が認められるものである。18aは黒曜石３を石材とした横長剥片を素材とし、一側縁に使用による刃こぼれ痕が認められる。また２m程離れて出土した横長剥片の18bと接合する。

19は背面に細かな調整剥離痕がみられる黒曜石４を石材とした小型の縦長の削片状剥片である。石器製作時に剥離された調整剥片と思われる。20は頁岩製の石刃状剥片である。打面には細かな打面調整剥離が施されている。

２　第26ブロック（第88 ～ 94図、第21・22・28表、図版９・13・14・16・17）

分布

12Q-40・41・50・51・52・60・61グリッドにまたがり、径10m程の範囲に分布する本遺跡内で大型のブロックである。このブロックの北東部に第28ブロックが南東部には第27ブロックが隣接している（第88図）。



第87図　第25ブロック出土石器

第88図　第26 ～ 28ブロック遺物分布状況図

本ブロックの平面的分布を詳細に見ると、北西側に希薄ではあるが小さなまとまりと、南東側に三日月状に分布する２つのまとまりに分けることができる。北西側に分布する希薄なまとまりの遺物はすべて礫である。南東側のまとまりは、石器類と多量の礫が混在した状況の分布である。

本遺跡で礫（礫群）が認められるのは本ブロックと第21・27・28ブロックのみである。

出土層位は、第Ⅲ層から第Ⅱc層にかけてであり、主体を第Ⅲ層上部から第Ⅱc層下部に置くものと思われる。出土遺物総数は1,118点である。

第21表　第26ブロック石器組成表（礫を除く）

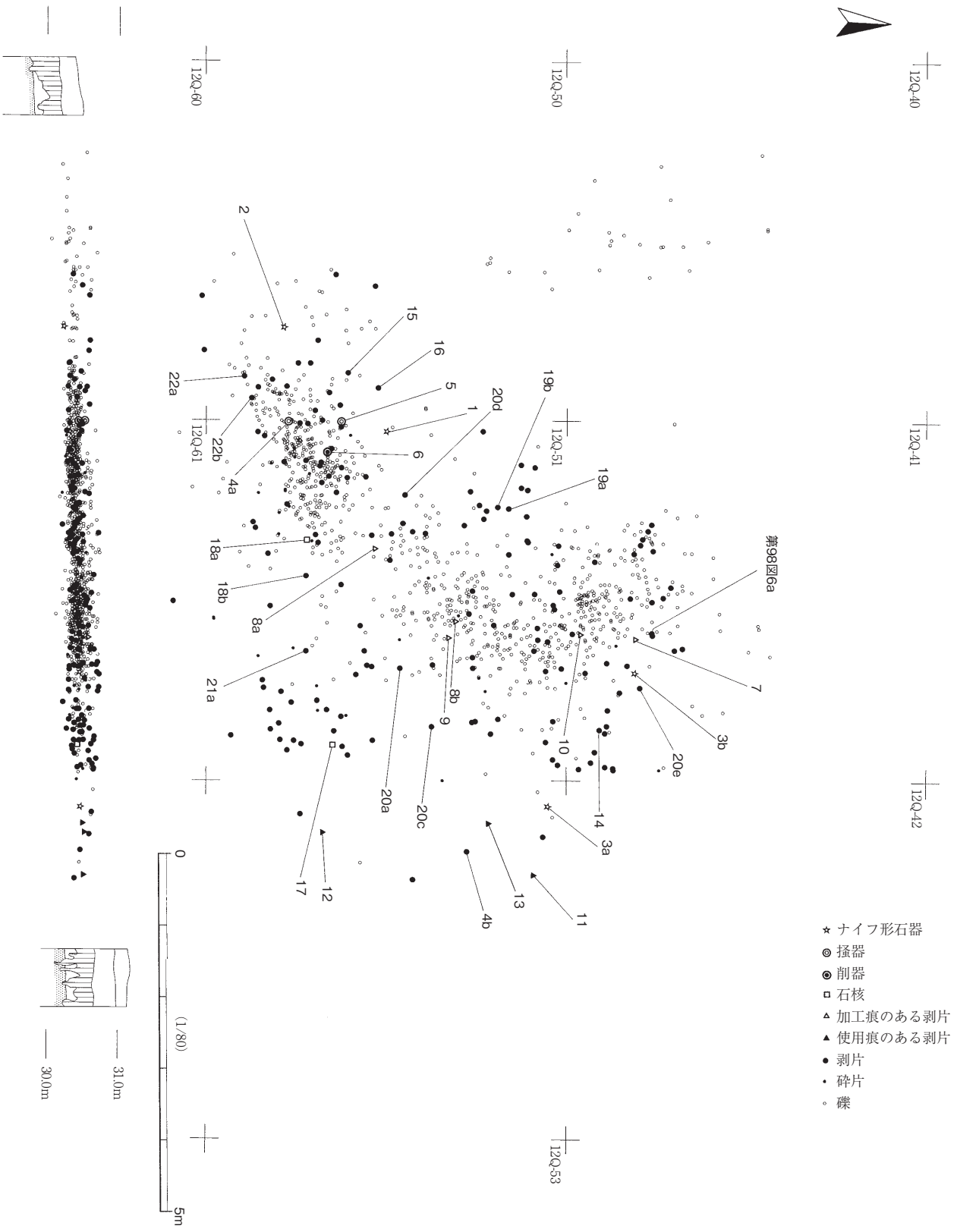
器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	掻器		削器		石核		加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		砕片		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
黒曜石１													1	4.5			1	4.5	0.5%	0.5%
頁岩	1	1.8									2	28.0	9	24.0	5	0.7	17	54.5	8.4%	5.6%
頁岩１	1	5.1	2	16.3			1	47.3	2	8.4			78	276.2	9	4.0	93	357.3	46.0%	36.4%
頁岩２									1	22.5			13	8.8	3	0.5	17	31.8	8.4%	3.2%
頁岩３	2	4.8									1	1.4	3	37.7			6	43.9	3.0%	4.5%
頁岩４					1	18.7			1	6.4			2	5.1			4	30.2	2.0%	3.1%
頁岩５													1	5.7			1	5.7	0.5%	0.6%
頁岩６													3	8.9			3	8.9	1.5%	0.9%
頁岩７													2	33.1			2	33.1	1.0%	3.4%
頁岩８													3	24.0	1	0.1	4	24.1	2.0%	2.5%
頁岩９													2	18.7			2	18.7	1.0%	1.9%
頁岩10													2	19.8			2	19.8	1.0%	2.0%
頁岩11													1	3.4	1	0.4	2	3.8	1.0%	0.4%
頁岩　計	4	11.7	2	16.3	1	18.7	1	47.3	4	37.3	3	29.4	119	465.4	19	5.7	153	631.8	75.7%	64.4%
安山岩													6	48.6	3	0.8	9	49.4	4.5%	5.0%
黒色安山岩													16	140.6	3	1.2	19	141.8	9.4%	14.5%
黒色安山岩１													2	47.8			2	47.8	1.0%	4.9%
黒色安山岩　計													18	188.4	3	1.2	21	189.6	10.4%	19.3%
玉髄							1	19.8	1	0.8			3	16.7	2	1.6	7	38.9	3.5%	4.0%
凝灰岩１													6	37.5			6	37.5	3.0%	3.8%
ホルンフェルス													1	16.1			1	16.1	0.5%	1.6%
ホルンフェルス１													3	13.1			3	13.1	1.5%	1.3%
ホルンフェルス　計													4	29.2			4	29.2	2.0%	3.0%
チャート															1	0.1	1	0.1	0.5%	0.01%
合計	4	11.7	2	16.3	1	18.7	2	67.1	5	38.1	3	29.4	157	790.3	28	9.4	202	981.0	100%	100%
器種別比	2.0%	1.2%	1.0%	1.7%	0.5%	1.9%	1.0%	6.8%	2.5%	3.9%	1.5%	3.0%	77.7%	80.6%	13.9%	1.0%	100%	100%		

器種・石材

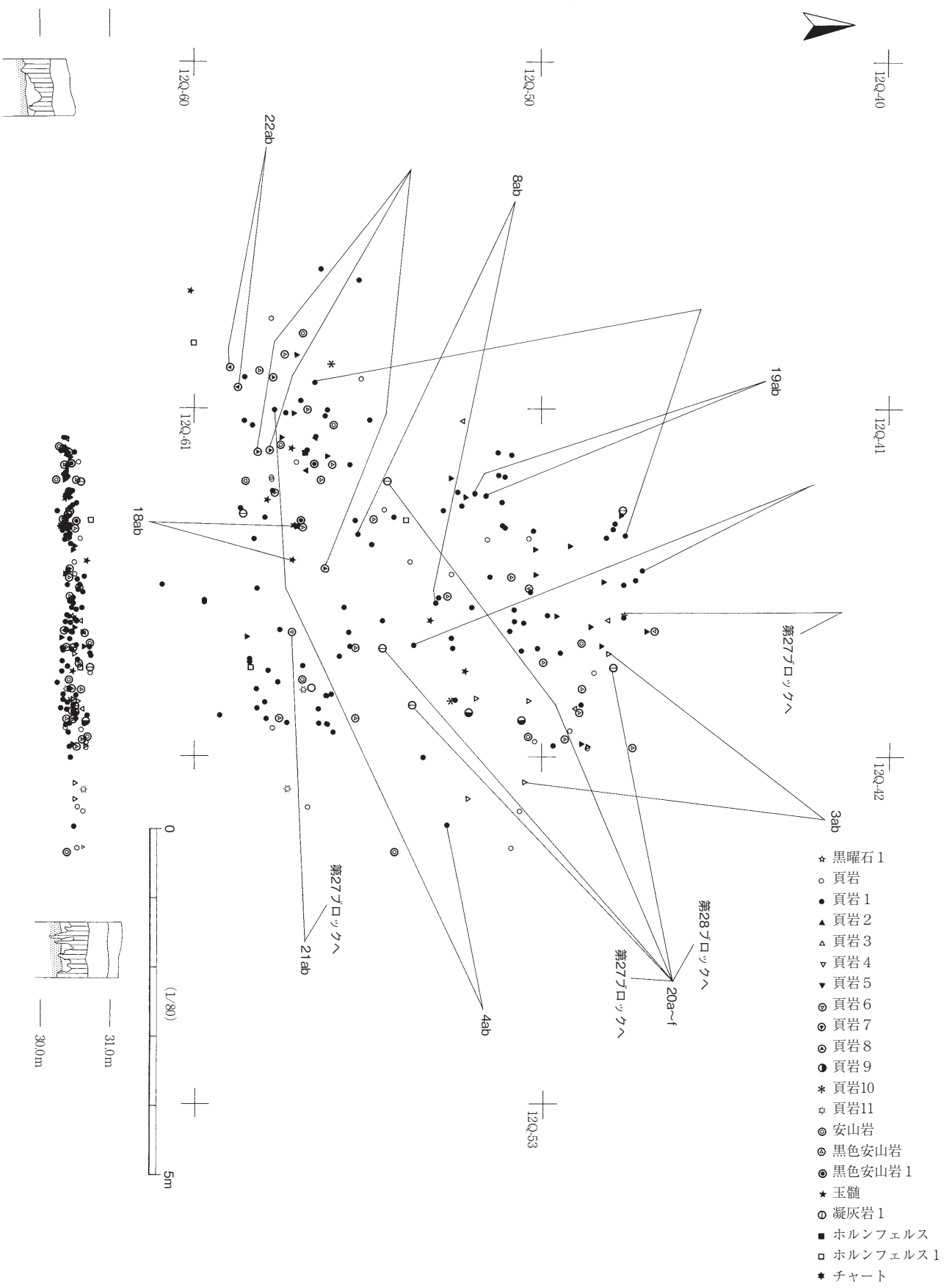
出土遺物の器種別内訳は、ナイフ形石器４点、掻器２点、削器１点、石核２点、加工痕のある剥片５点、使用痕のある剥片３点、剥片157点、砕片28点の計202点に、礫916点である。

礫を除く石器類の使用石材は、黒曜石、頁岩、安山岩、黒色安山岩、玉髄、凝灰岩、ホルンフェルス、チャートに分類でき、この内頁岩が75％以上を占めている。頁岩の内、肉眼的観察で同様な頁岩と判断できるものが11種（頁岩１～11）ある。

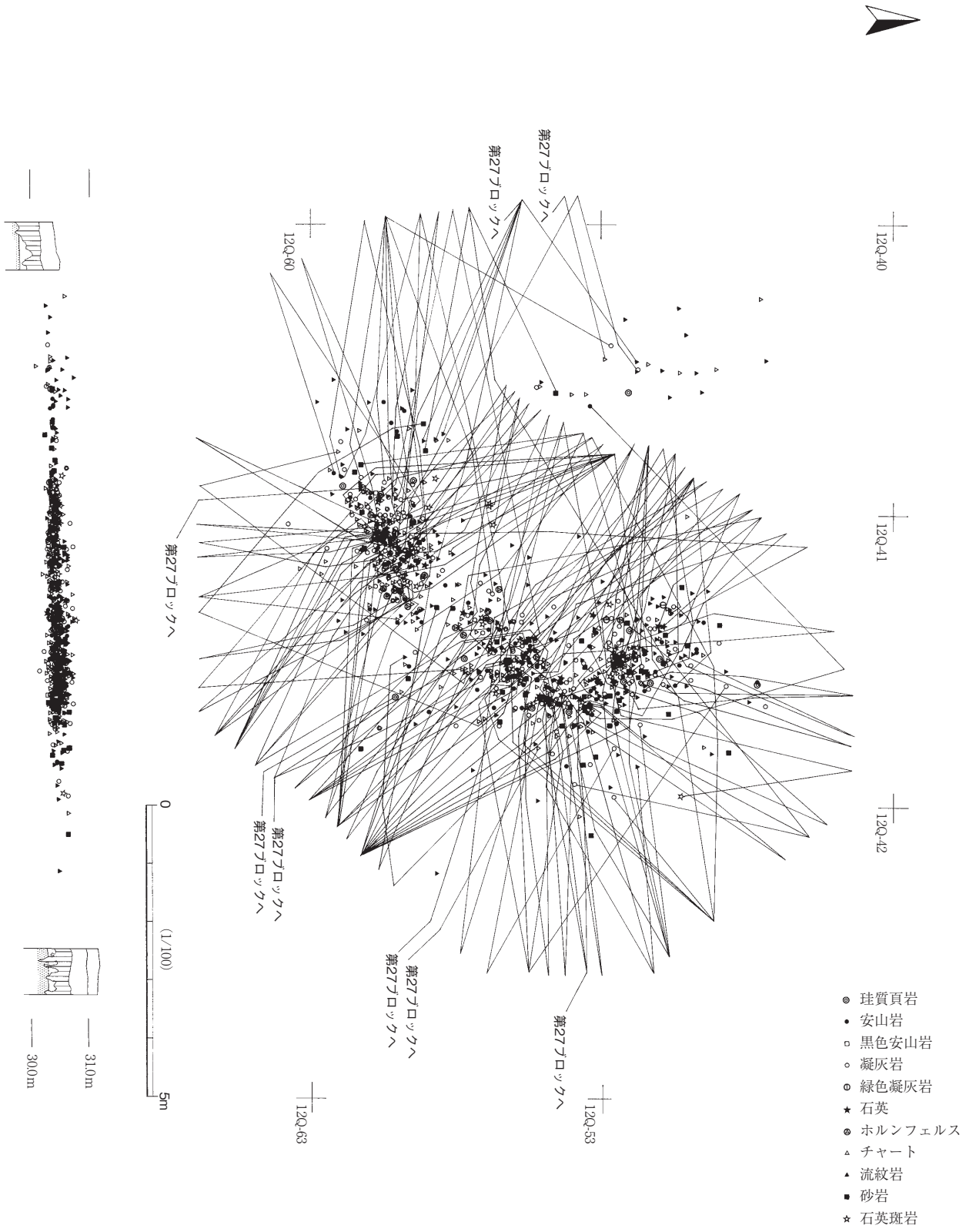
１～３bはナイフ形石器である。１は頁岩１の幅広の縦長剥片を素材として一側縁には基部から先端部まで入念な調整剥離が施され、相対する側縁には基部近くに僅かに調整剥離が施されている。素材の剥片の打面・打瘤は残されたままである。２は頁岩製の薄手で小型の縦長剥片を素材とし、一側縁の中間部から先端部に調整剥離が施されているものであり、他には調整剥離が施されておらず素材剥片の打面・打瘤等は１と同様に残されたままである。３a・bは2.2m程離れて出土したナイフ形石器同士の接合した資料



第89図　第26ブロック器種別分布図



第90図　第26ブロック石器石材別分布図



第91図　第26ブロック礫石材別分布図

である。石材は頁岩３である。３aは横長剥片の一側縁の中間部から先端部に粗めの調整剥離が施されている。３bは小型の横長剥片を素材とし、先端部と基部の一部を残し調整剥離が施されているものである。

４・５は掻器である。４は２点の接合資料である（a・b）。aは頁岩１の厚手の横長剥片を素材とし、剥片の尾部周縁に粗い調整剥離により刃部を作り出している。頭部部分が欠損（折損）しており、その欠損面を打面としてbが剥離されている。このことから小型の剥片を採取する石核の可能性も考えられるが、背面に残る剥離痕を見るとbの半分以下の非常に小型な剥片が目的剥片となり、そのような小型の剥片を素材とした石器類が認められないことから、本石器は掻器として製作されたが、欠損したために再加工が施されたものと考える。５は頁岩１の縦長剥片を素材として、剥片端部に直線状に急角度の剥離により刃部を作り出しているものである。

６は頁岩４製の大型横長剥片を素材とし、剥片尾部の直刃状の端部に調整剥離が施されている削器である。素材となっている剥片には打面・打瘤が残されており素材の形状を生かした石器である。また、剥片背面の剥片剥離痕から、本石器と同様な大型横長剥片を目的的剥片とした単設打面の石核から採取されていたと思われる。

７～10は加工痕のある剥片である。７は頁岩４製の縦長剥片の一端に微細な調整剥離が施されたものである。８は頁岩１製の縦長剥片２点の接合資料である。２点は1.5m程離れて出土しているが、埋没時に欠損したものと思われる。調整剥離は剥片頭部から中間部の背面側に施され、刃部はヘラ状の形状を呈している。９は小型の玉髄製の幅広の縦長剥片を素材とし、背面左側縁の一端に微細な調整剥離が施されている。ナイフ形石器の可能性も考えられるが、非常に小型であり、調整剥離も微細なことから加工痕のある剥片と分類した。10は頁岩２製の横長剥片を素材としている。６と剥片の形状に共通点が見られ、同様の剥片剥離技術により採取された剥片と考えられるが、刃部の調整剥離が６のように入念ではなく、直刃状の側縁に僅かな調整剥離が施されているのみであるため加工痕のある剥片として分類した。

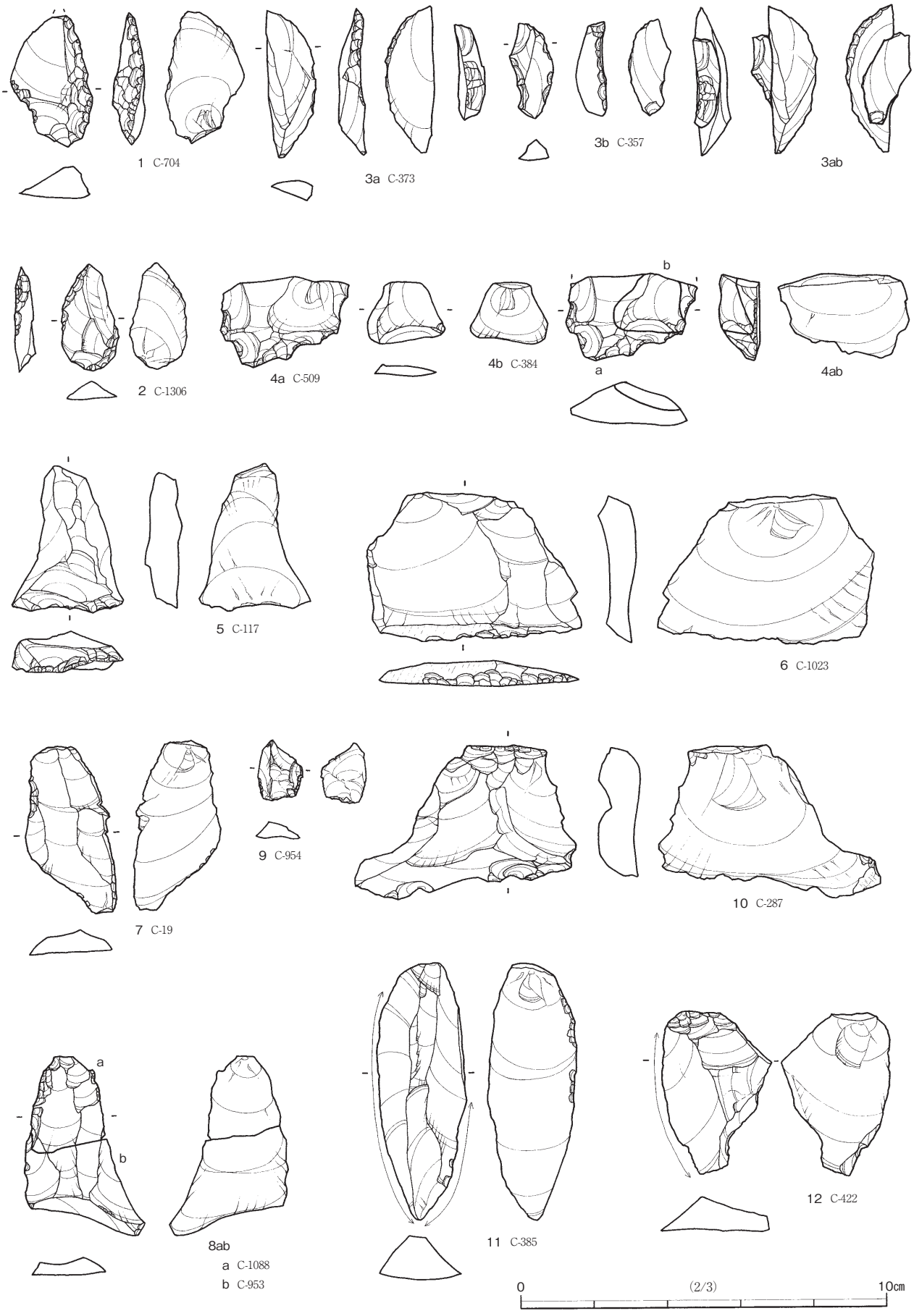
11～13は使用痕のある剥片である。11は頁岩製の石刃状剥片を素材とし、剥片頭部から尾部に至る両側縁に使用による刃こぼれ痕が認められる。背面の観察では、両設打面を持つ石核より石刃状剥片が採取されていたものと思われる。12は頁岩製の幅広の縦長剥片の一側縁に使用痕が認められる。13は頁岩３製の薄手の石刃状剥片の両側縁に使用痕が認められるものである。

14～16は剥片である。14は頁岩４製の削片状剥片である。背面の右面には入念な調整剥離が施されている。15は頁岩10製の幅広の縦長剥片である。打面・打瘤は残されており、打面は上下にみられる。さらに剥片剥離痕を見ると、上下方向の剥離に対し直行する方向の剥離もみられる。このことから打面を移動しながら剥離作業を行っていたことが窺える資料である。16は15と対照的に単打面の頁岩製の石刃状剥片と考えられる。このように本ブロック内においても複数の剥片剥離技術を見ることができる。

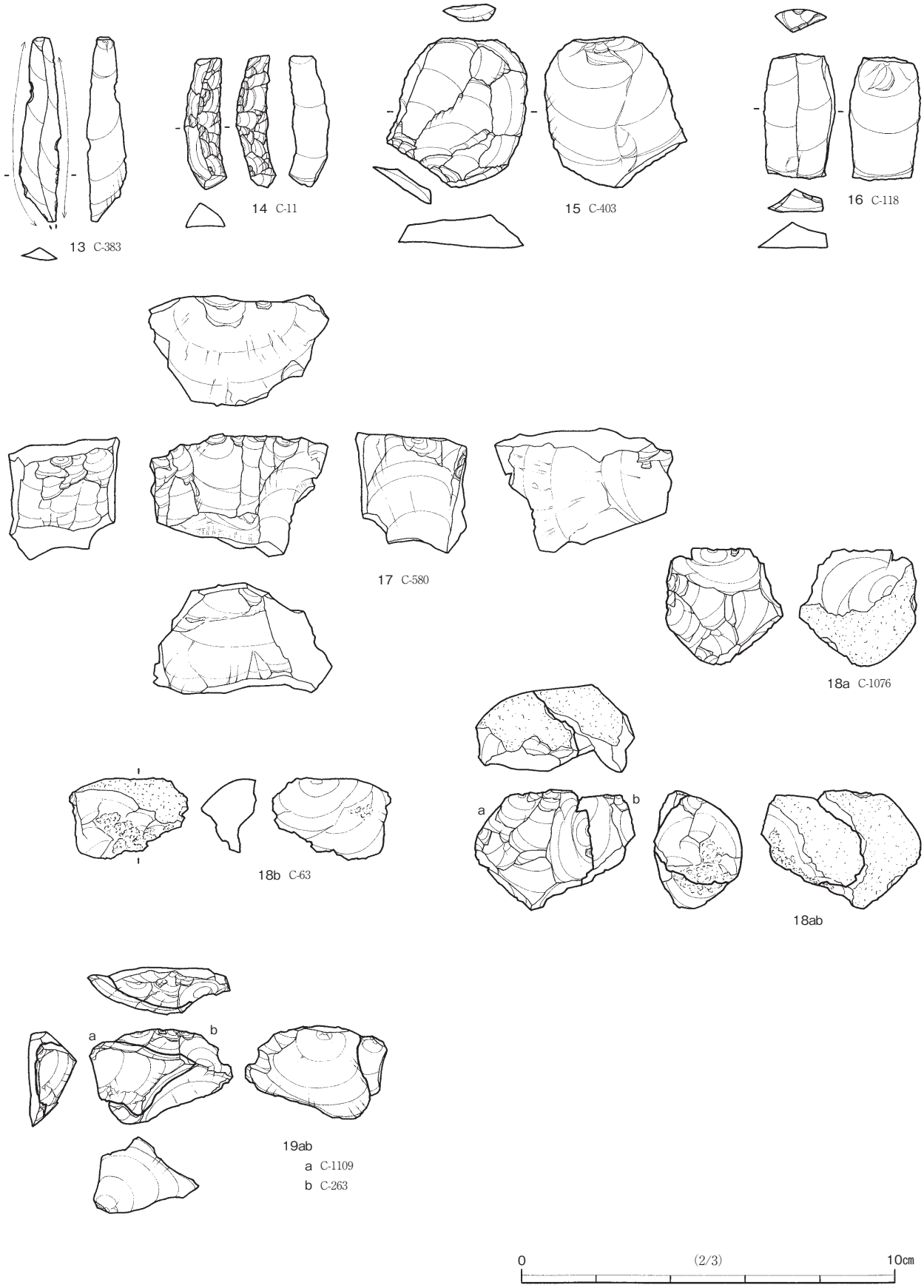
17は頁岩１製の石核である。打面は上下に持つと考えるが、打面の作り出しは一度の剥離により平坦部を作り出し、剥片剥離時の細かな調整剥離は施されていない。採取されている剥片はやや幅広の小型の縦長剥片と思われる。

18は玉髄製の石核（a）と剥片（b）の接合資料である。２点は0.6m程離れて出土している。bの剥離跡を打面として剥片剥離を行っていることから、bは打面を作り出すために剥離された剥片と思われる。打面への細かな調整剥離は見られず、小型のいわゆる不定形剥片が採取されたものと思われる。

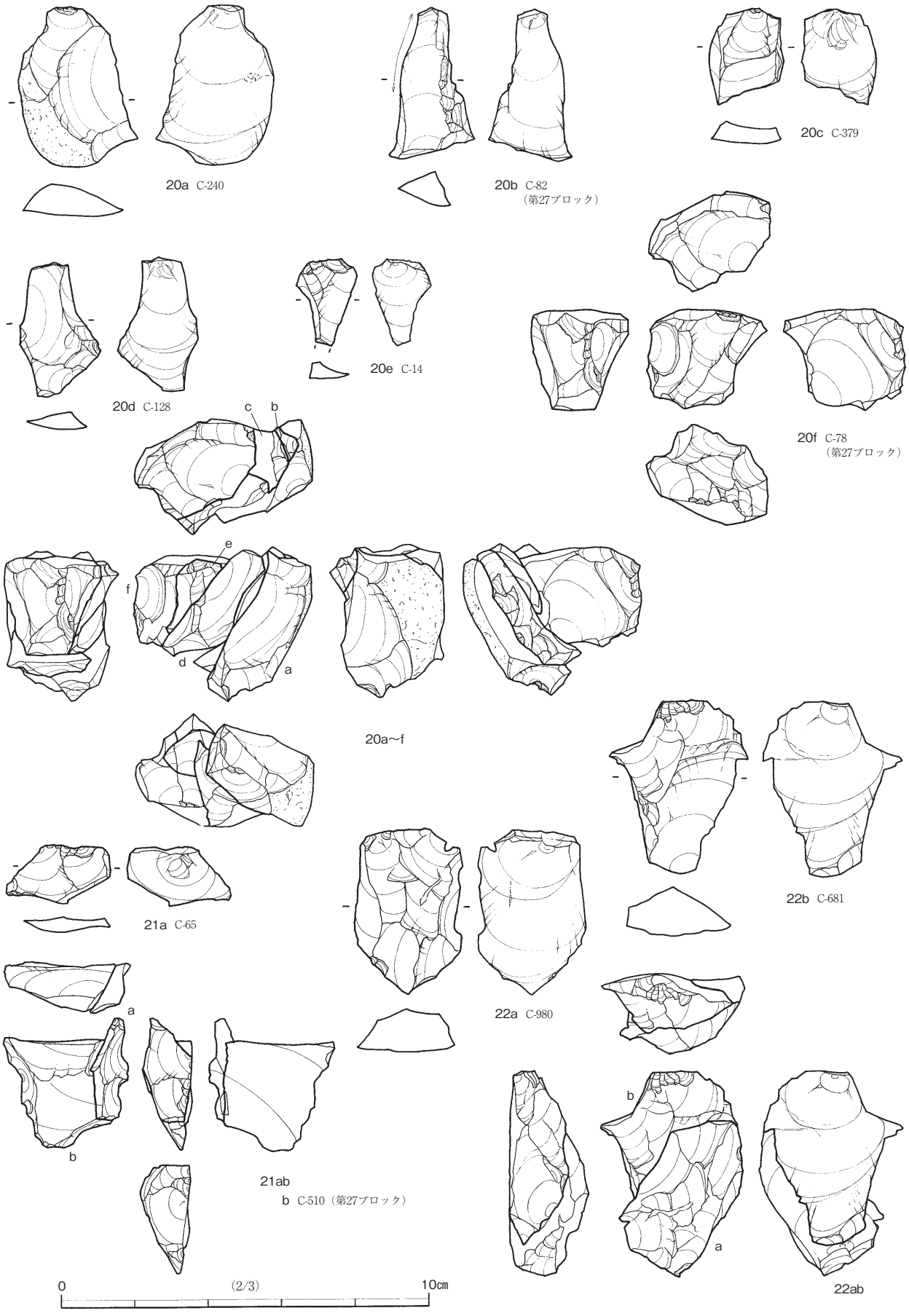
19は頁岩１製の横長剥片２点の接合資料で、0.2m程離れて出土している。



第92図　第26ブロック出土石器（1）



第93図　第26ブロック出土石器（２）



第94図　第26ブロック出土石器（3）

20は凝灰岩１を石材とした６点（ａ～ｆ）による接合資料である。ｆは石核で、残りの５点は剥片である。５点の剥片の内ｂには使用痕が認められる。剥片の剥離順はａ→ｂ→ｃ→ｄ→ｅで、ａを剥離した後に打面を180度変えてｂ・ｃ・ｄ・ｅと連続して剥離している。ｆの石核ではｅを剥離した跡を打面として剥片を剥離しているが、その剥片はａ・ｂ等と比較してかなり小型である。この接合資料から窺えることは、拳大の礫を母岩とし、剥片剥離により得られた剥離面を打面として剥片剥離を行い、そして新たに得られた剥離面を打面とするといったように、たえず打面を移動しながら剥片剥離を行っている。得られた剥片は不定形で大きさもまちまちであったと思われる。なお、ｂは第27ブロックから、ｃは第28ブロックから出土している。

21は頁岩６製の石核（ｂ）と剥片（ａ）の接合資料である。厚みのある大型剥片を素材にして、主剥離面を打面とし、ａ及び石核に残る剥片剥離痕を見る限りでは、小型の翼状に近い横長剥片を採取している。なおｂの石核は第27ブロックから出土している。

22は頁岩７製の厚みを持つ比較的大型な剥片の接合資料である。この石材は節理が多く入っており、石器石材として適していたのか疑問であるが、２点の背面に残る剥片剥離痕は剥片剥離作業を何度も繰り返した痕跡がみられる。

礫群

本ブロックには石器類の他に多量の礫が分布している。礫の分布と石器類の分布はおおよそ重なるが、先にも述べたようにブロック北西部に希薄ではあるが礫のみのまとまった分布がみられる。石材は凝灰岩、チャート、流紋岩がそれぞれ20％以上を占めている。ほぼ全部の礫に被熱の跡が認められ、またほとんどのものが破損品であり、接合資料が多くみられる。出土した礫の大きさは破損品のため径が５㎝以下と小型であり、母岩でもせいぜい拳大ほどの大きさのものが多くを占めていたと推測される。

第22表　第26ブロック礫観察表

石材	点数		重量（ｇ）		被熱		完形		大　き　さ			
					点数	重量(g)	点数	重量(g)	a	b	c	d
安山岩	96	10.5%	1,620.7	18.7%	94	1,598.2	3	298.9	89	7		
凝灰岩	205	22.4%	2,056.6	23.7%	205	2,056.6	1	72.9	200	5		
緑色凝灰岩	2	0.2%	28.6	0.3%	2	28.6			2			
珪質頁岩	26	2.8%	161.6	1.9%	25	156.5			26			
黒色安山岩	5	0.5%	94.3	1.1%	5	94.3			5			
砂岩	61	6.7%	776.8	8.9%	61	776.8			61			
石英	14	1.5%	108.0	1.2%	14	108.0			14			
チャート	264	28.8%	1,586.6	18.3%	258	1,277.1	1	185.4	262	2		
石英斑岩	33	3.6%	801.1	9.2%	33	801.1	1	95.8	30	3		
ホルンフェルス	9	1.0%	163.3	1.9%	7	145.9			8	1		
流紋岩	201	21.9%	1,288.2	14.8%	200	1,188.5	1	99.6	199	2		
合計	916	100%	8,685.8	100%	904	8,231.6	7	752.6	896	20		

大きさ　a　５㎝未満
b　５㎝以上 10㎝未満
c　10㎝以上 15㎝未満
d　15㎝以上

3　第27ブロック（第88・95～99図、第23・24・28表、図版９・14・16・17）

分布

第26ブロックの南東部に隣接する12Q-52･62グリッドを中心に、南北５ｍ、東西８ｍ程の範囲に分布する。

本ブロックには礫群が伴っている。出土層位は第Ⅲ層下部から第Ⅱc層にかけてであり、主体は第Ⅲ層上部に置くものと思われる。出土遺物総数は294点でこのうち礫が246点である。

第23表　第27ブロック石器組成表（礫を除く）

器種 / 石材	ナイフ形石器 点数	ナイフ形石器 重量	石核		尖頭様石器		磨石		加工痕のある剥片		使用痕のある剥片		剥片		砕片		点数計	重量計（g）	点数比	重量比
黒曜石															1	0.1	1	0.1	2.1%	0.02%
黒曜石１									1	2.5			1	0.2	2	0.4	4	3.1	8.3%	0.7%
黒曜石　計									1	2.5			1	0.2	3	0.5	5	3.2	10.4%	0.7%
頁岩											1	6.8	2	15.7	1	0.1	4	22.6	8.3%	4.9%
頁岩１	1	8.2	1	38.1	2	20.2							16	107.1	2	1.8	22	175.4	45.8%	37.8%
頁岩２													1	0.6			1	0.6	2.1%	0.1%
頁岩３											1	5.7					1	5.7	2.1%	1.2%
頁岩４													1	1.5			1	1.5	2.1%	0.3%
頁岩５	1	3.7	1	14.3					1	2.5	2	13.1					5	33.6	10.4%	7.2%
頁岩６			1	10.3									1	1.1			2	11.4	4.2%	2.5%
頁岩７									1	7.5							1	7.5	2.1%	1.6%
頁岩　計	2	11.9	3	62.7	2	20.2			2	10.0	4	25.6	21	126.0	3	1.9	37	258.3	77.1%	55.6%
安山岩															1	0.5	1	0.5	2.1%	0.1%
黒色安山岩													1	5.8			1	5.8	2.1%	1.2%
凝灰岩							1	185.1									1	185.1	2.1%	39.9%
凝灰岩１											1	5.6	1	5.8			2	11.4	4.2%	2.5%
凝灰岩　計							1	185.1			1	5.6	1	5.8			3	196.5	6.3%	42.3%
緑色凝灰岩															1	0.2	1	0.2	2.1%	0.04%
合計	2	11.9	3	62.7	2	20.2	1	185.1	3	12.5	5	31.2	24	137.8	8	3.1	48	464.5	100%	100%
器種別比	4.2%	2.6%	6.3%	13.5%	4.2%	4.3%	2.1%	39.9%	6.3%	2.7%	10.4%	6.7%	50.0%	29.7%	16.7%	0.7%	100%	100%		

器種・石材

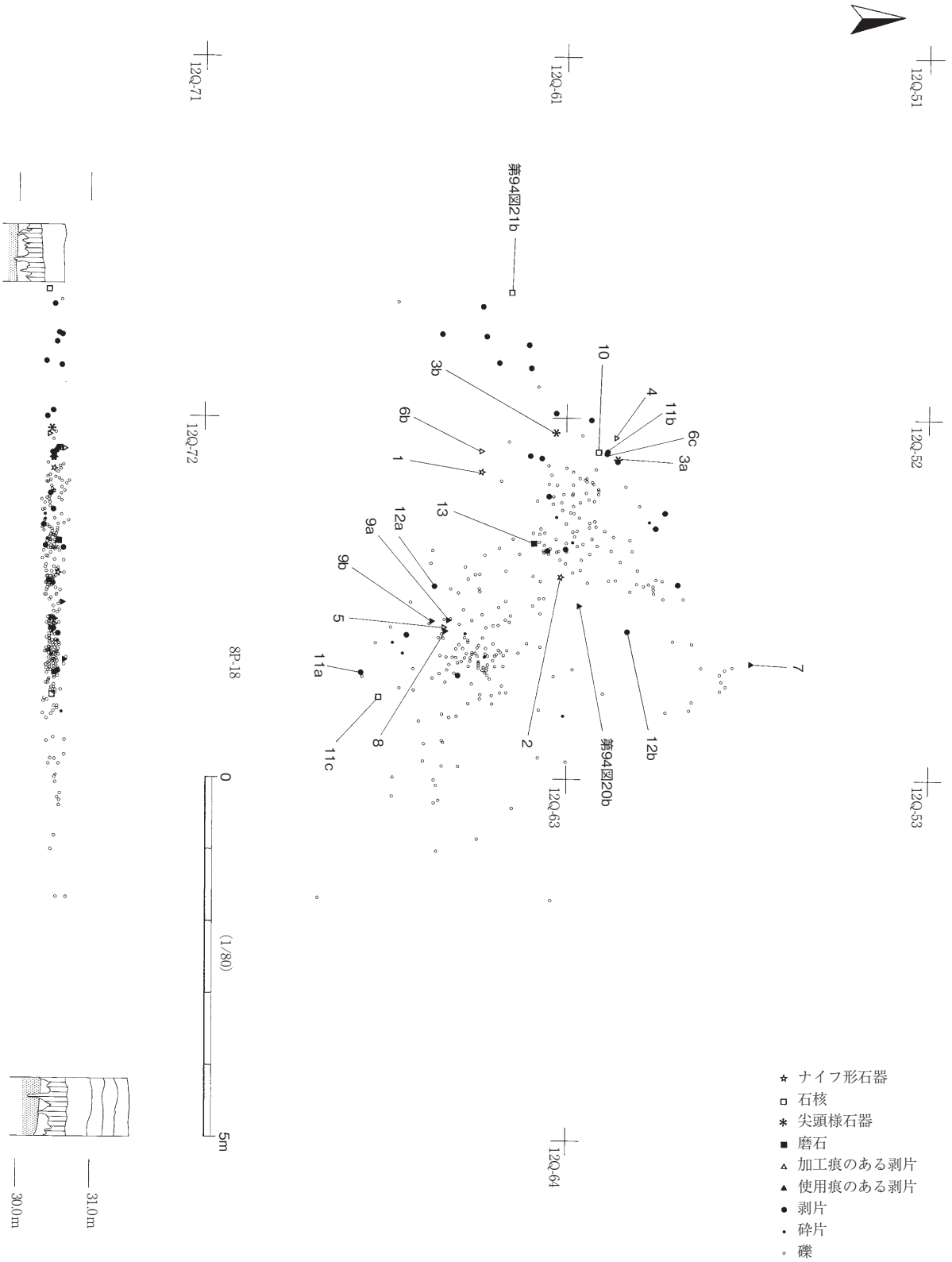
出土遺物の器種別内訳は、ナイフ形石器２点、石核３点、尖頭様石器２点、加工痕のある剥片３点、使用痕のある剥片５点、磨石１点、剥片24点、砕片８点、礫246点である。

礫を除く48点の石器類の使用石材は、黒曜石、頁岩、安山岩、黒色安山岩、凝灰岩、緑色凝灰岩に分類でき、頁岩が80％近くを占めている。頁岩は肉眼的観察で同様な種類のものと判断できるものが７種（頁岩１～７）みられる。なお黒曜石、凝灰岩においても同様の石材が認められる。

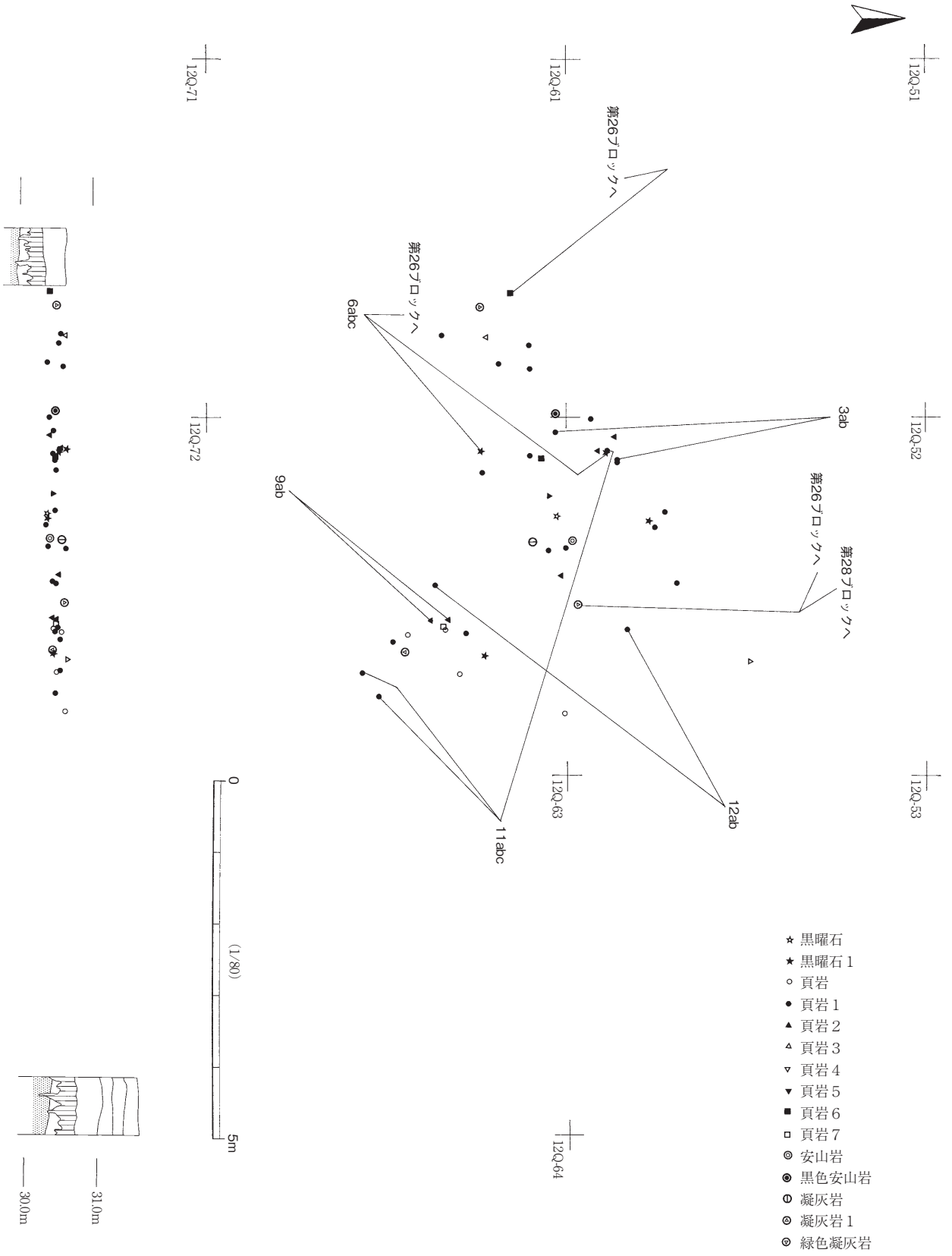
１・２はナイフ形石器である。１は頁岩１製の厚みを持つ横長剥片を素材として、打面部を調整するかのように打面側の側縁に基部から先端部まで調整剥離が施されている。２は頁岩５製の横長剥片を素材とし、１と同様に打面側の一側縁に全体に細かな調整剥離が施されている。基部の一部が欠損している。

３a・ｂは頁岩１製の厚手の横長剥片を素材とし、左側側縁には中間部から先端部にかけて両面からの粗い調整剥離により尖頭状に作り出されている尖頭様石器である。右側縁は裏面の基部に粗い調整剥離を施し基部の成形を行っている。この石器は中間部で二つに欠損しており、１m程離れて出土している接合資料である。

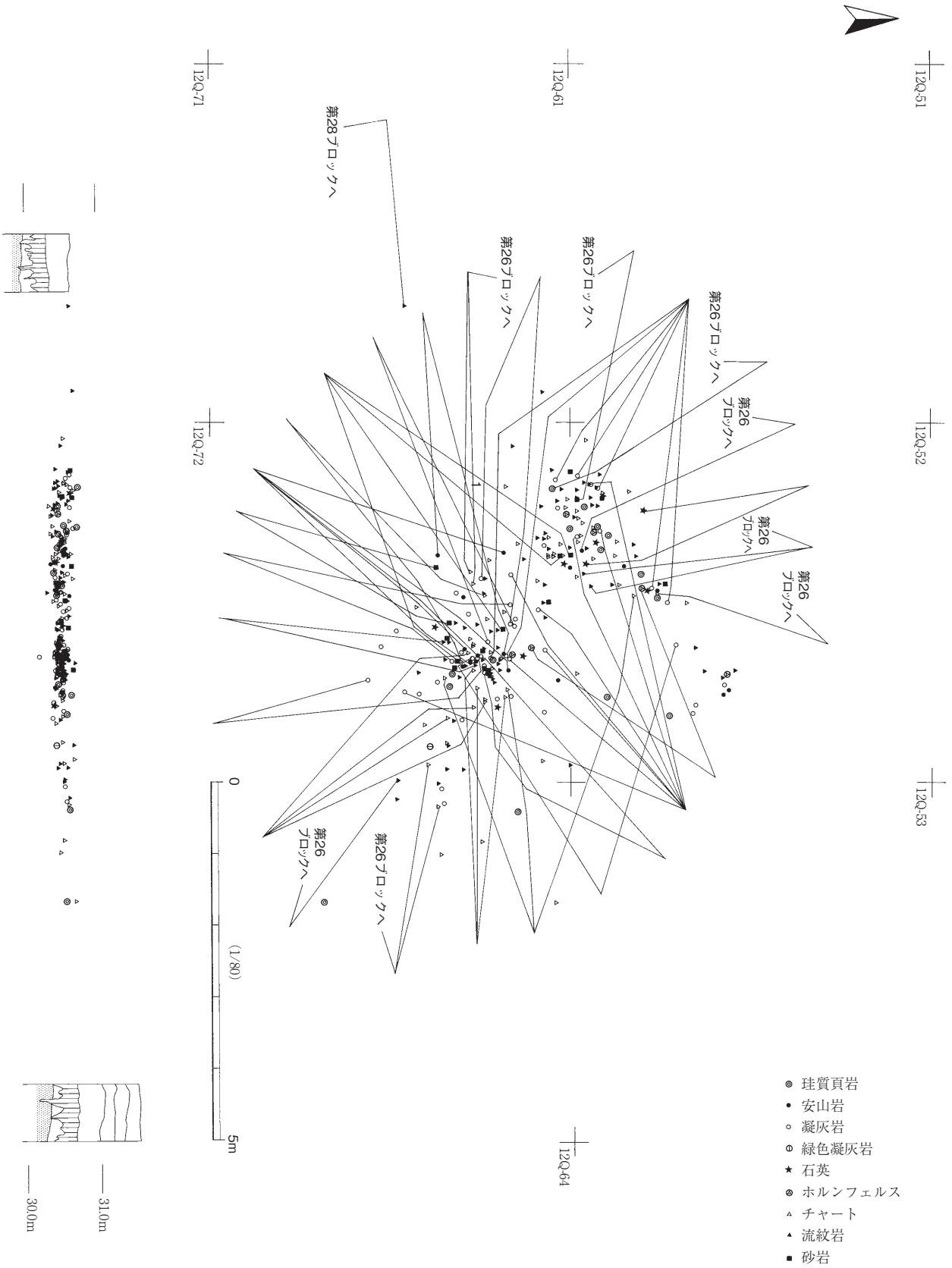
４～６は加工痕のある剥片である。４は頁岩５製の縦長剥片を素材とし、右側縁は頭部から尾部に至るまで、左側側縁は頭部分に微細な調整剥離が丁寧に施されている。剥片の打面・打瘤は残されたままである。５は頁岩７製の頭部の欠損した厚手の大型縦長剥片の一側縁の一部に調整剥離が施されたものである。また調整剥離が施されていない側縁部にも使用痕が認められる。６a～ｃは黒曜石１製の縦長剥片の頭部の一側縁に微細な調整剥離が施されている。本資料は３点の接合資料であり、ａ・ｂの接合は欠損によるもので、ｃは本石器を作り上げるための調整剥片である。なお、ａは隣接する第26ブロック内からの出土である。



第95図　第27ブロック器種別分布図



第96図　第27ブロック石器石材別分布図



第97図　第27ブロック礫石材別分布図

７～９は使用痕のある剥片である。７は頁岩３製の石刃状剥片を素材とし、両側縁に使用痕が認められる。剥片頭部・尾部は欠損しているが意図的に折られた可能性も考えられる。８は頁岩製の縦長剥片を素材とし、鋭利な側縁部に使用痕が認められる。剥片には打面･打痕が残されたままである。９は２点（ａ･ｂ）の使用痕のある剥片が接合する資料である。頁岩５を石材とし、同一の打面から連続的に剥離された剥片の内の２点と思われる。２点の背面に残る剥片剥離痕から、剥片剥離作業は打面を移動しながら行われていたものと思われる。打面には細かな調整剥離を施さずに剥片剥離面をそのまま利用したものと思われる。採取された剥片もいわゆる不定形剥片と考える。２点とも鋭い側縁に使用痕が認められる。

10は頁岩５製の石核である。９と同様の石材であり同一母岩の可能性も考えられる。上下に広い平坦面を持ち、上面を打面として数回の剥片剥離作業が行われている。しかしその剥離方向にほぼ直行する剥離作業痕もみられる事から、打面は何回かの剥片剥離作業を行った後に移動しながら行ったものと思われ、９の剥片剥離技術と同様な剥片剥離技術による石核である。

11・12は頁岩１を石材とした接合資料である。11は剥片２点（ａ・ｂ）と石核（ｃ）の接合資料で、出土状況はａとｃは40㎝程の距離であるが、ｂとは５m程離れている。９・10と同様に打面は調整などを行わず剥片剥離面をそのまま使い、打面を移動しながら目的剥片を採取している。12（ａ・ｂ）は11と同一母岩の可能性も考えられる剥片同士の接合資料で、３m程離れて出土している。

13は凝灰岩製の磨石である。１/３程欠損しており、当初は拳大ほどの大きさであったと思われる。磨き痕は欠損部以外の礫面全面にみられる。また欠損部を含めた全面に被熱による赤化がみられることから、石器として使用された後に他の礫と同様に再利用された可能性が考えられる。

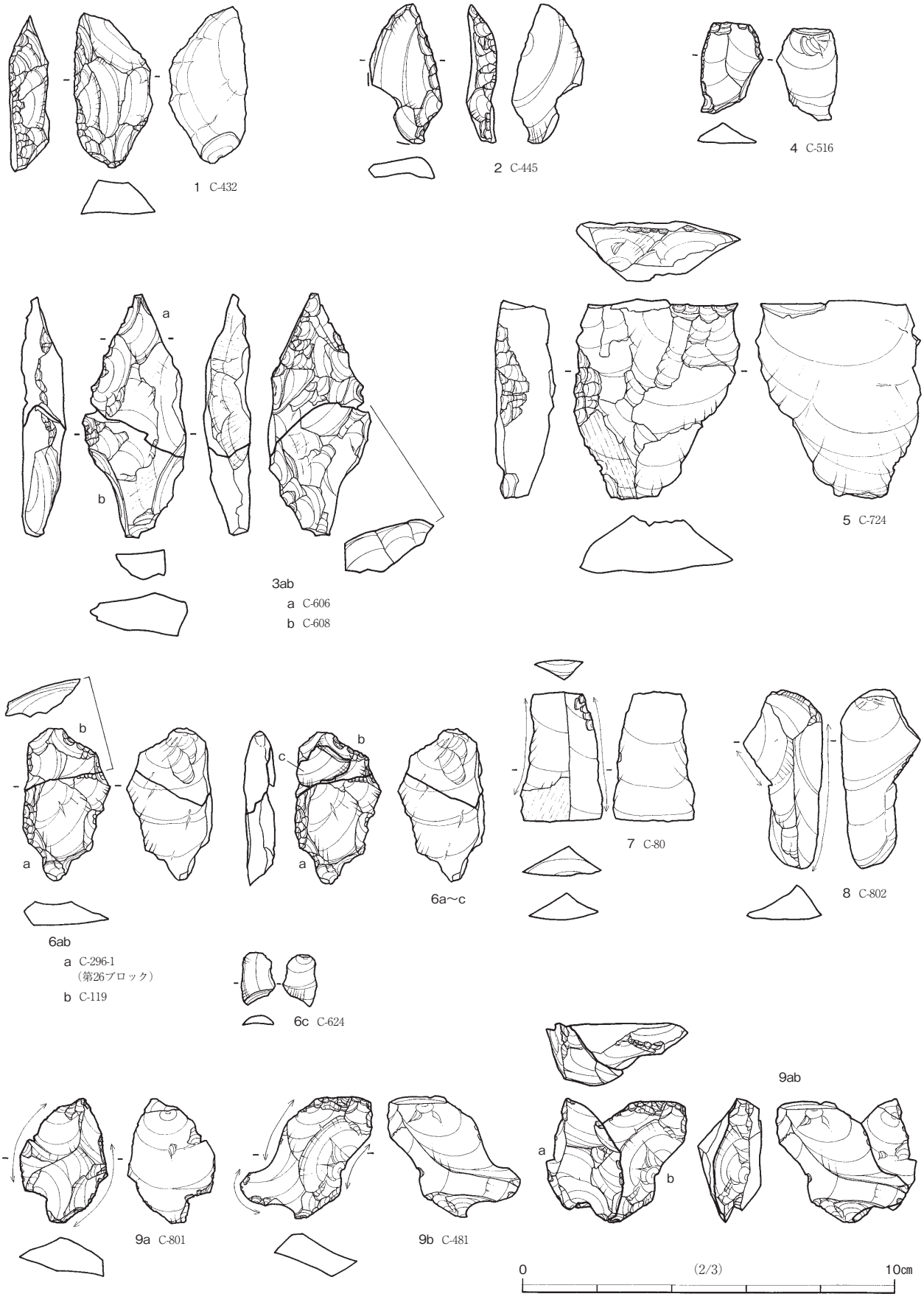
礫群

礫の分布は石器類の分布とほぼ重なっている。礫の石材は、チャート・流紋岩がそれぞれ25％以上、続いて凝灰岩が20％近くを占め、ほかに安山岩、砂岩、珪質頁岩などが僅かずつみられる。ほとんどが破損品で完形に近い状態のものは１点のみで、その多くは熱を受けている。大きさも破損しているため５㎝未満である。そして、接合資料が多くみられることから、本ブロック内で破損したことが窺える。接合した礫から大方の大きさは拳大もしくはそれ以下である。

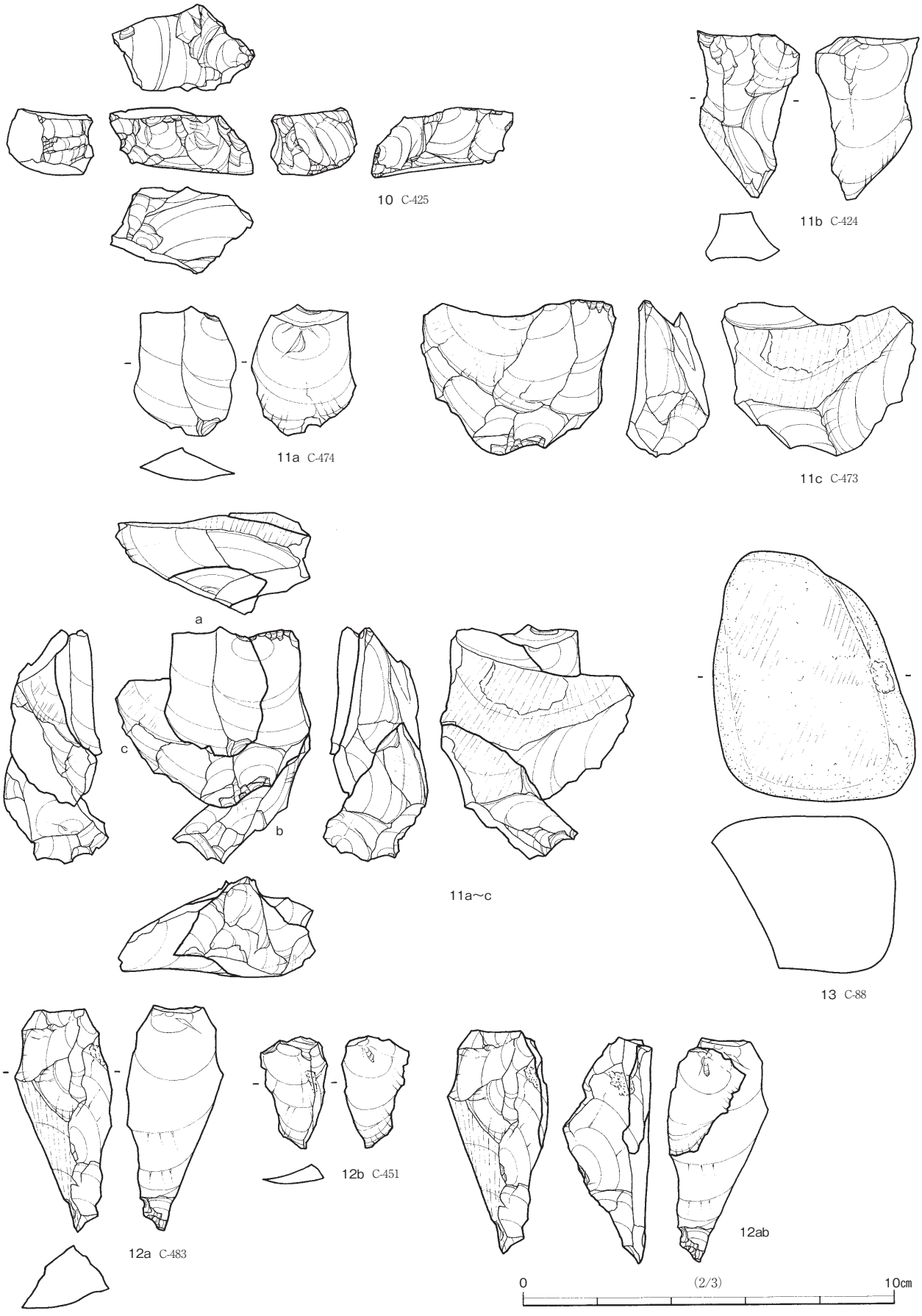
第24表　第27ブロック礫観察表

石材	点数		重量（g）		被熱		完形		大　き　さ			
					点数	重量(g)	点数	重量(g)	a	b	c	d
安山岩	18	7.3%	185.3	8.4%	18	185.3			18			
凝灰岩	47	19.1%	602.4	27.3%	47	602.4	1	52.4	47			
緑色凝灰岩	1	0.4%	23.2	1.1%	1	23.2			1			
珪質頁岩	15	6.1%	164.1	7.4%	15	164.1			13	2		
砂岩	16	6.5%	150.7	6.8%	16	150.7			16			
石英	9	3.7%	67.6	3.1%	8	42.6			9			
チャート	66	26.8%	463.8	21.1%	65	461.8			66			
ホルンフェルス	6	2.4%	130.0	5.9%	6	130.0			5	1		
流紋岩	68	27.6%	416.1	18.9%	68	416.1			67	1		
合計	246	100%	2,203.1	100%	244	2,176.1	1	52.4	242	4		

大きさ　a　５㎝未満
b　５㎝以上 10㎝未満
c　10㎝以上 15㎝未満
d　15㎝以上



第98図　第27ブロック出土石器（1）



第99図　第27ブロック出土石器（2）

4　第28ブロック（第88・100 ～ 102図、第25・28表、図版９・14）

分布

第26ブロックの北東部に隣接する12Q-42・43グリッドを中心に南北４m、東西６m程の範囲に散漫な状態で分布する。そして石器類の分布と重なるように礫の分布がみられる。出土層位は第Ⅲ層上面から第Ⅱｃ層にかけてであり、主体は第Ⅱc層下部に置くものと思われる。出土遺物総数は37点で、この内礫が22点である。

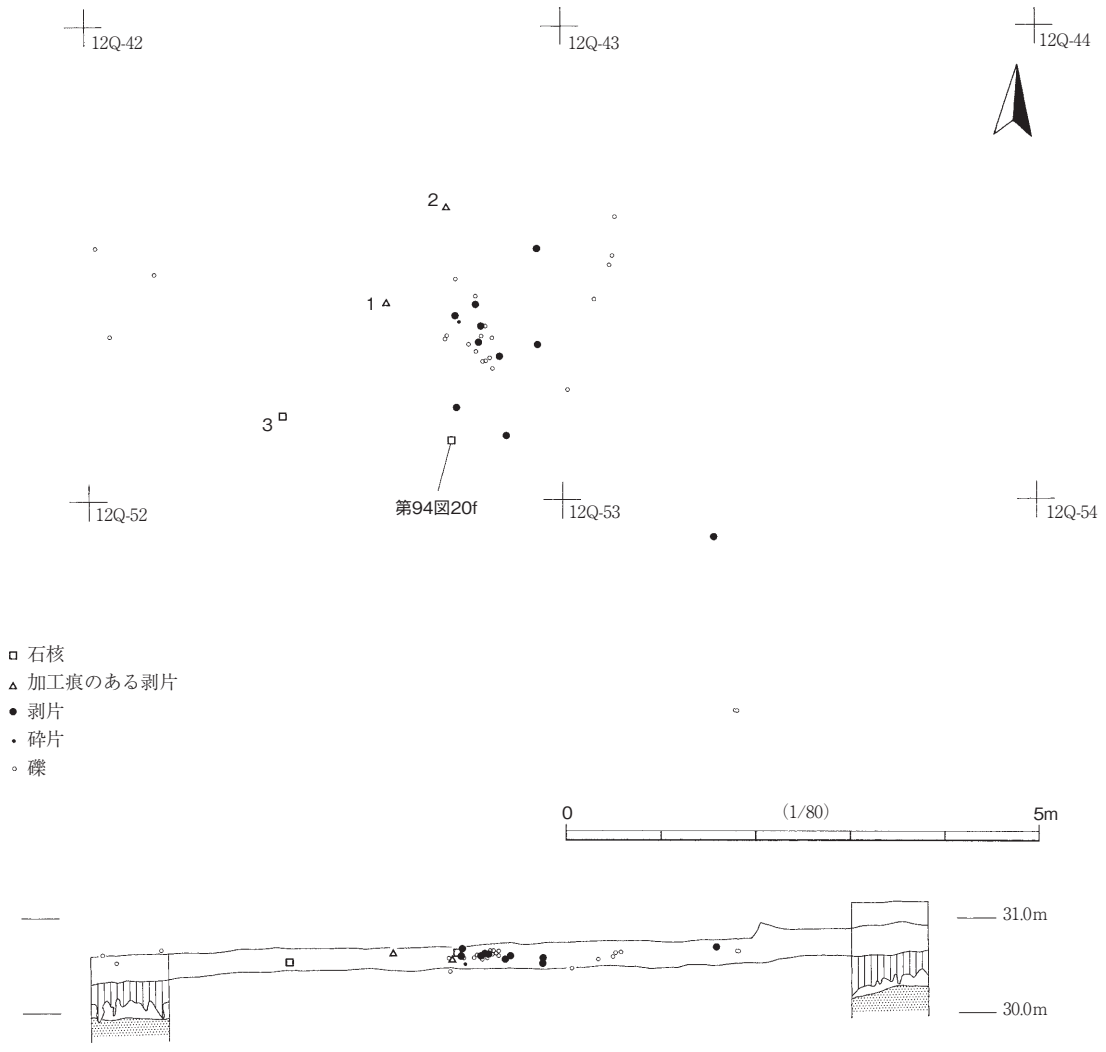
器種・石材

出土遺物の器種別内訳は石核２点、加工痕のある剥片２点、剥片10点、砕片１点、礫22点である。

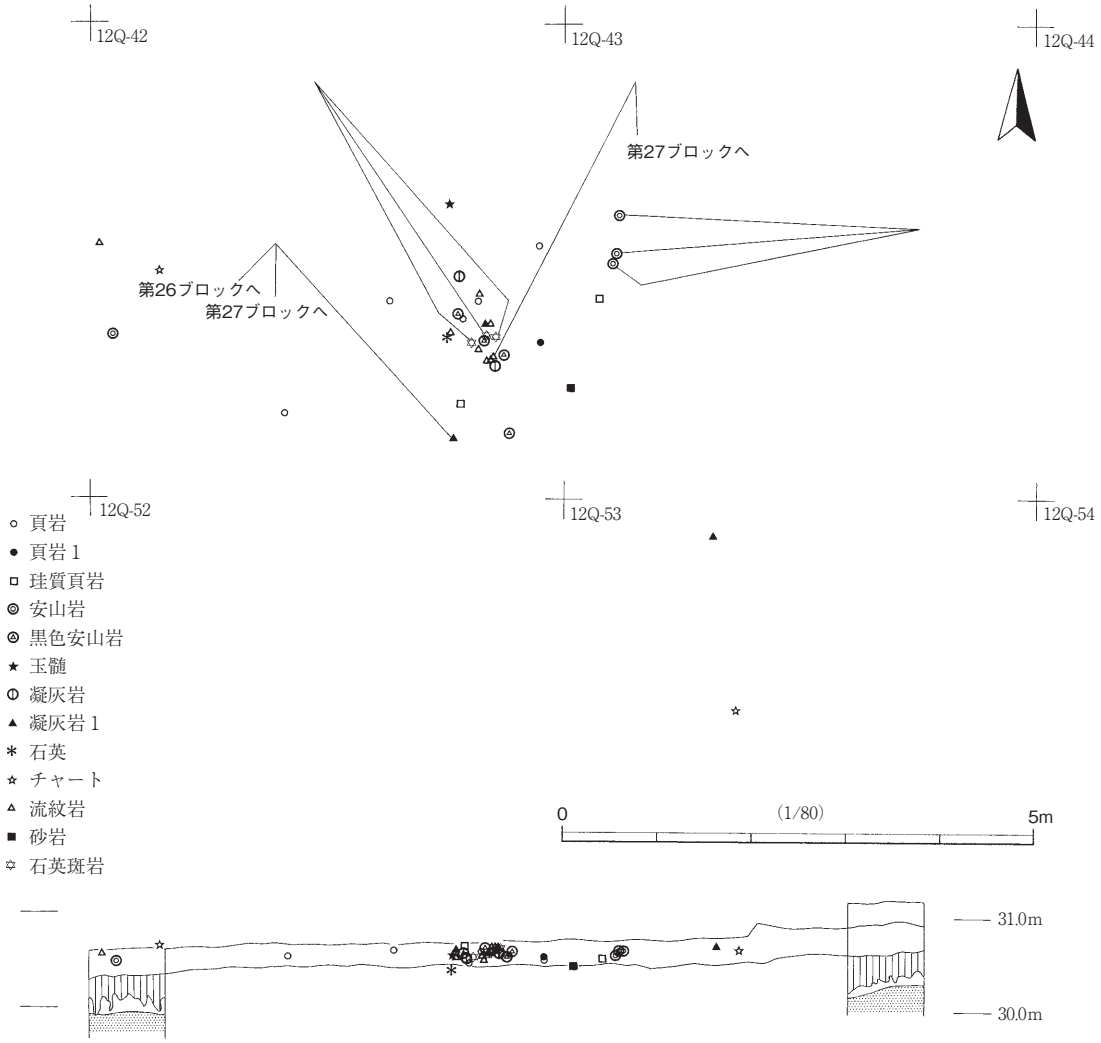
礫を除く石器類の使用石材は頁岩、珪質頁岩、黒色安山岩、玉髄、凝灰岩に分類できる。また頁岩、凝灰岩には第26・27ブロックからも出土している頁岩１、凝灰岩１が含まれる。

１・２は加工痕のある剥片である。１は頁岩製の縦長剥片を素材とし、一側縁にやや抉り状の調整剥離が施されている。２は玉髄製剥片の両側縁に微細な調整剥離が施されている。

３は頁岩製の石核である。推定径５㎝程の節理面を多く含む礫を母岩としている。打面は剥片剥離面を



第100図　第28ブロック器種別分布図



第101図　第28ブロック石材別分布図

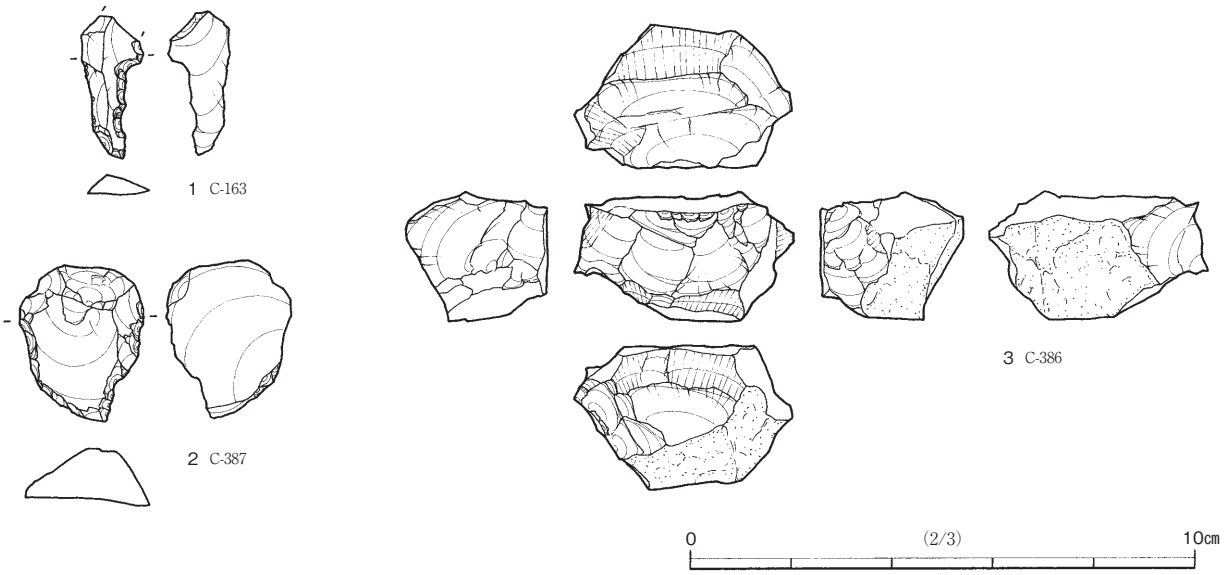
第25表　第28ブロック石器組成表

器種 / 石材	石核 点数	石核 重量	加工痕のある剥片		剥片		砕片		礫		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
頁岩	1	32.5	1	0.9	2	19.6	1	0.1			5	53.1	13.5%	7.6%
頁岩 1					1	3.1					1	3.1	2.7%	0.4%
頁岩　計	1	32.5	1	0.9	3	22.7	1	0.1			6	56.2	16.2%	8.1%
珪質頁岩					1	11.0			1	4.1	2	15.1	5.4%	2.2%
安山岩									4	192.6	4	192.6	10.8%	27.7%
黒色安山岩					4	33.7					4	33.7	10.8%	4.9%
玉髄			1	6.8							1	6.8	2.7%	1.0%
凝灰岩									2	6.6	2	6.6	5.4%	0.9%
凝灰岩 1	1	20.9			2	2.7					3	23.6	8.1%	3.4%
凝灰岩　計	1	20.9			2	2.7			2	6.6	5	30.2	13.5%	4.3%
石英									1	1.1	1	1.1	2.7%	0.2%
チャート									2	4.7	2	4.7	5.4%	0.7%
流紋岩									8	162.8	8	162.8	21.6%	23.4%
砂岩									1	5.1	1	5.1	2.7%	0.7%
石英斑岩									3	186.4	3	186.4	8.1%	26.8%
合計	2	53.4	2	7.7	10	70.1	1	0.1	22	563.4	37	694.7	100%	100%
器種別比	5.4%	7.7%	5.4%	1.1%	27.0%	10.1%	2.7%	0.0%	59.5%	81.1%	100%	100%		

利用しており、移動しながら剥片剥離作業を行っていたものと思われ、採取された剥片は主に小型の縦長剥片であったと思われる。

礫群

礫の分布状況は散漫な状況である。石材は珪質頁岩、安山岩、凝灰岩、石英、チャート、流紋岩、砂岩、石英斑岩と多種である。第26・27ブロックの礫同様に被熱による赤化したものが大半であり、完形のものは皆無である。また、大きさも５㎝未満のものが大半である。



102図　第28ブロック出土石器

5　第29ブロック（第103 ～ 106図、第26・28表、図版９・15）

分布

9P-53・54グリッドに位置し、径２m程の範囲に分布している。出土層位は第Ⅲ層上部から第Ⅱc層にかけてで、主体は第Ⅱc層下部にあるものと思われる。出土遺物総数は13点である。

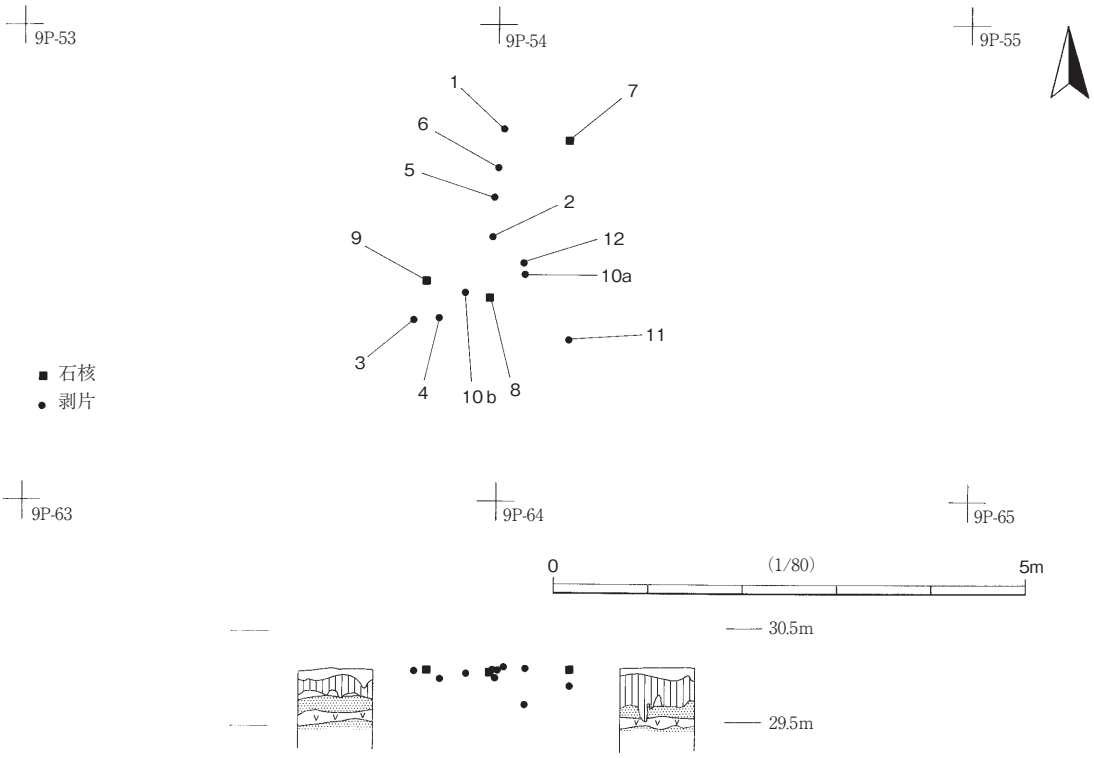
器種・石材

出土遺物の器種別内訳は石核３点、剥片10点である。石材は安山岩（安山岩１）11点と玉髄２点である。そして安山岩１は少なくとも３つ以上の母岩によるものと考えられる。

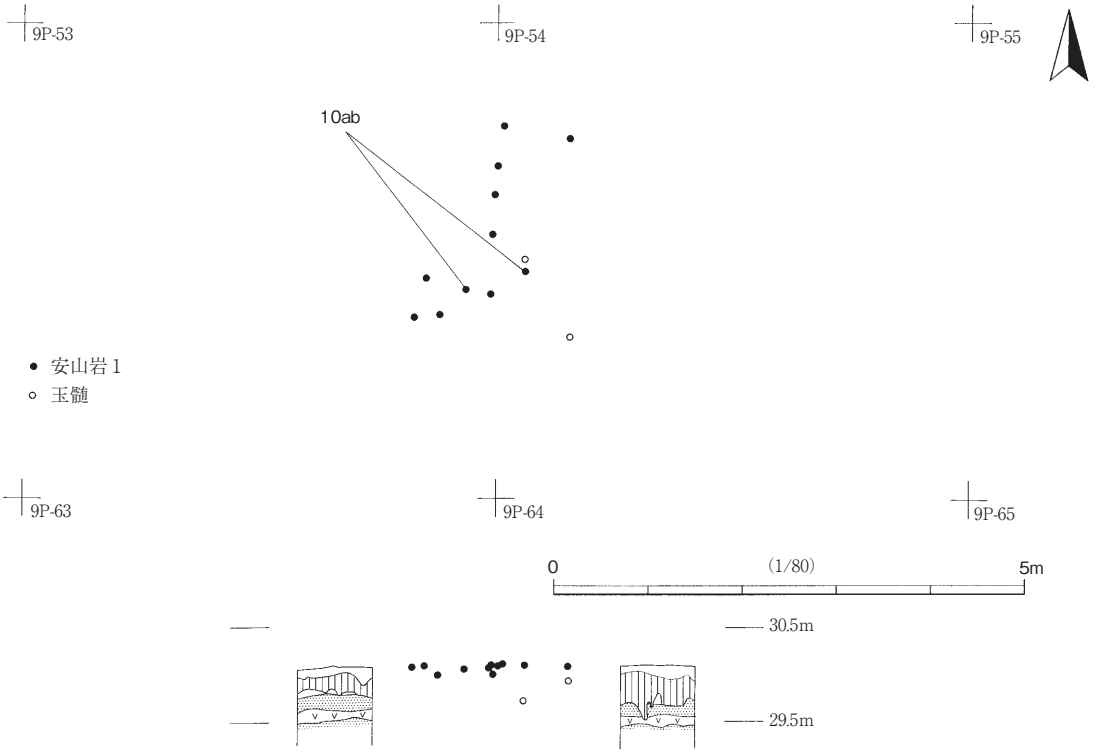
１～６・10a･ｂは安山岩１製の剥片である。この内６以外の剥片には礫面が残っており、母岩から剥片剥離作業を行う工程の早い段階に採取された剥片といえる。１は大型の剥片で、拳大ほどの大きさの母岩から剥離されたものと思われる。背面には打面を作り出すための細かな調整剥離がみられる。後に記載する石核の観察から、打面のための平坦面を作り出すために母岩から極めて初期の段階に剥離された剥片と考えられる。２～６・10a･bについても目的剥片と言うよりは、石核の形や打面等を整えるための調整

第26表　第29ブロック石器組成表

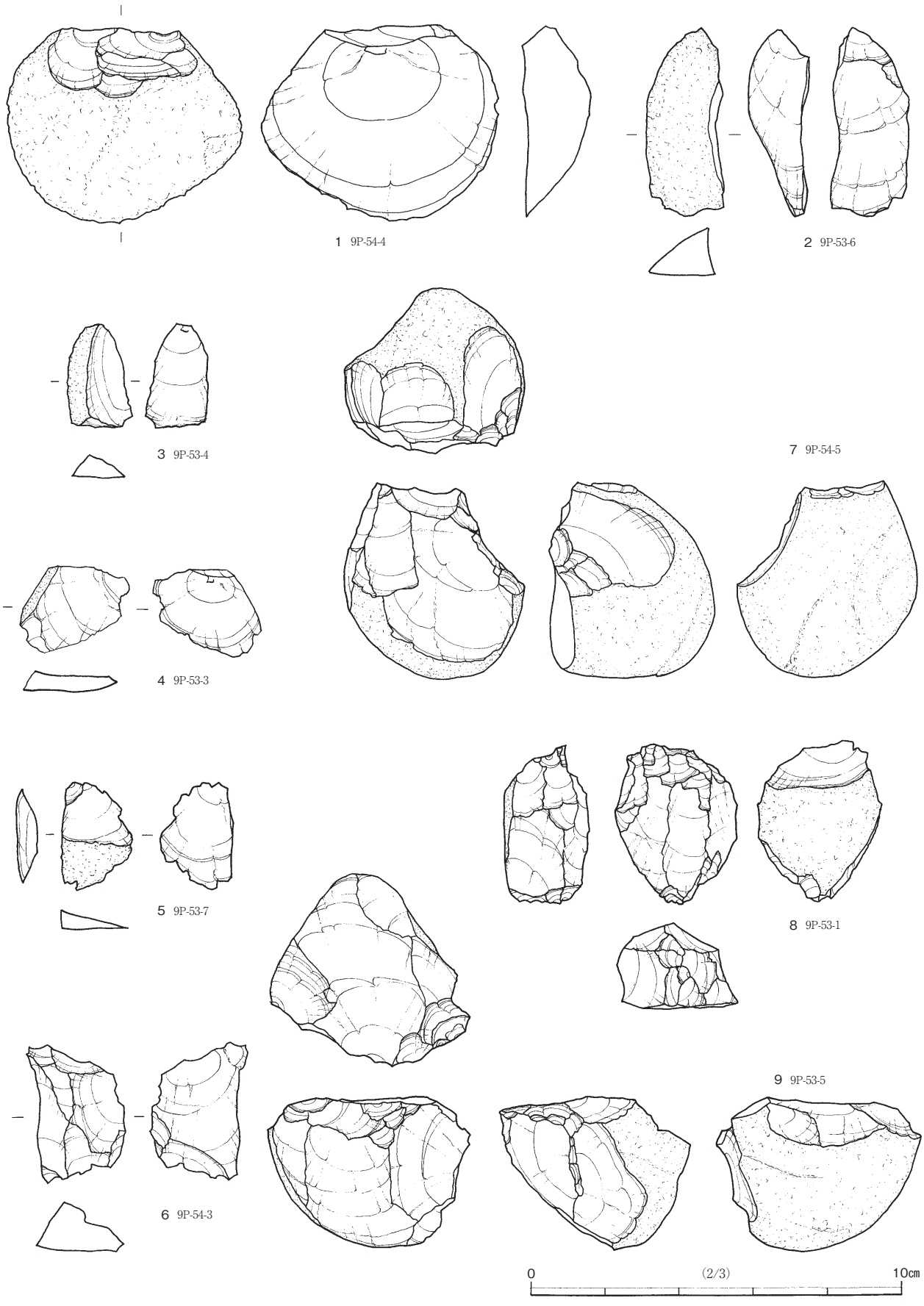
器種 / 石材	石核 点数	石核 重量	剥片		点数計	重量計 (g)	点数比	重量比
安山岩　1	3	296.5	8	119.5	11	416.0	85%	98%
玉髄			2	9.6	2	9.6	15%	2%
合計	3	296.5	10	129.1	13	425.6	100%	100%
器種別比	23.1%	69.7%	76.9%	30.3%	100%	100%		



第103図　第29ブロック器種別分布図



第104図　第29ブロック石材別分布図

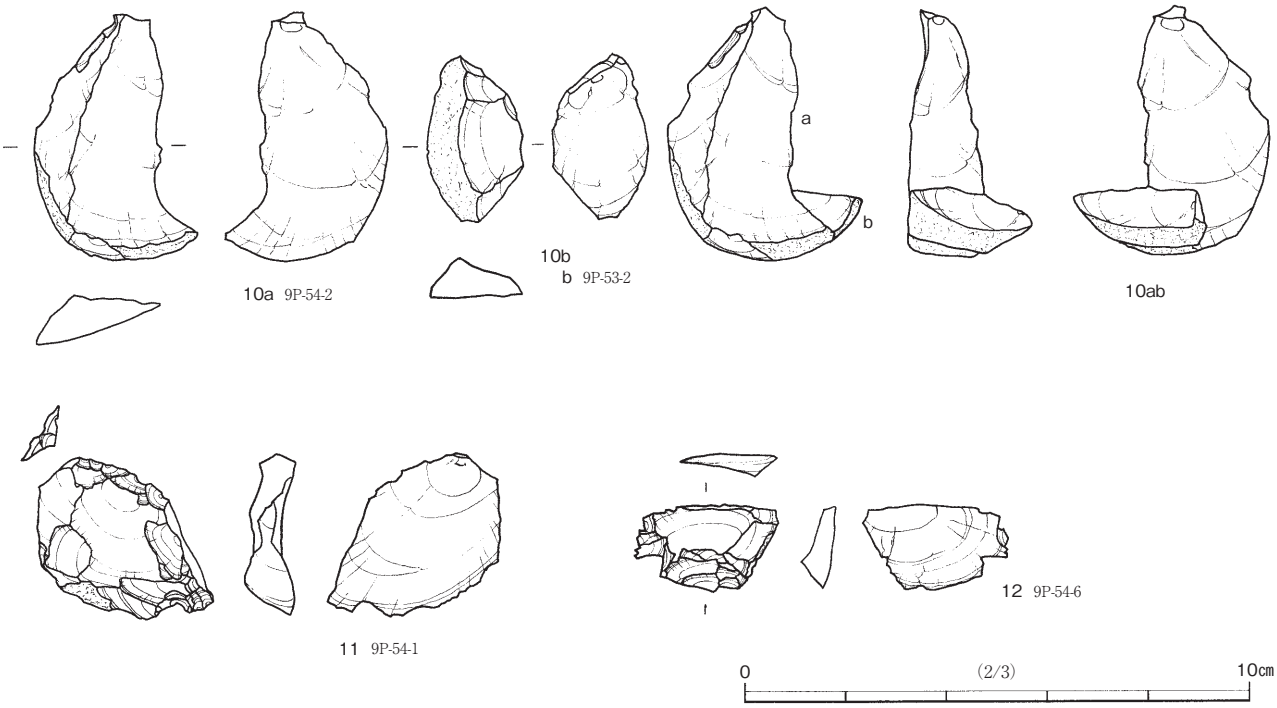


第105図　第29ブロック出土石器（１）

剥片と考えられる。なお、10a･bは0.6m程離れて出土している。

７～９は安山岩１製の石核である。拳大より一回りほど小さい礫を母岩とし、打面を移動しながら打面調整剥離を施し剥片剥離作業を繰り返し行っている。

11・12は玉髄製の横長剥片である。



第106図　第29ブロック出土石器（２）

第６節　グリッド・遺構内出土石器（第107図、第27表、図版15）

出口遺跡は縄文時代以降の遺構が多数検出されており、旧石器時代の調査に先行して実施された調査時に多くの旧石器時代の石器類が出土している。そのうちの定型的な石器は10点を数える。

１は昭和63年度に調査を実施した9P・10Pグリッドに所在するD05古墳調査時に出土した玉髄製の石核である。上下面に打面を持つ両設打面石核で、縦長剥片を連続的に剥離している。

２～４は平成10年度に調査を実施した8Qグリッドに所在したD10古墳調査時に出土した石器類である。

２は頁岩製の細石刃核で、扁平な礫を素材とし、打ち欠くような粗い剥離により石核の形作りと打面作りが行われ、さらに打面には細石刃剥離のための細かな打面調整剥離が施されている。しかし細石刃剥離作業面には調整剥離は施されていない。３は頁岩製の上下面に打面を持つ１と類似した両設打面石核である。４は珪質頁岩製の削片で、細石刃核の打面調整時のものの可能性も考えられる資料である。

５は平成13年度に調査を実施した12QグリッドD区SK2土坑から出土した槍先形尖頭器である。安山岩製で基部の一部と先端部が欠損している。

６は平成19年度に調査を実施した9Oグリッドに所在するD02古墳調査時に出土した頁岩製のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし基部の両側縁に丁寧な調整剥離が施されている。

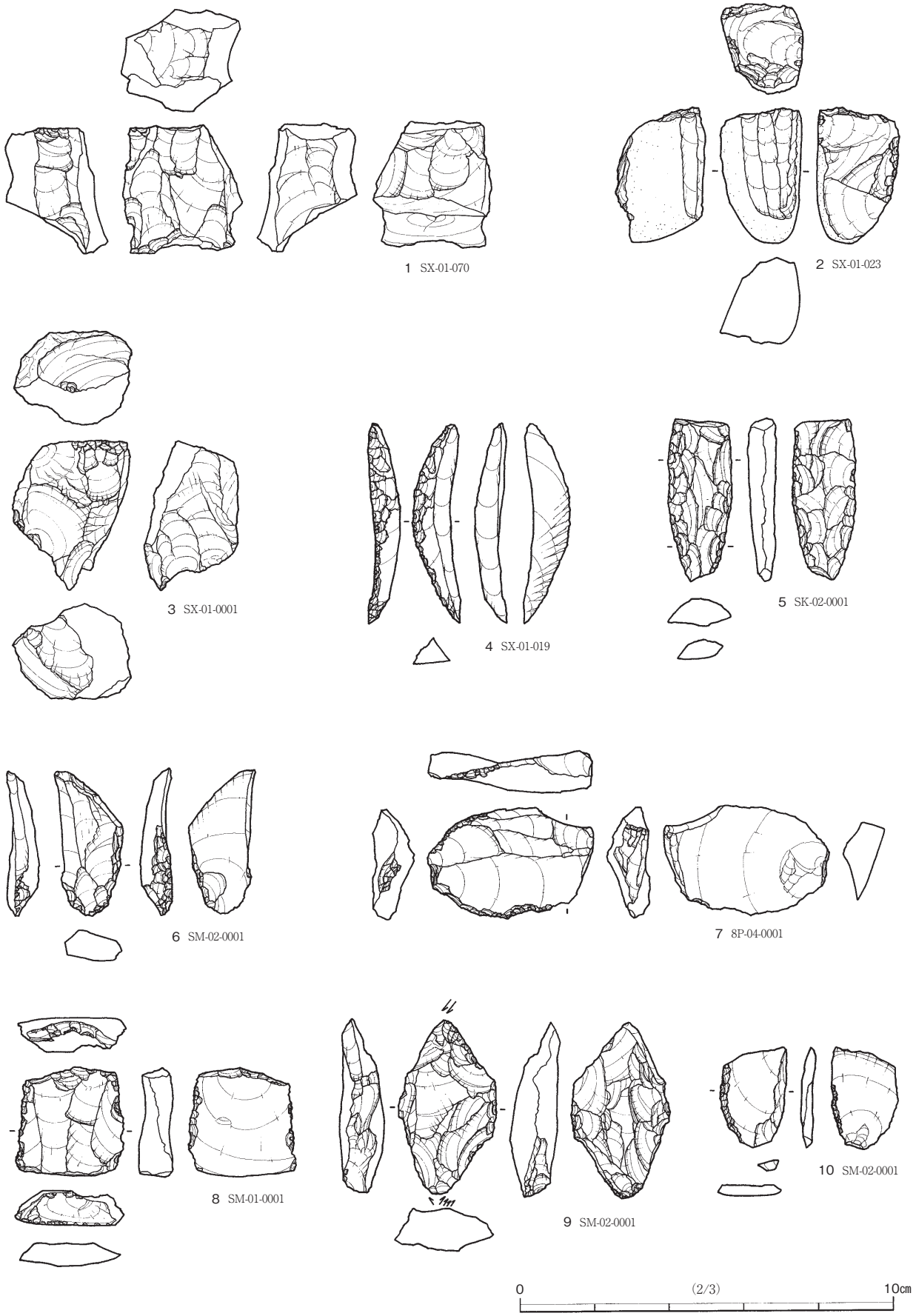
７は平成19年度に調査した8Pグリッド出土の細石刃核である。頁岩製の厚みのある縦長剥片を素材とし、打面・打瘤を残したまま剥片の周辺に細かな調整剥離が施されている。なお、打面には細かな打面調整剥離が施されている。そして剥片の一側縁の尾部側より中間部に向かって１回の削片の剥離により打面を作り出し、細かな打面調整剥離を施しながら細石刃を剥離している。いわゆる峠下型細石刃技法に類似した石核と言える。この石核から採取された細石刃は出土していないが、非常に薄手で小型のものと思われる。

８は平成19年度に調査を実施した9Pグリッドに所在するD06古墳調査時に出土した頁岩製の削器である。石刃状の縦長剥片を中間部当たりから意図的に切断した剥片を素材とし、両側縁に調整剥離を施して刃部を作り出している。また、切断面にも微細な調整剥離が施されていることから、刃部として使用されたと思われる。

９・10は平成20年度に調査を実施したD13古墳調査時に出土した石器類である。９は頁岩製の厚手の横長剥片が素材となっているものと思われる。素材の周縁より入念な調整剥離を施し、特に先端部には薄く鋭利になるような調整が施されている。そして先端部と基部に数条の樋状剥離を施し彫器に仕上げている。10は頁岩製の薄手の縦長剥片を素材とし、一側縁に調整剥離が施されているナイフ形石器である。10の石材は隣接地から検出されている第25ブロックの頁岩13と肉眼的観察ではあるが類似している。このことから９・10は本来は第25ブロックに含まれていた可能性も考えられる。

第27表　グリッド・遺構内出土石器観察表

挿図番号		出土地	遺物番号	器種	石材	最大長（㎜）	最大幅（㎜）	最大厚（㎜）	重量（ｇ）	備考
107 図	1	② SX-01	070	石核	玉髄	33.8	36.0	27.0	28.11	D05 古墳調査時出土
107 図	2	⑤ SX-01	023	細石刃核	頁岩	36.0	24.0	21.2	21.61	D10 古墳調査時出土
107 図	3	⑤ SX-01	0001	石核	頁岩	40.0	31.5	24.9	27.54	D10 古墳調査時出土
107 図	4	⑤ SX-01	019	削片	珪質頁岩	53.5	12.5	8.6	3.19	D10 古墳調査時出土
107 図	5	⑧ SK-02	0001	槍先形尖頭器	安山岩	43.2	17.2	7.8	6.76	D区 SK-2土坑調査時出土
107 図	6	⑩ SM-02	0001	ナイフ形石器	頁岩	38.9	18.2	8.5	5.09	D02 古墳調査時出土
107 図	7	⑫ 8P - 04	0001	細石刃核	頁岩	29.3	44.2	11.0	11.05	グリッド一括遺物
107 図	8	⑫ SM-01	0001	削器	頁岩	29.0	29.0	9.0	8.56	D06 古墳調査時出土
107 図	9	⑬ SM-02	0001	彫器	頁岩	47.5	26.2	12.1	12.80	D13 古墳調査時出土
107 図	10	⑬ SM-02	0001	ナイフ形石器	頁岩	27.0	17.9	3.5	1.49	D13 古墳調査時出土



第107図　グリッド・遺構内出土石器

第３章　まとめ

石器群の様相

出口遺跡の旧石器時代調査では、29地点のブロックが検出されている。これらのブロックは、本文中に記述してきたように出土層位から５つの時期(文化層）に分けることができる。

第１文化層

Ⅸｃ層からⅦ層内に主体を置くブロックで第１から第10ブロックまでの10ブロックがこれに当たる。しかし、出土遺物数が５点を越えるブロックは４・５・６・７・９の５ブロックであるため、残りの５ブロックについては小規模なブロックとなる。５・６ブロックは隣接し、石器組成からも共通部分がみられることから相互に関連をもって存在していたものと思われるが、他のブロックはそれぞれに距離があり単独で存在していたと思われる。

本文化層からの出土遺物総数は244点である。器種別内訳はナイフ形石器６点、楔形石器１点、局部磨製石斧３点、石核10点、加工痕のある剥片４点、使用痕のある剥片７点、剥片172点、砕片40点、礫１点である。この器種別石器のうち本文化層の特徴的な石器として第一に局部磨製石斧があげられる。本石器は、隣接する遺跡(清水遺跡、御山遺跡、小屋ノ内遺跡）においても出土しており、物井地区に所在する当該期のブロックに伴う特徴的な石器といえる。ナイフ形石器においては、第４ブロックから縦長剥片を素材とした柳葉状の形の整ったものが１点みられるが、他のナイフ形石器は横長のいわゆる不定形な剥片を素材としたものである。剥片類から見てもいわゆる不定形なものが多い。これは剥片剥離技法によるものであり､主となる技法は５ブロックの接合資料でみられるように節理面などの均一性の低い石材を用い、良質な部分を探し出すような剥離工程を繰り返し行いながら目的剥片を採取する結果によるとも考えられる。

楔形石器が１点出土している。他の周辺遺跡では文化層を越えて多くみられる器種であるが、この遺跡においては、この１点が全文化層を含めても唯一のものであった。

第２文化層

Ⅵ層からⅤ層内に主体を置くブロックで、第11から第17ブロックまでの７ブロックが該当する。この７つのブロックのうち第11 ～ 15ブロックは分布状況で隣接しており、また石器組成においても同様な状況がみられることから、相互に強い関係を持ちながら存在していたブロック群であるといえる。16・17ブロックにおいては、出土遺物数が１点、２点と僅かであるため先の相互に関係を持つ５つのブロックの特徴が本文化層の特徴となる。

第一の特徴は使用石材にみられる。本文化層中からの出土遺物総数は232点である。その内の約94％に当たる218点が黒曜石である。この黒曜石のうち肉眼的観察ではあるが１点を除いて高原山・甘湯沢群とされる黒曜石の特徴がみられる。唯一異なる黒曜石は、透明性の高いいわゆる和田峠・男女倉群とされる黒曜石の特徴を持ったものである。このように本文化層における使用石材には非常に極端な偏向性がみられる。

出土遺物の器種別内訳は、ナイフ形石器12点、掻器１点、削器１点、角錐状石器２点、石核２点、尖頭

様石器１点、加工痕のある剥片11点、使用痕のある剥片13点、剥片118点、砕片71点である。なお、ナイフ形石器12点のうち１点は２つの資料が接合したものであるため個体数としては11点である。

11点のナイフ形石器のうち６点が先端部の形状が尖頭状でなく、斜向状もしくは直刃状の形状のものである。この６点のナイフ形石器のうち５点が横長剥片を素材とし、先端部が尖頭状のナイフ形石器はすべてが縦長剥片を素材としている。

角錐状石器２点が本文化層中から出土している。他の文化層中からの出土例はみられず本文化層中のみの出土である。

石核には、比較的大型で打面を移動しながら大型の剥片を採取しているものと、小型の立方体状の形状で小型の横長もしくは幅広の剥片を採取した石核がみられる。

第３文化層

Ⅴ層からⅣ層内に主体を置く石器群で、第18から第23ブロックまでの６ブロックがこれに該当する。この６ブロックのうち第23ブロックが離れた地点に位置しているが、残りのブロックは遺跡の南側より深く入り込んでいる谷の東側台地上に位置し、比較的隣接して分布している。この５つのブロックは相互に関連していた可能性が高いと思われ、第18・19ブロック、第20・21・22ブロックは石器組成においても共通部分がみられることから特に関連が深いブロック群と思われる。

出土遺物総数は68点と１ブロック当たりの出土遺物数が他の文化層のものと比較して少なく、いずれも小規模ブロックである。使用石材では頁岩・安山岩で60％以上を占め、残りは幾つかの石材が少しずつ使用されている。

器種別内訳はナイフ形石器３点、石核４点、磨石４点、敲石１点、加工痕のある剥片１点、剥片41点、砕片１点、礫13点である。石器組成の特徴としては、礫及び礫石器が第一に挙げられる。礫については後に記述する第５文化層になると大量の出土がみられるが、それまでは第１文化層で僅か１点検出しているのみであり、本文化層において石器組成上の割合が多く占めるようになり、磨石、敲石といった石器もみられる。

ナイフ形石器は３点のみの出土であるが、いずれも小型であり、形状においては切り出し型に近いものが１点、台形状に近いものが１点である。この２点は横長剥片を素材としている。

剥片剥離技法は、小型の剥片を打面を移動しながら採取したと思われる小型の石核と大型剥片を素材として、横長剥片もしくは幅広の縦長剥片を連続的に採取した石核がみられる。このことから、本文化層においても二種類の剥片剥離技法が使われていたことが窺える。

第４文化層

Ⅳ層上部からⅢ層下部に主体を置く石器群で、第24ブロックの１ブロックのみが該当する。

１ブロックのみで出土遺物総数も６点と少数であるため、本文化層の特徴を十分に述べることはできない。使用石材は１点を除いて頁岩である。この石材にみられる傾向は次に続く第５文化層の使用石材にみられる傾向に繋がるものである。器種別では、ナイフ形石器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片１点、剥片３点である。ナイフ形石器は薄い横長剥片を素材とし、素材の形状を利用し軽易な調整剥離により作り出されている。

第108図　文化層別出土主要石器（B：ブロック）

第５文化層

Ⅲ層上部からⅡｃ層下部に主体を置く石器群で、第25から第29ブロックまでの５つのブロックが該当する。これらのブロックの分布状況は、第25・29ブロックは単独であるが、第26 ～ 28ブロックは隣接しており相互に深く関わりを持つブロック群であり、遺物集中地点として本文化層での出土地点は３か所に分けられる。そしてこの３か所は石材及び石器組成においてそれぞれに特徴がみられる。

第25ブロックでは使用石材において黒曜石が70%以上、残りの大半は頁岩が占めている。この頁岩は色調的に特徴をもった頁岩であり、他の文化層を含めても本ブロックでのみみられるものである。さらにこの頁岩を素材として特徴的形態の掻器、削器を作り出している。黒曜石は、ナイフ形石器とこの時期の特徴的な石器の一つである細石刃やその他の石器素材に用いられている。頁岩は特異な石材として意図的に選択されているようである。なお､細石刃については細石核が出土しておらず明確な技法は不明であるが、グリッド・遺構内出土石器として異なった２種類の細石刃核が出土している。一つは円錐形を呈し、礫面を多く残したものである。もう一つは大型剥片を素材とし舟形状に近い形状のものである。このことから本遺跡における細石刃技法は最低２種類が使用されていたといえる。

第29ブロックは同様な安山岩を石材とした石核と剥片のみの出土地点である。

第26 ～ 28ブロックの大きな特徴は、礫群を伴うことと、礫を除く使用石材の70％以上に頁岩が用いられていることである。礫群を構成する礫は、ほとんどのものが破損し、被熱している。石材としては凝灰岩、チャート、安山岩が多くを占めている。剥片剥離技法においては接合資料が多く得られ、大型剥片を採取するものと小型の剥片を採取する二種類の技法が使用されていたものと思われる。

本文化層全体での出土石器総数は1,579点でその内礫が1,184点である。礫を除く395点の器種別内訳はナイフ形石器７点、掻器４点、削器２点、細石刃７点、尖頭様石器２点、石核10点、磨石１点、加工痕のある剥片14点、使用痕のある剥片11点、剥片255点、砕片82点と他の文化層と比較してバラエティーに富んでいる。

ナイフ形石器は小型のものが多く、２点が縦長剥片を、残りは横長剥片を素材としている。いずれも素材の形状を生かしたもので、調整剥離も簡易である。

以上本遺跡の旧石器石器群の様相を見てきたが、本遺跡から検出されたブロックの分布状況は本文中でも述べたが､遺跡の南側より遺跡を二分するように入り込んでいる谷の両側の台地上に集中してみられる。しかし、この谷の東側の台地上には自動車学校の敷地が大部分を占めて、西側台地上には工場と保存区域が大部分を占めている。これらの未調査区域において遺存状況が良好であるならば、旧石器時代のブロックが今回報告する以上の数多く残されていることも十分に推測でき、本遺跡が旧石器時代の大規模な遺跡となる可能性も十分あるものと思われる。

第28表　ブロック別石器観察表

第１ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
10 図	1	1	14S-00	1	加工痕のある剥片	頁岩	-		24.6	23.5	7.3	3.02
10 図	2	1	14S-00	2	剥片	頁岩	-		27.9	36.2	16.9	13.12

第２ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
11 図	1	1	12O-80	1	剥片	頁岩	-		42.3	40.0	11.6	14.90

第３ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
14 図	1	1	11O-90	1	剥片	頁岩	-		54.3	36.6	16.8	23.98

第４ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
17 図	2	1	10O-21	2	ナイフ形石器	頁岩	-		31.1	12.1	5.9	2.19
17 図	4	1	10O-21	3	使用痕のある剥片	頁岩	-		65.0	21.9	12.3	11.15
		1	10O-22	3	剥片	頁岩	6		9.6	12.5	1.5	0.15
		1	10O-22	4	剥片	頁岩	-		14.6	13.1	2.6	0.36
		1	10O-22	5	砕片	頁岩	6		8.9	4.7	1.9	0.09
		1	10O-22	6	砕片	凝灰岩	1		9.3	16.4	3.9	0.38
		1	10O-22	7	砕片	頁岩	-		8.8	11.4	3.2	0.20
		1	10O-22	8	砕片	頁岩	6		6.9	9.5	1.8	0.12
		1	10O-22	9	砕片	頁岩	-		17.0	11.2	1.9	0.31
		1	10O-22	10	砕片	頁岩	-		11.1	10.7	1.7	0.15
		1	10O-22	11	砕片	頁岩	6		5.8	10.4	1.6	0.08
17 図	3	1	10O-22	12	楔形石器	頁岩	6		25.1	22.4	5.9	3.33
		1	10O-22	13	剥片	頁岩	7		9.4	18.8	6.4	0.90
17 図	6	1	10O-22	14	剥片	頁岩	6		12.6	22.8	6.1	1.26
		1	10O-22	15	砕片	凝灰岩	1		9.8	13.4	4.3	0.29
17 図	5b	1	10O-22	16	砕片	頁岩	6	58	8.4	16.5	3.0	0.28
17 図	5a	1	10O-32	2	加工痕のある剥片	頁岩	6	58	39.1	24.7	9.2	6.38
		1	10O-32	3	剥片	頁岩	7		9.3	12.4	2.6	0.29
		1	10O-32	4	剥片	頁岩	7		9.1	14.9	3.6	0.43
17 図	1	1	10O-32	5	ナイフ形石器	凝灰岩	1		59.2	16.8	8.0	6.65

第５ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
		1	12R-12	E- 2-1	剥片	頁岩	1		16.5	10.9	4.6	0.83
		1	12R-12	E- 2-2	砕片	頁岩	1		4.0	10.7	4.0	0.14
		1	12R-02	E- 3	剥片	頁岩	1		10.8	10.3	2.4	0.25
		1	12R-12	E- 4	剥片	頁岩	1		16.4	22.9	11.0	4.78
		1	12R-02	E- 5	剥片	玉髄	1		21.9	24.0	5.0	2.52
		1	12R-03	E- 6	剥片	玉髄	1		22.7	11.3	4.6	0.86
		1	12R-13	E- 7	剥片	玉髄	2		18.4	13.9	3.1	1.05
		1	12R-13	E- 8	砕片	頁岩	1		14.8	14.2	7.1	1.71
26 図	15a	1	12R-03	E- 9	剥片	頁岩	2	5	20.4	31.6	7.5	4.63
		1	12R-03	E- 10	剥片	安山岩	1		12.2	18.4	4.3	0.95
		1	12R-03	E- 11	剥片	頁岩	1		15.6	17.8	4.9	1.05
		1	12R-02	E- 12	剥片	安山岩	1		10.8	21.1	3.2	0.56
		1	12R-02	E- 13	剥片	玉髄	1	17	26.2	9.1	5.5	1.00
		1	12R-02	E- 14	剥片	頁岩	1		14.7	6.7	2.3	0.20
		1	12R-02	E- 15	剥片	頁岩	2		26.1	16.6	6.1	2.56
		1	12R-12	E- 16	砕片	玉髄	1		14.1	10.7	6.6	1.03
		1	12R-02	E- 17	剥片	頁岩	1	4	28.4	11.1	7.1	3.51
		1	12R-02	E- 18	砕片	玉髄	2		10.9	14.5	5.2	0.85
		1	12R-03	E- 19	剥片	安山岩	1		11.5	18.0	4.4	0.69
		1	12R-02	E- 20	剥片	玉髄	1		21.2	12.5	7.6	0.99
24 図	12k	1	12R-02	E- 21	ナイフ形石器	頁岩	1	2	42.1	16.2	9.0	4.90
24 図	12d	1	12R-02	E- 22	剥片	頁岩	1	2	21.2	27.0	16.9	5.65
24 図	12i	1	12R-02	E- 23	剥片	頁岩	1	2	37.0	16.4	10.4	5.18
		1	12R-02	E- 24	剥片	頁岩	1		11.1	25.8	7.7	2.08
		1	12R-02	E- 25	砕片	頁岩	1		13.4	10.6	7.7	0.83
24 図	12b	1	12R-02	E- 26	石核	頁岩	1	2	26.7	36.4	24.4	21.12
		1	12R-02	E- 27	剥片	玉髄	1	16	40.0	27.4	14.8	13.81
		1	12R-02	E- 28	剥片	頁岩	1		20.0	16.0	9.5	1.98
24 図	12j	1	12R-02	E- 29	剥片	頁岩	1	2	36.9	21.0	11.1	6.90
		1	12R-12	E- 30	剥片	珪質頁岩	-		33.5	21.6	6.2	4.11
		1	12R-13	E- 31	剥片	玉髄	1		24.0	19.5	8.9	1.96
		1	12R-03	E- 32	剥片	砂岩	1		48.1	76.6	11.7	24.65
		1	12R-02	E- 33	剥片	玉髄	3		12.3	14.1	4.7	0.81
		1	12R-02	E- 34	剥片	玉髄	1		11.3	17.9	4.7	0.87
		1	12R-13	E- 35	砕片	安山岩	-		6.5	6.2	1.3	0.08

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
		1	12R-02	E- 36	剥片	玉髄	1		25.0	27.3	12.1	8.44
		1	12R-02	E- 37	剥片	頁岩	1	4	40.4	29.5	20.5	15.53
		1	12R-12	E- 38	剥片	玉髄	1		15.5	15.4	8.7	1.79
		1	12R-02	E- 39	剥片	安山岩	1		18.3	17.1	4.2	1.12
21 図	6a	1	12R-13	E- 40	剥片	玉髄	1	15	51.7	40.6	14.5	20.94
26 図	15e	1	12R-13	E- 44	剥片	頁岩	2	5	34.6	25.3	7.3	5.91
21 図	3	1	12R-13	E- 45	使用痕のある剥片	玉髄	1		25.4	23.2	10.8	4.45
		1	12R-13	E- 46	剥片	頁岩	3		33.7	23.0	10.3	9.37
		1	12R-13	E- 47	剥片	頁岩	3		23.2	15.3	6.2	1.66
		1	12R-03	E- 48	剥片	玉髄	1	17	20.6	34.8	8.1	4.16
26 図	14a	1	12R-03	E- 49	剥片	頁岩	3	8	28.4	36.7	7.0	5.58
		1	12R-03	E- 50	剥片	安山岩	1		24.1	32.9	16.5	10.79
		1	12R-13	E- 51	剥片	安山岩	1		17.6	12.3	4.1	0.70
		1	12R-03	E- 52	剥片	頁岩	2		19.3	9.8	6.3	1.18
		1	12R-03	E- 53	剥片	頁岩	2		14.6	20.9	2.1	0.61
21 図	4	1	12R-02	E- 54	使用痕のある剥片	玉髄	1		21.4	24.8	10.8	3.62
		1	12R-02	E- 55	剥片	安山岩	1		16.8	32.5	4.8	2.17
		1	12R-02	E- 56	剥片	頁岩	2		23.8	19.4	9.2	3.98
24 図	12f	1	12R-02	E- 57	剥片	頁岩	1	2	28.2	15.3	8.2	3.50
		1	12R-12	E- 58	剥片	安山岩	1		25.2	25.0	9.9	5.82
		1	12R-03	E- 59	剥片	頁岩	5	11	24.0	43.3	15.1	12.47
		1	12R-03	E- 60	剥片	頁岩	2		15.4	19.7	5.7	1.81
		1	12R-04	E- 61	剥片	安山岩	1		24.1	25.6	6.2	4.05
24 図	12g	1	12R-12	E- 62	剥片	頁岩	1	2	25.2	31.4	12.1	7.24
26 図	15d	1	12R-13	E- 63	剥片	頁岩	2	5	35.2	42.3	19.2	21.70
21 図	6b	1	12R-03	E- 64	使用痕のある剥片	玉髄	1	15	43.1	27.8	14.5	11.39
		1	12R-03	E- 65	剥片	玉髄	1		23.5	31.7	8.0	3.89
22 図	7c	1	12R-03	E- 66	剥片	頁岩	1	3	22.8	39.9	12.6	9.32
		1	12R-03	E- 67	剥片	頁岩	-		24.5	16.3	5.8	2.00
27 図	15f	1	12R-12	E- 70	剥片	頁岩	2	5	63.4	49.5	18.6	52.54
		1	12R-12	E- 71	剥片	安山岩	1		49.9	31.7	8.2	15.33
26 図	15c	1	12R-12	E- 72	剥片	頁岩	2	5	33.4	36.7	9.5	4.91
27 図	15g	1	12R-13	E- 73	剥片	頁岩	2	5	46.7	27.8	11.7	11.12
		1	12R-13	E- 78	剥片	玉髄	1		20.5	24.8	6.1	2.29
		1	12R-13	E- 79	剥片	安山岩	1		20.7	29.4	7.2	4.21
		1	12R-14	E- 80	剥片	頁岩	2		8.7	18.2	5.3	0.50
23 図	11b	1	12R-13	E- 81	石核	玉髄	1	13	25.9	33.7	19.9	21.05
22 図	9a	1	12R-14	E- 82	石核	玉髄	1	14	31.5	39.9	18.6	21.73
		1	12R-14	E- 83	剥片	頁岩	3		11.8	20.6	5.5	0.87
		1	12R-04	E- 84	剥片	玉髄	1		30.9	38.1	12.2	10.80
22 図	9b	1	12R-14	E- 85	剥片	玉髄	1	14	29.3	35.1	11.5	9.34
22 図	8b	1	12R-04	E- 86	剥片	頁岩	2	7	23.6	34.4	7.4	5.35
		1	12R-04	E- 87	剥片	頁岩	2		24.1	15.6	10.7	2.73
22 図	8a	1	12R-04	E- 88	石核	頁岩	2	7	43.9	29.9	21.1	29.73
		1	12R-03	E- 89	砕片	玉髄	3		8.7	10.1	1.2	0.15
		1	12R-03	E- 90	剥片	玉髄	1		31.9	25.1	5.4	3.34
		1	12R-03	E- 91	剥片	玉髄	1		24.1	25.4	7.6	2.55
		1	12R-03	E- 92	剥片	砂岩	1		31.2	44.7	7.5	7.69
		1	12R-03	E- 93	剥片	頁岩	5	11	31.2	31.4	13.6	10.59
26 図	14c	1	12R-13	E- 99	剥片	頁岩	3	8	51.8	34.2	20.0	20.63
22 図	8c	1	12R-04	E- 100	剥片	頁岩	2	7	19.2	18.3	10.6	3.47
		1	12R-03	E- 101	剥片	玉髄	1		21.7	15.1	4.8	1.19
		1	12R-03	E- 102	剥片	砂岩	1	12	27.0	35.3	9.2	6.93
		1	12R-03	E- 103	剥片	安山岩	-		21.5	13.5	6.0	1.22
		1	12R-04	E- 104	剥片	安山岩	1		20.8	28.5	5.0	3.02
		1	12R-04	E- 107	剥片	ホルンフェルス	1		27.2	21.6	2.5	1.48
		1	12R-22	E- 114	剥片	ホルンフェルス	1		34.1	40.2	11.1	13.74
		1	12R-12	E- 115	剥片	玉髄	2		18.4	11.5	7.6	1.46
		1	12R-02	E- 124	礫	凝灰岩			-	-	-	3.78
		1	12R-12	E- 125-1	剥片	頁岩	1		29.3	29.0	7.2	4.64
		1	12R-12	E- 125-2	剥片	玉髄	2		8.0	7.4	2.2	0.13
		1	12R-02	E- 126	砕片	安山岩	-		6.4	9.2	1.8	0.13
		1	12R-03	E- 127	砕片	黒色安山岩	-		9.3	11.5	4.1	0.33
22 図	7b	1	12R-13	E- 128	ナイフ形石器	頁岩	1	3	36.6	12.5	8.3	3.02
		1	12R-13	E- 129	剥片	安山岩	1		21.8	25.5	7.0	2.22
		1	12R-14	E- 131	剥片	頁岩	3		54.2	27.1	9.0	16.45
		1	12R-03	E- 132	剥片	砂岩	1	12	18.5	19.2	7.6	3.06
26 図	13b	1	12R-03	E- 139	剥片	頁岩	3	9	14.0	36.9	4.9	2.53
23 図	10a	1	12R-02	E- 140	石核	頁岩	2	6	18.4	49.6	30.5	27.47
21 図	2	1	12R-04	E- 148	ナイフ形石器	玉髄	-		44.3	21.1	11.1	8.31
26 図	13a	1	12R-04	E- 152	剥片	頁岩	3	9	14.0	17.5	3.3	0.77
26 図	13c	1	12R-03	E- 153	剥片	頁岩	3	9	18.5	20.9	6.9	2.48
21 図	5	1	12R-03	E- 154	使用痕のある剥片	玉髄	1		50.3	44.6	17.1	30.09
		1	12R-03	E- 155	剥片	玉髄	1		14.8	19.7	5.5	1.91
		1	12R-03	E- 156	剥片	安山岩	-		22.3	33.3	7.2	3.57
		1	12R-03	E- 157	砕片	安山岩	-		15.9	9.7	2.9	0.36
		1	12R-03	E- 158	剥片	頁岩	3		17.3	20.1	6.6	1.66
		1	12R-03	E- 159	剥片	頁岩	5		28.6	22.8	6.7	3.75

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
		1	12R-03	E- 160	砕片	頁岩	3	10	7.4	15.9	1.0	0.24
		1	12R-03	E- 161	剥片	頁岩	3	10	33.5	49.3	9.2	12.62
		1	12R-03	E- 162	剥片	珪質頁岩	-		16.7	41.9	8.9	5.90
		1	12R-03	E- 163	剥片	頁岩	-		13.3	8.4	2.5	0.23
		1	12R-02	E- 164	剥片	珪質頁岩	-		44.7	29.9	9.8	9.47
		1	12R-03	E- 165	剥片	玉髄	1		9.5	13.4	5.2	0.48
22 図	7d	1	12R-02	E- 166	剥片	頁岩	1	3	21.8	47.3	15.2	9.65
		1	12R-02	E- 167	剥片	頁岩	3		8.4	11.3	3.1	0.21
		1	12R-02	E- 168	剥片	頁岩	2		18.8	11.1	5.4	1.38
23 図	10c	1	12R-02	E- 169	剥片	頁岩	2	6	27.0	25.4	7.3	4.38
		1	12R-03	E- 170	砕片	安山岩	1		4.6	12.5	3.0	0.14
24 図	12c	1	12R-02	E- 171-1	剥片	頁岩	1	2	32.7	47.0	18.1	20.19
		1	12R-02	E- 171-2	砕片	頁岩	-		4.5	9.2	1.7	0.12
24 図	12a	1	12R-02	E- 172	石核	頁岩	1	2	32.3	42.6	29.6	30.26
23 図	11a	1	12R-02	E- 173	石核	玉髄	1	13	51.8	61.7	42.2	131.35
24 図	12h	1	12R-02	E- 174	剥片	頁岩	1	2	32.6	31.3	9.4	5.39
		1	12R-02	E- 175	剥片	玉髄	1		16.9	17.0	6.1	1.55
22 図	7a	1	12R-02	E- 176	ナイフ形石器	頁岩	1	3	40.6	14.8	10.8	4.42
		1	12R-13	E- 178	剥片	玉髄	1		16.9	17.4	8.2	1.87
21 図	1	1	12R-12	E- 179	局部磨製石斧	ホルンフェルス	2		92.2	52.2	16.3	122.15
		1	12R-02	E- 180	剥片	玉髄	1		12.2	16.5	3.6	0.61
		1	12R-02	E- 181	剥片	玉髄	1		10.9	21.8	2.6	0.60
		1	12R-02	E- 182	砕片	玉髄	1		16.2	9.2	4.6	0.66
		1	12R-02	E- 183	砕片	玉髄	1	16	16.1	15.3	8.7	1.75
		1	12R-02	E- 184	剥片	玉髄	-		41.1	23.8	10.7	8.83
		1	12R-02	E- 185	砕片	玉髄	1		14.7	10.2	4.0	0.36
		1	12R-02	E- 186	砕片	玉髄	2		16.6	11.4	6.6	1.21
		1	12R-12	E- 187	砕片	玉髄	2		8.6	13.2	5.2	0.50
23 図	11c	1	12R-12	E- 188	剥片	玉髄	1	13	26.9	19.8	20.2	9.37
26 図	14b	1	12R-12	E- 189	剥片	頁岩	3	8	38.0	22.0	13.0	9.36
23 図	10b	1	12R-12	E- 190	剥片	頁岩	2	6	21.1	25.1	5.8	3.49
23 図	11e	1	12R-02	E- 191	剥片	頁岩	1	2	32.0	30.1	15.2	11.01
		1	12R-11	E- 192	砕片	ホルンフェルス	-		11.1	12.3	8.0	0.94
		1	12R-12	E- 193	剥片	安山岩	1		44.3	13.0	9.2	3.38
		1	12R-12	E- 202	剥片	玉髄	3		14.5	14.7	5.8	1.04

第6ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
30 図	4a	1	12R-13	E- 41	石核	安山岩	1	19	28.2	33.5	15.0	17.97
31 図	6a	1	12R-13	E- 42	剥片	頁岩	4	20	54.1	30.6	13.0	14.26
		1	12R-13	E- 43	剥片	頁岩	3		19.6	25.2	9.9	4.97
		1	12R-13	E- 68	剥片	安山岩	1		36.8	14.3	11.5	6.90
		1	12R-13	E- 69	剥片	頁岩	5		20.9	55.5	9.4	9.66
		1	12R-13	E- 74	剥片	玉髄	2		12.7	17.8	3.5	0.69
30 図	5e	1	12R-13	E- 75	剥片	安山岩	1	18	17.3	34.4	10.3	8.40
		1	12R-13	E- 76	剥片	玉髄	2		21.4	22.2	8.4	4.98
		1	12R-14	E- 77	剥片	頁岩	4		24.8	17.1	4.2	0.99
		1	12R-13	E- 94	剥片	頁岩	4		9.6	16.8	2.2	0.35
		1	12R-13	E- 95	剥片	頁岩	4		10.4	16.4	5.6	0.67
31 図	6c	1	12R-13	E- 96	剥片	頁岩	4	20	22.0	18.5	8.9	2.10
		1	12R-13	E- 97	剥片	玉髄	2		22.0	24.3	4.8	2.62
30 図	3b	1	12R-13	E- 98	剥片	玉髄	2	21	24.5	15.6	5.7	1.24
30 図	3c	1	12R-13	E- 105	剥片	玉髄	2	21	18.3	19.8	6.5	1.00
		1	12R-13	E- 106	剥片	玉髄	2	22	26.0	18.2	13.7	4.63
30 図	5a	1	12R-13	E- 108	剥片	安山岩	1	18	33.4	31.2	13.8	14.36
		1	12R-13	E- 109	砕片	玉髄	2		9.4	17.3	6.1	0.78
30 図	4b	1	12R-13	E- 110	剥片	安山岩	1	19	25.0	43.0	21.4	24.28
		1	12R-13	E- 111	砕片	ホルンフェルス	1		9.6	10.8	3.4	0.39
30 図	5c	1	12R-13	E- 112	剥片	安山岩	1	18	23.0	41.9	14.0	14.48
		1	12R-14	E- 113	剥片	玉髄	2		15.2	9.7	7.0	1.13
		1	12R-13	E- 116	砕片	玉髄	3	23	15.7	7.4	6.9	0.59
30 図	5b	1	12R-13	E- 117	剥片	安山岩	1	18	23.3	57.2	14.5	21.59
		1	12R-13	E- 118	剥片	玉髄	3		22.3	35.7	8.3	6.26
26 図	15a	1	12R-13	E- 119	剥片	頁岩	2	5	26.8	40.1	9.7	7.34
30 図	1	1	12R-13	E- 120	使用痕のある剥片	頁岩	-		49.1	16.5	8.8	5.66
		1	12R-23	E- 122	剥片	珪質頁岩	-		41.3	40.3	12.1	13.35
		1	12R-23	E- 123	砕片	玉髄	2		-	-	-	0.01
		1	12R-13	E- 130	砕片	ホルンフェルス	1		7.3	12.3	3.4	0.31
30 図	5d	1	12R-13	E- 133	剥片	安山岩	1	18	33.7	14.6	11.1	2.24
		1	12R-13	E- 134	剥片	玉髄	2		16.0	23.5	8.4	1.82
		1	12R-13	E- 135	剥片	玉髄	2		11.4	16.1	4.2	0.83
		1	12R-13	E- 136	剥片	安山岩	1		22.2	18.6	3.5	1.49
		1	12R-13	E- 137	剥片	玉髄	2		15.7	19.2	6.5	1.56
		1	12R-13	E- 138	剥片	頁岩	4		22.0	11.0	6.3	1.14
30 図	3a	1	12R-13	E- 141	石核	玉髄	2	21	43.0	41.2	42.5	85.67
		1	12R-13	E- 142	剥片	玉髄	2		22.2	20.6	9.9	3.52

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
30図	2	1	12R-13	E- 143	使用痕のある剥片	頁岩	-		55.9	25.1	12.8	10.86
		1	12R-13	E- 144	剥片	玉髄	2		15.4	27.9	9.7	4.24
30図	3d	1	12R-13	E- 145	剥片	玉髄	2	21	9.7	23.3	10.0	2.35
		1	12R-13	E- 146	砕片	玉髄	2		8.0	8.1	2.7	0.18
		1	12R-13	E- 147	砕片	玉髄	2		11.0	7.5	2.5	0.24
		1	12R-13	E- 149	剥片	玉髄	2	22	28.5	20.0	14.1	7.03
		1	12R-13	E- 150	剥片	玉髄	2		16.5	10.4	4.1	0.58
		1	12R-13	E- 151	砕片	玉髄	2		7.2	6.5	2.8	0.12
		1	12R-24	E- 177	砕片	黒色安山岩	-		8.1	8.9	2.3	0.23
		1	12R-13	E- 195	砕片	安山岩	-		15.3	12.8	2.8	0.49
		1	12R-13	E- 196	剥片	頁岩	4		13.9	18.9	6.0	1.15
		1	12R-13	E- 197	砕片	安山岩	1		4.5	7.1	1.4	0.04
		1	12R-13	E- 198	剥片	玉髄	3	23	32.2	23.0	13.9	5.66
		1	12R-13	E- 200	剥片	玉髄	2		12.6	8.2	4.9	0.48
31図	6b	1	12R-13	E- 201	剥片	頁岩	4	20	20.3	23.1	5.0	2.34
		1	12R-13	E- 203	剥片	玉髄	2		35.0	22.5	12.8	8.65

第7ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
34図	4	1	11Q-97	D- 1	剥片	安山岩	-		29.2	20.9	6.2	2.51
		1	11Q-88	D- 2	剥片	安山岩	-		18.1	17.4	5.9	1.97
34図	3	1	11Q-88	D- 3	剥片	珪質頁岩	-		51.1	23.4	12.0	11.42
34図	1	1	11Q-98	D- 4	局部磨製石斧	ホルンフェルス	-		38.9	44.6	10.5	15.99
		1	11Q-98	D- 5	剥片	黒色安山岩	-		15.7	19.9	5.0	1.27
34図	5	1	11Q-98	D- 32	剥片	安山岩	-		32.1	35.8	10.4	9.92
		1	11Q-88	D- 44	剥片	黒色安山岩	-		32.5	17.2	5.4	2.53
		1	11Q-88	D- 45	剥片	安山岩	-		14.2	22.7	4.5	1.42
34図	2	1	11Q-87	D- 46	局部磨製石斧	ホルンフェルス	-		28.9	19.9	9.5	4.48
		1	11Q-88	D- 47	砕片	ホルンフェルス	-		10.0	21.9	1.9	0.39

第8ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
36図	1	1	9P-71	2	剥片	安山岩	-		38.4	38.6	12.6	15.82
36図	2	1	9P-71	4	剥片	安山岩	-		40.6	45.7	8.8	15.18

第9ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
39図	1	1	8Q-40	1	加工痕のある剥片	頁岩	-		27.3	20.9	9.1	3.95
		1	8Q-40	2	剥片	玉髄	-		22.9	32.1	9.3	3.88
39図	4	1	8Q-40	3	剥片	玉髄	-		18.1	22.5	6.4	1.72
39図	2	1	8Q-41	2	加工痕のある剥片	安山岩	-		49.2	45.3	11.1	23.60
39図	3	1	8Q-41	3	石核	頁岩	-		37.9	37.1	17.4	20.22

第10ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
41図	1	1	13P-40	1	剥片	頁岩	-		16.2	31.7	9.9	3.66

第11ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		2	8Q-01	1	砕片	黒曜石	1		14.2	5.7	2.4	0.11
		2	8Q-01	2	剥片	黒曜石	1		20.4	8.4	2.7	0.38
		2	8Q-01	3	砕片	頁岩	-		-	-	-	0.01
		2	8Q-01	4	砕片	黒曜石	1		7.2	3.8	1.4	0.04
		2	8Q-01	5	砕片	黒曜石	1		8.3	5.4	1.5	0.08
		2	8Q-01	6	剥片	黒曜石	1		14.3	12.7	3.2	0.63
		2	8Q-01	7	砕片	黒曜石	1		4.0	6.2	3.2	0.07
45図	1	2	8Q-01	8	ナイフ形石器	黒曜石	1		31.3	20.7	7.3	2.94
		2	8Q-01	9	剥片	黒曜石	1		8.8	19.5	5.5	0.43
		2	8Q-01	10	剥片	黒曜石	1		11.2	16.0	2.8	0.43
		2	8Q-01	11	砕片	黒曜石	1		7.1	7.3	0.6	0.05
		2	8Q-01	12	砕片	黒曜石	1		7.0	10.0	1.0	0.12
		2	8Q-11	1	砕片	黒曜石	1		3.7	9.2	0.7	0.05
		2	8Q-11	2	剥片	黒曜石	1		14.8	17.5	4.5	0.74
		2	8Q-11	4	砕片	黒曜石	1		-	-	-	0.04
		2	8Q-11	5	砕片	黒曜石	1		9.7	4.2	0.4	0.03
		2	8Q-11	6-1	剥片	黒曜石	1		11.4	11.9	1.8	0.31
		2	8Q-11	6-2	砕片	黒曜石	1		6.1	6.4	1.5	0.05
		2	8Q-11	7	剥片	黒曜石	1		17.7	8.9	3.5	0.40
		2	8Q-11	8	砕片	黒曜石	1		8.8	3.7	0.7	0.02
		2	8Q-11	9	剥片	黒曜石	1		15.1	15.0	4.3	0.63
45図	2	2	8Q-11	10	ナイフ形石器	黒曜石	1		26.1	17.9	7.9	3.17
		2	8Q-11	11	砕片	黒曜石	1		10.7	5.7	0.2	0.08

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
		2	8Q-11	12	剥片	黒曜石	1		9.2	13.0	4.5	0.42
		2	8Q-11	13	剥片	黒曜石	1		14.4	23.4	6.1	0.95
		2	8Q-11	16	剥片	黒曜石	1		8.0	12.9	2.6	0.14
		2	8Q-11	17	剥片	黒曜石	1		15.1	14.3	2.5	0.42
45図	3	2	8Q-11	18	剥片	黒曜石	1		39.8	35.7	9.6	10.31
		2	8Q-11	19	剥片	黒曜石	1		18.1	22.2	4.0	0.98
45図	4	2	8Q-11	20	石核	黒曜石	1		32.8	53.1	15.1	26.84
		2	8Q-11	21	剥片	黒曜石	1		14.2	11.7	5.6	0.63

第12ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
48図	1	2	8Q-11	3	ナイフ形石器	黒曜石	1		42.9	17.5	8.3	4.85
48図	5	2	8Q-11	14	剥片	頁岩	-		31.8	32.5	9.1	8.27
48図	2	2	8Q-11	15	ナイフ形石器	黒曜石	1		24.5	16.1	6.1	2.28
		2	8Q-12	1	剥片	黒曜石	1		13.0	11.6	3.0	0.33
48図	3	2	8Q-12	2	加工痕のある剥片	黒曜石	1		50.5	28.9	13.5	16.13
48図	4b	2	8Q-12	3	剥片	黒曜石	1	24	9.4	16.1	6.0	0.70
48図	4a	2	8Q-12	4	使用痕のある剥片	黒曜石	1	24	29.9	20.2	6.6	3.30

第13ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
52図	21	2	8Q-22	2	使用痕のある剥片	黒曜石	1		28.0	24.6	9.0	4.12
		2	8Q-22	3	剥片	黒曜石	1		12.4	12.6	7.0	0.83
		2	8Q-22	4	剥片	黒曜石	1		9.4	9.9	2.1	0.20
		2	8Q-22	5	剥片	黒曜石	1		12.6	23.0	5.3	1.03
		2	8Q-22	6	剥片	黒曜石	1		16.1	19.2	6.5	1.92
		2	8Q-22	7	剥片	黒曜石	1		9.6	19.7	5.6	0.94
		2	8Q-22	8	剥片	黒曜石	1		22.1	19.6	8.7	1.99
52図	22	2	8Q-22	9	使用痕のある剥片	黒曜石	1		32.3	23.7	9.0	4.80
		2	8Q-22	10	砕片	黒曜石	1		7.1	9.0	1.5	0.10
		2	8Q-22	11-1	剥片	黒曜石	1		20.2	13.7	3.8	0.52
		2	8Q-22	11-2	砕片	黒曜石	1		8.2	11.4	3.4	0.20
		2	8Q-22	11-3	砕片	黒曜石	1		6.0	8.7	2.5	0.10
		2	8Q-22	12	剥片	黒曜石	1		16.6	9.0	4.3	0.46
		2	8Q-22	13	砕片	黒曜石	1		-	-	-	0.02
		2	8Q-22	14-1	砕片	黒曜石	1		9.5	5.6	2.0	0.06
		2	8Q-22	14-2	砕片	黒曜石	1		5.0	9.5	1.3	0.04
		2	8Q-22	15-1	剥片	黒曜石	1		12.8	12.6	2.8	0.25
		2	8Q-22	15-2	砕片	黒曜石	1		9.9	6.0	1.3	0.07
		2	8Q-22	16	剥片	黒曜石	1		26.0	23.1	5.4	2.67
		2	8Q-22	17	砕片	黒曜石	1		8.5	6.1	2.3	0.12
		2	8Q-22	18	剥片	黒曜石	1		23.7	26.3	4.7	2.28
		2	8Q-22	19	剥片	黒曜石	1		23.4	21.7	5.6	2.10
51図	13	2	8Q-22	20	加工痕のある剥片	黒曜石	1		15.4	16.0	4.9	0.69
		2	8Q-22	21	剥片	黒曜石	1		15.5	20.9	5.2	1.21
		2	8Q-22	22	剥片	黒曜石	1		19.7	23.2	7.6	2.03
		2	8Q-22	23	砕片	黒曜石	1		9.9	10.7	1.4	0.13
		2	8Q-22	24	剥片	黒曜石	1		16.5	10.2	3.5	0.52
		2	8Q-22	25	剥片	黒曜石	1		20.2	24.7	5.9	2.37
		2	8Q-22	26	剥片	黒曜石	1		32.6	24.2	16.7	10.80
		2	8Q-22	27	砕片	黒曜石	1		3.0	6.8	1.1	0.05
		2	8Q-22	28	剥片	黒曜石	1		16.4	12.7	3.3	0.52
		2	8Q-22	29	砕片	黒曜石	1		12.5	8.3	4.1	0.27
		2	8Q-22	30	砕片	黒曜石	1		7.9	8.6	2.7	0.19
		2	8Q-22	31	砕片	黒曜石	1		9.2	10.5	3.3	0.22
51図	12b	2	8Q-22	32	剥片	黒曜石	1	25	22.6	10.5	3.4	0.40
		2	8Q-22	33	砕片	黒曜石	1		8.0	9.3	2.9	0.23
52図	26	2	8Q-22	35	使用痕のある剥片	黒曜石	1		27.2	45.8	11.5	8.60
		2	8Q-22	36	剥片	黒曜石	1		9.4	17.7	2.1	0.19
		2	8Q-22	37	剥片	黒曜石	1		19.1	25.4	9.3	2.16
		2	8Q-22	38-1	砕片	黒曜石	1		8.8	6.3	1.2	0.06
		2	8Q-22	38-2	砕片	黒曜石	1		-	-	-	0.02
		2	8Q-22	39	剥片	黒曜石	1		19.1	10.1	7.5	0.97
51図	3	2	8Q-22	40	ナイフ形石器	黒曜石	1		42.7	26.6	10.0	6.95
		2	8Q-22	41	剥片	黒曜石	1		22.3	11.6	4.4	0.99
		2	8Q-22	42	砕片	黒曜石	1		6.7	10.8	1.2	0.10
51図	4	2	8Q-22	43	ナイフ形石器	黒曜石	1		37.1	26.2	6.2	4.58
		2	8Q-22	44	剥片	黒曜石	1		40.7	30.1	9.3	6.44
		2	8Q-22	45-1	砕片	黒曜石	1		9.0	13.4	3.4	0.35
		2	8Q-22	45-2	砕片	黒曜石	1		11.4	9.2	2.4	0.12
		2	8Q-22	46	砕片	黒曜石	1		10.6	6.9	3.0	0.15
52図	23	2	8Q-22	47	使用痕のある剥片	黒曜石	1		36.2	31.6	9.8	8.36
51図	12a	2	8Q-23	1	加工痕のある剥片	黒曜石	1	25	18.4	13.6	6.2	0.67
		2	8Q-23	2	剥片	黒曜石	1		13.1	8.4	2.0	0.22
		2	8Q-23	3	剥片	黒曜石	1		15.1	13.1	3.3	0.34
		2	8Q-23	4	剥片	頁岩	1		22.7	14.2	4.5	0.92

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
		2	8Q-23	5	砕片	黒曜石	1		5.2	6.4	4.8	0.20
51図	8	2	8Q-23	6	掻器	黒曜石	1		32.5	23.1	6.3	3.46
		2	8Q-23	7	剥片	黒曜石	1		10.5	14.2	2.7	0.47
		2	8Q-23	8	剥片	黒曜石	1		24.4	36.2	7.0	5.14
51図	18	2	8Q-23	9	加工痕のある剥片	玉髄	-		42.8	44.1	11.3	19.69
		2	8Q-23	10	剥片	黒曜石	1		18.7	9.0	5.9	0.64
		2	8Q-23	11	剥片	黒曜石	1		23.6	33.5	11.6	6.33
		2	8Q-23	12	剥片	頁岩	1		19.1	10.1	4.4	0.69
51図	5	2	8Q-23	13	ナイフ形石器	頁岩	1		36.5	15.5	9.3	3.65
52図	25	2	8Q-23	14	使用痕のある剥片	頁岩	1		32.6	26.0	11.2	8.11
52図	27a	2	8Q-23	15-1	使用痕のある剥片	黒曜石	1	26	54.0	48.0	14.0	16.11
52図	27b	2	8Q-23	15-2	剥片	黒曜石	1	26	11.5	18.2	4.1	0.52
		2	8Q-23	16	剥片	黒曜石	1		16.5	15.2	3.5	0.70
		2	8Q-23	17	砕片	黒曜石	1		9.6	6.7	1.4	0.10
		2	8Q-23	18	剥片	黒曜石	1		14.5	7.3	0.6	0.17
		2	8Q-23	19	砕片	黒曜石	1		11.4	4.6	0.3	0.06
		2	8Q-23	20	剥片	黒曜石	1		13.5	37.1	7.7	2.59
		2	8Q-23	21	砕片	黒曜石	1		6.9	9.1	5.0	0.20
		2	8Q-23	22	剥片	黒曜石	1		24.2	11.4	4.1	0.66
		2	8Q-23	23-1	砕片	黒曜石	1		8.3	4.0	0.5	0.03
		2	8Q-23	23-2	砕片	黒曜石	1		7.0	4.1	1.0	0.02
		2	8Q-23	24	剥片	黒曜石	1		13.1	16.4	2.9	0.35
		2	8Q-23	25	砕片	黒曜石	1		8.0	10.9	1.7	0.13
51図	11	2	8Q-23	26	加工痕のある剥片	黒曜石	1		25.2	21.1	4.9	1.75
		2	8Q-23	27	剥片	黒曜石	1		8.2	14.8	4.0	0.46
		2	8Q-23	28	剥片	黒曜石	1		15.4	17.8	3.5	0.64
		2	8Q-23	29	剥片	黒曜石	1		24.2	17.7	13.3	7.61
		2	8Q-23	30	剥片	黒曜石	1		14.2	16.9	2.5	0.49
		2	8Q-23	31	剥片	黒曜石	1		28.6	10.9	4.8	0.78
		2	8Q-23	32	砕片	黒曜石	1		13.2	9.7	5.6	0.51
		2	8Q-23	33	剥片	黒曜石	1		17.6	20.8	5.7	1.36
		2	8Q-23	34	砕片	黒曜石	1		9.1	7.1	1.2	0.10
		2	8Q-23	35	砕片	黒曜石	1		5.8	6.4	1.6	0.04
		2	8Q-32	1-1	砕片	黒曜石	1		7.8	8.0	1.4	0.06
		2	8Q-32	1-2	砕片	黒曜石	1		-	-	-	0.04
		2	8Q-32	2-1	砕片	黒曜石	1		6.4	8.6	0.6	0.05
		2	8Q-32	2-2	砕片	黒曜石	1		8.0	5.3	0.4	0.04
		2	8Q-32	3	剥片	黒曜石	1		10.7	11.7	3.0	0.32
		2	8Q-32	4	剥片	黒曜石	1		30.3	14.2	5.0	1.58
		2	8Q-32	5	剥片	黒曜石	1		12.8	22.6	5.5	0.85
		2	8Q-32	6	剥片	黒曜石	1		20.1	12.6	3.6	0.61
		2	8Q-32	7	剥片	黒曜石	1		14.3	22.7	13.7	2.46
51図	16	2	8Q-32	8	加工痕のある剥片	黒曜石	1		31.0	31.1	11.2	6.24
51図	6	2	8Q-32	10	ナイフ形石器	チャート	-		35.5	18.9	10.8	5.49
		2	8Q-32	11	剥片	黒曜石	1		13.0	13.3	4.1	0.49
		2	8Q-32	12	剥片	黒曜石	1		35.7	28.4	18.3	10.04
		2	8Q-32	13	剥片	黒曜石	1		12.1	14.0	2.7	0.32
51図	15	2	8Q-32	14	加工痕のある剥片	黒曜石	1		13.4	16.6	8.6	1.55
51図	7	2	8Q-33	1	角錐状石器	黒曜石	1		45.4	12.7	10.9	4.99
		2	8Q-33	2	剥片	黒曜石	1		20.6	36.1	14.4	6.53
		2	8Q-33	3	砕片	黒曜石	1		9.9	10.6	4.0	0.17
		2	8Q-33	4	剥片	黒曜石	1	27	21.9	23.1	8.5	3.38
		2	8Q-33	5	砕片	黒曜石	1		8.4	10.5	1.3	0.09
		2	8Q-33	6	剥片	頁岩	1		22.5	12.9	6.4	1.08
		2	8Q-33	7	剥片	黒曜石	1		11.6	16.6	2.9	0.31
52図	24	2	8Q-33	8	使用痕のある剥片	黒曜石	1		37.7	30.8	10.0	8.48
		2	8Q-33	9	剥片	黒曜石	1		17.1	13.5	6.5	1.24
51図	2	2	8Q-33	10	ナイフ形石器	黒曜石	1		39.8	19.7	10.1	5.97
51図	18	2	8Q-33	11	剥片	黒曜石	1		35.9	38.4	17.1	18.89
		2	8Q-33	12	剥片	黒曜石	1		37.3	35.6	7.8	7.18
		2	8Q-33	13	剥片	黒曜石	1		8.6	23.5	4.4	0.78
		2	8Q-33	14	剥片	黒曜石	1		21.2	7.9	6.1	0.72
		2	8Q-33	15	剥片	黒曜石	1		22.3	23.4	6.9	4.47
		2	8Q-33	16	剥片	黒曜石	1		11.6	16.2	2.8	0.39
		2	8Q-33	17	剥片	黒曜石	1		12.4	17.1	5.9	1.12
		2	8Q-33	18	剥片	黒曜石	1		12.8	18.9	2.6	0.42
		2	8Q-33	19	剥片	黒曜石	1		9.0	21.9	9.6	2.88
		2	8Q-33	20	剥片	黒曜石	1		26.8	11.9	4.7	1.16
		2	8Q-33	21	剥片	頁岩	1		13.2	15.7	4.2	0.57
		2	8Q-33	22	剥片	黒曜石	1		19.8	27.9	4.4	1.98
		2	8Q-33	23	砕片	黒曜石	1		6.2	4.2	0.8	0.02
		2	8Q-33	24	砕片	黒曜石	1		12.5	8.7	3.1	0.22
		2	8Q-33	25	砕片	黒曜石	1		-	-	-	0.01
		2	8Q-33	26	砕片	黒曜石	1		8.1	8.9	1.2	0.10
		2	8Q-33	27	剥片	黒曜石	1		8.5	10.4	2.9	0.22
		2	8Q-33	28	剥片	黒曜石	1		17.4	20.9	6.3	1.36
		2	8Q-33	29	砕片	黒曜石	1		6.1	5.4	0.6	0.01
52図	27c	2	8Q-33	30	使用痕のある剥片	黒曜石	1	26	34.1	45.4	16.0	16.33

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		2	8Q-33	31	剥片	黒曜石	1		22.4	15.3	3.8	0.88
		2	8Q-33	32	剥片	頁岩	1		22.4	18.8	4.9	1.59
		2	8Q-33	33	剥片	黒曜石	1		10.2	25.3	6.1	1.08
		2	8Q-33	34	砕片	黒曜石	1		11.4	4.8	3.3	0.14
		2	8Q-33	35	剥片	黒曜石	1		23.1	12.6	3.2	0.59
51図	9	2	8Q-33	36	加工痕のある剥片	黒曜石	1		21.3	19.0	5.6	1.97
		2	8Q-33	37	砕片	黒曜石	1		6.4	7.9	1.5	0.06
51図	14	2	8Q-33	38	加工痕のある剥片	黒曜石	1		20.8	24.2	4.1	1.88
		2	8Q-33	39	剥片	黒曜石	1		8.0	10.5	2.5	0.17
		2	8Q-33	40	砕片	黒曜石	1		15.3	9.8	6.1	0.60
		2	8Q-33	41	砕片	黒曜石	1		6.9	10.1	1.8	0.11
		2	8Q-33	42	砕片	黒曜石	1		6.0	12.8	3.8	0.20
51図	10	2	8Q-33	43	加工痕のある剥片	黒曜石	1		27.5	19.5	10.9	3.46
		2	8Q-33	44	剥片	黒曜石	1		16.1	8.3	3.4	0.31
		2	8Q-33	45	砕片	黒曜石	1		9.9	10.8	3.3	0.19
		2	8Q-33	46-1	砕片	黒曜石	1		12.2	15.2	2.4	0.36
		2	8Q-33	46-2	砕片	黒曜石	1		7.1	4.5	1.3	0.04
		2	8Q-33	47	使用痕のある剥片	黒曜石	1		42.2	24.8	9.8	8.18
		2	8Q-33	48	砕片	黒曜石	1		4.5	8.3	1.3	0.04
		2	8Q-33	49	剥片	黒曜石	1		25.2	26.0	7.1	3.21
		2	8Q-33	50	剥片	黒曜石	1		23.8	17.5	9.1	3.40
		2	8Q-33	51	剥片	黒曜石	1		13.7	13.6	5.5	0.59
		2	8Q-33	52	砕片	黒曜石	1		13.5	9.2	5.4	0.53
		2	8Q-33	53	剥片	黒曜石	1	27	28.5	17.9	7.7	2.77
		2	8Q-33	54	砕片	黒曜石	1		6.7	8.9	1.0	0.06
		2	8Q-33	55	剥片	黒曜石	1		16.2	13.2	2.9	0.46
52図	29	2	8Q-33	56	剥片	黒曜石	1		22.7	21.8	4.1	2.02
		2	8Q-33	57	砕片	黒曜石	1		11.7	8.1	3.2	0.19
51図	1b	2	8Q-33	58	ナイフ形石器	黒曜石	1	28	23.4	21.7	12.6	3.59
		2	8Q-33	59	剥片	黒曜石	1		31.0	31.6	5.4	5.12
		2	8Q-33	60	剥片	黒曜石	1		25.8	19.0	7.1	2.65
		2	8Q-33	61	剥片	黒曜石	1		23.2	16.7	6.9	1.64
51図	17	2	8Q-33	62	加工痕のある剥片	黒曜石	1		45.4	25.0	11.0	7.53
52図	19	2	8Q-33	63	使用痕のある剥片	黒曜石	1		61.8	41.2	18.5	29.47
		2	8Q-33	64	砕片	黒曜石	1		11.5	5.6	4.3	0.16
		2	8Q-33	65	剥片	黒曜石	1		22.3	36.8	5.8	3.09
51図	1a	2	8Q-33	66	ナイフ形石器	黒曜石	1	28	23.7	21.1	11.3	3.80
		2	8Q-33	67	砕片	黒曜石	1		9.9	10.3	3.1	0.29
		2	8Q-33	68	剥片	黒曜石	1		32.3	15.1	14.5	4.22
52図	20	2	8Q-33	71	使用痕のある剥片	黒曜石	1		40.4	41.5	17.5	25.55
		2	8Q-33	72	剥片	黒曜石	1		32.8	25.8	11.9	7.08

第14ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		2	8Q-33	69	剥片	黒曜石	1		18.6	12.2	7.6	1.87
		2	8Q-33	70	剥片	黒曜石	1		15.1	19.4	9.3	2.02
		2	8Q-43	1	砕片	黒曜石	1		6.9	13.1	2.9	0.21
55図	1	2	8Q-43	3	尖頭様石器	黒曜石	2		32.9	21.6	4.5	2.41

第15ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
58図	2	2	8Q-32	15-1	使用痕のある剥片	黒曜石	1		45.1	34.5	18.2	14.91
		2	8Q-32	15-2	砕片	黒曜石	1		-	-	-	0.03
58図	3	2	8Q-32	16	石核	黒曜石	1		17.1	29.1	26.2	13.93
		2	8Q-32	17	砕片	黒曜石	1		5.6	11.5	3.6	0.28
58図	5b	2	8Q-32	18	剥片	黒曜石	1	29	18.4	20.1	8.2	1.84
58図	1	2	8Q-32	19	削器	黒曜石	1		42.6	33.4	11.8	11.65
		2	8Q-41	1	剥片	黒曜石	1		17.1	20.7	4.6	1.44
58図	4	2	8Q-42	1	剥片	黒曜石	1		18.6	20.8	4.6	1.17
58図	5a	2	8Q-42	2-1	剥片	黒曜石	1	29	24.8	18.7	10.2	3.95
		2	8Q-42	2-2	剥片	黒曜石	1		19.2	16.9	6.7	1.08
		2	8Q-42	3	剥片	黒曜石	1		18.3	12.8	5.2	0.86
		2	8Q-42	4	剥片	黒曜石	1		15.1	23.2	6.5	2.97
		2	8Q-42	5	剥片	黒曜石	1		13.8	23.9	11.8	2.63

第16ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
60図	1	2	11R-58	2	ナイフ形石器	頁岩	-		48.8	17.3	6.4	5.29

第17ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
62図	2	2	12Q-16	1	剥片	ホルンフェルス	-		35.8	33.2	8.3	7.72
62図	1	2	12Q-16	2	角錐状石器	頁岩	-		49.9	19.6	13.9	8.53

第18ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
66図	2b	3	11R-29	2	剥片	珪質頁岩	-	31	26.1	12.9	6.9	2.44
66図	2a	3	11R-29	3	石核	珪質頁岩	-	31	30.8	32.5	16.2	16.59
		3	11R-29	4	剥片	黒色安山岩	-		16.1	25.1	4.4	1.36
		3	11R-29	5	剥片	珪質頁岩	-		10.1	8.3	2.7	0.14
		3	11R-29	7	剥片	珪質頁岩	-		13.1	8.6	4.1	0.31
66図	3a	3	11R-29	8	石核	安山岩	1	30	22.1	29.9	19.1	11.48
		3	11R-39	2	剥片	珪質頁岩	-	32	25.6	17.3	9.5	2.40
66図	4	3	11R-39	3	石核	頁岩	-		22.9	37.2	16.5	14.88
		3	11R-39	4	剥片	珪質頁岩	-		25.9	32.7	12.8	7.87
		3	12R-20	1	剥片	頁岩	-		28.9	20.4	9.9	6.70
66図	3b	3	12R-20	2	剥片	安山岩	1	30	20.0	19.1	8.7	2.60
		3	12R-20	3	剥片	安山岩	-		32.7	28.1	10.1	7.08
		3	12R-20	4-1	剥片	安山岩	1		22.8	19.3	6.7	2.90
		3	12R-20	4-2	剥片	砂岩	1		16.4	20.9	5.8	1.51
67図	6a	3	12R-20	5	剥片	砂岩	1	34	22.2	30.5	9.3	8.38
67図	6b	3	12R-20	6	剥片	砂岩	1	34	44.5	34.5	19.1	29.86
		3	12R-20	7	剥片	珪質頁岩	-	32	21.9	26.2	10.2	3.44
66図	5b	3	12R-20	8	石核	珪質頁岩	-	33	28.9	77.5	18.8	37.77
		3	12R-20	9	剥片	頁岩	-		17.2	16.0	3.8	0.61
		3	12R-30	2	剥片	安山岩	1		10.6	12.9	4.1	0.42
		3	12R-30	3	剥片	安山岩	1		15.2	25.4	7.4	2.12
		3	12R-30	4	剥片	安山岩	1		10.2	12.8	1.9	0.27
		3	12R-30	5	剥片	安山岩	1		16.5	20.3	5.3	1.41
		3	12R-30	7	剥片	砂岩	1		18.7	21.7	3.6	1.27
66図	1	3	12R-30	8	ナイフ形石器	頁岩	-		34.3	14.5	5.9	3.12
66図	5a	3	12R-30	9	剥片	珪質頁岩	-	33	17.8	34.9	7.1	3.30

第19ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		3	11R-38	2	剥片	安山岩	1		15.1	26.6	4.4	1.81
70図	1	3	11R-38	3	ナイフ形石器	頁岩	-		37.1	16.3	6.9	3.61
		3	11R-38	4	剥片	安山岩	1		31.2	28.8	13.6	8.57
		3	11R-38	5	剥片	安山岩	1		19.2	33.4	5.6	3.23
70図	2	3	11R-39	5	敲石	安山岩	-		46.5	35.1	25.5	67.51
		3	11R-39	6	剥片	頁岩	-		12.4	17.3	6.6	1.38

第20ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		3	11Q-99	D- 19	砕片	安山岩	-		9.4	16.0	3.0	0.28
		3	11Q-99	D- 20	礫	安山岩						76.83
		3	11Q-99	D- 26	礫	安山岩						5.60
		3	11Q-99	D- 33	礫	安山岩						26.96
74図	2	3	11Q-99	D- 34	剥片	黒色安山岩	-		28.8	30.1	9.8	6.09
		3	11Q-99	D- 35	礫	安山岩						62.31
		3	11Q-99	D- 36	礫	安山岩						20.56
74図	1	3	11Q-99	D- 37	剥片	黒色安山岩	-		26.2	49.4	9.6	9.60
		3	12Q-90	D- 38	剥片	黒色安山岩	-		35.8	24.3	10.7	7.15
		3	12Q-90	D- 39	剥片	頁岩	1		36.5	21.7	11.7	5.71
74図	3	3	12Q-90	D- 41	剥片	チャート	-		22.2	26.1	12.1	2.60

第21ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		3	11Q-89	D- 6	礫	流紋岩						6.28
77図	4	3	11Q-89	D- 7	礫	流紋岩		35	15.7	18.9	24.1	6.38
		3	11Q-89	D- 8	礫	流紋岩						7.90
		3	11Q-89	D- 10	剥片	チャート	-		20.8	17.6	8.5	2.04
		3	11Q-89	D- 11	剥片	頁岩	-		33.3	22.7	13.0	6.16
		3	11Q-99	D- 12	剥片	頁岩	-		16.8	11.4	7.3	0.97
		3	11Q-99	D- 13	剥片	頁岩	1		32.6	18.1	8.5	3.98
77図	5	3	11Q-89	D- 14	礫	砂岩		37	30.2	46.5	26.9	34.17
77図	3	3	11Q-89	D- 15	磨石	凝灰岩		36	77.9	37.9	41.0	105.49
		3	11Q-89	D- 16	剥片	安山岩	-		20.9	25.6	4.0	2.16
		3	11Q-89	D- 17	剥片	チャート	-		19.2	18.6	4.4	1.14
		3	11Q-89	D- 18	剥片	安山岩	-		15.1	12.6	4.1	0.79
77図	3	3	11Q-89	D- 21	磨石	凝灰岩		36	83.0	70.1	43.8	218.29
77図	3	3	11Q-89	D- 22	磨石	凝灰岩		36	68.9	68.1	43.6	176.61
77図	5	3	11Q-89	D- 23	礫	砂岩		37	59.7	55.7	44.1	112.60
77図	4	3	11Q-89	D- 24	礫	流紋岩		35	25.7	36.4	38.4	28.62
77図	3	3	11Q-89	D- 25	磨石	凝灰岩		36	37.3	13.6	13.1	13.27
77図	1	3	11Q-89	D- 27	加工痕のある剥片	頁岩	-		34.1	15.6	13.3	5.61
77図	4	3	11Q-89	D- 28	礫	流紋岩		35	71.9	74.1	45.8	244.75
		3	11Q-89	D- 40	剥片	チャート	-		9.3	14.1	2.6	0.25
77図	5	3	11Q-89	D- 42	礫	砂岩		37	51.2	36.3	37.7	45.16
77図	2	3	11Q-89	D- 43	剥片	頁岩	-		25.9	16.7	8.0	2.89

第22ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
79図	2	3	11Q-78	D- 30	剥片	頁岩	1		22.1	42.8	11.8	9.46
79図	1	3	11Q-78	D- 31	ナイフ形石器	頁岩	-		28.1	14.7	7.9	2.43

第23ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
81図	1	3	8P-08	2	剥片	安山岩	-		28.1	34.1	10.2	8.75

第24ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
84図	1	4	8P-63	2	ナイフ形石器	頁岩	-		40.1	19.4	5.2	3.19
84図	3	4	8P-63	3	使用痕のある剥片	頁岩	1		20.2	20.9	7.1	2.83
84図	4	4	8P-64	2	剥片	玉髄	-		25.8	16.2	3.8	0.87
84図	2	4	8P-64	3	加工痕のある剥片	頁岩	1		33.6	23.2	7.8	4.98
84図	5a	4	8P-64	4	剥片	頁岩	2	38	28.0	34.8	14.0	8.31
84図	5b	4	8P-64	5	剥片	頁岩	2	38	23.1	21.0	10.5	3.79

第25ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		5	6Q-07	2	砕片	ホルンフェルス	-		8.1	10.1	2.8	0.29
		5	6Q-07	6	砕片	黒曜石	4		13.4	5.9	1.5	0.13
		5	6Q-07	7	砕片	頁岩	-		5.6	10.8	0.8	0.07
		5	6Q-07	8	剥片	黒曜石	4		5.2	12.0	1.8	0.10
		5	6Q-07	9	砕片	黒曜石	4		7.4	5.6	1.0	0.02
		5	6Q-07	10	剥片	黒曜石	4		6.5	9.5	1.1	0.07
		5	6Q-07	11	砕片	黒曜石	4		-	-	-	0.02
		5	6Q-07	12	剥片	黒曜石	3		7.5	14.8	3.2	0.44
		5	6Q-07	13	剥片	黒曜石	4		11.6	3.3	1.1	0.03
		5	6Q-07	14	砕片	黒曜石	4		5.0	6.0	1.8	0.11
87図	13	5	6Q-07	15	加工痕のある剥片	黒曜石	3		7.0	10.5	3.5	0.28
		5	6Q-07	16	砕片	黒曜石	4		4.5	3.5	0.6	0.02
		5	6Q-07	17	砕片	黒曜石	4		-	-	-	0.01
87図	11	5	6Q-07	18	細石刃	黒曜石	4		9.5	4.0	2.0	0.04
		5	6Q-07	19	剥片	黒曜石	3		15.6	6.9	0.3	0.20
		5	6Q-07	20	剥片	黒曜石	4		13.9	13.0	3.9	0.41
87図	10	5	6Q-07	21	細石刃	黒曜石	4		6.2	7.0	2.0	0.06
87図	9	5	6Q-07	22	細石刃	黒曜石	4		11.0	5.0	1.0	0.02
		5	6Q-07	23	砕片	黒曜石	4		4.9	5.8	0.4	0.01
		5	6Q-07	24	剥片	黒曜石	4		19.6	15.1	3.9	0.69
		5	6Q-07	25	砕片	頁岩	13		7.7	9.2	0.7	0.07
		5	6Q-07	26	剥片	頁岩	-		6.6	6.1	0.4	0.04
		5	6Q-07	27	剥片	黒曜石	4		17.0	19.2	2.3	0.54
		5	6Q-07	28	砕片	黒曜石	4		7.7	3.2	1.0	0.03
		5	6Q-07	29	剥片	黒曜石	4		15.1	11.5	3.8	0.25
		5	6Q-07	30	剥片	黒曜石	4		11.1	7.1	1.5	0.11
		5	6Q-07	31	剥片	黒曜石	4		9.1	4.2	0.9	0.06
		5	6Q-07	32	砕片	黒曜石	4		6.1	7.5	0.6	0.03
		5	6Q-07	33	砕片	黒曜石	4		4.4	9.0	1.3	0.05
		5	6Q-07	34	剥片	頁岩	13		12.8	9.8	2.3	0.23
		5	6Q-07	35	砕片	頁岩	-		10.1	5.1	1.0	0.05
		5	6Q-07	36	砕片	頁岩	-		6.5	3.5	0.8	0.01
		5	6Q-07	37	砕片	黒曜石	4		7.1	5.1	0.6	0.03
		5	6Q-07	38	砕片	黒曜石	4		4.7	4.4	0.5	0.01
		5	6Q-07	39	剥片	黒曜石	3		10.3	13.5	5.2	0.70
		5	6Q-07	40	剥片	黒曜石	4		9.0	11.0	2.4	0.25
		5	6Q-07	41	砕片	頁岩	-		4.5	5.6	0.6	0.01
87図	12	5	6Q-07	42	加工痕のある剥片	黒曜石	3		35.2	15.5	4.2	1.40
		5	6Q-07	43	剥片	黒曜石	4		12.1	11.4	1.6	0.17
		5	6Q-07	44	剥片	頁岩	-		12.1	5.6	1.4	0.08
		5	6Q-07	45	剥片	黒曜石	4		6.4	13.9	2.0	0.17
		5	6Q-07	46	剥片	頁岩	13		14.5	11.8	2.6	0.27
		5	6Q-07	47	剥片	黒曜石	4		10.0	11.8	1.1	0.10
		5	6Q-07	48	砕片	黒曜石	4		7.2	6.7	0.5	0.03
		5	6Q-07	49	砕片	黒曜石	4		5.9	3.6	0.6	0.01
87図	19	5	6Q-07	50-1	剥片	黒曜石	4		14.2	7.0	4.1	0.27
		5	6Q-07	50-2	砕片	黒曜石	4		5.1	3.8	0.4	0.01
		5	6Q-07	51	剥片	黒曜石	4		16.5	10.1	4.6	0.25
		5	6Q-07	52	砕片	黒曜石	4		9.5	7.0	1.3	0.08
87図	18b	5	6Q-07	53	剥片	黒曜石	3	56	12.0	18.1	3.1	0.52
		5	6Q-07	54	剥片	黒曜石	4		12.6	6.5	1.0	0.08
		5	6Q-07	55	砕片	黒曜石	4		5.6	6.7	0.9	0.05
		5	6Q-07	56	砕片	頁岩	14		12.9	19.4	11.6	1.97
		5	6Q-07	57	砕片	黒曜石	4		5.8	2.2	0.6	0.02
		5	6Q-07	58	砕片	黒曜石	4		4.5	4.3	0.8	0.03

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
		5	6Q-07	59	剥片	頁岩	12		15.5	7.5	3.2	0.20
		5	6Q-07	60	砕片	黒曜石	4		5.5	4.8	0.4	0.03
		5	6Q-07	61	剥片	玉髄	-		14.0	14.4	4.4	0.70
		5	6Q-07	62	砕片	黒曜石	4		-	-	-	0.01
		5	6Q-07	63	剥片	黒曜石	4		6.1	5.0	0.3	0.01
		5	6Q-07	64	砕片	黒曜石	4		4.3	5.3	0.2	0.01
		5	6Q-07	65	剥片	黒曜石	4		10.0	8.7	1.0	0.10
		5	6Q-07	66	剥片	頁岩	-		12.6	10.0	2.8	0.19
		5	6Q-07	67	砕片	黒曜石	4		6.7	3.6	0.4	0.01
		5	6Q-07	68	剥片	黒曜石	4		9.0	5.4	1.2	0.05
		5	6Q-07	69	砕片	黒曜石	4		8.8	5.3	1.1	0.07
87図	16	5	6Q-07	70-1	使用痕のある剥片	黒曜石	4		20.0	10.0	3.8	0.44
		5	6Q-07	70-2	剥片	黒曜石	4		9.9	8.4	1.1	0.11
		5	6Q-07	71	砕片	黒曜石	4		13.3	8.9	1.1	0.15
		5	6Q-07	74-1	砕片	黒曜石	4		7.6	6.8	0.7	0.04
		5	6Q-07	74-2	砕片	黒曜石	4		6.6	4.0	0.3	0.02
		5	6Q-07	74-3	砕片	黒曜石	4		4.3	5.0	0.2	0.01
87図	5	5	6Q-07	75	細石刃	黒曜石	3		16.3	9.1	2.0	0.31
		5	6Q-07	76	剥片	黒曜石	4		10.4	4.5	1.1	0.06
87図	15a	5	6Q-07	77	加工痕のある剥片	黒曜石	3	57	18.3	11.5	2.6	0.34
		5	6Q-07	78	剥片	黒曜石	4		17.3	23.4	6.2	1.85
87図	15b	5	6Q-07	80	剥片	黒曜石	3	57	15.1	12.3	1.5	0.18
		5	6Q-07	81	砕片	黒曜石	4		6.5	5.0	0.9	0.02
		5	6Q-07	82	砕片	頁岩	-		10.3	4.8	1.5	0.05
		5	6Q-07	83	剥片	黒曜石	4		6.5	6.6	0.7	0.03
		5	6Q-07	84	砕片	珪質頁岩	-		15.0	5.6	1.4	0.07
		5	6Q-07	86	剥片	頁岩	14		19.5	25.8	9.8	3.79
		5	6Q-07	87	剥片	頁岩	14		26.6	25.7	7.3	4.30
		5	6Q-07	88	剥片	頁岩	12		21.0	9.0	3.7	0.38
		5	6Q-07	89	砕片	黒曜石	4		10.9	4.9	0.6	0.03
87図	20	5	6Q-07	90	剥片	頁岩	-		27.0	18.0	6.6	2.60
		5	6Q-07	92	剥片	頁岩	13		22.5	17.3	3.4	1.34
87図	4	5	6Q-07	93	削器	頁岩	12		48.1	49.3	7.6	15.98
		5	6Q-07	103	剥片	黒曜石	4		18.4	16.5	6.7	1.66
87図	2	5	6Q-07	104	掻器	頁岩	13		38.1	38.3	11.0	16.92
87図	3	5	6Q-07	105	掻器	頁岩	-		23.5	28.1	14.0	7.11
		5	6Q-07	106	剥片	頁岩	13		14.9	12.4	3.3	0.52
87図	7	5	6Q-07	107	細石刃	黒曜石	3		16.7	8.2	2.4	0.19
		5	6Q-07	108	砕片	チャート	-		7.3	8.5	3.0	0.26
		5	6Q-07	109	砕片	安山岩	-		3.5	4.4	0.2	0.01
		5	6Q-07	110	剥片	頁岩	14		20.6	18.4	6.3	1.46
87図	8	5	6Q-07	111	細石刃	黒曜石	4		5.9	6.5	1.3	0.05
		5	6Q-07	112	剥片	頁岩	13		8.0	13.4	2.3	0.12
		5	6Q-07	113	剥片	黒曜石	4		9.2	11.8	1.8	0.16
		5	6Q-07	114	砕片	黒曜石	4		4.5	4.4	1.6	0.02
		5	6Q-07	116	剥片	黒曜石	3		37.9	10.3	9.7	2.63
		5	6Q-07	117	剥片	黒曜石	4		8.7	12.0	2.4	0.19
		5	6Q-07	118	剥片	頁岩	-		11.9	6.8	2.2	0.12
		5	6Q-07	119	剥片	黒曜石	3		13.6	19.8	4.6	1.16
		5	6Q-07	120	剥片	頁岩	12		17.5	9.7	3.0	0.41
		5	6Q-07	121	剥片	黒曜石	4		16.5	12.8	1.9	0.23
		5	6Q-07	123	剥片	頁岩	-		20.3	11.6	4.6	0.93
		5	6Q-07	124	砕片	黒曜石	4		10.4	5.7	2.1	0.09
		5	6Q-07	125	剥片	黒曜石	4		10.2	6.1	1.3	0.04
		5	6Q-07	126	剥片	黒曜石	4		8.9	8.6	2.2	0.17
87図	17	5	6Q-07	127	使用痕のある剥片	黒曜石	4		25.1	13.2	3.3	0.54
87図	18a	5	6Q-08	2	使用痕のある剥片	黒曜石	3	56	17.9	26.0	4.2	1.38
		5	6Q-08	3	砕片	流紋岩	-		6.6	9.0	2.1	0.15
87図	1	5	6Q-17	2	ナイフ形石器	黒曜石	3		28.1	16.7	3.3	1.31
		5	6Q-17	3	砕片	黒曜石	4		5.7	3.9	1.3	0.02
87図	14	5	6Q-17	4	加工痕のある剥片	黒曜石	3		11.0	11.1	3.8	0.29
87図	6	5	6Q-17	6	細石刃	黒曜石	3		17.0	6.3	2.9	0.21

第26ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
		5	12Q-52	C- 2	剥片	頁岩	-		29.8	18.3	7.7	3.87
		5	12Q-51	C- 5	剥片	安山岩	-		54.3	27.2	7.1	9.55
		5	12Q-51	C- 6	剥片	頁岩	-		24.5	15.7	5.3	1.77
		5	12Q-41	C- 8	剥片	黒色安山岩	-		12.1	11.7	4.7	0.77
		5	12Q-41	C- 9-1	剥片	頁岩	3		47.1	31.7	15.3	15.91
		5	12Q-41	C- 9-2	剥片	安山岩	-		18.0	30.9	9.8	5.49
		5	12Q-41	C- 10	剥片	頁岩	-		14.9	21.2	2.7	0.58
93図	14	5	12Q-41	C- 11	剥片	頁岩	4		35.5	9.8	5.9	1.92
		5	12Q-41	C- 12	剥片	黒色安山岩	-		39.9	17.7	9.0	3.79
		5	12Q-41	C- 13	剥片	頁岩	-		33.1	19.6	7.9	3.73
94図	20e	5	12Q-41	C- 14	剥片	凝灰岩	1	48	23.3	15.9	6.3	1.52
		5	12Q-41	C- 16	剥片	頁岩	2		17.3	24.6	5.3	1.38

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
		5	12Q-41	C- 17	剥片	頁岩	2		13.9	20.2	4.9	1.08
92図	7	5	12Q-41	C- 19	加工痕のある剥片	頁岩	4		45.5	22.8	5.0	6.41
		5	12Q-41	C- 21	剥片	安山岩	-		52.1	18.5	14.6	10.66
		5	12Q-41	C- 22	剥片	頁岩	1		21.6	16.6	9.2	3.08
		5	12Q-41	C- 25	剥片	頁岩	2		9.7	14.4	2.6	0.33
		5	12Q-51	C- 36	剥片	頁岩	1		15.3	15.0	5.7	1.15
		5	12Q-51	C- 41	剥片	頁岩	9		40.6	27.1	7.6	6.04
		5	12Q-51	C- 56	剥片	ホルンフェルス	1		22.8	9.2	8.1	1.44
93図	18b	5	12Q-51	C- 63	剥片	玉髄	-	49	21.8	31.7	14.9	9.73
		5	12Q-51	C- 64	剥片	頁岩	1		14.8	19.2	6.0	1.18
94図	21a	5	12Q-51	C- 65	剥片	頁岩	6	45	15.7	27.8	4.1	1.37
		5	12Q-51	C- 66	剥片	頁岩	1		16.9	11.6	3.6	0.64
		5	12Q-51	C- 68	剥片	頁岩	1		11.5	21.8	3.8	0.97
		5	12Q-52	C- 69	剥片	頁岩	11		21.5	27.7	7.1	3.37
		5	12Q-51	C- 74	砕片	頁岩	-		10.3	11.4	2.7	0.27
		5	12Q-51	C- 99	剥片	頁岩	1		22.0	33.1	8.2	3.82
		5	12Q-51	C- 101	剥片	ホルンフェルス	1		32.3	21.8	8.1	6.14
		5	12Q-50	C- 112	剥片	頁岩	1		24.6	20.2	5.8	1.70
92図	5	5	12Q-51	C- 117	掻器	頁岩	1		40.1	30.8	11.6	8.51
93図	16	5	12Q-50	C- 118	剥片	頁岩	-		33.4	18.6	7.6	5.47
		5	12Q-60	C- 123	剥片	玉髄	-		23.7	24.2	9.8	6.46
		5	12Q-60	C- 124	剥片	ホルンフェルス	1		37.2	15.9	10.3	5.49
		5	12Q-50	C- 126	剥片	安山岩	-		24.2	40.7	8.4	7.19
		5	12Q-50	C- 127	剥片	頁岩	1		42.1	32.2	13.3	11.59
94図	20d	5	12Q-51	C- 128	剥片	凝灰岩	1	48	36.3	21.9	7.6	4.08
		5	12Q-51	C- 173	剥片	頁岩	1		18.1	16.8	3.9	1.25
		5	12Q-51	C- 185	剥片	頁岩	1		19.1	11.2	4.3	0.64
		5	12Q-50	C- 188	剥片	頁岩	1	42	20.2	40.9	5.8	6.27
		5	12Q-51	C- 189	剥片	頁岩	6		27.1	24.1	10.1	4.56
		5	12Q-50	C- 203	剥片	頁岩	1		32.3	14.3	5.3	1.88
		5	12Q-51	C- 204	剥片	頁岩	1		18.6	15.2	3.3	1.10
		5	12Q-51	C- 207	剥片	黒色安山岩	-		49.1	33.3	8.8	11.87
		5	12Q-51	C- 210	剥片	頁岩	2		13.6	11.9	4.4	0.44
		5	12Q-51	C- 222	剥片	黒色安山岩	1		50.6	43.9	17.8	41.08
		5	12Q-61	C- 228	剥片	頁岩	1		26.1	27.3	4.8	1.93
		5	12Q-51	C- 233	剥片	頁岩	1		23.3	29.7	14.6	3.90
		5	12Q-51	C- 234	剥片	頁岩	1		16.6	13.5	4.7	0.67
		5	12Q-51	C- 235	剥片	頁岩	1		23.1	32.2	13.9	7.76
		5	12Q-51	C- 238	剥片	頁岩	1		15.1	17.0	3.9	0.68
		5	12Q-51	C- 239	剥片	頁岩	1		17.5	14.7	4.6	0.95
94図	20a	5	12Q-51	C- 240	剥片	凝灰岩	1	48	43.7	31.8	11.0	13.07
		5	12Q-51	C- 241	砕片	頁岩	1		11.5	6.9	2.1	0.15
		5	12Q-51	C- 247	砕片	頁岩	-		6.0	4.3	3.3	0.06
93図	19b	5	12Q-51	C- 263	剥片	頁岩	1	43	25.1	33.9	11.0	6.43
		5	12Q-51	C- 264	剥片	頁岩	1		41.9	31.3	17.1	20.11
		5	12Q-51	C- 266	剥片	頁岩	1		21.4	24.8	6.5	2.43
		5	12Q-51	C- 267	剥片	頁岩	1		25.7	27.4	9.9	6.49
		5	12Q-51	C- 269	剥片	頁岩	1		13.4	14.6	3.1	0.33
		5	12Q-41	C- 279	剥片	凝灰岩	1		31.7	31.3	9.7	7.04
92図	10	5	12Q-41	C- 287	加工痕のある剥片	頁岩	2		41.7	60.4	11.8	22.51
		5	12Q-41	C- 293	剥片	頁岩	1		60.3	37.1	10.9	22.26
98図	6a	5	12Q-41	C- 296-1	剥片	黒曜石	1	50	29.5	22.8	7.9	4.51
		5	12Q-41	C- 296-2	剥片	頁岩	1		16.2	20.1	5.2	1.09
		5	12Q-41	C- 302	剥片	頁岩	1		38.0	18.8	10.6	6.74
		5	12Q-41	C- 312	剥片	頁岩	2		8.1	12.9	1.2	0.12
		5	12Q-51	C- 330	剥片	頁岩	1		35.4	31.5	7.5	5.82
		5	12Q-51	C- 345	砕片	黒色安山岩	-		9.0	14.8	4.4	0.45
92図	3b	5	12Q-41	C- 357	ナイフ形石器	頁岩	3	44	26.1	11.9	7.8	1.95
		5	12Q-41	C- 364	剥片	頁岩	1		15.4	17.8	3.3	0.38
		5	12Q-41	C- 366	剥片	頁岩	2		16.6	20.1	2.8	0.52
		5	12Q-41	C- 367	剥片	頁岩	1		23.5	18.0	4.5	1.89
		5	12Q-51	C- 369	剥片	頁岩	3		67.8	22.6	12.5	18.44
92図	3a	5	12Q-52	C- 373	ナイフ形石器	頁岩	3	44	40.2	12.9	7.1	2.87
		5	12Q-51	C- 374	砕片	玉髄	-		11.2	8.6	5.6	0.61
		5	12Q-51	C- 376	剥片	頁岩	3		24.6	25.4	5.3	3.33
		5	12Q-51	C- 377	剥片	頁岩	9		45.8	37.7	8.8	12.70
		5	12Q-51	C- 378	剥片	頁岩	10		27.7	22.1	3.5	1.60
94図	20c	5	12Q-51	C- 379	剥片	凝灰岩	1	48	26.1	20.1	6.6	3.14
		5	12Q-52	C- 381	砕片	頁岩	1		13.9	10.4	2.2	0.20
93図	13	5	12Q-52	C- 383	使用痕のある剥片	頁岩	3		49.3	11.0	3.9	1.41
92図	4b	5	12Q-52	C- 384	剥片	頁岩	1	41	16.7	20.8	3.8	1.20
92図	11	5	12Q-52	C- 385	使用痕のある剥片	頁岩	-		70.3	23.8	11.9	17.56
		5	12Q-51	C- 394	剥片	黒色安山岩	-		61.1	57.3	19.2	58.99
93図	15	5	12Q-50	C- 403	剥片	頁岩	10		39.7	36.9	9.2	18.17
		5	12Q-51	C- 404	剥片	頁岩	1		31.4	20.1	4.0	2.59
92図	12	5	12Q-52	C- 422	使用痕のある剥片	頁岩	-		44.5	29.8	8.7	10.48
		5	12Q-51	C- 503-1	砕片	頁岩	1		19.4	13.3	4.5	0.73
		5	12Q-51	C- 503-2	砕片	頁岩	1		10.8	12.0	2.2	0.12

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）
92 図	4a	5	12Q-51	C- 509	掻器	頁岩	1	41	23.3	35.8	10.3	7.80
		5	12Q-51	C- 517	剥片	頁岩	1		25.4	23.2	5.4	2.38
		5	12Q-51	C- 518	剥片	安山岩	-		23.9	33.3	14.0	7.02
		5	12Q-51	C- 520	剥片	凝灰岩	1		35.7	31.4	8.5	8.68
		5	12Q-51	C- 521	剥片	頁岩	1		21.7	12.5	3.8	0.93
		5	12Q-51	C- 523	剥片	頁岩	8	47	25.1	24.6	8.9	5.09
		5	12Q-52	C- 530	剥片	安山岩	-		37.0	24.2	13.4	8.72
		5	12Q-50	C- 542	剥片	黒色安山岩	-		33.4	28.1	8.3	7.72
		5	12Q-50	C- 543	剥片	頁岩	2		22.6	24.2	2.6	1.49
		5	12Q-51	C- 546	剥片	頁岩	1		11.7	18.9	4.0	0.94
		5	12Q-51	C- 551	剥片	黒色安山岩	-		32.8	21.1	10.4	5.31
		5	12Q-50	C- 555	剥片	黒色安山岩	-		50.3	37.7	11.7	16.79
		5	12Q-51	C- 558	剥片	頁岩	1		17.1	22.6	4.7	1.88
		5	12Q-50	C- 574	剥片	頁岩	8		50.5	33.5	13.1	17.76
		5	12Q-51	C- 578	砕片	頁岩	1		17.0	9.1	3.3	0.55
		5	12Q-51	C- 579	剥片	黒色安山岩	-		30.0	19.9	8.4	4.39
93 図	17	5	12Q-51	C- 580	石核	頁岩	1		32.7	47.8	29.1	47.32
		5	12Q-51	C- 581	剥片	頁岩	1		28.6	18.8	4.9	11.92
		5	12Q-51	C- 582	剥片	黒色安山岩	-		40.4	25.6	12.4	10.86
		5	12Q-51	C- 583	剥片	黒色安山岩	-		20.0	24.7	6.4	2.44
		5	12Q-41	C- 585	剥片	頁岩	1	39	26.8	45.1	15.4	17.43
		5	12Q-41	C- 588	剥片	頁岩	6		27.6	16.7	6.2	2.97
		5	12Q-51	C- 604	剥片	頁岩	1		16.9	26.2	4.7	1.74
		5	12Q-51	C- 610	剥片	頁岩	-		23.8	27.9	3.7	2.89
		5	12Q-51	C- 614	砕片	頁岩	1		14.6	6.5	3.3	0.28
		5	12Q-51	C- 619	剥片	頁岩	4		26.5	26.3	6.1	3.17
		5	12Q-51	C- 620	剥片	頁岩	1		21.2	16.7	5.4	1.67
		5	12Q-51	C- 626	砕片	頁岩	11		14.2	13.3	2.9	0.41
		5	12Q-51	C- 632	砕片	玉髄	-		19.2	9.7	7.4	0.97
		5	12Q-51	C- 649	剥片	頁岩	1		15.4	19.1	5.2	1.06
		5	12Q-51	C- 657	剥片	頁岩	-		12.3	18.5	1.9	0.30
		5	12Q-51	C- 670	砕片	黒色安山岩	-		7.7	9.6	2.5	0.17
94 図	22b	5	12Q-50	C- 681	剥片	頁岩	7	46	47.1	37.8	15.9	17.13
		5	12Q-50	C- 695	剥片	頁岩	1		38.1	15.5	6.6	2.93
		5	12Q-51	C- 702	剥片	頁岩	1		15.3	17.7	7.1	1.07
92 図	1	5	12Q-51	C- 704	ナイフ形石器	頁岩	1		36.1	21.9	8.7	5.08
		5	12Q-41	C- 706	砕片	黒色安山岩	-		15.9	7.5	6.1	0.57
		5	12Q-41	C- 707	剥片	黒色安山岩	-		29.2	19.7	7.0	3.29
		5	12Q-51	C- 716	剥片	頁岩	1	39	14.1	19.4	7.8	2.03
		5	12Q-51	C- 745	剥片	黒色安山岩	-		38.3	20.0	7.9	5.02
		5	12Q-51	C- 852	剥片	頁岩	1		17.6	26.5	7.0	2.52
		5	12Q-51	C- 855	剥片	頁岩	1		32.6	27.7	7.3	4.33
		5	12Q-51	C- 856	剥片	頁岩	-		13.2	10.7	1.6	0.24
		5	12Q-41	C- 868	剥片	頁岩	1	42	17.1	11.8	4.5	0.73
		5	12Q-41	C- 870	剥片	頁岩	2		24.5	15.6	3.7	1.01
		5	12Q-41	C- 873	剥片	頁岩	1		38.4	24.4	7.9	5.82
		5	12Q-41	C- 900	砕片	頁岩	2		9.9	11.4	1.2	0.12
		5	12Q-51	C- 908	剥片	頁岩	1		31.3	25.7	7.7	7.06
		5	12Q-51	C- 922	剥片	頁岩	1		16.1	14.2	7.1	1.34
		5	12Q-51	C- 944	剥片	黒色安山岩	-		19.8	24.4	4.7	1.73
92 図	8b	5	12Q-51	C- 953	加工痕のある剥片	頁岩	1	40	28.1	32.1	8.1	6.00
92 図	9	5	12Q-51	C- 954	加工痕のある剥片	玉髄	-		16.5	12.3	4.9	0.75
		5	12Q-51	C- 971-1	剥片	頁岩	1		13.0	14.7	4.2	0.39
94 図	22a	5	12Q-50	C- 980	剥片	頁岩	7	46	44.9	29.1	14.8	15.94
		5	12Q-50	C- 997	剥片	頁岩	1		27.0	13.1	5.2	1.79
		5	12Q-51	C- 1000	剥片	頁岩	1		30.0	28.7	8.6	4.87
		5	12Q-51	C- 1021	砕片	安山岩	-		8.7	11.0	2.8	0.31
92 図	6	5	12Q-51	C- 1023	削器	頁岩	4		40.9	56.5	7.5	18.73
		5	12Q-51	C- 1030	剥片	頁岩	1		26.7	33.0	9.5	4.46
		5	12Q-51	C- 1032	剥片	黒色安山岩	-		20.8	19.2	4.6	1.58
		5	12Q-51	C- 1035	剥片	頁岩	2		27.3	12.1	2.3	0.64
		5	12Q-51	C- 1050	砕片	頁岩	8	47	3.1	9.6	0.8	0.08
		5	12Q-51	C- 1053-1	砕片	頁岩	-		8.3	10.2	1.7	0.15
		5	12Q-51	C- 1053-2	砕片	頁岩	-		9.6	8.1	1.6	0.16
		5	12Q-51	C- 1058	砕片	頁岩	-		7.8	8.3	1.5	0.09
		5	12Q-51	C- 1059	剥片	黒色安山岩	1		20.2	39.7	10.2	6.75
		5	12Q-51	C- 1075-1	砕片	頁岩	1		16.4	21.9	3.1	1.04
93 図	18a	5	12Q-51	C- 1076	石核	玉髄	-	49	31.2	31.4	20.7	19.77
		5	12Q-51	C- 1085	剥片	頁岩	1		14.4	11.5	3.6	0.49
		5	12Q-51	C- 1087	剥片	黒色安山岩	-		29.4	17.6	6.9	2.69
92 図	8a	5	12Q-51	C- 1088	加工痕のある剥片	頁岩	1	40	26.2	19.9	6.1	2.42
		5	12Q-51	C- 1095	剥片	頁岩	1		17.1	27.5	6.3	1.64
		5	12Q-51	C- 1106	剥片	頁岩	2		12.6	9.1	1.3	0.17
		5	12Q-51	C- 1107	剥片	頁岩	1		16.5	21.3	3.4	1.08
		5	12Q-51	C- 1108	剥片	頁岩	2		22.7	12.9	2.9	0.58
93 図	19a	5	12Q-51	C- 1109	剥片	頁岩	1	43	27.5	20.1	4.5	1.83
		5	12Q-51	C- 1110	剥片	頁岩	1		9.5	21.3	1.7	0.31
		5	12Q-51	C- 1111	剥片	頁岩	1		18.7	9.7	3.4	0.51

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		5	12Q-51	C- 1115	剥片	頁岩	-		34.9	31.4	4.1	5.18
		5	12Q-51	C- 1116	剥片	頁岩	1		28.7	19.3	6.1	2.00
		5	12Q-51	C- 1117	剥片	頁岩	1		10.3	21.2	6.7	0.87
		5	12Q-51	C- 1118-2	剥片	頁岩	2		10.5	11.0	1.3	0.14
		5	12Q-41	C- 1124	剥片	頁岩	1		22.1	42.5	8.6	8.97
		5	12Q-41	C- 1147	剥片	頁岩	1		15.3	15.7	2.8	0.66
		5	12Q-51	C- 1157	剥片	頁岩	1		27.1	22.1	11.4	4.97
		5	12Q-51	C- 1161	剥片	頁岩	2		16.3	18.8	4.1	0.89
		5	12Q-51	C- 1164	剥片	黒色安山岩	-		27.2	29.3	6.2	3.33
		5	12Q-51	C- 1205	剥片	頁岩	5		18.6	24.7	9.9	5.67
		5	12Q-51	C- 1207	剥片	ホルンフェルス	-		47.4	29.9	13.7	16.05
		5	12Q-51	C- 1226	剥片	頁岩	1		22.4	35.9	5.2	3.71
		5	12Q-51	C- 1236	砕片	頁岩	1		14.0	12.6	6.2	0.65
		5	12Q-51	C- 1243	剥片	頁岩	1		26.5	25.6	5.4	3.88
		5	12Q-51	C- 1246	剥片	頁岩	1		14.2	14.5	3.3	0.60
		5	12Q-41	C- 1260	剥片	頁岩	1		21.7	11.9	6.1	1.27
		5	12Q-51	C- 1276	剥片	頁岩	8	47	11.8	19.6	5.1	1.14
		5	12Q-51	C- 1297	剥片	玉髄	-		18.4	8.6	2.9	0.46
92図	2	5	12Q-50	C- 1306	ナイフ形石器	頁岩	-		29.8	15.7	4.7	1.83
		5	12Q-51	C- 1310	剥片	頁岩	1		15.5	8.4	1.4	0.30
		5	12Q-51	C- 1326	砕片	頁岩	2		15.6	4.4	3.4	0.21
		5	12Q-51	C- 1327	剥片	頁岩	1		26.2	37.1	13.8	11.47
		5	12Q-51	C- 1328	剥片	頁岩	1		14.8	15.4	3.2	0.54
		5	12Q-51	C- 1332	砕片	頁岩	1		12.8	9.4	1.7	0.29
		5	12Q-51	C- 1339	剥片	頁岩	1		23.2	14.3	6.9	2.08
		5	12Q-51	C- 1371	砕片	頁岩	2		12.1	6.1	2.1	0.20
		5	12Q-51	C- 1374	剥片	頁岩	1		27.2	32.2	8.6	5.52
		5	12Q-51	C- 1378	砕片	安山岩	-		5.7	15.0	3.7	0.34
		5	12Q-51	C- 1392	砕片	チャート	-		7.4	5.6	3.3	0.13
		5	12Q-51	C- 1416	砕片	安山岩	-		4.5	12.3	2.4	0.13
		5	12Q-51	C- 1418	剥片	頁岩	1		27.8	19.2	9.1	4.06
		5	12Q-51	C- 1419	剥片	頁岩	1		32.9	32.8	9.9	6.62
		5	12Q-51	C- 1427	剥片	頁岩	1		16.8	17.0	4.4	0.95
		5	12Q-51	C- 1430	剥片	頁岩	1		18.9	19.5	11.7	3.68

第27ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
98図	7	5	12Q-52	C- 80	使用痕のある剥片	頁岩	3		34.9	22.1	8.2	5.66
94図	20b	5	12Q-52	C- 82	使用痕のある剥片	凝灰岩	1	48	41.3	22.9	10.8	5.56
		5	12Q-62	C- 87-1	剥片	頁岩	1		23.1	26.2	5.3	3.69
99図	13	5	12Q-62	C- 88	磨石	凝灰岩	-		67.4	54.9	42.2	185.08
98図	6b	5	12Q-62	C- 119	加工痕のある剥片	黒曜石	1	50	21.2	19.5	7.1	2.54
		5	12Q-61	C- 136	剥片	頁岩	4		28.1	11.7	4.1	1.54
		5	12Q-62	C- 143	砕片	頁岩	-		7.3	6.7	1.5	0.10
		5	12Q-61	C- 174	剥片	頁岩	1		9.4	22.9	5.9	1.12
		5	12Q-61	C- 229	剥片	凝灰岩	1		41.3	34.0	5.9	5.84
		5	12Q-61	C- 230	剥片	頁岩	1		26.4	32.1	8.6	5.18
		5	12Q-61	C- 231	剥片	頁岩	1		9.0	13.2	5.3	0.50
99図	11b	5	12Q-52	C- 424	剥片	頁岩	1	51	44.1	27.2	15.6	14.85
99図	10	5	12Q-52	C- 425	石核	頁岩	5		17.9	38.2	22.8	14.25
		5	12Q-62	C- 429	剥片	頁岩	2		13.1	22.7	3.2	0.60
98図	1	5	12Q-62	C- 432	ナイフ形石器	頁岩	1		41.9	20.5	9.5	8.19
98図	2	5	12Q-62	C- 445	ナイフ形石器	頁岩	5		37.8	17.8	5.9	3.66
99図	12b	5	12Q-52	C- 451	剥片	頁岩	1	53	29.8	17.8	5.8	2.33
99図	11c	5	12Q-62	C- 473	石核	頁岩	1	51	42.1	51.9	22.2	38.10
99図	11a	5	12Q-62	C- 474	剥片	頁岩	1	51	35.0	27.6	9.8	7.17
		5	12Q-62	C- 478	砕片	頁岩	1		19.2	13.7	8.6	1.48
		5	12Q-62	C- 479	剥片	頁岩	-		46.3	26.2	13.1	14.81
98図	9b	5	12Q-62	C- 481	使用痕のある剥片	頁岩	5	54	32.2	35.6	13.0	7.81
99図	12a	5	12Q-62	C- 483	剥片	頁岩	1	53	60.3	26.1	23.2	20.06
		5	12Q-62	C- 491	剥片	頁岩	6		11.9	25.2	5.7	1.07
		5	12Q-61	C- 502	剥片	頁岩	1		40.9	39.5	11.2	16.07
94図	21b	5	12Q-61	C- 510	石核	頁岩	6	45	30.2	30.1	11.9	10.33
98図	4	5	12Q-52	C- 516	加工痕のある剥片	頁岩	5		24.5	16.4	7.1	2.50
		5	12Q-52	C- 525	剥片	頁岩	1		25.9	23.5	5.9	2.91
		5	12Q-52	C- 527	剥片	頁岩	1		21.5	30.7	17.3	7.50
98図	3a	5	12Q-52	C- 606	尖頭様石器	頁岩	1	52	43.5	25.6	12.4	10.84
98図	3b	5	12Q-62	C- 608	尖頭様石器	頁岩	1	52	35.9	27.3	10.7	9.33
		5	12Q-61	C- 609	剥片	黒色安山岩	-		26.9	21.4	10.7	5.76
		5	12Q-52	C- 621	砕片	黒曜石	1		7.4	8.3	1.5	0.07
98図	6c	5	12Q-52	C- 624	剥片	黒曜石	1	50	14.2	9.1	1.8	0.24
98図	5	5	12Q-62	C- 724	加工痕のある剥片	頁岩	7		53.5	44.6	15.8	7.51
		5	12Q-62	C- 730	剥片	頁岩	-		21.7	14.9	3.3	0.84
		5	12Q-62	C- 756-1	砕片	頁岩	1		15.3	9.5	3.2	0.29
		5	12Q-62	C- 793	砕片	黒曜石	1		6.7	11.0	4.7	0.32
98図	9a	5	12Q-62	C- 801	使用痕のある剥片	頁岩	5	54	33.5	23.5	11.6	5.32
98図	8	5	12Q-62	C- 802	使用痕のある剥片	頁岩	-		47.9	21.1	8.9	6.76

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		5	12Q-62	C- 810	砕片	緑色凝灰岩	-		8.9	13.3	3.5	0.20
		5	12Q-52	C- 823	剥片	頁岩	1		9.7	28.6	4.7	1.06
		5	12Q-62	C- 830	砕片	黒曜石	-		6.7	5.2	0.6	0.03
		5	12Q-62	C- 831	剥片	頁岩	1		20.4	23.2	7.8	4.10
		5	12Q-52	C- 845	砕片	安山岩	-		7.0	12.3	5.1	0.46
		5	12Q-62	C- 848	剥片	頁岩	1		38.7	47.4	10.5	18.96
		5	12Q-52	C- 849	剥片	頁岩	1		18.7	12.6	3.6	0.41
		5	12Q-52	C- 1431	剥片	頁岩	1		24.4	11.6	3.9	1.22

第28ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
		5	12Q-42	C- 75	礫	チャート						1.02
		5	12Q-42	C- 77	剥片	珪質頁岩	-		29.2	39.2	9.9	10.95
94図	20f	5	12Q-42	C- 78	石核	凝灰岩	1	48	27.1	32.5	26.3	20.86
		5	12Q-42	C- 114-1	礫	流紋岩						24.66
		5	12Q-42	C- 114-2	礫	流紋岩						0.66
		5	12Q-42	C- 115	礫	石英斑岩		159				25.52
		5	12Q-42	C- 134	礫	流紋岩						3.55
		5	12Q-42	C- 137	礫	流紋岩						14.71
		5	12Q-42	C- 138-1	剥片	凝灰岩	1		17.4	24.5	5.3	1.83
		5	12Q-42	C- 138-2	礫	流紋岩						0.68
		5	12Q-42	C- 139	礫	流紋岩		138				17.49
		5	12Q-42	C- 141	礫	凝灰岩						3.82
		5	12Q-42	C- 155	剥片	頁岩	-		24.4	23.5	12.6	9.17
		5	12Q-42	C- 156	礫	石英斑岩		159				22.11
		5	12Q-42	C- 157	剥片	黒色安山岩	-		40.7	44.3	19.5	26.59
		5	12Q-42	C- 158	剥片	黒色安山岩	-		26.3	18.7	5.4	2.52
		5	12Q-43	C- 159	礫	安山岩		158				4.29
		5	12Q-43	C- 160	礫	安山岩		158				21.03
		5	12Q-43	C- 161	礫	安山岩		158				113.61
102図	1	5	12Q-42	C- 163	加工痕のある剥片	頁岩	-		28.1	12.2	4.1	0.88
		5	12Q-42	C- 164	剥片	黒色安山岩	-		27.4	18.5	7.6	3.69
		5	12Q-42	C- 165	礫	流紋岩						94.98
		5	12Q-42	C- 362	礫	安山岩						53.63
102図	3	5	12Q-42	C- 386	石核	頁岩	-		25.3	42.8	28.1	32.46
102図	2	5	12Q-42	C- 387	加工痕のある剥片	玉髄	-		31.1	24.9	13.1	6.82
		5	12Q-42	C- 388	礫	凝灰岩						2.77
		5	12Q-42	C- 389	剥片	頁岩	-		27.7	28.9	11.9	10.40
		5	12Q-42	C- 390	剥片	頁岩	1		21.6	21.6	6.5	3.09
		5	12Q-42	C- 391	剥片	黒色安山岩	-		15.5	19.3	3.7	0.93
		5	12Q-42	C- 392	礫	流紋岩						6.06
		5	12Q-42	C- 393	礫	石英斑岩		159				138.75
		5	12Q-43	C- 571	礫	砂岩						5.06
		5	12Q-43	C- 572	礫	珪質頁岩						4.07
		5	12Q-42	C- 853	礫	石英						1.14
		5	12Q-42	C- 854	砕片	頁岩	-		9.8	6.0	1.0	0.08
		5	12Q-53	C- 1362	礫	チャート						3.72
		5	12Q-53	C- 1363	剥片	凝灰岩	1		10.7	23.4	3.6	0.87

第29ブロック

挿図番号		文化層	グリッド	遺物番号	器種	石材	石材番号	接合番号	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
105図	8	5	9P-53	1	石核	安山岩	1		43.1	33.2	22.6	37.37
106図	10b	5	9P-53	2	剥片	安山岩	1	55	32.4	18.9	9.8	5.62
105図	4	5	9P-53	3	剥片	安山岩	1		23.6	29.1	6.5	3.74
105図	3	5	9P-53	4	剥片	安山岩	1		28.1	17.2	8.9	3.75
105図	9	5	9P-53	5	石核	安山岩	1		41.1	54.6	51.1	114.29
105図	2	5	9P-53	6	剥片	安山岩	1		50.8	20.9	16.3	17.70
105図	5	5	9P-53	7	剥片	安山岩	1		28.9	18.8	5.8	2.30
106図	11	5	9P-54	1	剥片	玉髄	-		31.9	33.9	9.8	6.90
106図	10a	5	9P-54	2	剥片	安山岩	1	55	48.9	31.8	13.8	13.29
105図	6	5	9P-54	3	剥片	安山岩	1		37.2	25.6	13.5	10.81
105図	1	5	9P-54	4	剥片	安山岩	1		52.7	62.9	18.0	62.31
105図	7	5	9P-54	5	石核	安山岩	1		53.1	47.9	44.2	144.84
106図	12	5	9P-54	6	剥片	玉髄	-		16.8	28.2	7.0	2.71

写　真　図　版

図版 1

遺跡周辺航空写真（約1/10,000 昭和44年撮影）

図版2

確認調査風景
10P・11P グリッド（東から）

土層
12R-34グリッド

第２ブロック（南から）

第３ブロック（南から）

第４ブロック（西から）

第５ブロック（中央）
第６ブロック（右奥）（西から）

図版4

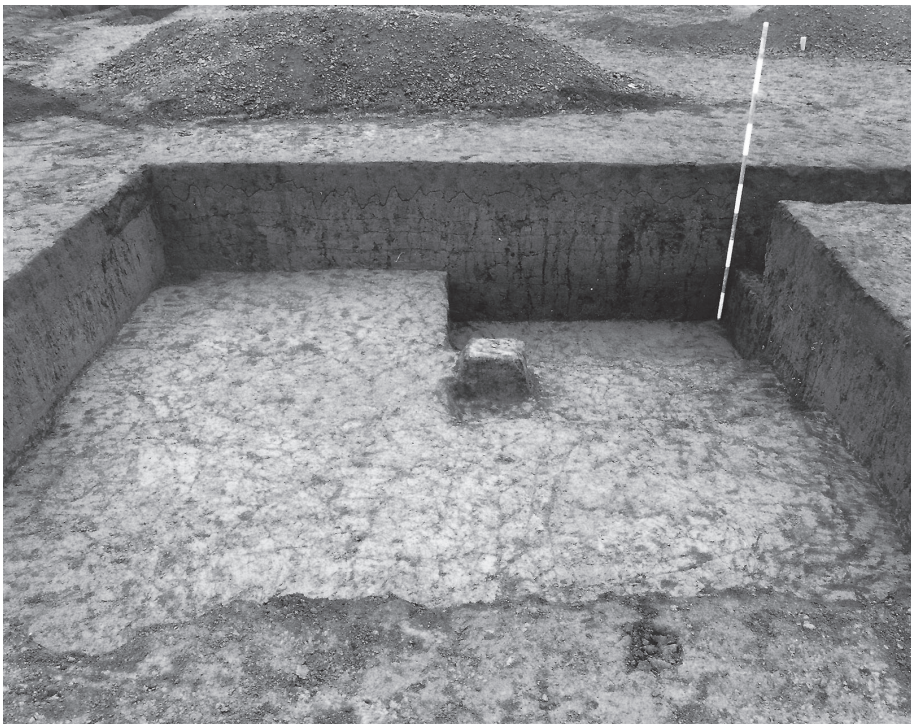
第５ブロック（手前）
第６ブロック（右奥）（西から）

第７ブロック（西から）

第７ブロック（手前）
第21ブロック（奥）（西から）

第８ブロック（北から）

第９ブロック（南東から）



第10ブロック（北から）

図版6

第11ブロック（左奥）
第12ブロック（右奥）（南東から）

第11・12ブロック（奥）
第13ブロック（右中央）
第14ブロック（右手前）
第15ブロック（左手前）（南東から）

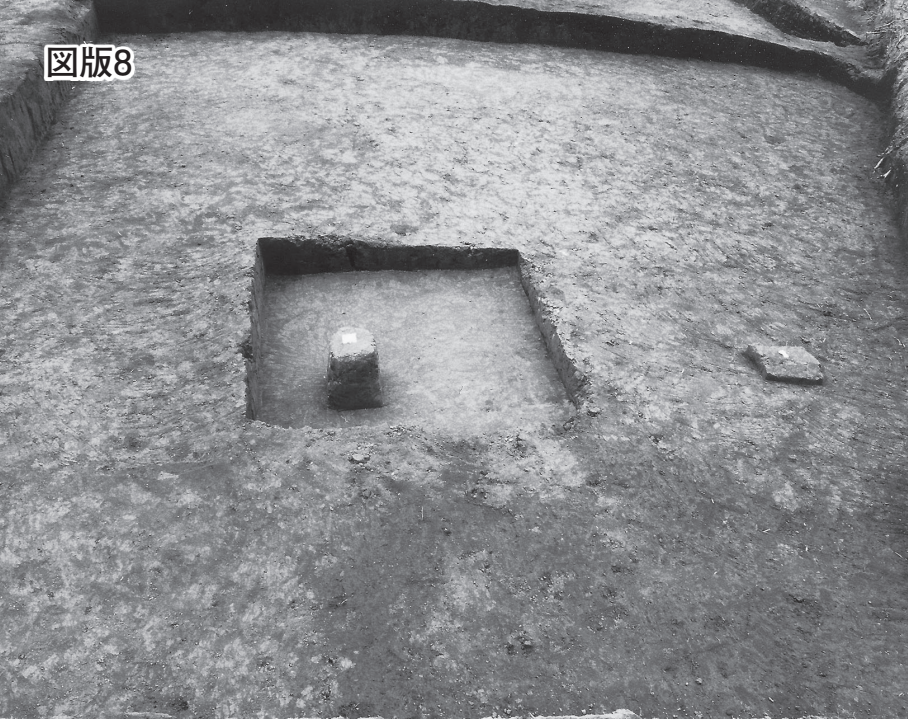
第16ブロック
完掘状況（東から）

第17ブロック（西から）

第18ブロック（奥）
第19ブロック（手前）（西から）

第20ブロック（手前）
第21ブロック（中央）
第22ブロック（奥）（南から）

図版8

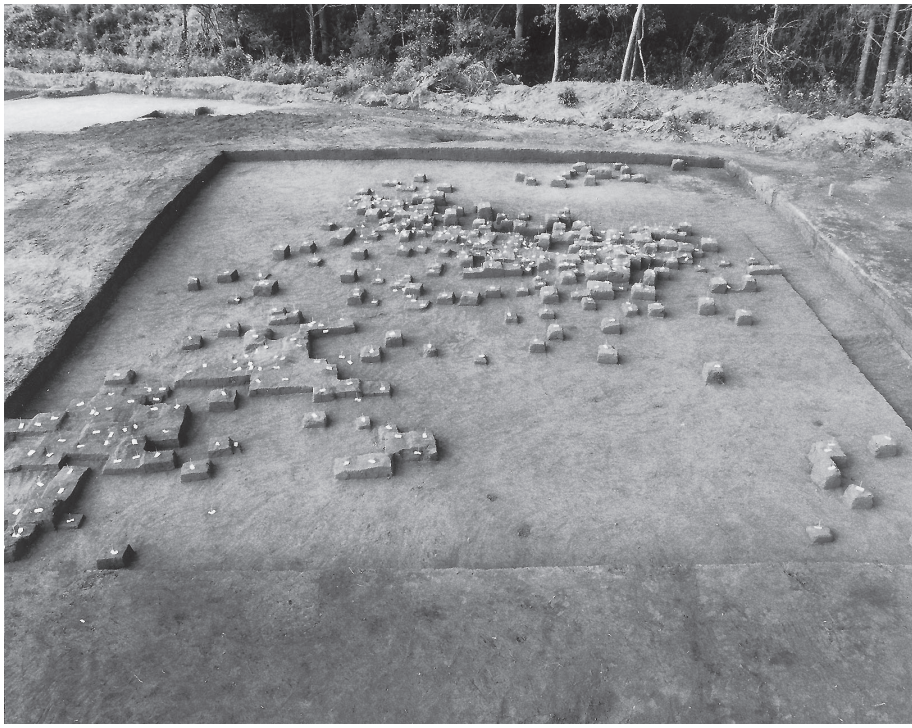


第22ブロック（北から）

第23ブロック（南西から）

第24ブロック（北から）

第 25ブロック（東から）



第26ブロック（中央）
第27ブロック（左手前）
第28ブロック（右手前）（東から）

第29ブロック（東から）

図版10

第１ブロック
第２ブロック
第３ブロック
第４ブロック
第５ブロック
1
2
1
1
1
2
3
4
5ab
6
1
2
3
4
5
6ab
7a~d
8a~c
9ab
10a~c
11a~c
12a~k
13a~c
14a~c
15a~g

出土石器（１）

第６ブロック
1
2
3a～d
4ab
5a～e
6a～c
第７ブロック
1
2
3
4
5
第８ブロック
1
2
第９ブロック
1
2
3
4
第10ブロック
1
第11ブロック
2
3
4
第12ブロック
1
2
3
4ab
5
第13ブロック
1ab
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12ab

出土石器（２）

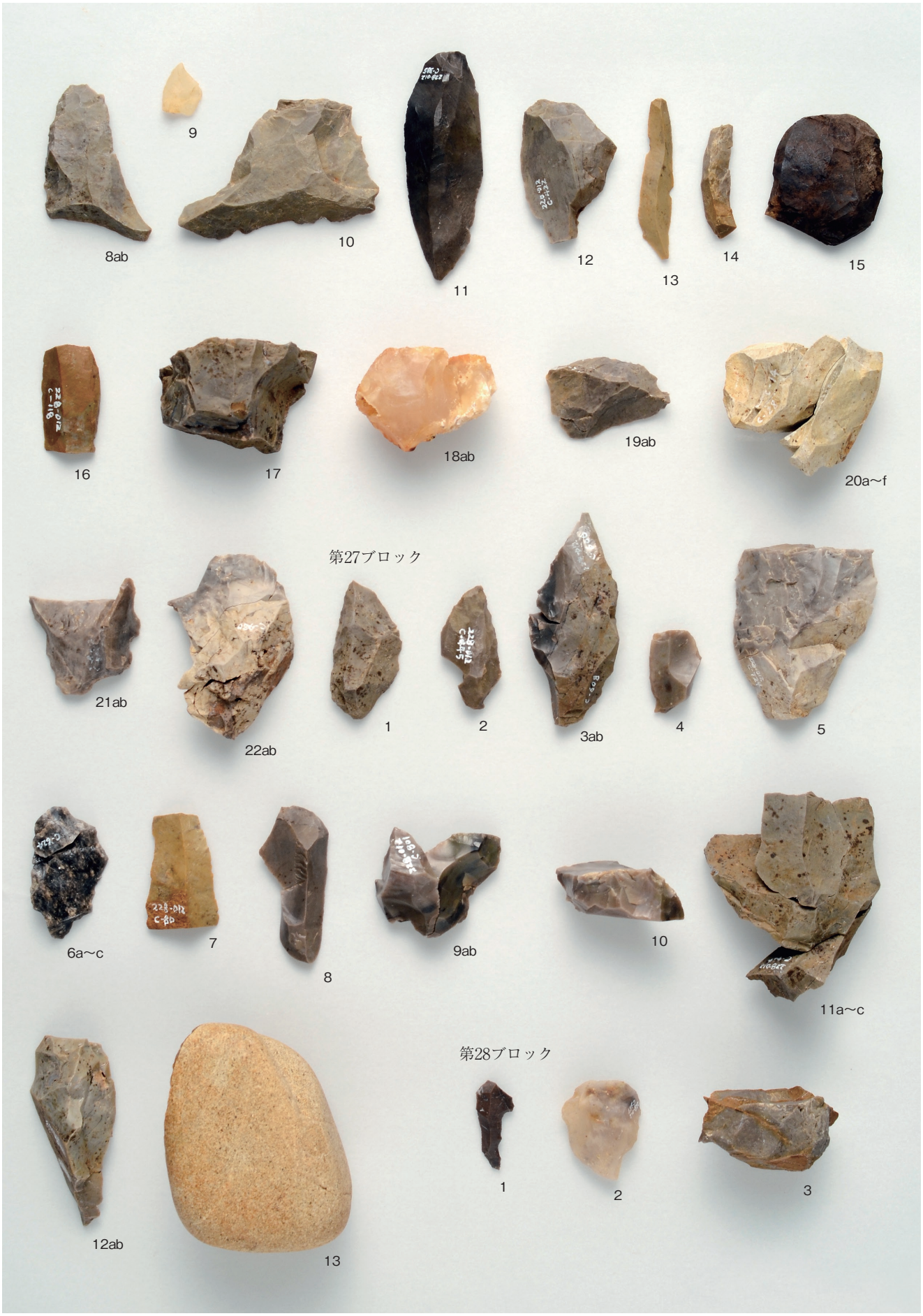
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27a~c
28
29
第14ブロック
1
第15ブロック
1
2
3
4
5ab
第16ブロック
1
第17ブロック
1
2
第18ブロック
1
2
3ab
4
5ab
6ab
第19ブロック
1
2
第20ブロック
1
2
3

出土石器（3）

第21ブロック
1
2
3
4
5
第22ブロック
1
2
第23ブロック
1
第24ブロック
1
2
3
4
5ab
第25ブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15ab
16
17
18ab
19
20
第26ブロック
1
2
3ab
4ab
5
6
7

出土石器（4）

図版14


8ab
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18ab
19ab
20a～f
第27ブロック
21ab
22ab
1
2
3ab
4
5
6a～c
7
8
9ab
10
11a～c
12ab
13
第28ブロック
1
2
3

出土石器（5）

第29ブロック

グリッド・遺構内出土石器

出土石器（6）

第26・27ブロック出土礫（1）

第26・27ブロック出土礫（２）

報告書抄録

ふりがな	よつかいどうしでぐちいせき
書名	四街道市出口遺跡
副書名	物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	14
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第717集
編著者名	野口行雄
編集機関	公益財団法人　千葉県教育振興財団　文化財センター
所在地	〒284 - 0003　千葉県四街道市鹿渡809番地の2　　TEL　043 - 424 - 4848
発行年月日	西暦2013年11月29日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
出口遺跡（でぐちいせき）	四街道市（よつかいどうし）物井（ものい）1046-10ほか	12228	012	35度 68分 71秒	140度 18分 69秒	1987.11.1 ～ 2010.12.27	41,827	土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査
				（世界測地系）				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
出口遺跡	包蔵地	旧石器時代	Ⅱc層～Ⅲ層 （５ブロック） Ⅲ～Ⅳ層 （１ブロック） Ⅳ～Ⅴ層 （６ブロック） Ⅴ層～Ⅵ層 （７ブロック） Ⅶ層～Ⅸ層 （10ブロック）	細石刃・細石刃核・槍先形尖頭器・彫器・ナイフ形石器・掻器・削器・楔形石器・局部磨製石斧	Ⅵ層からⅤ層に主体を置く第２文化層に所属するブロック群は高原山・甘湯沢系黒曜石を主要石材としている。

要　約	立川ローム層Ⅱc層からⅨ層間で合計29地点のブロックが検出された。また出土した層位等から５枚の文化層が確認できた。

千葉県教育振興財団調査報告第717集

四街道市出口遺跡　旧石器時代編

－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XIV－

平成25年11月29日発行

編　集　公益財団法人　千葉県教育振興財団
文化財センター

発　行　独立行政法人　都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
東京都新宿区西新宿６－５－1

公益財団法人　千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印　刷　大和美術印刷株式会社
木更津市中央１－1－６